令和2年度

海洋教育「ひろの学」
実践記録集

洋野町教育委員会

---------- 目　　次 ----------

令和２年度　海洋教育「ひろの学」実践記録集

１　洋野町における海洋教育「ひろの学」について 2

２　洋野町立各小中学校の海洋教育 12

・洋野町立種市小学校 13

・洋野町立角浜小学校 44

・洋野町立宿戸小学校 59

・洋野町立中野小学校 121

・洋野町立大野小学校 194

・洋野町立林郷小学校 213

・洋野町立帯島小学校 230

・洋野町立向田小学校 238

・洋野町立種市中学校 281

・洋野町立中野中学校 289

・洋野町立大野中学校 340

３　洋野町海洋教育地域カンファレンスについて 355

1　洋野町における
海洋教育「ひろの学」について

1　洋野町における海洋教育「ひろの学」について

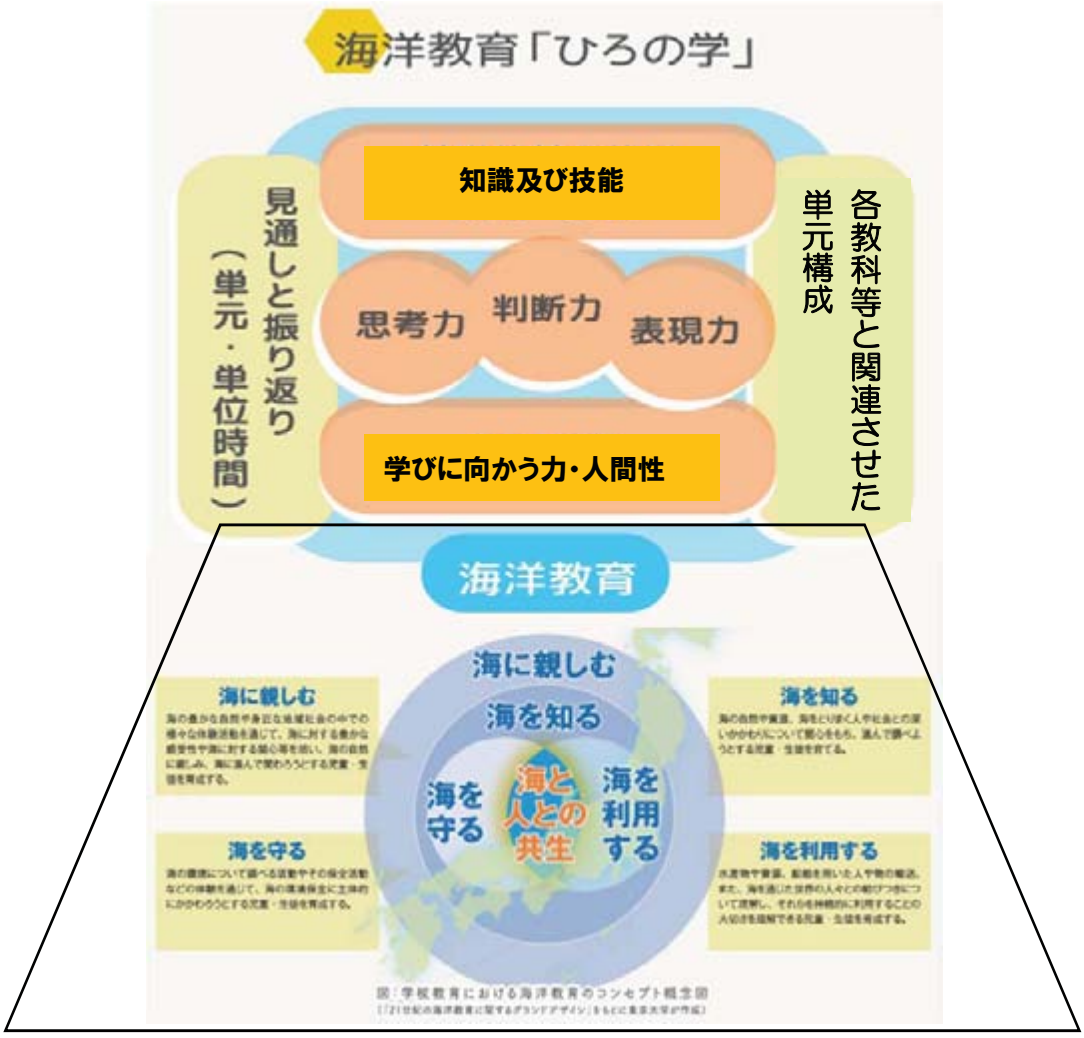
「海洋教育『ひろの学』」のめざすところ

「自分たちの生まれ育ってきた地域に愛情と誇りをもち、たくましく生き抜くことができる子どもを育てること」です。

「海洋教育『ひろの学』」はこれまで各学校で行われてきた教育課程を、「海・海洋」を切り口に見直すことから始まります。各教科・領域で「海・海洋」（＝身の回りの出来事）と関連させることで、実生活を意識し、より主体的な学習が期待できます。また、海洋汚染や海洋ごみ、地球温暖化による豪雨災害や海水温の変化、気候変動などの問題を取り上げることを通して、自然とのつながり、人とのつながり、自然と人とのつながりを意識しながら、海と人との共生について考えていくこともできます。

「海洋教育『ひろの学』」のめざすところ

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で海とのつながりを感じることができるような体験活動、海や地域について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通した世界の人々との結び付きについて理解させ、社会の形成者としての資質・能力を養う。



【洋野町の海洋教育「ひろの学」の目標】

各学年の目標を「学びに向かう力・人間性等」の視点で整理する。小学校は１・２年、３・４年、５・６年、中学校は１年～３年共通で目標を設定する。

「態度」には、生きて働く海や自分たちの住む地域に関する知識・技能を習得すること、理解していること・できることをどのように使うか等、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育成すること、海や地域、社会や世界とかかわりよりよい人生を送るかを考えていくこと（学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養）を含む。

目標＜小学校・中学校＞

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で海とのつながりを感じることができるような体験活動、海や地域について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通した世界の人々との結び付きについて理解させ、社会の形成者としての資質・能力を養う。

【海洋教育「ひろの学」　４つの視点】

海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海や地域に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んでかかわる。	海や地域の自然や資源、海や地域をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち、進んで調べようとする。	海や地域の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海や地域の環境保全に主体的にかかわろうとする。	水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解し、自分なりの考えをもつ。

【小学校第１学年から第２学年】

生活科で行う。

【小学校第３年生及び第４学年】

海洋教育の４つの視点を意識しながら、洋野町の「人」、「もの」、「こと」をとらえ、海や自分たちの住む地域に愛情と誇りをもち、それらを大切にしていこうという態度を育てる。

【小学校第５学年及び第６学年】

海洋教育の４つの視点を意識しながら、洋野町の海を取り巻く課題に目を向け、世界とつながる海や自分たちの郷土を愛する心を育み、海や地域のために主体的に判断し行動し、よりよい未来をめざそうとする態度を育てる。

【中学校】

洋野町の魅力を実感するとともに、進んで海や地域に関わり、海洋の機能と役割、海の歴史や民族、産業に関心をもち、自分なりに分析したり解釈したりして表現することを通して、生態系のバランスや海洋環境保全などについて考え、直面している危機を回避し、持続的・発展的な未来に向かって、地域や社会とともに取り組もうとする態度を育てる。

「海洋教育　『ひろの学』」で育成する資質・能力

これまでの海洋教育「ひろの学」においては、特に「言葉に力があり伝え合える子ども（言語能力）」を育成することを重点において指導をしてきました。

言語能力は、話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと、言葉を正しく使うことにとどまらず、論理的な思考・判断・表現、よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーション能力、想像力、仲間と励まし合うこと、お互いに高め合うこと、思いをもって自分の考えを発信すること等を包含するものです。

「言葉に説得力がある子ども」

〇洋野町の歴史・文化を尊重し、洋野町、岩手の次代を担う人材としての自覚をもつ子ども
〇温かい言葉で心を通い合わせる子ども
〇自分の考えを進んで発信することができる子ども
〇各教科等で身に付けた知識・技能を積極的に活用・応用し、自分たちの生活や生き方を向上させていくことができる子ども
〇友達の考え、思いを肯定的に受け止め、自分の考えを再構築したり、進化させたりし合える子ども
〇聞く・話す・読む・書くができる子ども
〇学習したことを自分の言葉で発信することができる子ども

海洋教育「ひろの学」で言語能力を育成するためには、他教科や領域での言語活動の充実が必要となります。また、海洋教育「ひろの学」で育成された言語能力が、他教科や領域における学習活動を充実させることが期待されます。

令和２年度より（中学校においては令和３年度より）、学習指導要領が全面実施となることを考慮し、学習指導要領の理念をふまえ、海洋教育「ひろの学」で育成する資質・能力を次の３つの柱で捉えることが求められます。

（１）　知識及び技能　　→「何を理解しているか、何ができるか」
（２）　思考力・判断力・表現力等→「理解していることやできることをどう使うか」
（３）　学びに向かう力、人間性等→「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」

【洋野町の海洋教育「ひろの学」の評価規準】
子どもたちの学びの姿を次の視点で整理する。（学習評価の在り方ハンドブック参照）
（１）　知識・技能
（２）　思考・判断・表現
（３）　主体的に学習に向かう態度

「海洋教育『ひろの学』」の指導構想

「海洋教育『ひろの学』」の展開にあたって「子どもたちにどんな力を身に付けさせるために、いつ（どの単元で）、どれだけの時数で、何を行うのか」、「その学習を展開することで、子どもたちに力が身についたのか」という指導の構想をもって取り組みます。

「海・海洋」とどのように関連させるかも大事な視点です。

単元構想・・・

・学校目標、学年目標とのかかわりは…
・単元を通してどんな力を身に付けさせるのか
・そのための題材は・・・
・前の学習、その後の学習とのつながりは・・・

身に付いた力は？

どのように

どの単元で

手立ては・・・

・導入では見学を・・・、地域の方のお話を聞くかな…
・単元の半ばでは発表を位置付けて、
・単元の後半では、意見交流と振り返りを
・子どもたちの探究の様子はどうかな…改善点

小学校・中学校７年間（生活科を含めて９年間）の探究テーマ　【種市地区】

学　年	探究テーマ		各学校の学習内容
１年生	【生活科】 海（地域）のすばらしさに気付く	海への親しみ ・楽しい海、地域 ・海や地域での遊び	各学校で行われている海洋学習の内容を探究テーマに合わせて位置付ける。 子どもたちの学習の状況に合わせて、柔軟に単元を構成したり、学習活動を位置付けたりする。 海洋科は小学校三年生から六年生は三〇時間（総合的な学習の時間の時数より削減）、中学校は一年生四十時間、二年生四十五時間、三年生四十時間（総合的な学習の時間及び特別活動の時数を削減）とする。
２年生		海への親しみ ・海や地域にあるもの ・生命尊重	
３年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 海のすばらしさと、暮らしとのかかわりに気付く	海洋生物と環境 ・地域の海や川にすむ生き物 ・地域の特産	
４年生 総 30 時間		水の循環と環境 ・防災　　・安全 ・環境保全	
５年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする	水産業と環境 ・特産物と水産業 ・洋野町の海洋環境、地域の環境	
６年生 総 30 時間		環境問題と未来 ・環境問題の実態 ・保全の方法 ・自分にできること	
中１年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 発展を目指す洋野町の一員として、自己の役割の自覚とよりよい自己実現を目指し、自立して生きていこうとする態度を育てる。	小学校の学習を基に地域を考える ・地域の企業 ・自然を活用した様々な活動	
中２年生 総 30 時間 特活 15 時間 計 45 時間		洋野町の未来の姿を考える ・洋野町の課題やよさ ・他地域との比較 ・世界とのつながり	
中３年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間		自己実現を目指す ・キャリアアップ ・未来の洋野町と自分	

小学校・中学校７年間（生活科を含めて９年間）の探究テーマ　【大野地区】

学　年	探究テーマ		各学校の学習内容
１年生	【生活科】 地域（海）のすばらしさに気付く	地域（海）への親しみ ・楽しい地域 ・地域や海での遊び	各学校で行われている海洋学習の内容を探究テーマに合わせて位置付ける。 子どもたちの学習の状況に合わせて、柔軟に単元を構成したり、学習活動を位置付けたりする。 海洋科は小学校三年生から六年生は三〇時間（総合的な学習の時間の時数より削減）、中学校は一年生四十時間、二年生四十五時間、三年生四十時間（総合的な学習の時間及び特別活動の時数を削減）とする。
２年生		地域（海）への親しみ ・自分の住む地域にあるもの ・生命尊重	
３年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 地域（海）のすばらしさと、暮らしとのかかわりに気付く	地域（海）の環境 ・地域の特産 ・川にすむ生き物	
４年生 総 30 時間		水の循環と環境 ・防災　　・安全 ・環境保全	
５年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする	水産業と環境 ・農林水産業と海洋の関係 ・地域の環境、洋野の海洋環境	
６年生 総 30 時間		環境問題と未来 ・環境問題の実態 ・保全の方法 ・自分にできること	
中１年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 発展を目指す洋野町の一員として、自己の役割の自覚とよりよい自己実現を目指し、自立して生きていこうとする態度を育てる。	小学校の学習を基に地域を考える ・地域の企業 ・自然を活用した様々な活動	
中２年生 総 30 時間 特活 15 時間 計 45 時間		洋野町の未来の姿を考える ・洋野町の課題やよさ ・他地域との比較 ・世界とのつながり	
中３年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間		自己実現を目指す ・キャリアアップ ・未来の洋野町と自分	

【資料：各教科の学習との関連】

◇小学校◇

学　年	社会	理科
3 年生	・もっとしりたいみんなの町	・春のしぜんにとびだそう ・こん虫を調べよう
4 年生	・地震にそなえる ・水はどこから	・物の体積と温度 ・水のすがたとゆくえ ・物のあたたまり方
5 年生	・私たちのくらしと国土 ・日本にはなぜ四季があるのか ・水産業に生きる ・水産資源を守るために	・天気の変化 ・魚のたんじょう ・台風と天気の変化 ・物の溶け方 ・流れる水のはたらき
6 年生	・大陸に学んだ国づくり ・幕府の政治と人々の成長 ・近代国家への歩み ・新しい時代の夜明け	・動物のからだのはたらき ・生き物のくらしと環境 ・大地のつくりと変化 ・人と環境

◇中学校◇

	社会	理科	国語	他教科等
中 1	・世界の姿 ・世界各地の人々の生活と環境 ・日本の姿	・火山の姿 ・地震と災害 ・地層のでき方 ・地層がかかわる災害 ・水中ではたらく力	・話し方はどうかな ・鮮やかに表現する ・質問する ・意見文を書く ・順序立てて説明する ・案内や報告文章を書こう ・グループディスカッション	【英語】The Wonderful Ocean 【美術】レシピ本づくり 【家庭科】レシピづくり 【技術】パソコン操作
中 2	・世界から見た日本の自然環境 ・日本の諸地域 ・北海道地方	・水の循環 ・脊椎動物の出現と進化 ・天気の変化を予想しよう ・気象災害への備え	・問題意識を持って聞こう ・要約する ・説明する ・レポート ・意見文 ・プレゼンテーション ・話合い	【技術】パソコン操作 【家庭科】地域の恵みを使った調理実習 【家庭科】接続可能な社会を考える。
中 3	・現代の日本と世界 ・私たちの暮らしと経済 ・地球社会と私たち	・水溶液とイオン ・炭素の循環 ・自然環境の調査と環境保全 ・地球と私たちの未来のために ・自然の恵みと災害 ・接続可能な社会をつくるために	・評価しながら機構 ・絶滅の意味 ・素材を生かして表現する ・説明する ・条件スピーチ ・メディアと東日本大震災	【技術】パソコン操作 【家庭科】地域貢献活動 【家庭科】保険体験学習 【英語】Clean Energy Sources

令和２年度　洋野町海洋教育「ひろの学」年間スケジュール

１　洋野町海洋教育事業

(1)　第１回海洋教育推進委員会

①　日　時　　令和２年５月 12 日（火）
②　場　所　　種市庁舎
③　内　容　　令和２年度の洋野町海洋教育の取組について、副読本の編集について
④　参加者　　各校海洋教育担当（１名悉皆）

(2)　第２回海洋教育推進委員会

①　日　時　　令和２年６月 22 日（月）　　副読本部門①同日開催
②　場　所　　Zoom ミーティング
③　内　容　　教育課程特例校申請について
④　参加者　　各校海洋教育担当（１名悉皆）

(3)　海洋教育事業「海はともだち」・第３回海洋教育推進委員会（今年度は中止）

(4)　海洋教育事業「森は巡る」

①　日　時　　令和２年 10 月１日（木）　午後
②　場　所　　洋野町内の山中
③　内　容　　植林体験等
④　対　象　　希望児童生徒及び引率教員（但し学級 or 学年単位）

(5)　第４回海洋教育推進委員会

①　日　時　　令和２年 10 月 12 日（月）　　副読本部門③同日開催
②　場　所　　種市庁舎・Zoom ミーティング
③　内　容　　子どもサミットについて、副読本について
④　参加者　　各校海洋教育担当（１名悉皆）

(6)　第６回海洋教育こどもサミット in 気仙沼

①　日　時　　令和２年 11 月 27 日（金）
②　場　所　　Zoom 等オンライン
③　内　容　　各校の研究成果の発表等
④　参加者　　洋野町内児童生徒

(7)　洋野町海洋教育地域カンファレンス（海洋教育報告会）

①　日　時　　令和３年２月 19 日（金）午後
②　場　所　　Zoom ミーティング
③　内　容　　各校の研究成果の発表

(8)　第５回海洋教育推進委員会

①　日　時　　令和３年２月 19 日（金）
②　場　所　　Zoom ミーティング
③　内　容　　今年度の振り返り及び次年度に向けた協議
④　参加者　　各校海洋教育担当（１名悉皆）

２　第８回全国海洋教育サミット

(1)　日　時　　令和３年２月 11 日（木）
(2)　内　容　　海洋教育の成果の発表
(3)　場　所　　東京大学（Zoom ミーティング）

２　洋野町立各小中学校の海洋教育

・洋野町立種市小学校
・洋野町立角浜小学校
・洋野町立宿戸小学校
・洋野町立中野小学校
・洋野町立大野小学校
・洋野町立林郷小学校
・洋野町立帯島小学校
・洋野町立向田小学校
・洋野町立種市中学校
・洋野町立中野中学校
・洋野町立大野中学校

洋野町立種市小学校

令和２年度「ひろの学」（海洋教育・復興教育）指導計画

1　目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き，海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に，「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ，たくましく生き抜くことができる子どもをはぐくむ。

2　重点

（１）これまでの**生活科，総合的な学習の時間を中心**に，「教育課程を見直し，指導の充実に努める。

（２）復興教育の理念をさらに発展させ，海洋教育の推進に努める。

（３）キャリア教育、環境教育、ボランティア教育のねらいと関連付け、計画を統合していく。

3　内容

生活科、総合的な学習の時間以外の場面でも海洋教育のねらいを持った教育活動を展開していく。

（１）各教科・領域

・海洋教育に関わる単元のねらいを確認する。

（２）特別の教科　道徳

・指導項目（郷土愛，自然愛護，生命尊重）との関わりを確認する。

（３）特別活動

・学校行事（海浜清掃、防災訓練）、児童会活動（ボランティア活動）、学級活動（自然愛護，生命尊重等）で児童の主体的な活動を仕組んでいく。

4　計画

生活科・総合的な学習の時間　テーマ「ふるさと種市～われら海の子～」

１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生
・磯遊び ・海浜清掃 ・磯遊びで見つけたものを描こう	・磯遊び ・海浜清掃 ・磯遊びで見つけたものを描こう	・種市のたからもの ・海の生き物たち	・津波防災教室 ・防災マップで調べよう	・種市の海と森 ・つながりをさぐろう	・ふるさと種市に生きる （４年間のまとめとして卒業論文のようにしてまとめる）
海上保安部との海洋教室					
・季節さがし ・家族の仕事	・町探検 ・私の物語	・心で感じるハンディキャップ	・よりよい種市に	・「海洋サミット」に参加しよう	・「海洋サミット」に参加しよう

5　その他（留意点等）

（１）令和２年度「海洋教育子どもサミット」への参加体制を整えていく。

①課題解決学習と発信・発表活動を計画的に仕組んでいく。

②コミュニケーション能力の育成をめざし、様々な学習活動を仕組む。

③学習環境整備にあたっては、洋野町教育委員会や東大海洋アライアンスの協力を積極的に仰ぐ。

④R3 年度の海洋科新設に向け、現行の活動を海洋科単元 (30h) と総合 (40H) に整理していく。

「ひろの学」全体構想図

学校教育目標

- 思いやりのある子ども（心が元気）
- 進んで学習する子ども（頭が元気）
- 進んで体をきたえる子ども（体が元気）

めざす子ども像

海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
海の自然に親しみ，進んで関わろうとする子ども	海について進んで調べようとする子ども	海の環境保全に主体的に関わろうとする子ども	先人達はどのようにして海の恵みを教授してきたのか，地域に根ざした産業など，海を持続的に利用することの大切さを理解できる子ども

テーマ　「　ふるさと種市　－われら海の子－　」

	海に親しむ（いきる）	海を知る（いきる・そなえる）	海を守る（かかわる・そなえる）	海を利用する（かかわる）
1年生	・磯遊び ・磯遊びで見つけたものを描こう【環境】	・磯遊び ・磯遊びで見つけたものを描こう【環境】	・海浜清掃　【キャリア】【ボランティア】 ・海洋環境紙芝居　【環境】【防災】	
2年生	・磯遊び ・磯遊びで見つけたものを描こう【環境】	・磯遊び ・磯遊びで見つけたものを描こう【環境】	・海浜清掃　【キャリア】【ボランティア】 ・環境紙芝居【環境】【防災】	
3年生	・種市の海の生き物たち【環境】	・種市の宝物（自然・町）【キャリア】 ・海の生き物図鑑　【環境】【キャリア】 ・大野地区体験【キャリア】【環境】	・種市の海の生き物【キャリア】 ・海の生き物を守ろう【環境】【キャリア】 ・海浜清掃【環境】【キャリア】【ボランティア】	・特産メニューを作ろう【キャリア】
4年生		・津波防災教室　【防災】 ・海洋環境教室　【環境】 ・漂着ゴミの調査【環境】【ボランティア】 ・防災マップで調べよう【防災】	・津波防災教室【防災】 ・海洋環境教室【環境】 ・漂着ゴミの調査【環境】【ボランティア】	・種市の町づくり提案【キャリア】 （大野地区見学）【キャリア】【環境】
5年生	・海浜施設・作業見学【キャリア】	・種市の海と森（社会科の発展）【環境】【キャリア】 ・種市の稲作（社会科）【環境】【キャリア】	・種市の海と森【環境】【防災】 ・海浜清掃【環境】【ボランティア】	・種市の海と森（社会科の発展）【キャリア】【ボランティア】 ・まきば展望台教室【環境】【キャリア】
6年生	・他地域（仙台）探索 ・他地域（県南地区・仙台等）施設見学【キャリア】	・ふるさと種市に生きる ～先人の働きや地域産業等で働く人～ キーワード 南部もぐり，ウニ栽培，地元漁師，水産加工場，飲食業など	⇒	・種市の海　再発見【キャリア】【環境】【防災】【ボランティア】 ＊様々な視点で自分の学びをまとめる

・津波避難訓練　【防災】
・3.11集会　【防災】【キャリア】【ボランティア】　⇒　全校行事
・「ようこそ先輩講演会」　【キャリア】
・遠足　・宿泊学習　・修学旅行　【キャリア】

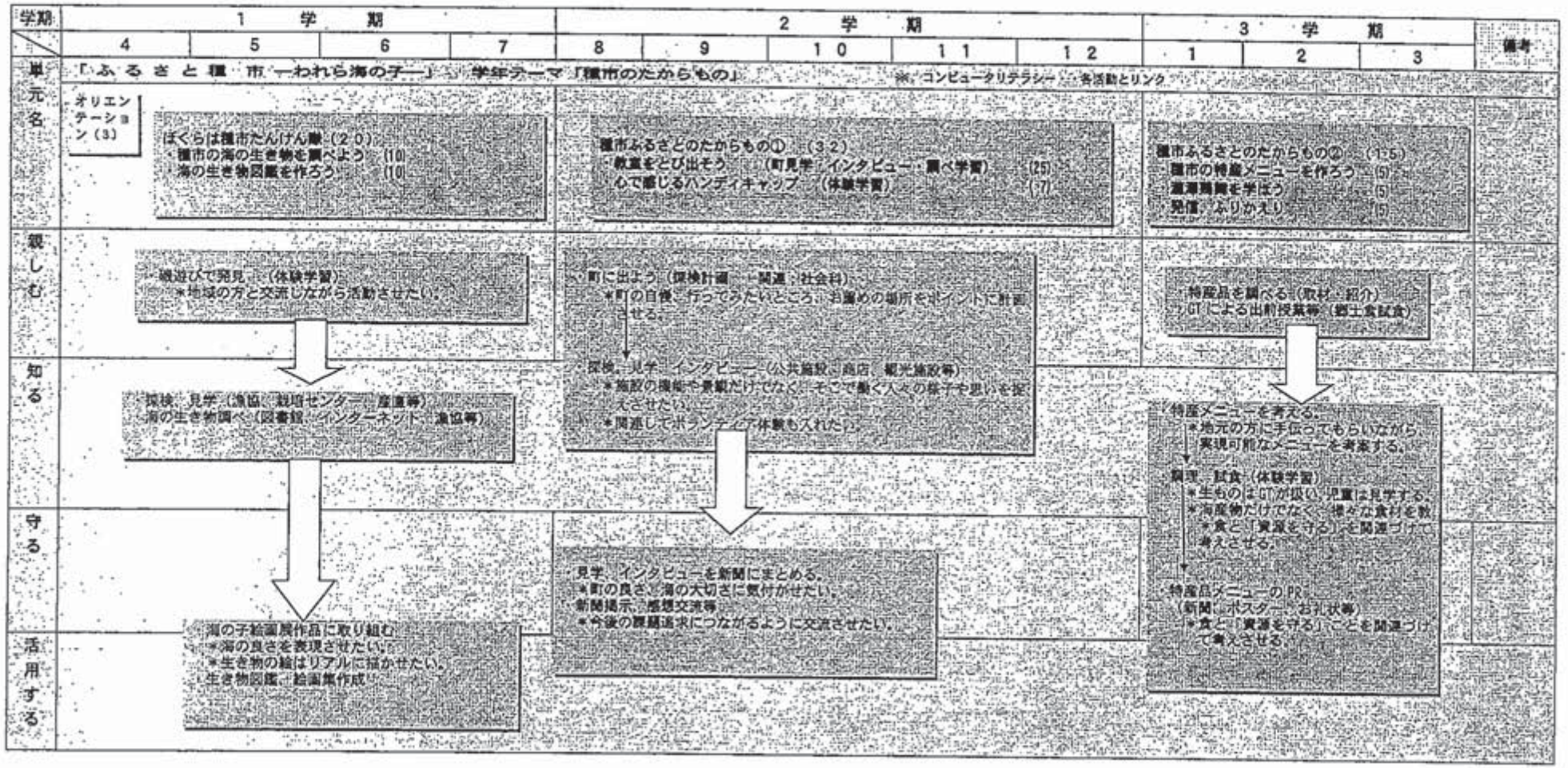
種市小学校 「総合的な学習の時間」（海洋教育）ストーリーマップ

1　全学年共通目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

2　３学年の重点目標

「種市のたからもの」をテーマに身近な地域の自然、社会、文化の様子やそこに住む人々の良さを知る。



学期	1学期				2学期					3学期			備考
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
単元名	「ふるさと種市 ―われら海の子―」　学年テーマ「種市のたからもの」　※コンピュータリテラシー・各活動とリンク												
	オリエンテーション（3）	ぼくらは種市たんけん隊（20） ・種市の海の生き物を調べよう　(10) ・海の生き物図鑑を作ろう　(10)			種市ふるさとのたからもの①　（32） ・教室をとび出そう　（町見学・インタビュー・調べ学習）　(25) ・心で感じるハンディキャップ　（体験学習）　(7)					種市ふるさとのたからもの②　（15） ・種市の特産メニューを作ろう　(5) ・瀧澤鶏舞を学ぼう　(5) ・発信、ふりかえり　(5)			
親しむ		・磯遊びで発見　（体験学習） ＊地域の方と交流しながら活動させたい。			・町に出よう（探検計画　関連：社会科） ＊町の自慢、行ってみたいところ、お薦めの場所をポイントに計画させる。					・特産品を調べる（取材・紹介） ・GTによる出前授業等（郷土食試食）			
知る		・探検、見学（漁協、栽培センター、産直等） ・海の生き物調べ（図書館、インターネット、漁協等）			・探検、見学、インタビュー（公共施設、商店、観光施設等） ＊施設の機能や景観だけでなく、そこで働く人々の様子や思いを捉えさせたい。 ＊関連してボランティア体験も入れたい。					・特産メニューを考える。 ＊地元の方に手伝ってもらいながら、実現可能なメニューを考案する。 ・調理、試食（体験学習） ＊生ものはGTが扱い、児童は見学する。 ＊海産物だけでなく、様々な食材を教 ＊食と「資源を守る」を関連づけて考えさせる。			
守る					・見学、インタビューを新聞にまとめる。 ＊町の良さ、海の大切さに気付かせたい。 ・新聞掲示、感想交流等 ＊今後の課題追求につながるように交流させたい。					・特産品メニューのPR （新聞、ポスター、お礼状等） ＊食と「資源を守る」ことを関連づけて考えさせる。			
活用する		・海の子絵画展作品に取り組む ＊海の良さを表現させたい。 ＊生き物の絵はリアルに描かせたい。 ・生き物図鑑、絵画集作成											

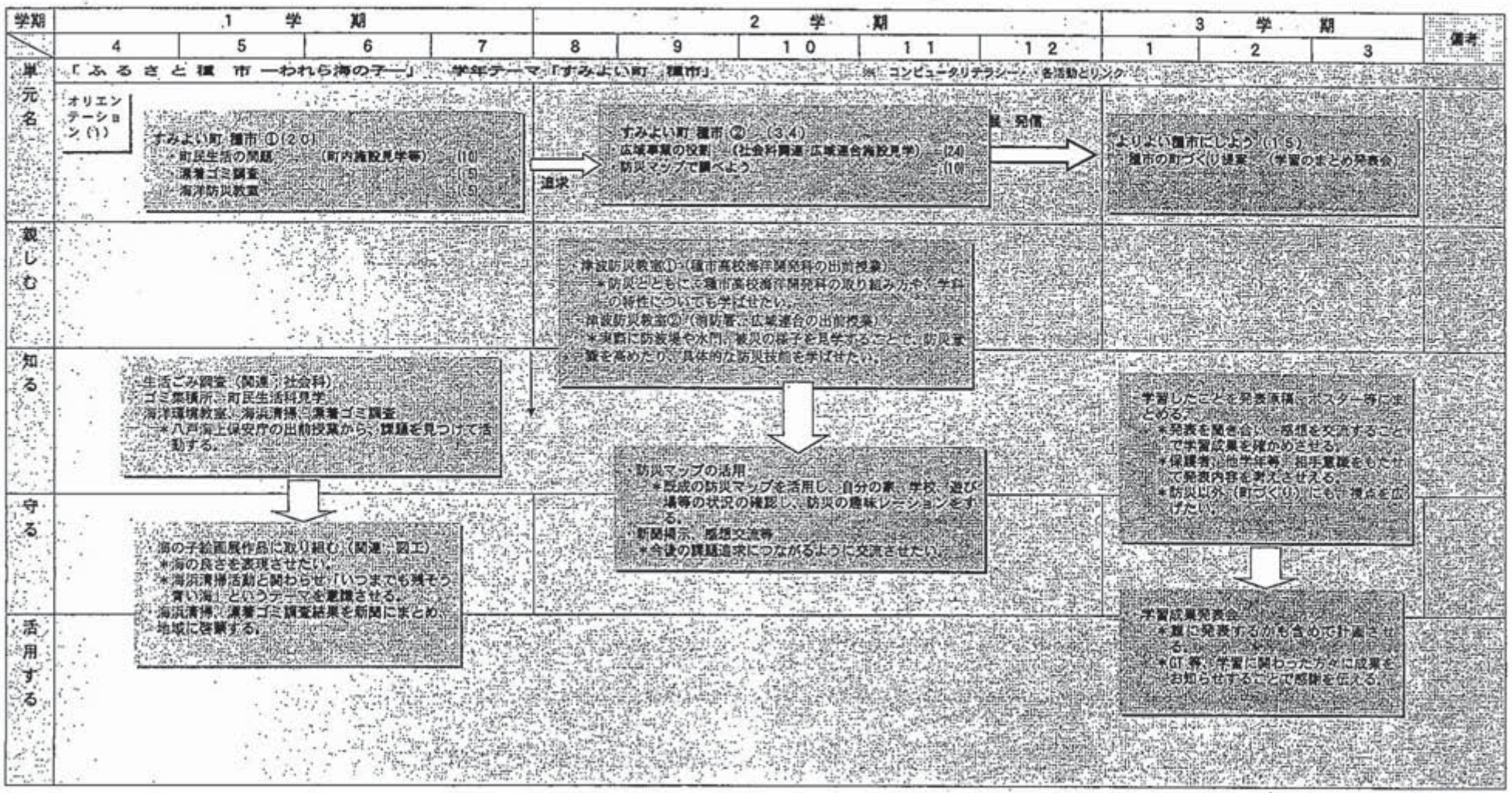
種市小学校 [illegible]

1　全学年共通目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

2　４学年の重点目標

「すみよい町　種市」をテーマに自分たちができる防災や町づくりについて考える。



学期	1学期				2学期					3学期			備考
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
単元名	「ふるさと種市 ―われら海の子―」　学年テーマ「すみよい町　種市」　※コンピュータリテラシー・各活動とリンク												
	オリエンテーション(1)	すみよい町 種市 ①(20) ・町民生活の問題　(町内施設見学等)　(10) ・漂着ゴミ調査　(5) ・海洋防災教室　(5)			追求	すみよい町 種市 ②　(34) ・広域事業の役割　(社会科関連・広域連合施設見学)　(24) ・防災マップで調べよう　(10)			展・発信	よりよい種市にしよう(15) ・種市の町づくり提案　(学習のまとめ発表会)			
親しむ					・津波防災教室①(種市高校海洋開発科の出前授業) ＊防災とともに、種市高校海洋開発科の取り組み方や、学科の特性についても学ばせたい。 ・津波防災教室②(消防署・広域連合の出前授業) ＊実際に防波堤や水門、被災の様子を見学することで、防災意識を高めたり、具体的な防災技能を学ばせたい。								
知る	・生活ごみ調査(関連：社会科) ・ゴミ集積所、町民生活科見学 ・海洋環境教室、海浜清掃、漂着ゴミ調査 ＊八戸海上保安庁の出前授業から、課題を見つけて活動する。				・防災マップの活用 ＊既成の防災マップを活用し、自分の家、学校、遊び場等の状況の確認し、防災の趣味レーションをする。 ・新聞掲示、感想交流等 ＊今後の課題追求につながるように交流させたい。					・学習したことを発表原稿、ポスター等にまとめる。 ＊発表を聞き合い、感想を交流することで学習成果を確かめさせる。 ＊保護者、他学年等、相手意識をもたせて発表内容を考えさせる。 ＊防災以外(町づくり)にも、視点を広げたい。			
守る	・海の子絵画展作品に取り組む(関連：図工) ＊海の良さを表現させたい。 ＊海浜清掃活動と関わらせ「いつまでも残そう青い海」というテーマを意識させる。 ・海浜清掃、漂着ゴミ調査結果を新聞にまとめ、地域に啓蒙する。												
活用する										・学習成果発表会 ＊難に発表するかも含めて計画させる。 ＊GT等、学習に関わった方々に成果をお知らせすることで感謝を伝える。			

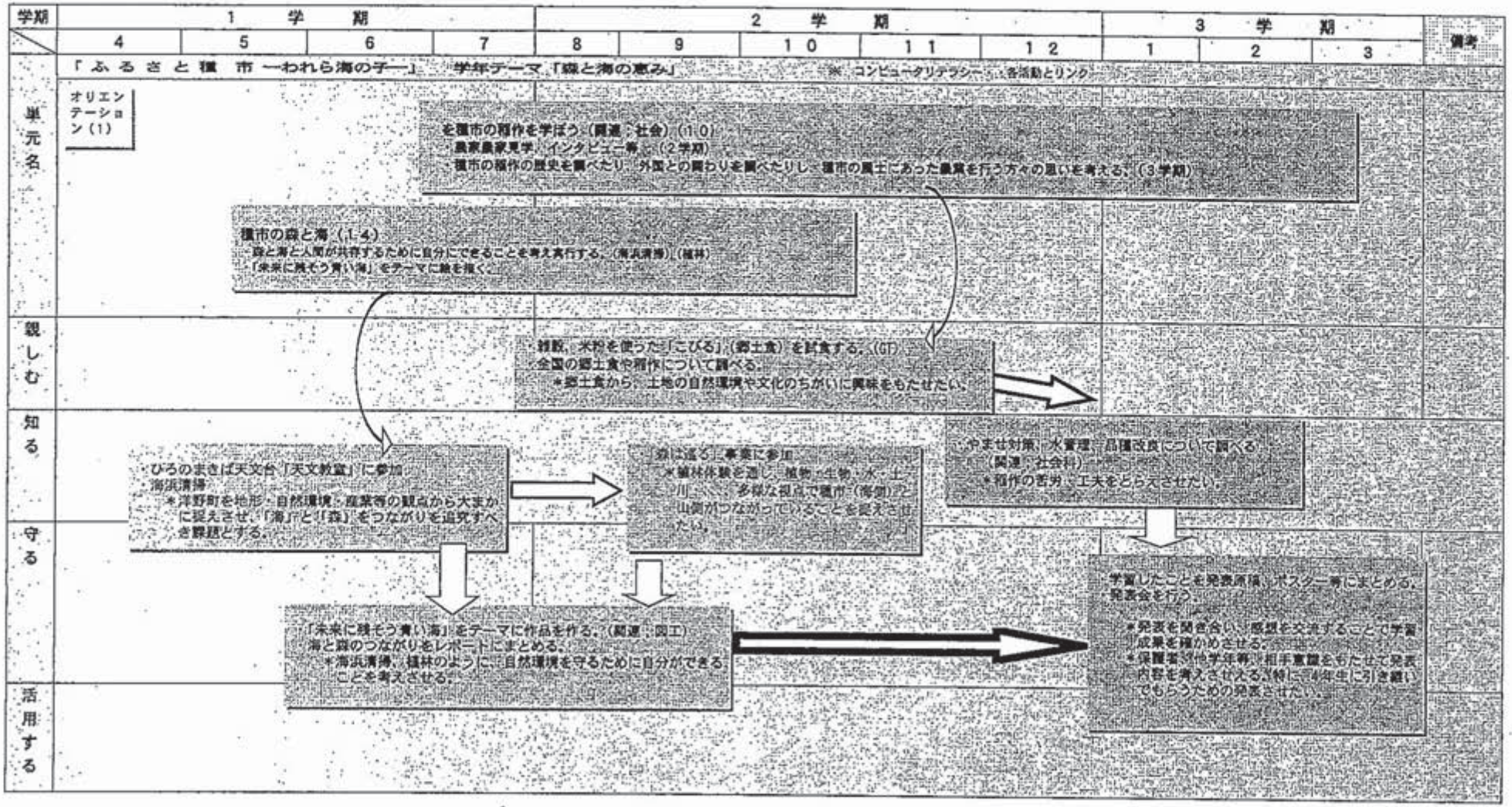
種市小学校　「総合的な学習の時間」（海洋教育）ストーリーマップ

1　全学年共通目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

2　５学年の重点目標

「森と海の恵み」をテーマに、地形、気候等の自然環境との関りで海を捉えななおし、洋野町の種市地域（海側）と大野地域（山側）をつながりでとして学習する。



学期	1学期				2学期					3学期			備考
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
単元名	「ふるさと種市 ―われら海の子―」　学年テーマ「森と海の恵み」　※コンピュータリテラシー・各活動とリンク												
親しむ	オリエンテーション（1）												
知る													
守る													
活用する													

を種市の稲作を学ぼう（関連：社会）（10）
・農家農家見学、インタビュー等（2学期）
・種市の稲作の歴史を調べたり、外国との関わりを調べたりし、種市の風土にあった農業を行う方々の思いを考える。（3学期）

種市の森と海（14）
・森と海と人間が共存するために自分にできることを考え実行する。（海浜清掃）（植林）
「未来に残そう青い海」をテーマに絵を描く。

・雑穀、米粉を使った「こびる」（郷土食）を試食する。（GT）
・全国の郷土食や稲作について調べる。
＊郷土食から、土地の自然環境や文化のちがいに興味をもたせたい。

・ひろのまきば天文台「天文教室」に参加
・海浜清掃
＊洋野町を地形・自然環境・産業等の観点から大まかに捉えさせ、「海」と「森」をつながりを追究すべき課題とする。

「森は遥る」事業に参加
＊植林体験を通し、植物・生物・水・土・川・…、多様な視点で種市（海側）と山側がつながっていることを捉えさせたい。

・やませ対策、水管理、品種改良について調べる（関連：社会科）
＊稲作の苦労、工夫をとらえさせたい。

「未来に残そう青い海」をテーマに作品を作る。（関連：図工）
・海と森のつながりをレポートにまとめる。
＊海浜清掃、植林のように、自然環境を守るために自分ができることを考えさせる。

・学習したことを発表原稿、ポスター等にまとめる。
・発表会を行う。
＊発表を聞き合い、感想を交流することで学習成果を確かめさせる。
＊保護者、他学年等、相手意識をもたせて発表内容を考えさせえる。特に、4年生に引き継いでもらうための発表させたい。

種市小学校における総合的な学習の時間の年間計画（探究的な学習のカリキュラム・マネジメント）

1　全学年共通目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

2　６学年の重点目標

「ふるさと種市　再発見」をテーマに、これまでの学習をふまえ、ふるさと種市を見つめ直す学習をするとともに、学習のまとめとして自分ができる活動を計画・実践する。

学期	1学期				2学期					3学期			備考
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
単元名	「ふるさと種市 ―われら海の子―」　学年テーマ「ふるさと種市　再発見」　※ コンピュータリテラシー　各活動とリンク												
親しむ	オリエンテーション（1） 他地域の海を知ろう（20） ・他地域の海の様子を調べる（地理・産業・歴史等）（10） ・種市と比べて。（10）				種市の海・町　再発見（30） ・他地域との比較から、種市を見つめ直す（10）（20） 「種市　再発見」学習課題追究 （海洋サミット参加をめざして）					ありがとうをつたえよう（19） ・今自分ができること（感謝行動計画） ・これからの自分（ふりかえり）			
知る	・修学旅行の学習計画を立てる。 事前学習（自然環境、産業、観光、等） ＊種市との比較で他地域の概要・特徴をつかませる。 ・修学旅行（漁業・海洋施設見学・観光地散策） ＊実際に見学、散策して気づいたことや疑問に思ったことを追究課題につなげる。				・修学旅行での学習をもとに「種市再発見」の課題を立てる。 ＊他地域との比較をポイントに、共通点と相違点に着目させる。 「種市再発見」をテーマに課題追究する。（調べ学習） ＊海洋サミットでの発表をめざす。 ＊種市の活性化・防災・PR　等から「グローバルな視点につながる」追究をさせたい。								
守る													
活用する					・海洋サミット参加する（代表者） ・海洋サミット報告会（4～6年） ＊自校の学習成果を確かめるとともに、他地域の実践から刺激を受けたり、学びどったりさせたい。					・学習のまとめとして自分に出来ることを実践する計画を立てる。 ＊実践の根底に学習できたことへの感謝、地域、学校への感謝を広げるように助言する。 ・感謝行動を実践。 ・実践のまとめを発表原稿、ポスター等にまとめる。 ・発表会を行う。 ＊発表を聞き合い、交流することで学習成果や自分たちの成長を確かめさせる。 ＊保護者や他学年等、相手意識をもたせて発表内容を考えさせる。			

令和２年度「ひろの学」（海洋教育・復興教育）指導計画

１　目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き，海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に，「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ，たくましく生き抜くことができる子どもをはぐくむ。

２　重点

（１）これまでの**生活科，総合的な学習の時間を中心**に，「教育課程を見直し，指導の充実に努める。

（２）復興教育の理念をさらに発展させ，海洋教育の推進に努める。

（３）キャリア教育、環境教育、ボランティア教育のねらいと関連付け、計画を統合していく。

３　内容

生活科、総合的な学習の時間以外の場面でも海洋教育のねらいを持った教育活動を展開していく。

（１）各教科・領域

・海洋教育に関わる単元のねらいを確認する。

（２）特別の教科　道徳

・指導項目（郷土愛，自然愛護，生命尊重）との関わりを確認する。

（３）特別活動

・学校行事（海浜清掃、防災訓練）、児童会活動（ボランティア活動）、学級活動（自然愛護，生命尊重等）で児童の主体的な活動を仕組んでいく。

４　計画

生活科・総合的な学習の時間　テーマ「ふるさと種市～われら海の子～」

１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生
・磯遊び ・海浜清掃 ・磯遊びで見つけたものを描こう	・磯遊び ・海浜清掃 ・磯遊びで見つけたものを描こう	・種市のたからもの ・海の生き物たち	・津波防災教室 ・防災マップで調べよう	・種市の海と森 ・つながりをさぐろう	・ふるさと種市に生きる （４年間のまとめとして卒業論文のようにしてまとめる）
海上保安部との海洋教室					
・季節さがし ・家族の仕事	・町探検 ・私の物語	・心で感じるハンディキャップ	・よりよい種市に	・「海洋サミット」に参加しよう	・「海洋サミット」に参加しよう

５　その他（留意点等）

（１）令和２年度「海洋教育子どもサミット」への参加体制を整えていく。

①課題解決学習と発信・発表活動を計画的に仕組んでいく。

②コミュニケーション能力の育成をめざし、様々な学習活動を仕組む。

③学習環境整備にあたっては、洋野町教育委員会や東大海洋アライアンスの協力を積極的に仰ぐ。

④R3 年度の海洋科新設に向け、現行の活動を海洋科単元（30h）と総合（40H）に整理していく。

「ひろの学」全体構想図

学校教育目標

- 思いやりのある子ども（心が元気）
- 進んで学習する子ども（頭が元気）
- 進んで体をきたえる子ども（体が元気）

めざす子ども像

海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
海の自然に親しみ，進んで関わろうとする子ども	海について進んで調べようとする子ども	海の環境保全に主体的に関わろうとする子ども	先人達はどのようにして海の恵みを教授してきたのか，地域に根ざした産業など，海を持続的に利用することの大切さを理解できる子ども

テーマ　「　ふるさと種市　－われら海の子－　」

	海に親しむ（いきる）	海を知る（いきる・そなえる）	海を守る（かかわる・そなえる）	海を利用する（かかわる）
1年生	・磯遊び ・磯遊びで見つけたものを描こう【環境】	・磯遊び ・磯遊びで見つけたものを描こう【環境】	・海浜清掃　【キャリア】【ボランティア】 ・海洋環境紙芝居　【環境】【防災】	
2年生	・磯遊び ・磯遊びで見つけたものを描こう【環境】	・磯遊び ・磯遊びで見つけたものを描こう【環境】	・海浜清掃　【キャリア】【ボランティア】 ・環境紙芝居【環境】【防災】	
3年生	・種市の海の生き物たち【環境】	・種市の宝物（自然・町）【キャリア】 ・海の生き物図鑑　【環境】【キャリア】 ・大野地区体験【キャリア】【環境】	・種市の海の生き物【キャリア】 ・海の生き物を守ろう【環境】【キャリア】 ・海浜清掃【環境】【キャリア】【ボランティア】	・特産メニューを作ろう【キャリア】
4年生		・津波防災教室　【防災】 ・海洋環境教室　【環境】 ・漂着ゴミの調査【環境】【ボランティア】 ・防災マップで調べよう【防災】	・津波防災教室【防災】 ・海洋環境教室【環境】 ・漂着ゴミの調査【環境】【ボランティア】	・種市の町づくり提案【キャリア】 （大野地区見学）【キャリア】【環境】
5年生	・海浜施設・作業見学【キャリア】	・種市の海と森（社会科の発展）【環境】【キャリア】 ・種市の稲作（社会科）【環境】【キャリア】	・種市の海と森【環境】【防災】 ・海浜清掃【環境】【ボランティア】	・種市の海と森（社会科の発展）【キャリア】【ボランティア】 ・まきば展望台教室【環境】【キャリア】
6年生	・他地域（仙台）探索 ・他地域（県南地区・仙台等）施設見学【キャリア】	・ふるさと種市に生きる ～先人の働きや地域産業等で働く人～ キーワード 南部もぐり，ウニ栽培，地元漁師，水産加工場，飲食業など	⇒	・種市の海　再発見【キャリア】【環境】【防災】【ボランティア】 ＊様々な視点で自分の学びをまとめる

・津波避難訓練　【防災】
・3.11 集会　【防災】【キャリア】【ボランティア】　⇒　全校行事
・「ようこそ先輩講演会」　【キャリア】
・遠足　・宿泊学習　・修学旅行　【キャリア】

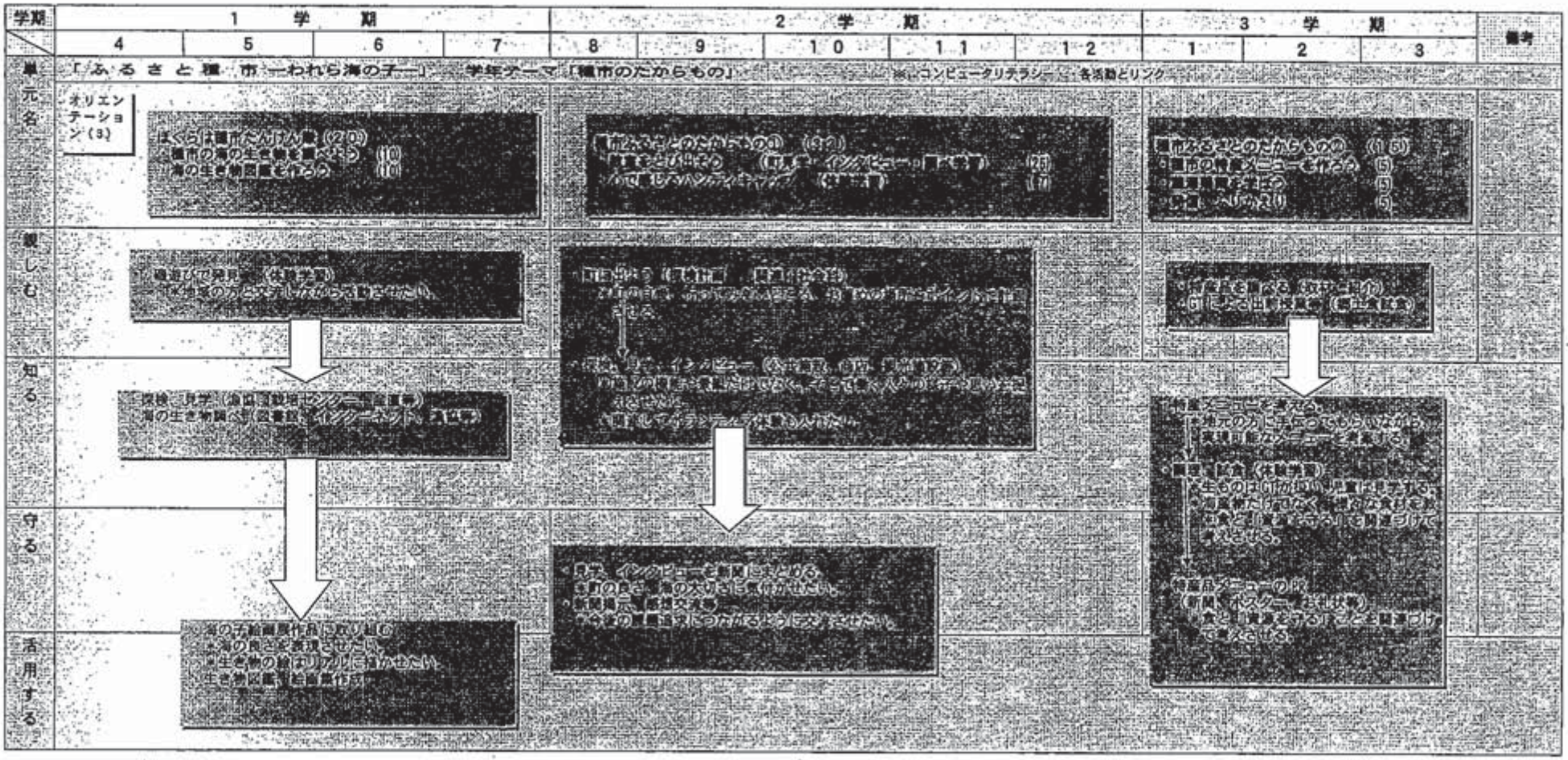
[redacted]

1　全学年共通目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

2　３学年の重点目標

「種市のたからもの」をテーマに身近な地域の自然、社会、文化の様子やそこに住む人々の良さを知る。



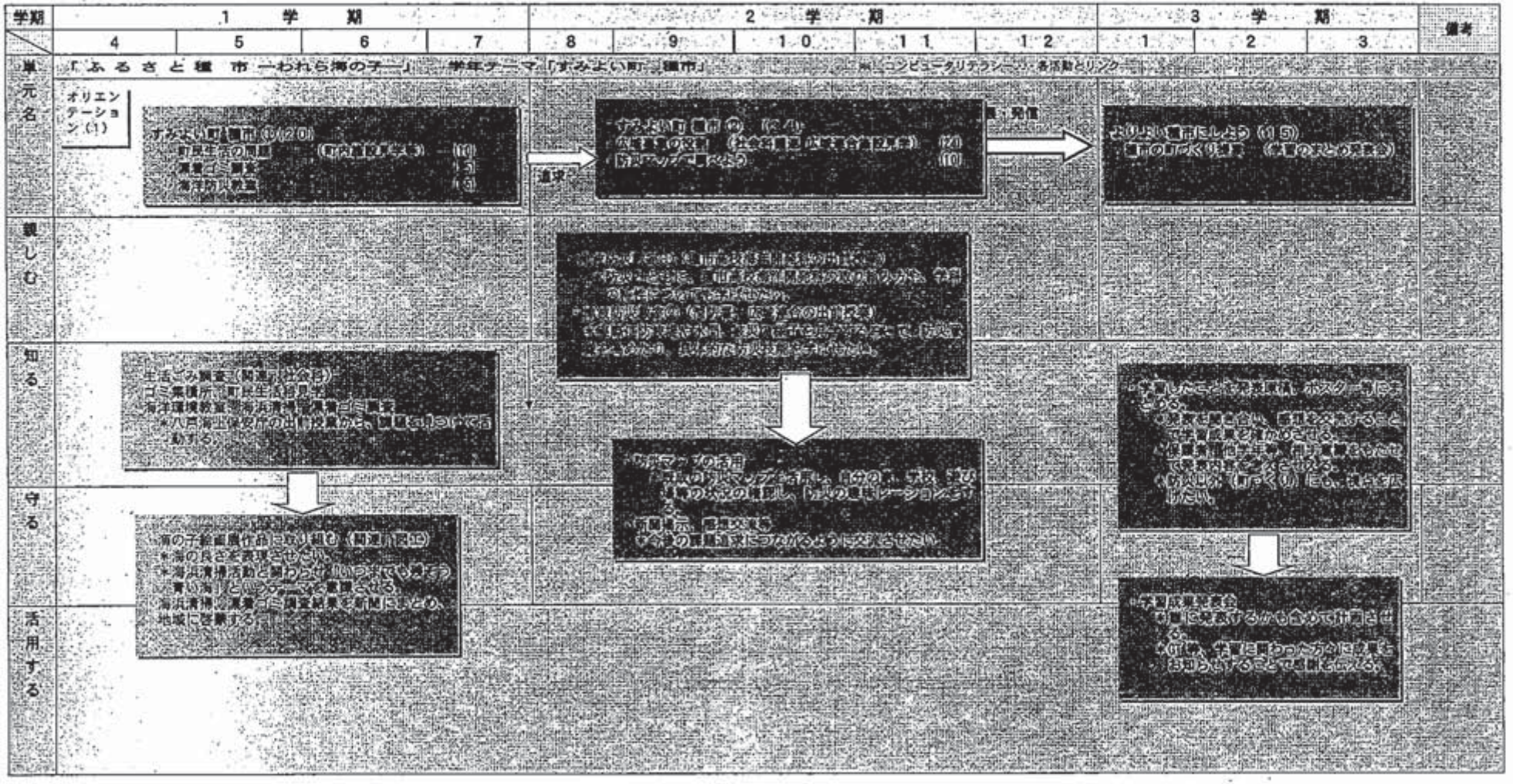
[redacted]

1　全学年共通目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

2　４学年の重点目標

「すみよい町　種市」をテーマに自分たちができる防災や町づくりについて考える。



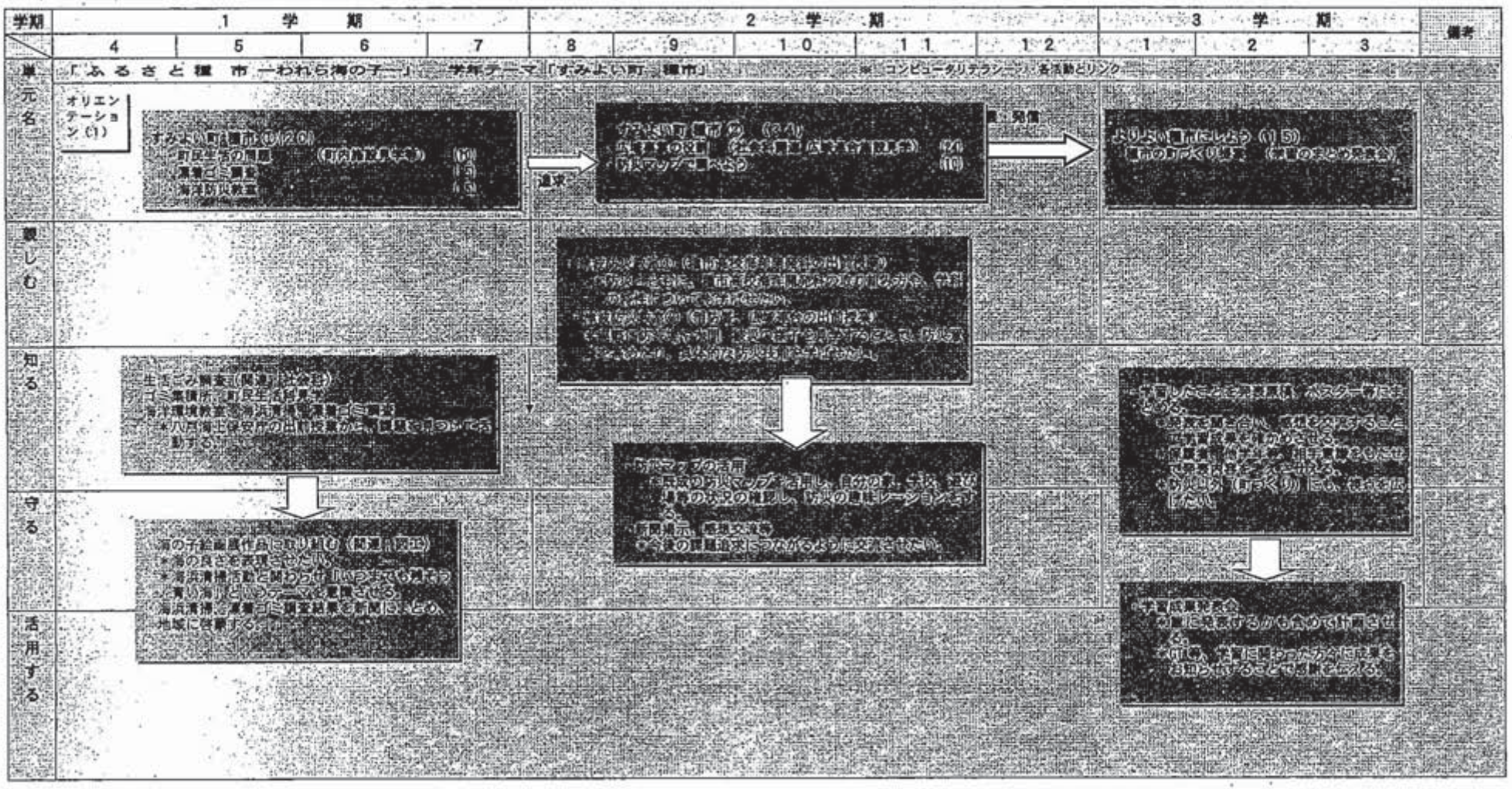
[redacted]

1　全学年共通目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

2　４学年の重点目標

「すみよい町　種市」をテーマに自分たちができる防災や町づくりについて考える。

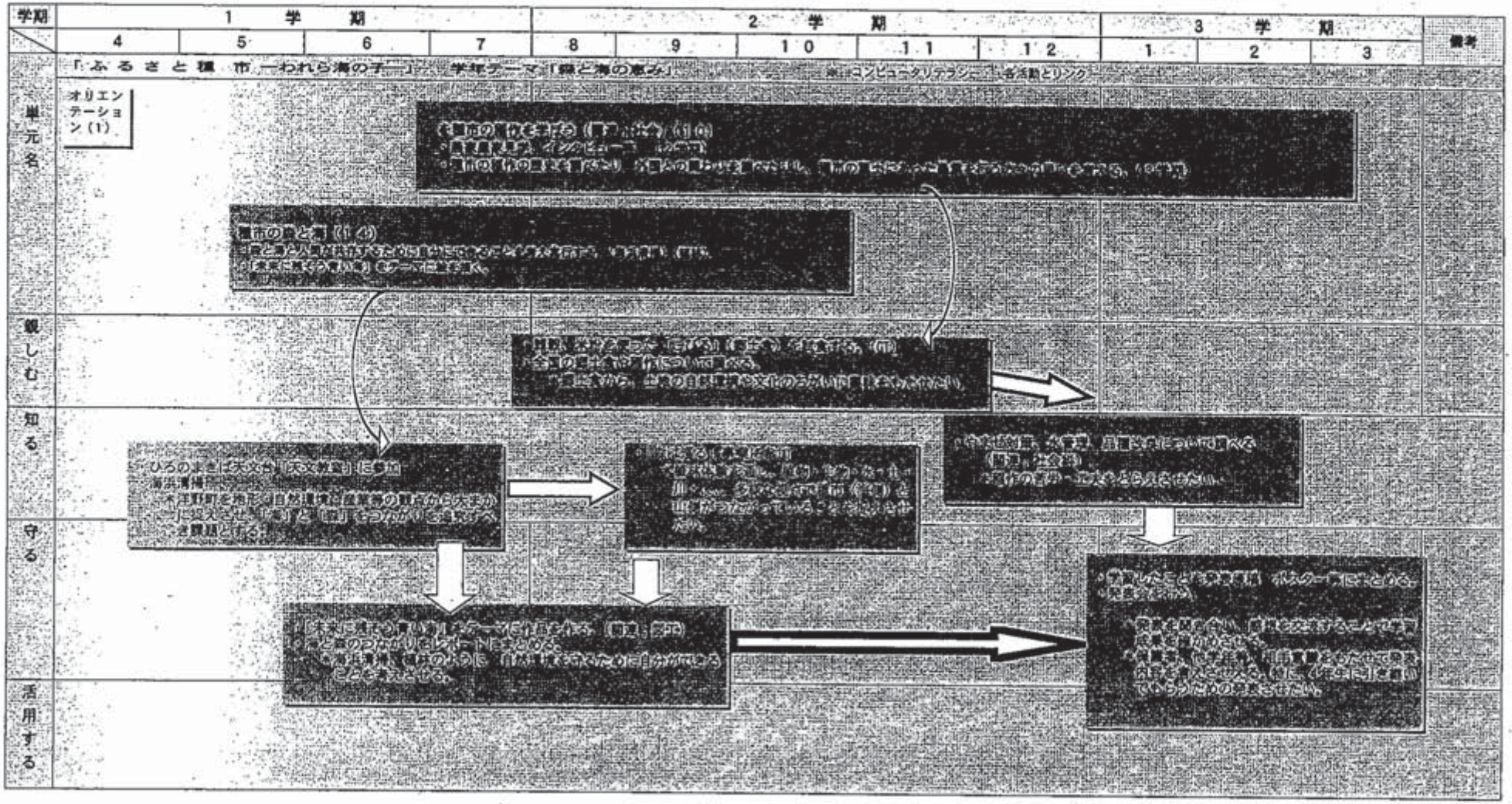


1　全学年共通目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

2　５学年の重点目標

「森と海の恵み」をテーマに、地形、気候等の自然環境との関りで海を捉えななおし、洋野町の種市地域（海側）と大野地域（山側）をつながりでとして学習する。

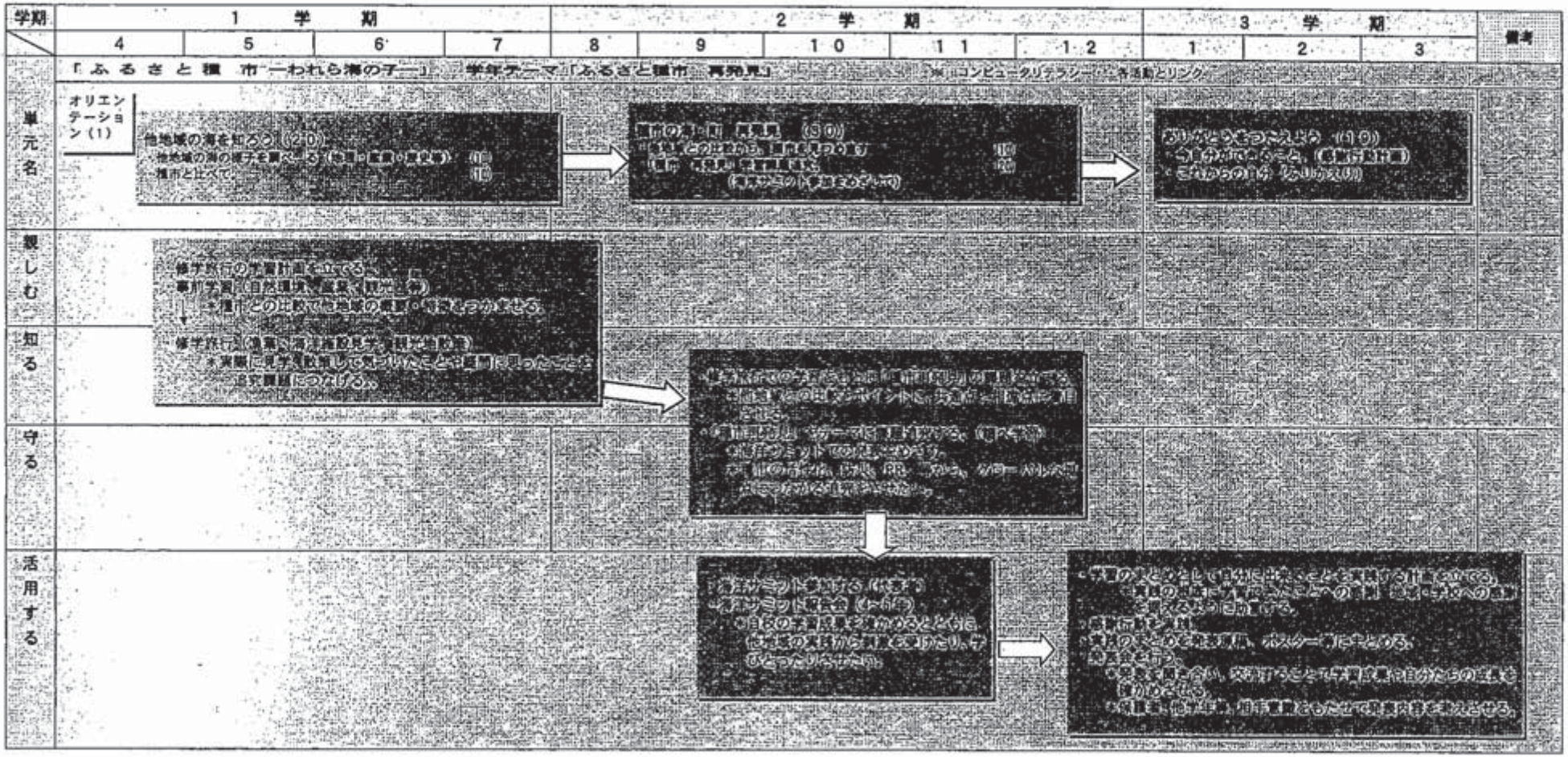


1　全学年共通目標

「いわての復興教育　いきる　かかわる　そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

2　６学年の重点目標

「ふるさと種市　再発見」をテーマに、これまでの学習をふまえ、ふるさと種市を見つめ直す学習をするとともに、学習のまとめとして自分ができる活動を計画・実践する。



学期	1学期				2学期					3学期			備考
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	「ふるさと種市―われら海の子―」　学年テーマ「ふるさと種市　再発見」　※コンピュータリテラシー…各活動とリンク												
単元名	オリエンテーション（1） 他地域の海を知ろう（20） ・他地域の海の様子を調べる（地理・産業・歴史等）（10） ・種市と比べて（10）				種市の海・町　再発見（30） ・地域との比較から、種市を見つめ直す（10） ・種市　再発見　学習課題を考える（20） （海洋サミットを参加するまでの）					ありがとうをつたえよう（19） ・今自分ができること、（参加行動計画） ・これからの自分（ふりかえり）			
親しむ	修学旅行の学習計画を立てる。 事前学習（自然環境、産業、観光、等） ・種市との比較で地域の概要・特徴をつかませる。 ↓ 修学旅行（漁業、海洋施設見学、観光地教室） ・実際に見学、教室して気づいたことや疑問に思ったことを追究課題につなげる。												
知る													
守る													
活用する													

令和２年度　種市小学校　「生活科」・「総合的な学習の時間」　年間単元一覧表

学期	1学期				2学期					3学期			総時数
学年＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年	みんななかよし【6】 １みんなであそぼう（６） なかよしたんけんたい【２６】 １学校を探検しよう（１３） ２ぽかぽか春探検（３） 海遊び	おおきくなあれ【３５】 １アサガオを育てよう（１１）　２野菜を育てよう（10）　３動物をみにいこう（５）　４収穫祭をしよう（６） なかよしたんけんたい【１３】 ３ぎらぎら夏探検（３） ４海となかよし（１０）				なかよしたんけんたい【１０】 ５はっぱの秋探検（１０）				みんななかよし【１９】 ３なかよし家族（１２） ４ありがとう６年生（３） ５ようこそ１年生（４） なかよしたんけんたい【３】			１０２ 関連;国語 図工
2年	みんなあつまれ【６】 キラキラひまわりたんけんたい【８】 １通学路でみつけよう ２町のひみつを教えよう 磯あそび	生きものをそだてよう【２４】 １野菜を育てよう（１４）　２生き物を探そう（６）　３生き物を飼おう（４） キラキラひまわりたんけんたい【１４】 ３乗り物探検（８） ４海となかよし（６）				キラキラ秋まつり【２０】 １まつり博士 ２さあ、まつりだ		めざせあそび名人【１５】 １昔の遊びや外国の遊びを楽しもう ２お正月楽しかったよ		あしたへ　ジャンプ【１８】 １小さい頃のわたし ２私の物語 ３もうすぐ３年生			１０５ 関連；国語 図工
3年	「ふるさと種　市 ―われら海の子―」　学年テーマ「種市のたからもの」　※　コンピュータリテラシー・・各活動とリンク オリエンテーション【3】	ぼくらは種市たんけん隊；関連社会【２０】 ・種市の海の生き物を調べよう　(10) ・海の生き物図鑑を作ろう　(10) （磯あそび発展、海の子絵画）				種市ふるさとのたからもの①　【３２】 ・教室をとび出そう　（町見学・インタビュー・調べ学習）　(25) ・心で感じるハンディキャップ　（体験学習）　(7)				種市ふるさとのたからもの②　【１５】 ・種市の特産メニューを作ろう　(5) ・瀧澤鶏舞を学ぼう　(5) ・発信、ふりかえり　(5)			７０
4年	「ふるさと種　市 ―われら海の子―」　学年テーマ「すみよい町　種市」　※　コンピュータリテラシー・・各活動とリンク オリエンテーション【1】	すみよい町 種市 ①【２０】 ・町民生活の問題　（町内施設見学等）　(10) ・漂着ゴミ調査　(5) ・海洋防災教室　(5)				すみよい町 種市 ②　【３４】 ・広域事業の役割　（社会科関連 広域連合施設見学）　(24) ・防災マップで調べよう　(10) 津波防災出前授業		よりよい種市にしよう【１５】 ・種市の町づくり提案　（学習のまとめ発表会）					７０
5年	「ふるさと種　市 ―われら海の子―」　学年テーマ「森と海の恵み」　※　コンピュータリテラシー・・各活動とリンク オリエンテーション【1】	種市の稲作を学ぼう；関連社会【１０】 ・稲作農家見学、インタビュー等（２学期） ・種市の稲作の歴史を調べたり、沖縄との関わり・外国との関わりを調べたりし、種市の風土にあった農業を行う方々の思いを考える。（２学期） 種市の森と海【５９】 ・森と海と人間が共存するために自分にできることを考え実行する。（海浜清掃）（植林）(40) ・「未来に残そう青い海」をテーマに絵を描く。(10)				⇨ ・学びのまとめ、発信　(9)							７０
6年	「ふるさと種　市―われら海の子―」　学年テーマ「ふるさと種市再発見」　※　コンピュータリテラシー・・各活動とリンク オリエンテーション【1】	他地域の海を知ろう【２０】 ・他地域の様子を調べ、産業・文化・歴史に関心を持つ。　(10) ・種市との比較から、違いや繋がりを考える。(10)				種市の海・町　再発見　【３０】 ・他地域との比較から、種市の町つくりを再度見直す。(20) ・学びのまとめ・発信。　(10) （海洋サミット参加をめざして）				ありがとうをつたえよう【１９】 ・今自分ができること。（感謝行動計画） ・これからの自分（ふりかえり）			７０

第１学年　生活科学習指導案

洋野町立種市小学校

１　単元名　　「なかよしたんけんたい～海となかよし～」

２　単元の目標

・身近な海にいる生き物を実際に見たり触ったりしながら、海に親しむ。

・観察、体験してきたことを観察カードにかいて発信する。

３　単元について

（１）児童について

子どもたちは素直で活動的であり、外遊びが好きな子も多い。しかし、コロナウイルスの影響、メディアを中心とした生活が比重を増し、日常的に海に親しんでいるとは言えない。また、漁業の手伝い、浜遊び、釣り等は安全でないという理由から、子どもだけで経験できない現状である。

子どもたちは、テレビや本などからたくさんの生き物が海にいることは知っている。しかし、前述の通り、実際の生き物を見たり触れたりする経験は乏しい。

（２）教材について

種市は、ウニやほやなどといった魚介類、南部ダイバーという伝統と特色のある職業、ウニ牧場やウニークといった海に関わる施設などが有名である。海を身近に感じながら海の恩恵を受けている町でもある。ただ、中にはあまり海と関わる体験をしたことがないという児童もいるため、海に関しての知識が豊富な種市漁協やボランティアの方々の協力を仰ぎながら、海を五感で感じ取りながら活動させていきたい。

（３）指導について

身近にある海で、実際に活動し「海に親しむ」ことを大切にしたい。また、生き物を見つけたり触れあったりする中で、生き物を大切にする気持ちと併せて、食べ物として恩恵を受けているものもあることに気づかせたい。

また、海での活動もあるため、海の素晴らしさだけではなく危険な面もあることを教え、安全に活動ができるように事前指導を適切に行っていきたい。

６　指導と評価の計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ１時	①季節の変化に気づき、夏の遊びを計画する。	・夏の遊びを楽しく想起する。	・季節の変化に興味を持つ。		
調べる・体験する５時	②学校の回り観察・探検。 ・草花、虫等の様子を観察。気づきを記録 ③④磯遊びの計画。 ・安全のルール確認 ・八戸海上保安部出前授業 ⑤⑥磯遊び。 ・１～３年が行う。 （保護者・地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの協力あり） ＊④～⑥は行事。	・自然観察や磯遊びを楽しむ	・季節の変化に気づく ・安全な遊び型や避難の仕方が分かる。 ・磯の様子、生き物の様子に気づく。（五感で学ぶ）	・自然を大切にできる。（自分ができることを具体的に考える）	・楽しく安全な遊び方をする。 ・飼育のために生き物を捕まえたり、食用に海産物等をとったりする。
まとめる１時**本時**	⑦発表 ・観察カードをもとに気づいたことを発表し合う。	・驚きや興味、楽しさを感じながら発表をきく。	・友達の発表から知識を得たり、気づきや興味を深める。		
ひろげる２時	⑧⑨海の絵を描く。 ・「未来に残そう青い海」のテーマで絵を描く（関連；図工）	・磯遊びの楽しさを想起する。		・テーマをとらえ、思いをもって絵を描く。	・画題としての面白さに気づく。（水の表現、想像の楽しさ等）

7　本時の指導（2/5時間）

（1）目標　・磯遊びで見つけた生き物を進んで紹介しようとしている。

（2）展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価
導入 10分	1　磯遊びの様子を振り返る ○みつけたいきものをしょうかいしよう。	・写真等を用い、想起しやすくする。
展開 30分	2　みつけた生き物を発表する。 ・カニ　・ツブ　・さかな　・ウミウシ ・イソギンチャク　　・貝　など 3　観察カードにかく 4　ペアで交流する。 5　全体で交流する。	・写真を使いながら、どんな生き物か確認する。 ・色や形、大きさなどに注目させながらかかせる。 ・決められない児童がいたら、写真を用意して選ばせる。 ◇観察カードを使って、進んで友達に紹介している。 ・発表の後に同じ生き物を選んだ児童が、他の特徴を記入していたら発表させる。
まとめ 5分	6　次時の確認	・海の絵をかくことを伝える。

第４学年　総合的な学習の時間指導案

洋野町立種市小学校

１　単元名「すみよい町　種市①　～漂着ごみ調査～」

２　単元の目標

・身近な地域の環境問題に目を向け、自然環境を守ろうとする意欲を高める。
・ごみ調査の体験を通して、どんな問題があるか知り、自らが環境改善に対してできる取り組みを考え、発信・実践しようとする態度を育てる。

３　単元について

（１）児童について

児童は、１年生から３年生で磯遊びや海の生き物図鑑作成などを通して、海に親しみながら生き物や自然を大切にしようという思いを深めてきた。また、１年生の時は、八戸海上保安部の協力のもと、海を守る取り組みについての学習も行っている。

ただ、海に関わる経験は学校生活に限定される児童も多く、海と接する機会は多くはない。

（２）教材について

現在世界中で、地球温暖化や大気汚染、食料廃棄など多くの問題が挙げられている。中でも、近年話題に多く取り上げられるのは海洋プラスチック問題である。人類にとってプラスチックは非常に便利なものでありながらも、ごみとして放置してしまうことにより、巡り巡って最終的には人間に害を与えるものでもある。

身近な地域のごみを調査することにより、環境問題に対してより意識を向けさせていきたい。

（３）指導について

海を身近に感じながらも、直接的な経験が乏しい児童に、意図的に海に親しむ経験と、海の大切さを知り、海を守ろうとする気持ちを育てる活動を行わせたい。また、実際に海浜清掃とごみの分別調査を実施することで、環境問題に目を向けさせ、自分にできることを考えさせるとともに、実践していこうとする意欲の増長を図りたい。さらに、八戸海上保安部さんと連携したり、世界環境デーに合わせて行ったりすることで、海洋に対する視野を種市から世界へと広げさせたい。

４　指導と評価の計画

単元計画　【4 年　総合的な学習　　漂着ごみ調査】　（行事３含む）

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ１	①漂着ごみについて予想する。		・生活経験から予想する。 ・生活ごみと比較する。（関連；社会科）	・自然環境の大切さを想起（1 年時の海洋教室想起）	
調べる・体験する（学校行事）	②八戸海上保安部出前授業（海洋環境教室） ③海浜清掃 ・４～６年が全員で行う。 （八戸海上保安部、保護者、地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの協力あり） ④漂着ごみ調査 ・回収したごみを分別し、調査シートに記録する。	・海浜がきれいになったことを確かめ、これからも地元の海を大切にする気持ちを育てる。	・海洋環境保全について理解する。 ・海洋環境が様々な影響を及ぼすことを理解する。 ・漂着ごみの様子（場所、量、種類等）に気をつけながら、海浜清掃をする。 ・漂着ごみ調査の仕方を知る。 （分別、記録方法等）	・海洋環境保全に努める。 ↓	
まとめる３**⑤本時**	⑤⑥⑦学習したことを発信。 ・調査シートから気づいたことを共有する。 ・発信する（発表会、新聞、通信等）		・友達と交流し、環境保全に関わる知識や考えを深める。	・環境保全に関わる決意表明や提案をする。	・漁業への影響に気づき、関係者に発信する。
ひろげる１	⑧次年度への展望 ・次年度へ向け活動の視点をもつ。 ・さらに調べてみたいことへの意欲付け。		・今後の学習につながる課題を見つける。（住みよい町つくり）		

5　本時の指導（2/5時間）

（1）目標　・ごみ調査のデータから、問題点をみつける。

（2）展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価
導入 10分	1　海浜清掃の様子を振り返る ・ごみがたくさんあった。 ・外国のごみがあった。	・写真等を用い、想起しやすくする。
	2　ごみ調査のデータを提示する。 ○ごみ調査のデータから、問題点をみつけよう。	・特徴的なデータを全体で確認する。
展開 25分	3　調査から分かったことをまとめる。 ・缶やペットボトルが多かった。 ・お菓子やビニールがたくさんあった。 ・割れたガラスがあった。	・個別学習の後で、班ごとに交流し考えをまとめる。
	4　どんな問題があるのか考える。 ・海が汚れる。 ・生き物が死んでしまう。 ・生き物の住むところがなくなる。	・班ごとで考えをまとめ発表する。 ◇データを見ながら、生活経験やこれまでの学習をもとに、問題点を考えようとしている。
まとめ 10分	5　調べてみたいことの交流	・問題点として出されたことから、調べてみたいことをたくさん出させる。
	6　次時の確認	・本やインターネットを使い、海とごみに関する調べ学習を行うことを確認する。

総合　Ｒ２年度４年生　指導計画案

１学期　すみよい町　種市①（２０時間）

・わたしたちの海（10時間）

①　自分たちの知っている海について交流しよう（１）

②　海洋教室（海上保安庁　自然保護講義）（１）・・・６月５日（金）

③　海浜清掃と漂着ゴミ調査（３）・・・６月５日（金）

④　調査から考えたこと→課題（１）

⑤　課題について調べよう（２）

⑥　調べたことを新聞にまとめよう（国語との関連）（２）

⑦　きれいな海を表そう（絵画）（図工との関連）（５））

・町民生活の問題（社会科と関連させて…）（５時間）

２学期　すみよい町種市②（３４）

１　（きっかけ）（１）

〇「東日本大震災の洋野町の記録」の DVD を見て、地震や津波の恐ろしさを知る。
私たちが住んでいる種市での身近なところでもあり得ることを感じる。

２　（課題設定）（津波学習）（１）

〇　津波の映像を見たり聞いたりすることでもった感想を交流することで、課題を見つけていく。(「防災」についての課題意識にもっていきたい…)

〇　（津波防災教室講座の事前学習）

「あたらしいきょうど岩手」　「社会科補助教科書」　「わたしたちの洋野」
過去に作成した「種市防災マップ」をみんなで見たり、社会科の教科書を読んだり副読本を読んだりしながら、津波についての予備知識を得る。
質問したいことを考えたりする…

３（見学）９月３日（木）（２）

津波防災教室①小子内浜漁港

〇津波防災施設の効果と限界を知り、避難の必要性について知る。

４　（プチまとめ）（１）

〇津波防災教室①で分かったことをまとめたり、みんなで共有したりする。

５　（遠足）　９月９日（水）（２）

もぐらんぴあ見学　津波展示コーナー見学等

（まとめ方）
・プチまとめはワークシートに
・全体のまとめをレポート形式で

６　（プチまとめ）（１）
　遠足　振り返り　分かったことをまとめる

７　（出前講座）　（１）
津波防災教室②種市高校海洋開発科（担当ふっきりさん）
津波のしくみを知る等

８　（情報収集）（整理分析）（３～　　）
　　〇防災マップで調べよう
　〇安全な非難について自分の気づきや、考えを記入する。
　〇津波や地震から自分の命を守るため、自分の家からの避難経路を確かめる。

９（まとめ）（表現）（３～　　）
　〇学習したことをまとめる。
　〇安全な避難についての自分の気づきや、考えをまとめる。

４年生総合ワークシート①　# すみよい町　種市

月　　日（　）	４年　組　　番（　　）

★種市の海ってどんな海ですか？（みんなが知っている種市の海を種市の知らない人に教えてあげましょう。）

きれいですか？

どんなものがとれますか？

けしきはどうですか？

★海浜清掃に出かける前に…（予想してみよう）

海辺はどんなようすだと思いますか？ごみはあると思いますか？

（よごれていると思った人は、）どんなふうによごれていると思いますか？どんなごみがあると思いますか？

４年生総合ワークシート②　# すみよい町　種市

月　　日（　）	４年　組　　番（　　）

① 海洋教室で分かったこと・感じたことや考えたことを書きましょう。

② 海浜清掃をして分かったこと・感じたことや考えたことを書きましょう。

4年生総合ワークシート　# すみよい町 種市

月　　日（　）　　4年　組　　番（　　）

★東日本大震災のことで知っていることはありますか。

★「洋野町東日本大震災の記憶」の DVD を見て思ったことや考えたことを書きましょう。
また、これから、どんなことを勉強してみたいですか。

これからどんなことを勉強したみたいですか？

４年生総合ワークシート　すみよい町　種市

月　　日（　　）

４年　組　番（　　）

★津波・地震について調べ活動したり、新聞にまとめたりして、分かったことや考えたことなどを書きましょう。

種市小５年海洋教育ひろの学

生活排水について考えよう

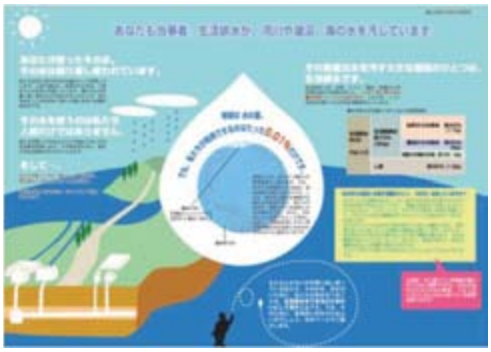
私たちが使える水は、
地球上でどれくらい？

①10%
②3%
③1%もない

答えは・・・

③1%もない

0.01%しか使えないんだよ。



日本で流されている排水は、どんなものが多い？

①生活排水
②工場排水

答えは・・・

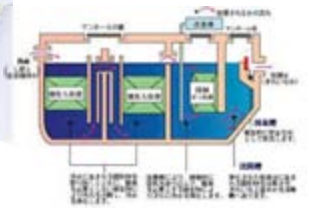
①生活排水

私たちがどんなことに水を多く使っている？

一人1日244Lの水を川に流す…？
そんなことをしたら種市の川・海はどうなる？

生活排水の処理のしかた
①下水処理場

①浄化槽（じょうかそう）



下水処理場・浄化槽があれば、大丈夫だよね・・・？
私たちにできることは…ない…？

海洋教育ひろの学　調べ学習

５年１組(　　)番(　　)

課題

☆生活排水をそのまま川に流してしまうとどのような影響が出るでしょうか？

予想	
調べたこと	

☆何気なく流しているものを魚が住めるくらいの水質にするには、それぐらいの水が必要？

【水の量の単位は、お風呂のバスタブで何はい分かで表しましょう。】

	予想	資料から読み取ったこと
シャンプー１回分(４．５mL)		
米のとぎ汁		
牛乳 200mL		
中濃ソース		
みそ汁１はい		
マヨネーズ		
天ぷら油		

☆汚れた水を流さないために私たちができること・やるべきこと

予想	
調べたこと	

学習して感じたこと

洋野町立角浜小学校

令和２年度　洋野町立角浜小学校　総合的な学習の時間　全体計画

【児童の実態】
○明るく素直な児童が多く，物事に対して真面目に取り組む
○地域を素材とした体験活動には興味をもって取り組む
○少人数のため，学年を超えてお互いをよく知る
●自分の思いを表現することを苦手としている
●自分で決定することや判断することを苦手としている

【○保護者　・地域の願い】
○思いやりのある人間関係をつくる
○基礎的・基本的な知識及び技能の定着
○思考力，判断力，表現力の育成
○健康で安全な生活
○豊かな人間性を身に付けている
・豊かな体験を通して，郷土を愛する心を持つ
・自分たちの地域や文化，歴史等に誇りをもつ
・地域と積極的に関わり，行事等にすすんで参加する

【本校の教育目標】
心豊かにたくましく生きる子どもの育成
徳：心豊かで思いやりのある子
知：進んで学び考える子
体：健康でたくましい子

【校訓】地域即学校　大人即教師
・地域との連携を保ちながら子ども達の人格形成に努める

【総合的な学習の時間の目標】
探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようにする。【知識及び技能】
(2)実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。【思考力，判断力，表現力等】
(3)探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を養う。【学びに向かう力，人間性等】

【地域の実態】
○三世代同居の割合が高い
○地域としてのつながりや連携性が高い
○学校教育に対する理解があり，協力的である
○地理的環境や指導者となる人材が豊富である

【地域との連携】
○地域住民及び関係機関の協力による体験活動の実施

【内容】＜目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力＞

学年				中学年（３・４年）	高学年（５・６年）
テーマ				≪地域学習：角浜再発見≫ 角浜調査隊　～角浜について知ろう～	ふるさと角浜　～角浜の未来について考えよう～
探究課題				地域の自然とそれに関わる人々 ～角浜の歴史と文化～	地域の産業と文化に携わる人々の思いや願い ～角浜の未来と自分たちの生活～
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能			・地域の自然の素晴らしさやそれを守る人々の工夫が分かる。 ・地域の環境の現状や環境を保全する人々の工夫や努力が分かる。	・地域の産業のよさと課題及びそれに携わる人々の願いが分かる。 ・角浜の海の多様性を基に，地域の未来像と自分たちの生活との関わりが分かる。
				・情報を比較・分類するなど，探究の過程に応じた技能を身に付けている。	・情報を比較，分類する・関連付けする，多面的・多角的にみるなど，探究の過程に応じた技能を身に付けている。
	思考力，判断力，表現力等	課題の設定		・自分の関心から地域の「自然」や「歴史・文化」についての課題を設定し，解決方法を考えて追究している。	・地域の人々の「思い」をふまえて課題を設定し，解決方法や手順を考え，見通しを持って追究している。
		情報の収集		・目的に応じた対象を決め，自分たちの身近なところから情報を集めている。	・目的に応じて手段を選択し，情報を収集したり，必要な情報を選んだりしている。
		整理・分析		・問題状況における事実や関係を，事象を比較したり分類したり，数量などで客観的に比較したりして，特徴を見付けている。	・視点を明確にして問題状況における事実や関係と，整理した情報を関連付けたり，多面的に考察したりして理解し，多様な情報の中にある特徴を見付けている。
		まとめ表現 振り返り		・相手に応じてわかりやすくまとめ，表現している。 ・学習したことをふり返り，生活に生かそうとしている。	・相手や目的，**意図**に応じ，工夫してまとめ，表現している。 ・学習の仕方をふり返り，学習や生活に生かそうとしている。
	学びに向かう力，人間性等	主体性 （自己理解）	社会参画	・課題の解決に向け，目的意識をもち，自分なりの良さを生かしながら意欲的に取り組む活動を通して，自分と地域とのつながりに気付き，地域の活動に参加しようとする。	・課題意識をもって，自分の良さや特徴を生かし，工夫しながら探究活動に取り組む活動を通して，自ら進んで地域社会に関わり，自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする。
		協働性 （他者理解）		・課題解決に向けて，自分と異なる意見や考えを受け入れながら，身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。	・課題解決に向けて，自分の異なる意見や考えを受け入れ尊重しながら，他者と協働して探究活動に取り組み，その大切さに気付いている。

【学習活動】
・地域の実態，児童の実態を踏まえ，探究課題を設定する。
・地域の自然や社会，人々の生き方を生かした学習活動を行う。
・学習成果を表現する場を設定する。
・地域学習を基にした「海洋教育」での取り組みを基本とする。

【指導方法】
・児童の課題意識を連続，発展させる支援と工夫を行う。
・個に応じた指導の工夫を行う。
・体験活動を重視する。
・各教科等との関連を重視した指導を行う。
・言語により整理，分析したり，まとめ，表現したりする学習を重視する。
・協働的な学習を充実させるため，思考ツールを積極的に活用する。

【指導体制】
・全校指導体制を組織する。
・校内の連絡調整と指導体制を確立する。
・メディアセンターとしての余裕教室及び学校図書館の整備・充実を図る。
・地域の教育資源をデータ化するとともに，日常的な関わりを行う。
・海洋教育パイオニアスクールプログラムの講師派遣等を利用し，専門的な知識を得る機会の充実を図る。
・地域人材の活用を行う。

【学習評価】
・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。
・観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。
・個人内評価，パフォーマンス評価を重視するため基準となる可視化された課題を設定する。
・指導と評価の一体化を充実する。
・期末，学年末には指導計画を評価・改善し，次年度の計画に生かす。

【各教科等との関連】

国語	社会	算数	理科	生活科	音楽
・自分の思いや考えが相手に伝わるように表現する力 ・相手が伝えたい事柄を正確に理解する力 ・言語についての知識や理解，技能　など	・社会的な事象に関心を持ち，進んで調べようとする態度 ・統計，資料，年表用を読み取り活用する力 ・観察や調査した事柄を関連付ける力　など	・数量や図形に興味を持ち，調べたり試したりしながら課題を解決していこうとする力 ・目的に応じて表やグラフを使って表現する力 ・筋道を立てて考える力など	・自然事象に関心を持ち，進んで調べようとする態度 ・科学的に筋道立てて考え，問題を解決する力 ・見通しを持って観察，実験をする力　など	・身近な人々，社会，自然と関わる力 ・自分自身や自分の生活について新たな気付きをする力 ・生活上必要な習慣や技能　など	・音楽によって養われる感性や情操 ・感じたことを歌や楽器で表現する力　など
家庭	**図画工作**	**体育**	**外国語活動・外国語**	**特別の教科　道徳**	**特別活動**
・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能 ・家庭生活をよりよくしようと工夫する力と実践的な態度　など	・表現や鑑賞の活動等で養われた感性や情操 ・つくりだす喜び ・形や色，材料などから発想する力 ・材料や用具を用いる力　など	・健康で安全な生活を営む実践力 ・たくましい心身　など	・異なる言語や文化を理解する力 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度　など	・課題解決に向けて主体的に活動するための道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度　など	・話合いの仕方 ・集団をよりよくしていこうとする意欲及び態度 ・自発的，自主的に活動を進める力　など

【地域・機関との連携】

種市高等学校　種市中学校　地域の行事，祭り等　角浜漁港
旧角浜小学校　町内小学校　角浜漁村センター　町内　図書館
⇔ 角浜小学校 ⇔
笹川平和財団 海洋政策研究所 海洋教育パイオニアスクールプログラム 事務局
洋野町役場　洋野町教育委員会

洋野町立角浜小学校　生活科（海洋教育）　第１・２学学年【複式】　年間指導計画（海洋１７時間／生活１０２[１０５]時間）

探究課題	地域の自然　～地域の様子～（海洋教育：ひろの学）
単元名	角海と仲良し　～角浜のすきなところを伝えよう～
ねらい	（１）探究的な学習の過程において，角浜地区について興味関心をもち，角浜地区にある自然や社会，人々と触れ合いから，大切な情報に気付くなど，探究の過程に応じた技能身に付け，探究的な学習のよさを理解することができる。 （２）角浜地区にある自然や社会，人々の生き方の中から自己の課題（問い）を見出し，その追究過程において，自分に必要な情報を収集選択し，自分の思いや考えを絵や文章でまとめ・表現することができる。 （３）探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で，地域の方々とふれあう楽しさや地域を見直し大切にしていこうとする気持ち高め，自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。

月		４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
角浜の自然		畑作業（６）【通年】			磯掃除（２）		海の絵を描こう（５）					
地域の伝統		駒踊り（５）					角小まつり（１０）					駒踊り（２）
学年	１年	学校大好き　きれいにさいてね　　夏だ遊ぼう　生き物となかよし　楽しい秋いっぱい　作ろう遊ぼう　自分でできるよ　　冬を楽しもう　もうすぐ２年生										
	２年	春だ今日から２年生　大きくなあれわたしの野菜　どきどきわくわく町探検 生き物なかよし大作戦　うごくうごくわたしのおもちゃ　　みんなでつかう町の施設　もっとなかよしまちたんけん 伝わる広がるわたしの生活　あしたへジャンプ										
海洋教育		課題を決めよう				課題を解決しよう			課題を解決しよう			
		海と仲良し（１７） 磯遊び（４）①　　磯遊び（４）②				「久慈の自然と比べよう（もぐらんぴあ・八戸線の旅）」 「種差海岸を歩こう」　≪各年≫						

計画	学習活動（１学期）	学習活動（２学期）	学習活動（３学期）
	◎オリエンテーション（１） 【体験活動】【情報の収集】（６）：磯遊び ・海の生き物と触れ合う　・植物を観察する 【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り】（４） ・絵や文章でまとめる	【体験活動】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】（６） ※1 学期以降の ものは毎年度初めに 調整をはかる。	【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り】（５）

A：知識及び技能
B：思考力，判断力，表現力等
　①課題の設定　②情報の収集　③整理・分析　④まとめ・表現　⑤振り返り
C：学びに向かう力，人間性等　　①主体性　②協働　③社会参画

≪育成を目指す資質・能力　評価≫
※評価については，生活科の評価にあてることとする。

教２３

洋野町立角浜小学校　総合的な学習の時間（海洋教育）　第３・４学学年【複式】　年間指導計画（海洋３０時間／７０時間）

探究課題	地域の自然とそれを関わる人々　～地域の歴史と文化～（海洋教育：ひろの学）
単元名	角浜調査隊　～角浜について知ろう～（３０時間）
ねらい	（1）探究的な学習の過程において，自己の課題の解決に必要な角浜地区にある自然や社会，人々の工夫や努力を理解しながら，情報を比較・分類するなど，探究の過程に応じた技能身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解することができる。 （2）角浜地区にある自然や社会，人々の生き方の中から自己の課題（問い）を見出し，その追求過程において，自分に必要な情報を収集選択し，集めた情報の事実や関係を，事象を比較したり分類したり，数量などで客観的に比較したりして問題状況における特徴を見付け，まとめ・表現することができる。 （3）探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で，地域の方々とふれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め，角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら，自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。

月	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
角浜の自然	畑作業（１０）【通年】		田植え（２）	磯掃除（２）		稲刈り（２）					
地域の伝統	駒踊り（５）					角小まつり（５） 駒踊り（３）			駒踊り（２）		
海洋教育	課題を決めよう				課題を解決しよう				課題を解決しよう		
	角浜調査隊（３０） 浜っ子マップの作成				「久慈の自然と比べよう（もぐらんぴあ・八戸線の旅）」 「種差海岸を歩こう」				≪各年≫		

計画	学習活動（１学期）	学習活動（２学期）	学習活動（３学期）
	◎オリエンテーション（１） 【体験活動】（４） ・磯そうじを通して角浜の海の保全について考える。 ・角浜の海辺を歩き，植物，避難所，見える景色を観察・見学する 【情報の収集】（４） ・見学　・インタビュー ・文献等を調べる 【整理・分析】（４） ・「浜っ子マップ」を作成する 【振り返り】（１） ・体験，調査を通して，考えたこと感じたことをまとめる 【課題の設定】（１） ・「浜っ子マップ」の作成や磯掃除をして，疑問に思ったことや調べてみたいことを考え，課題を決定する	【体験活動】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】（１０） ※1 学期以降のものは毎年度初めに調整をはかる。	【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り】（５）

A：知識及び技能
B：思考力，判断力，表現力等
　①課題の設定　②情報の収集　③整理・分析　④まとめ・表現　⑤振り返り
C：学びに向かう力，人間性等　　①主体性　②協働　③社会参画

≪育成を目指す資質・能力　評価≫

角浜のうみを題材として多様性，相互性，有限性に気付く。	(A)
体験活動から追究していく課題を見出す	(B①)
自分の関心から課題を設定し，解決方法を考える	
指導者の支援を受けて，手段を選択し，自分の身近な所から情報を収集する	(B②)
目的に応じて情報を分類したり整理したりして考える	(B③)
事象を比較したり分類したりして，多様な情報の中にある特徴を見出す	
相手に応じて，分かりやすくまとめ，表現する	(B④)
学習の仕方を振り返り，今後の学習活動の見通しを持つ	(B⑤)
課題の解決に向けて，探究活動に取り組もうとしている	(C①)
異なる意見や他者の考えを受け入れ協力する	(C③)
積極的に地域の活動に参画しようとする	(C⑤)

洋野町立角浜小学校　総合的な学習の時間（海洋教育）　第５・６学学年【複式】　年間指導計画（海洋３０時間／７０時間）

探究課題	地域の産業と文化に携わる人々の思いや願い　～地域の未来と自分たちの生活～（海洋教育：ひろの学）
単元名	角ふるさと角浜　～角浜の未来について考えよう～（７０時間）
ねらい	（１）角浜の産業の良さや課題，地域の願い，自分たちの生活との関わりを理解しながら，情報を比較，分類する・関連付けする，多面的・多角的にみるなど，探究の過程に応じた技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようことができる。 （２）角浜地区の人々の「思い」をふまえて自己の課題（問い）を見出し，見通しを持った追求過程において，目的に応じて手段や情報を収集選択し，集めた情報の視点を明確にして整理し，問題状況と事実を関連付けたり，多面的に考察したりして情報の中にある特徴を見付け，相手や目的，意図に応じ，まとめ・表現することができる。 （３）探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で，地域の方々とふれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め，角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら，自ら進んで地域社会に関わり，自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする態度を育てる。

月	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
角浜の自然	畑作業（５）【通年】		田植え（２）	磯掃除（２）		稲刈り（２・脱穀（１））					
地域の伝統	駒踊り（５）					角小まつり（５）	駒踊り（３）		駒踊り（２）		
学年	修学旅行（５・６年生…１０）			ヒーローの旅（５・６年生…１０）		≪各年≫					
海洋教育	課題を決めよう				課題を解決しよう				課題を解決しよう		
	ふるさと角浜（３０） 種市高校南部潜り学習										

計画	学習活動（１学期）	学習活動（２学期）	学習活動（３学期）
	◎オリエンテーション（１） 【体験活動】（５） ・種市高校へ行き、南部潜りについて見学をする。 ・南部潜りの仕事について考える。 ・種市高校での学習について理解を深める 【情報の収集】（２） ・見学　・インタビュー　・文献等を調べる 【整理・分析】（４） ・学んだことを整理する 【振り返り】（１） ・体験，調査を通して，考えたこと感じたことをまとめる 【課題の設定】（２） ・種市高校への見学や磯掃除をして、疑問に思ったことや調べてみたいことを考え、課題を決定する	【体験活動】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】（１５） ※1 学期以降のものは毎年度初め調整をはかる。	【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り】（５）

A：知識及び技能
B：思考力，判断力，表現力等
　①課題の設定　②情報の収集　③整理・分析　④まとめ・表現　⑤振り返り
C：学びに向かう力，人間性等　　①主体性　②協働　③社会参画

≪育成を目指す資質・能力　評価≫	
角浜のうみを題材として多様性，相互性，有限性に気付く	(A)
体験活動から追究していく課題を見出す	(B①)
地域の人々の「思い」や自分の関心から課題を設定し，解決方法を考える	
指導者の支援を受けて，手段を選択し，適切に情報を収集する	(B②)
目的に応じて情報を分類したり整理したりして考える	(B③)
関係付けたり，多面的に考察したりして，多様な情報の中にある特徴を見出す	
相手や目的，意図に応じて，分かりやすくまとめ，表現する	(B④)
学習の仕方を振り返り，今後の学習活動の見通しを持つ	(B⑤)
課題の解決に向けて，探究活動に取り組もうとしている	(C①)
異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する	(C③)
積極的に地域の活動に参画し，貢献しようとする	(C⑤)

教２５

令和2年度　洋野町立角浜小学校
ふるさと角浜～海洋学習の実践～

≪角浜小学校の海洋学習≫

本校は、岩手県の最北端に位置し、学区は久慈平岳の支脈、階上岳が徐々に東方に傾斜したなだらかな丘陵が広がる太平洋に面した中にある。学区にある角浜漁港では、天然のワカメやコンブをエサにして育つウニ、アワビが豊富であり、地域の主たる産業となっている。この豊かな海を素材の中心とした体験的な活動や探究的な活動を通して、角浜地区にある自然や社会、人々の工夫や努力、願いへと徐々に視野を広げ、「ふるさと角浜」を誇りに思う気持ちを育てたい。また、課題解決にあたって地域の良さである先人の知恵と志の高さ、産業と自然、社会との関わりを多面的・総合的に考え、学んだことを主体的に表現する子どもを育てることを目指す。

≪令和２年度　角浜小学校の海洋学習内容≫

学年	内　　容
全校取組	**(1)地域産業への理解や環境教育の推進を図る。** **(2)自然への関心を高める。** **(3)地域環境美化の意識を高める。** ・漁港見学～ウニのからむき体験 ・磯掃除 ・海洋学習発表会（校内）
１・２年	**海とふれ合いながら楽しむ・親しむ** 生活科　「海となかよし」～角浜のよさをつたえよう～ ・海の生き物と触れ合おう。 ・海まで歩いてみよう。
３・４年	**海を素材に地域環境や地域社会と意識的に関わる** 総合的な学習の時間　「角浜調査隊」～角浜について知ろう～ ・学級で考えた課題解決学習
５・６年	**海を素材に地域社会に関わり、地域の願いや社会の問題に向き合う** 総合的な学習の時間　ふるさと角浜　～角浜の未来について考えよう～ ・乗船体験 ・グループごとの課題解決学習 ・第６回海洋サミット in 気仙沼に向けて

1年生テーマ

「海となかよし　～角浜のよさをつたえよう～」

◆内容◆

（１）地域を知るための体験

①磯遊び

７月に全校で磯遊びを行った。網や手を使って、カニやツブ、ヒトデなどの生き物を捕まえ、地域の海に親しむことができた。捕まえた生き物は学校に持ち帰り、観察した。

②磯掃除

地域の海に落ちているごみを拾った。空き缶やペットボトルなどの細かいゴミから、タイヤなどの大きなゴミまで、たくさんのゴミが落ちていることが分かり地域の海をきれいに保ちたいと意欲をもった。

（２）表現活動

①観察カード

磯掃除や磯遊びの後、体験したことや観察して気付いたことなどを観察カードに表した。生き物の特徴など気づいたことを発表し、絵に描いてカードにまとめた。

②図工「あったらいいな、こんなこと」

海の様子を想像したり、思い出したりしながら、絵で表現する学習をした。絵を描く際には、自分が思ったことや感じたことを、自分の表情や動きで表現できるようにした。

③国語「ことばをあつめよう」うみ川柳

地域の風景や、海の様子を思い出しながら、言葉集めに取り組んだ。集めた言葉からいくつか選んで、川柳を作った。

・うみうしは　ドレスをきている　おひめさま
・かどのはま　うみのかもめは　グルメだな
・あさ日がね　うみからひょっこり　かおを出す
・かどのはま　うにのようふく　ちくちくだ

◆成果◆

・地域の海に関わる活動を通して、地域の良さを感じ、愛着をもつことができた。
・実際に生き物を見たり触ったりすることで、海を身近に感じることができた。
・気づいたことや、感じたことを言葉や絵で表現する力が付いた。

2年生テーマ

「海となかよし　～角浜のよさをつたえよう～」

◆内容◆

（１）地域を知るための体験

①海の生き物探し

７月に全校で磯遊びを行った。網で魚やカニ、ヤドカリを捕まえ、地域の海に親しむことができた。

久慈振興局の方から、「角浜にいる生き物」のカードをいただいたので、学校に生き物を持ち帰り、カードと比べながら観察した。

②町探検

年間を通して地域の様々な施設・場所へ見学を行った。海や地域の人と数多くふれ合い、地域の様子を詳しく知ることができた。

◇梨忠商店見学

わかめ製品の加工販売を行う施設を見学した。わかめの芯を取ったり、商品の袋詰めをしたりする体験を通して、海のめぐみの豊かさを感じることができた。

◇地区探検「歩いて角浜漁港へ」

１１月に学校から徒歩で漁港へ行く活動を行い、岩場で貝殻やウニの殻、流木などを拾った。夏に見る海の雰囲気との違いや浜風のにおいを味わいながら、海を感じることができた。

（２）表現活動

①感想＆観察カード

・観察して気付いたことを作文や絵にして紹介し合う活動を行った。

②図工「すきなものいっぱい」「たのしかったよドキドキしたよ」

・海の様子を思い出したり想像したりして、「海となかよし」の絵を描いた。

・漁港で拾ってきたウニの殻でペーパーウェイト等を作成した。

③生活科「つたえたいなまちのすてきなできごと」

・１年間で学んだ角浜のことを模造紙にまとめ、学習の振り返りをした。

◆成果◆

・海に関わる体験を通して、角浜地域の良さを感じ、地域への愛着を持つことができた。

・「表」や「項目ごとにまとめる」といった国語や生活科で学習したことを生かし、紹介することで表現する力が高まった。

・ウニの殻や貝殻、流木のよさを生かした作品を作ることで、自然への関心が高まった。

３・４年生テーマ

「角浜調査隊　～角浜について知ろう～」

◆内容◆

（１）課題を決めるための体験

ウニの殻むき体験・磯掃除

角浜特産であるウニを守るために、ツブ貝＝クボ貝を駆除するという磯掃除の目的を確認した上で、厄介者扱いされているクボ貝も、食べてみると美味しいということから次の活動へつなげた。また、磯掃除と殻むき体験時に、角浜にいる生き物を観察し、地域に生息する海洋生物に関心をもたせた。

（２）課題探究活動

①角浜レストラン

ウニを守るために駆除され、厄介者と言われるクボ貝も、角浜に生息する大切な生き物であることを改めて考えた。駆除した貝を廃棄するのではなく、命をいただくならおいしくいただきたいという考えから角浜でとれるもの（ウニやアワビ、シイタケ等）と合わせたメニューを考案した。グループごとにプレゼンを行い、工夫をこらしたメニューを発表した。

②角浜生き物図鑑

磯掃除の時に見つけた角浜にいる生き物を観察し、生態などの特徴を調べ、図鑑にまとめた。

③「角浜エモーション」

洋野町を走るレストラン列車に対して、震災復興を願う、エモーション活動を行っている人達がいることを知った。列車のお客さんに角浜のことを知ってもらい、来てくれた感謝の気持ちを伝えるにはどうすればよいか考えた。そこで、大きな旗にメッセージと生き物図鑑で紹介した角浜の生き物を描き、アピールすることにした。

以前から活動をしている地域の方、八戸駅の方の力を借り、レストラン列車のお客さんに笑顔で手をふり、エモーション“感動”を感じることができた。

◆成果◆

・今年度は、学級全体で課題を見つけ、解決方法を全員で探る方法で探求活動を行った。新たに海洋学習に取り組む３年生も、４年生と一緒に意欲的に活動することができた。

・課題探求活動が単発にならず、必然性をもたせるよう配慮した。それにより、児童の興味関心が持続するような学習を進めることができた。

・角浜の地域に関わる生き物の学習や復興学習も絡めることにより、地域への思いをより深めることができた。

５・６年生テーマ

「ふるさと角浜　～角浜の未来について考えよう～」

◆内容◆

（１）課題を決めるための体験

ウニの殻むき見学・宿戸の増殖溝・磯掃除・乗船体験

角浜の海で採れるウニの殻むき作業を見学することで、収穫から出荷の様子・海で働く人々の苦労や様子を知ることができた。宿戸の増殖溝を見学して、角浜と宿戸の違いを捉えることができた。また、磯掃除をして海岸のごみの量を知ることで、環境問題に関心をもつことができた。

（２）課題探究活動

①増殖溝について

角浜や宿戸の増殖溝について見学し、増殖溝の構造やウニの出荷量についてまとめ、今後の洋野町の漁業について考えた。

②魚の乱獲について

SDGs の学習から、魚の乱獲の問題に興味を持ち、角浜の漁獲量と日本の漁獲量を調べ、豊かな海を守るためにできることを考えた。

③海洋ごみについて

海洋ごみの発生原因や、海洋ごみがもたらす問題、プラスチックゴミについて調べた。調べていく中で、予想以上に海洋ごみの問題が深刻であること、自分たちの生活に大きく関わっていることが分かった。

④海洋子どもサミット参加

今年度はオンライン開催であったため全員が参加することができた。事前に他校の発表内容の確認をしたり、自分の課題と関連付けて考えたりすることができた。

◆成果◆

・１学期に海に関する様々な体験活動や学習を行うことで課題を明確にもつことができた。

・角浜の海に関する課題をもち探究活動を続けていくうちに、角浜の海を守ることは世界の海を守ることにつながるという考えを、どの課題からももつことができた。海はつながっているという考えをもつことで、自分たちの生活を変えようと意識することができた。

・海洋子どもサミットに全員が参加することで、海に関する共通の学びができた。また他校の実践を聞くことで、自校の活動と比較したり新しいアイディアを得たりすることができた。

◆今後の課題◆

（１）実際に海に出ての体験活動が多くなるため、実施が潮位や波浪状況等の自然条件や季節との関係で、実施時期が限定される活動が多い。そのため、子どもたちの安全確保を第一としながら、活動の延期を視野に入れ２日程度の予備日設定や日程変更ができない場合の代わりの活動の計画も含めた見通しをもった計画づくりをする。

（２）海洋学習「ひろの学」の教科化に向け、角浜地区や洋野町の歴史や産業・文化に、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」という、海洋教育の４つの観点で学習を展開する。

（３）ポートフォリオ等による学習成果を蓄積した上で、学習の各段階で随時ふりかえりと評価をすることにより、新たな課題につなげ、指導と評価の一体化を図る。

２年　滝口　祐大
「さかなといっしょにおよいでる」
(第３７回　岩手県海の子絵画展　優秀賞
全国漁業信用基金協会岩手支所担当理事賞)

１年　八森　穂希
「カニとかくれんぼ」
(第７３回　岩手芸術祭小・中学校美術展
優秀賞

５年　古瀬　晴貴
「海と灯台」
(第７３回　岩手芸術祭
小・中学校美術展入選
巡回作品)

５年　佐藤　潤奈
「海から見た船」
(第３７回　岩手県
海の子絵画展　入選)

４年　久保田　蒼士
「帰ってきたぞ、大漁だ」
(第３７回　岩手県
海の子絵画展　入選)

１・２年生　生活科　校外学習　実施計画

第２学年担任

１．目的　（１）磯のゴミ拾いをすることで、環境教育の推進を図る。
（２）海の生き物を観察させ、自然への関心を高める。
（３）郷土角浜や洋野への愛着を高め、海洋教育への理解を深める。

２．単元名　生活科　「生きものと　なかよし」

３．期日　令和２年７月２０日（月）　【生活科　３時間】　※雨天時：中止

４．場所　角浜漁港【北側を予定】

５．実施学年　角浜小学校　１・２年生　１２名

６．参加児童　１年生　男子３名　女子７名　計　９名
２年生　男子１名　女子２名　計　３名
合　計　男子４名　女子９名　計１２名　（参加率１００％）

７．引率者　教諭　村上　崇人　（児童指導　安全指導　渉外）
教諭　加藤　あゆみ（児童指導　安全指導）
養護教諭　富山　めぐみ（救護）
副校長　安保　学　（安全指導・緊急車両・物品搬出入）

８．日程

時間	内容
９：２５	玄関前に整列
９：３０～　９：３５	バスで移動　角浜漁港着
９：３５～　９：５０	準備・説明・移動
９：５０～１０：５０	磯遊び（１時間）【干潮 9:14(-74cm)】
１０：５０～１１：００	休憩
１１：００～１１：３０	ゴミ拾い　磯そうじの場所で行う
１１：３０～１１：４０	片付け　移動
１１：４０～１１：４５	バスで移動　学校着
１１：５０	解散

９．持ち物　・リュックサック　・バケツ　・手袋　・赤白帽子（１年黄色帽子）
・替えの服や靴　・水筒（水かお茶）　・雨具（カッパ）　・タオル
・ビニル袋１枚（濡れたものを入れる用）　・マスク

10．服装　角浜小運動着（長袖長ズボン半そで半ズボン）

11．安全指導等　・事前に、活動のねらい、マナーについて指導をする。
・角浜漁港へ許可を取る。
【種市漁港角浜生産部　大村文雄さん（携帯：０９０-４３１４-９８２２)】

・安全に関する指導を十分に行う。(海岸での歩き方など)
・保健衛生面の指導を行う。(トイレの利用方法など)
・緊急時の対応：学校へ連絡・指示を仰ぐ。(角小電話：０１９４-６５-４６２２)
・津波警報が出た場合：最短距離で角浜小学校まで全児童で非難する。
・ケガがあった場合　：緊急車両で最寄りの病院へ運ぶ。

12．利用バス　町スクールバス

第３・４学年　総合的な学習の時間　校外学習　実施計画

第３・４学年担任

１．目的　　（１）角浜の海洋生物を地域の自慢として誇りをもち、他者へ伝えようとする態度を育てる。
（２）レストラン列車へのエモーション活動を行い、復興学習への理解を深める。
（３）集団行動、公衆道徳、安全教育などについて、望ましい態度の育成を図る。

２．単元名　　総合的な学習の時間「角浜探検隊　～エモーション活動をしよう」

３．期日　　令和２年１１月２７日（金）【総合　１時間】　※小雨実施

４．場所　　角浜駅　下苧坪邸近辺

５．実施学年　　角浜小学校　３・４年生　８名

６．参加児童　　３年生　男子１名　女子２名　計３名
４年生　男子４名　女子１名　計５名
合　計　男子５名　女子３名　計８名　　（参加率１００％）

７．引率者　　教諭　　貴田　靖子　　（児童指導　安全指導　渉外）
太田　淳　　（児童指導　安全指導）

８．日程

時間		内容
11:25		玄関前に整列
11:30	～11:40	バスで移動　角浜駅着
11:40	～11:50	準備・説明・移動
11:50	～12:00	エモーション活動
12:00	～12:05	移動
12:05	～12:15	バスで移動　学校着

９．持ち物　　ハンカチ・ちり紙・雨具・事前に作成したエモーションの旗

10．服装　　赤白帽子　　履き慣れたズック

11．安全指導等　・安全に関する指導（歩き方、活動場所での動き、バスの乗り方など）を十分に行う。
・経路・場所の確認を行う。
・事前に、体験活動の意義について指導をする。
・緊急時の対応：学校へ連絡・指示を仰ぐ。（角浜小学校　０１９４－６５－４６２２）
※エモーション活動をしている十文字君枝さんが八戸のＪＲ担当者に連絡をしてくれる。
（ゆっくり走ってくれる予定）

12．利用バス　　町スクールバス

５・６年校外学習実施計画

第５・６学年　担任

１．目的　　（１）増殖溝の見学を通して種市の特色を活かした町作りについて知る。
（２）働いている人々の苦労や願いを知ることで、自分たちの生活を見直し、地域のよさをつかむ。

２．単元名　　総合的な学習の時間「海洋学習　～増殖溝見学学習～」

３．期日　　令和２年６月２２日(月)　　【総合的な学習の時間　２時間】

４．場所　　宿戸地区増殖溝

５．実施学年　　角浜小学校　５・６年生　９名

６．参加児童　　５年生　男子２名　女子３名　計５名
６年生　男子３名　女子１名　計４名
合　計　男子５名　女子４名　計９名　（参加率１００％）

７．引率者　　教諭　　山口　有希子（児童指導　安全指導　渉外）
特別支援員　福田　まゆみ（安全指導）

８．日程

時間	内容
8:25	玄関前に整列
8:30　～9:00	バスで移動　宿戸地区増殖溝着
9:00　～10:00	移動、増殖溝見学
10:00　～10:30	バスで移動　学校着

９．持ち物　　筆記用具・生活科バッグ（クリップボード）

10．服装　　赤白帽子・履き慣れたズック

11．安全指導等　・事前に、活動のねらい、マナーについて指導をする。
・見学場所へ許可を取る(種市南漁業協同組合事務所 0194-75-3611)
・安全に関する指導（歩き方、バスの乗り方など）を十分に行う。
・経路・避難場所の確認を行う。
・事前の健康観察を行う。
・緊急時の対応：学校へ連絡・指示を仰ぐ。(角浜小学校　0194-65-4622)

12．利用バス　　町スクールバス

洋野町立宿戸小学校

総合的な学習の時間の全体計画　　洋野町立宿戸小学校

学校教育目標
心やさしい子ども（徳）
自ら学ぶ子ども（知）
たくましい子ども（体）
児童の実態
○基本的生活習慣は身についている
○地域の人たちに見守られている
●人前で話すことが苦手
●人間関係が限られている

本校の総合的な学習の時間の目標「主体性とコミュニケーション能力」
探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。
(1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
(2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調べて得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
(3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。

【内容】＜探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力＞

学年			3年	4年	5年	6年
テーマ			ふるさと（宿戸、洋野、岩手）から学び発信する宿小っ子　～宿戸うみプロジェクトを軸に～			
学年の探究課題			宿戸をPRしよう （地域の人、食、文化）	より暮らしやすい宿戸へ （地域の福祉、くらし）	宿戸の自然・歴史 （地域・郷土の歴史と自然）	岩手の偉人、生き方 （地域・郷土の先人の生き方、未来）
学習活動 Ⅰ　生きる Ⅱ　かかわる Ⅲ　そなえる			**Ⅰ宿戸自慢（２０）** （海探検、しいたけ、上岡谷神社、祭り、ソーラン） **洋野自慢（１５）** （大野、海浜公園） **Ⅱ 名人探し隊（２０）** （ウニ取り、シイタケ栽培、料理、その他　） **Ⅲ 学校の周りの安全（１５）** （フィールドワークをし、マップを作る）	**Ⅰ命の輝き（1／2 成人式をしよう）（１５）** （命の誕生、医療関係者の講話、津波、乗り越えた知恵） **Ⅱ みんなで生きる（２０）** （キャップハンディ体験、点字学習、認知症講座、） **森と海のつながり（１５）** **Ⅲ 防災マップをつくろう（２０）** （消防署・警察署の見学、地域の人からの情報収集、防潮堤見学など）	**Ⅰ宿戸の自然、歴史、先人の知恵から学ぶ（３０）** （水産学習、増殖溝、植樹、米作り等から生き方・考え方について学ぶ、夢先生） **Ⅱ 宿戸・洋野PR大作戦（２０）** （宿戸・洋野の良さ、誇りについてまとめ・発信する） **Ⅲ様々な災害と災害時の行動（２０）** （地震、津波、洪水、心肺蘇生法自然の中での暮らし）	**Ⅰ夢を持って生きる（２０）** (海の仕事に携わる人々、地域の人、周りの人の生き方を学び夢を持つ) **Ⅱ被災地の人と心をつなごう（２０）** （修学旅行での被災地学習、ふるさと発信） **海は世界とつながっている(20)** 海洋ごみ、気候、環境 **Ⅲ 安全な暮らし（１０）** （携帯・スマホ安全、情報とのかかわり、心肺蘇生法、薬物乱用防止教室）
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能		地域の特産物、くらし、伝統文化に関わることを通して、地域のよさやそれを守る人々の工夫が分かる。	地域の福祉やくらしについて調べることを通して、地域に生活する人々の思いが分かる。	歴史や自然を調べることを通して、地域のすばらしさが分かり、人々の思いが分かる。	地域の人の仕事や生き方を学ぶことを通して、地域の人の生き方や考え方が分かる。
			情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。		情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	
	思考力、判断力、表現力等	課題の設定	自分の関心から地域についての課題を設定し、解決方法を考えて追究している。		地域の人々等の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しを持って追究している。	
		情報の収集	目的に応じた対象を決め、自分たちの身近なところから情報を集めている。		目的に応じて手段を選択し、情報を収集したり、必要な情報を選んだりしている。	
		整理・分析	問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、特徴を見付けている。		視点を明確にして問題状況における事実や関係と、整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。	
		まとめ表現	**相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。自信をもって発表する。**		**相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、表現している。適切に応答する。**	
		振り返り	学習したことをふり返り、生活に生かそうとしている。		学習の仕方をふり返り、学習や生活に生かそうとしている。	
	学びに向かう力、人間性等	**主体性**	**課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。**		**課題意識をもって、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。**	
		協働性	**課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。**		**課題解決に向けて、他者と協働して探究活動に取り組み、その大切さに気付いている。**	
		自己理解	**自分のよさや自分にできることに気付いている。**		**探究活動を通して、自分の生き方・考え方を見直し、これからの生活に生かそうとしている。**	
		他者理解	**自分と異なる意見や考えがあることに気付き、相手の立場を理解する。**		**異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しながら、探究活動に取り組んでいる。**	
		社会参画	**自分と地域とのつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。**		**探究活動を通して、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする。**	

【学習活動】
・地域の実態、児童の実態を踏まえ、探究課題を設定する。
・地域の自然や社会、人々の生き方を生かした学習活動を行う。
・学習成果を表現する場を設定する。
・海洋教育での取組を基本とする。

【指導方法】
・児童の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。
・個に応じた指導の工夫を行う。
・体験活動を重視する。
・各教科等との関連を重視した指導を行う。
・言語により整理分析したり、まとめ表現したりする学習を重視する。
・協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。

【指導体制】
・全校指導体制を組織する。
・運営委員会における校内の連絡調整と指導体制を確立する。
・ワークショップ研修を重視する。
・メディアセンターとしての余裕教室及び学校図書館の整備・充実を図る。
・地域の教育資源をデータ化するとともに、日常的な関わりを行う。
・地域人材の活用を行う。

【学習評価】
・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。
・観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。
・個人内評価を重視する。
・指導と評価の一体化を充実する。
・授業分析による学習指導の評価を重視する。
・期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。

【各教科等との関連】

国語	社会	算数	理科	生活科	音楽
・自分の思いや考えが相手に伝わるように表現する力 ・相手が伝えたい事柄を正確に理解する力 ・言語についての知識や理解、技能　など	・社会的な事象に関心を持ち進んで調べようとする態度 ・統計、資料、年表用を読み取り活用する力 ・観察や調査した事柄を関連付ける力　など	・数量や図形に興味を持ち、調べたり試したりしながら課題を解決していこうとする力 ・目的に応じて表やグラフを使って表現する力 ・筋道を立てて考える力　など	・自然事象に関心を持ち、進んで調べようとする態度 ・科学的に筋道立てて考え、問題を解決する力 ・見通しを持って観察、実験をする力　など	・身近な人々、社会、自然と関わる力 ・自分自身や自分の生活について新たな気付きをする力 ・生活上必要な習慣や技能　など	・音楽によって養われる感性や情操 ・感じたことを歌や楽器で表現する力　など
家庭	**図画工作**	**体育**	**外国語活動・外国語**	**特別の教科　道徳**	**特別活動**
・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能 ・家庭生活をよりよくしようと工夫する力と実践的な態度　など	・表現や鑑賞の活動や等で養われた感性や情操 ・つくりだす喜び ・形や色、材料などから発想する力 ・材料や用具を用いる力　など	・健康で安全な生活を営む実践力 ・たくましい心身　など	・異なる言語や文化を理解する力 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度　など	・課題解決に向けて主体的に活動するための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度　など	・話合いの仕方 ・集団をよりよく指定校とする意欲及び態度 ・自発的、自主的に活動を進める力　など

【地域・外部との連携】

保護者や祖父母　町内小学校　地域の行事、祭り　県機関
宿戸中・種市高校　図書館等　宿戸漁村センター・JF

笹川平和財団　海洋政策研究所
海洋教育パイオニアスクールプログラム事務局

洋野町役場
洋野町教委

令和2年度　宿戸小　海プロジェクト　ストーリーマップ　（30時間）　2020．6

種市中
3年　販売・PR　自己実現を目指す
2年　荒巻鮭造り、鮭とばづくり、ウニ染め販売、PR　洋野町の未来の姿を考える
1年　ウニとり、塩ウニづくり、内間木洞見学　小学校の学習をもとに地域を考える

		テーマ	視点	1学期	2学期	3学期
				「洋野の海は世界とつながっている　～海・地球・環境～」		
6年	地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする	環境問題と未来 ・環境問題の実態 ・海と共に生きる	知守利	ウニが危ない！海が危ない！ ・水の循環と海洋（東北大学） ・生活排水と海の環境（川崎光博さん） ・海との共生 ・海流の働き、影響 ・地球温暖化、ＥＤＧＳ ・海と気象防災（盛岡地方気象台） ・海洋ごみ（マイクロプラスチック）	まとめ、発信 「海洋サミット」「カンファレンス」 修学旅行 東北大学理学部地球物理学教室での学習 被災地、松島、閖上地区・・・修学旅行 夢をもって生きる（南部ダイバー）	
5年		水産業と環境 ・洋野の海洋環境 ・海産物と水産業	知利	「洋野のウニ、海の秘密とは？」 水産教室（吹切　守さん） ・ウニのむき方 ・増殖溝（種市南漁協） ・ウニのひみつ ・ウニの年齢（川崎さん） 洋野の漁業（栽培漁業センター） 水産業・漁師の仕事 プランクトン、海流	まとめ、発信 移動教室（県北青少年の家）	
4年	海のすばらしさと、暮らしとの関わりに気づく	水の循環と環境 ・防災・安全・歴史 ・森と海の環境	知守	「安心して海と暮らそう」 津波をのりこえた知恵 （宇部義治さん） ・防潮堤見学 ・慰霊塔、避難路 ・津波について ・防災マップ作り	まとめ、発信 津波学習（種市高校） ・森と海のつながり（植樹） キャップハンディ体験（社会福祉協議会、玉澤さん） 3，4年 遠足…種市海浜公園	
3年		宿戸の自慢 ・地域の特産物 海洋生物と環境	親知	「宿戸探検　自慢事典をつくろう！」 ウニ取りの様子 ・ウニ漁見学 ・荷捌き場見学 （種市南漁協） 宿戸探検隊 ・アワビ、シイタケ、神社など ・地域の名人探し ・インタビュー	学校の周りマップ作り まとめ、発信 ・大野の自慢は？牛乳、木工、星空・・・	
2年	海のすばらしさに気づく	海に出よう ・海の生き物 ・船で種ウニ放流	親知守	「宿戸のすてきみつけ！～海の生き物図鑑を作ろう～」 種ウニ放流（吹切　守さん） ・船に乗って、沖で放流 ・海の生き物図鑑づくり	まとめ、発表 1．2年遠足…八木漁港付近	
1年		楽しい海 ・磯遊び ・水槽の世話	親知	「うみであそぼう」 磯遊び ・海の生き物を見つけて、遊ぶ （種市南漁協　吹切安蔵さん）	絵で表現・発表	

ウニの森植樹祭
5 3 0 ゴミゼロ運動・海岸清掃
水槽の生き物に餌やりの世話を行う・生き物の観察をする

宿小音頭
ソーラン（小子内・宿戸）

四季の海　発表　引継ぎ
宿小マーチ

宿戸うみプロジェクト　第１学年　ストーリーマップ　　洋野町立宿戸小学校

【テーマ】海に親しむ　・海の生き物　・海での遊び

【目　標】海で遊ぶことを通して、海のすばらしさに気づくことができる。

	生活科（うみプロジェクト）の活動の流れ	関連
4月	○がっこうだいすき（20） ・学校生活を支えている人々や友達 ・安心安全で楽しい遊びや生活、登下校	○国語「ひととつながることば」 挨拶・返事 ○国語「こえをとどけよう」 声のものさし
5月	○きれいにさいてね（8） ・植物の種まき、世話、観察、種をとる	○国語「みんなにはなそう」　クイズ ○ゴミゼロ運動
6月	○なつがやってきた（8） ・校庭で草花や虫探し ・（みんなの公園で遊ぶ）	○国語「きいてつたえよう」 ○国語「こんなことしたよ」 ○徒歩遠足：八木漁港
7～8月	・水で遊ぶ ・楽しかったことを伝える	○地域事業　海辺の生き物探検 ○国語「えにっきをかこう」　絵日記
9月	○いきものとなかよし（6） ・虫さがし、観察、世話 ・おおのキャンパス遠足 （動物ふれあい館）	○図工「うみのえをかこう」（海の子絵画展） ○国語「かいがら」 ○国語「はなしたいな　ききたいな」
10月	○たのしいあきいっぱい（21） ・秋探し ・葉っぱや実で遊ぶ	スピーチ、感想・質問 ○国語「なにに見えるかな」 ○国語「はっけんしたよ」　発見メモ
11月	・秋のことを伝える ・おもちゃ作り ・一緒に遊ぶ	○国語「いろいろなふね」 ○国語「すきなきょうかはなあに」　わけ
12月	○じぶんでできるよ（12） ・自分の一日を見つめる ・できることをする ・これからも続ける ・昔から伝わる遊びを楽しむ	○国語「おもい出してかこう」 順序を表す言葉
1月	○ふゆをたのしもう（9） ・冬探し	
2月	・雪や氷で、外で遊ぶ ・冬のことを伝える	○国語「小学校のことをしょうかいしよう」 時間を表す言葉
3月	○もうすぐ２ねんせい（18） ・新しい１年生を招待し、話し合う ・１年間をふりかえる	○国語「１年かんをふりかえろう」 よみかえす

「うみであそぼう」
（生活科の中から全９時間）

○磯遊びの計画を立てる（1）
・写真などを見ながら海の生き物のことを話し合う。
○海の生き物となかよしになろう（4）
・磯遊びをする。
・感想を話し合う。
○作品にあらわそう（図工から４時間）
・「うみのえをかこう」（4）
※絵画指導ゲストティーチャー
：竹高朝子さん
○作品を発表しよう（3）
・発表の練習をする。
・発表会をする。
○学習をふりかえろう（1）

宿戸うみプロジェクト　第２学年　ストーリーマップ　　洋野町立宿戸小学校

【テーマ】海に親しむ　・海の生き物　・海での遊び

【目　標】磯遊びや稚ウニ放流、乗船体験を通して、海のすばらしさに気づくことができる。

	生活科（うみプロジェクト）の活動の流れ	関連
4月	○春だ　今日から２年生（6） ・春探し ・春のまちを歩く	○国語「すきなこと、なあに」　対話 ○国語「いくつあつめられるかな」　メモ ○国語「こんなことをしているよ」
5月	○ぐんぐんそだて　わたしの野さい（10） ・野菜の種まき、苗植え、世話、観察、収穫	はじめ・中・おわり ○国語「外国の小学校について聞こう」
6月	○どきどきわくわく　まちたんけん（10） ・町探検 ・見つけたことを伝え合う	聞き取る ○国語「かんさつしたことを書こう」 メモ・観察 ○国語「ことばで絵をつたえよう」　説明
7～8月	○生きもの　なかよし 大作せん（10） ・生き物探し、観察、世話 ・生き物のことを伝え合う	○ゴミゼロ運動 ○国語「サツマイモのそだて方」 ○徒歩遠足：八木漁港 ○図工「たのしかったよ　ドキドキしたよ」 （海の子絵画展） ○地域事業　海辺の生き物探検
9月	○うごくうごく わたしのおもちゃ（12） ・動くおもちゃを作る ・遊び方を工夫する	○国語「うれしくなることばをあつめよう」 話をつなぐ
10月	○みんなでつかう まちのしせつ（6） ・図書館利用	○国語「ビーバーの大工事」 ○国語「あそび方をせつ明しよう」 メモ、カード、説明する文章 ○国語「たからものをしょうかいしよう」
～12月	○もっとなかよし まちたんけん（12） ・町探検 ・おおのキャンパス遠足 （動物ふれあい館） ・分かったことを話し合う	発表 ○国語「同じところ、ちがうところ」 比べる ○国語「「ありがとう」をつたえよう」 手紙
1月	○つながる広がる わたしの生活（12） ・もっと詳しく調べる ・まちのすてきを伝える	○国語「おばあちゃんに聞いたよ」 ○国語「この人をしょうかいします」 組み立てカード ○国語「すきな場しょを教えよう」 声の大きさ、話す速さ
2月	○あしたへ　ジャンプ（27） ・自分の成長をまとめる ・感謝の気持ちを伝える	○国語「「ことばのアルバム」を作ろう」 ○道徳「わたしの学校」 ○道徳「絵がすき　海がすき」
3月		○道徳「見つけたよ」

「宿戸のすてきをつたえよう」
（生活科の中から全 14 時間）

○稚ウニ放流の計画を立てる（1）
・稚ウニ放流について知り、活動の見通しを持つ。

○稚ウニ放流、乗船体験をしよう（3）
・稚ウニ放流、乗船体験をする。
※ゲストティーチャー：吹切守さん

○磯遊びに行こう（4）
・磯遊びで生き物探しをする。
※ゲストティーチャー：吹切安蔵さん

○体験したことを伝えよう（5）
・伝える相手に適した表現方法を話し合う。
・発表の練習をする。
・発表会をする。

○学習をふりかえろう（1）

宿戸うみプロジェクト　第３学年　ストーリーマップ　　洋野町立宿戸小学校

【テーマ】海と地域　・地域の特産

【目　標】海と宿戸の人たちの関わりを調べ、地域の良さを理解し、ふるさとに対する誇りと愛情をもつことができる。

	うみプロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・海について知っていることをイメージマップに書き出してみる。海洋学習についての見通しを持つ。 ・宿戸にはどんな自慢があるのかを知り、学習の見通しを持つ。 （ウニ、アワビ、シイタケ、岡谷稲荷神社など）	○社会「わたしたちのまち　みんなのまち」 土地の様子・使い方・地図 ○国語「メモを取りながら話を聞こう」 メモ
5月	○自慢探検　その１：ウニ、アワビ ・知っていることを話し合い、問いを持つ。 ・自分の課題を持ち、調べる。	○国語「調べて書こう、わたしのレポート」 レポート
6月	（本、インターネット、人に聞く） ・調べて分かったことを交流する。 ・見学に行って取材する。（６月-７月　馬場等さん）	○ゴミゼロ運動 ○徒歩遠足：種市海浜公園
7月	・分かったことをまとめる。 ・表す。→国語と関連させる。 ウニの自慢ポイント ・甘くておいしい品質のよいウニがたくさんとれる。 ・ウニのエサとなる天然コンブがたくさんある。 ・ウニを育てる工夫（増殖溝）がある。 →特産になるように努力してきた宿戸の人たちは、すごい。	○国語「ローマ字」　ローマ字入力 ○社会「はたらく人とわたしたちのくらし」 農家の仕事
8月	※以降、問いを持つ、調べる、交流する、見学に行って取材する、まとめる、表す、を繰り返すことで学び方を身につける。 ※インターネットで調べるには、漢字が読めること、言葉の意味を知っていること、ローマ字入力が便利なこと等、やってみてうまくいかない経験をさせながら、国語の力が必要であることを実感させる。	
9月	○自慢探検　その２：岡谷稲荷神社（８月　上岡谷ユミ子さん） 岡谷稲荷神社の自慢ポイント ・古くから海の安全と大漁を祈願し、遠方からもお参りに来る。	○国語「パラリンピックについて調べよう」 事典や図鑑
10月	・病気や災いから皆を守ってくれている。 ・静かで穏やかな気持ちになれる場所。（神様の木、石） →毎年の例大祭に児童も参加。この神社を守り続ける宿戸の人たちは、すごい。	○国語「話したいな、わたしのすきな時間」 ○国語「案内の手紙を書こう」　手紙
11月	○自慢探検　その３：シイタケ（10月-11月　高屋敷さん） シイタケの自慢ポイント ・「どんこ」品質の良さで何度も岩手県１位。 ・地域の特性、やませ（冷涼な気候）を生かしている。	○国語「外国のことをしょうかいしよう」 ポスター ○国語「自分の考えをつたえよう」　図や表 ○国語「言葉でつたえ合う」
12～3月	・シイタケを育てるよい環境がある。 （豊かな山林、コナラ・アカマツが多く自生） →特産になるように試行錯誤してきた宿戸の人は、すごい。 ○学びのふりかえり	○社会「市のうつりかわり」

宿戸うみプロジェクト　第４学年　ストーリーマップ　　洋野町立宿戸小学校

【テーマ】海と環境　・津波と防災　・水の循環

【目　標】津波と防災について調べ、地域での取り組みを理解し、自分たちに何ができるかを考えることができる。

	うみプロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・これまでの学びを振り返る。 ・地震、津波の備えについての問いを持ち、学習の見通しを持つ。	○社会「水はどこから」　浄水場見学 ○社会「ごみのしょりと利用」ゴミ処理見学
5月	○自分たちの課題を持ち、調べる。 ・復興教育副読本から ・町の防災マップから ・本、インターネットから ・家の人や地域の人への取材活動	○国語「ヤドカリとイソギンチャク」 ○ウニの森植樹祭 ○ゴミゼロ運動 ○徒歩遠足：種市海浜公園 ○国語「たしかめながら話を聞こう」　メモ
6月		
7月	□防潮堤見学（県北広域振興局土木部） ・小子内防潮堤のしくみ、役割と限界を知る。 ・津波供養塔を調べる。 ・避難路を調べたり、実際に歩いたりする。	○国語「みんなで新聞を作ろう」　新聞 ○国語「お願いやお礼の手紙を書こう」手紙
8月	ポイント ・明治、昭和にも大津波があった。 ・防潮堤の高さ 12ｍは過去の津波の高さをもとに。 ・水門と陸こう。遠隔操作で安全を確保。 ・防潮堤は、避難する時間を稼ぐためのものなので、避難が大事。	
9月		○地域事業　海辺の生き物探検
10月	□津波防災教室（宇部義治さん） ・津波の歴史 ・東日本大震災の被害状況 ・自主防災組織 ・津波防災施設と避難の大切さ　　などについてお話を聞く。	○社会「地震からくらしを守る」防災・減災 自助、公助、共助 ○国語「学校についてしょうかいすることを考えよう」
11月	□津波出前授業（10 月　種市高等学校） ・津波がおこるしくみ ・津波の速度実験 ・避難の大切さ　　などについて講義を受ける。	○理科「自然の中の水のすがた」水の循環 ○社会「きょう土の伝統・文化と先人たち」 南部もぐりの開祖　磯崎定吉 ○国語「聞いてほしいな、心に残っている出来事」
12～3月	○防災マップづくり（2020 年度は、宿戸・大浜～戸類家・玉川方面） ・フィールドワークで危険個所とその理由を調べ、写真に記録する。 ・写真をもとに話し合い、危険個所の写真と危険な理由を記入した付箋を地図に貼る。 ○学びのふりかえり ※防災マップづくりは、2020 年度で一段落とする。次年度からは、植樹祭をうけての森・川・海の関係を（社会、理科と関連させて）学習することも考えられる。	○国語「「ふるさとの食」を伝えよう」 リーフレット ○国語「言葉で考えを伝える」 ○国語「調べたことをほうこくしよう」 アンケート ○理科「水のすがたと温度」　地球温暖化

宿戸うみプロジェクト　第５学年　ストーリーマップ　　洋野町立宿戸小学校

【テーマ】海と産業　・水産業　・海で働く人々

【目　標】海と仕事の関わりを調べ、地域でつなげている取り組みを理解し、ふるさとに誇りをもつことができる。

	うみプロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・これまでの学びを振り返る。 ・地域の水産業についての問いを持ち、学習の見通しを持つ。	○社会「わたしたちの国土」 海洋 ○国語「知りたいことを聞き出そう」 インタビュー
5月	□水産教室（６月　吹切守さん）@宿戸漁港 ・海の生き物観察 ・増殖溝でのウニとり体験 ・荷捌き場でのウニの殻むき体験 ・ウニの年齢調べ（川崎さん）	○国語「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」 ○ウニの森植樹祭 ○ゴミゼロ運動 ○移動教室：県北青少年の家
6月		○国語「環境問題について報告しよう」 資料活用・報告文
7月	○自分の課題を持ち、調べる。 ・本、インターネットから ・町パンフレットから ・海に携わる人へのインタビュー	○理科「魚のたんじょう」 ○国語「問題を解決するために話し合おう」 原因と結果・意図
8月	ポイント ・宿戸にある海に携わる仕事は大きく５つ 漁業者、漁協、市場、種苗生産、販売者 ・宿戸で行われている漁業 漁船漁業、定置網漁業、採介藻漁業 ・インタビュー 漁業者、漁協、市場、栽培漁業協会、宏八屋　など （仕事内容、仕事に対する思い、仕事に就いた理由、工夫や努力、東日本大震災当時の話や現在の思い　など）	○地域事業　海辺の生き物探検 ○町事業　海はともだち
9月		○社会「水産業のさかんな地域」　水産業 ○国語「和の文化について調べよう」 パンフレット
10月	□サケの採卵見学（10 月　さけますふ化場） ・サケの一生 ・さけますふ化場の役割	○国語「伝えたい、心に残る言葉」 ○国語「反対の立場を考えて意見文を書こう」　意見文 ○国語「資料を見て考えたことを話そう」 事実と感想
11月		○社会「わたしたちの生活と環境」 環境
12～3月	○「海洋教育サミット」へ向けての校内発表会に参加する。 ・６年生の発表を聞いて、今後の学習に生かす。 ○学びのふりかえり ・修学旅行での洋野紹介に向けて、これまでの学びをふりかえる。	

宿戸うみプロジェクト　第６学年　ストーリーマップ　　洋野町立宿戸小学校

【テーマ】海と世界　・海流　・環境

【目　標】地球規模で海洋環境を考えることを通して、海を守るために自分たちができることを考えることができる。

	海プロジェクトの活動の流れ	関連
		○理科「地球と私たちのくらし」　環境
4		○国語「イースター島にはなぜ森林がないのか」
月	○オリエンテーション	
	・これまでの学びを振り返る。	○国語「友達の意見を聞いて考えよう」
5	・学習の見通しを持つ。	
月		○ウニの森植樹祭
	□サケの放流（さけますふ化場）	○ゴミゼロ運動
6	・サケの習性	○修学旅行：仙台・松島方面
月	・サケや海流、海洋環境についての問いを持つ。	
	世界規模でみた海洋…海流、プラスチックごみ、消えゆく島、	○国語「防災ポスターを作ろう」
	生き物への影響、漁業の未来　等	図表やグラフ・ポスター
		○理科「生き物のくらしと環境」
7	○自分の課題を持ち、調べる。	生命・環境
月	・本、新聞から	○地域事業　海辺の生き物探検隊
	・町パンフレットから	○町事業　海はともだち
8	・家の人や地域の人へのイタンビュー	
月		○国語「話し合って考えを深めよう」
	□環境教室（岩手県さけ・ます増殖協会　川崎光博さん）	○国語「海の命」
9	・宿戸の海の現状	○理科「大地のつくりと変化」
月	・直面している環境問題	土地のつくり・ジオパーク
	・これまでの取り組み	
	・これから私たちができること	○国語「町の未来をえがこう」
10	□サケの採卵体験（さけますふ化場）	プレゼンテーション
月	・サケやサケを取り巻く海洋環境、これまでの学びの理解を深める。	○国語「世界に目を向けて意見文を書こう」
		意見文・説得力
	○調べてわかったことをまとめ、発信する。（視点をある程度しぼる。）	
11	・海洋教育こどもサミットに向けての取り組み	○国語「言葉の学習をふり返る」
月	→国語と関連	○国語「聞いてほしい、この思い」
		スピーチ
	○「海洋教育サミット」での発表	○社会「世界の中の日本」
12		○理科「地球に生きる」　環境
～	□荒巻サケづくり	
3		
月	○学びのふりかえり	

第１学年　生活科学習指導案

日　時　　令和２年９月３日（木）２校時
児　童　　男子９名　女子３名　計１２名
指導者　　柴田　直美(T1）石井　雅彦(T2)

１　単元名　「うみであそぼう」

２　単元について

（１）教材について

学習指導要領第１学年及び２学年の目標（２）は、「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。」である。また、本単元の主たる内容（５）は、「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」である。本単元では、地域の海と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付け、身近な自然の様子や面白さに気付くとともに、身近な海への親しみをもちながら楽しむことができるようにすることをねらいとしている。

（２）児童について

本学級の児童は、入学時から外での活動に意欲的に取り組んでおり、朝から遊具や鉄棒で遊んだり、時間を忘れて虫探しや土遊びに没頭したりする姿が多く見られる。これまでに、身近な自然に関わる活動としては、春は学校内や校舎の周りの探検、夏は宿戸漁港でのごみゼロ運動や磯遊びを行ってきた。休み時間には、昇降口にある水槽の生き物をじっくりと観察し、その様子について友達や教師に教えることも多い。観察して気付いたことや体験して思ったことなどの発表は意欲的に行っているが、友達の発表には無関心な態度を示すこともある。また、全体的に幼く、言葉や絵などによる表現が苦手な児童が数名いるため、個に応じた支援や声がけが常に必要である。本単元では、相手意識をもって自分なりに工夫した表現や友達との交流の楽しさを広げたいと考える。

（３）指導について

学習を進めるにあたり、ごみゼロ運動や磯遊び、夏休み中の海遊び等の体験を想起させ、楽しかったことや気付いたことを絵や粘土等で表したことを確かめる。２年生や家族に伝えるために、国語科で学んだことを生かして、相手に伝わるように話す事柄の順序を考えたり、伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫したりしながら発表できるようにしていく。

３　単元の指導計画

（１）単元の目標

・地域の海と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付け、身近な自然の様子や面白さに気付くとともに、身近な海への親しみをもちながら楽しむことができるようにする。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
地域の海と関わる活動を通して、身近な自然の様子や面白さに気付いている。	地域の海と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けている。	身近な海への親しみをもちながら、地域の海と関わる活動を楽しもうとしている。

（３）　単元計画　単元名「うみであそぼう」（全８時間　本時５／８）

学習課題 ○主な学習活動	・指導上の留意点　◇教科等の関連 ◆評価規準　＜観点＞　［方法］ ※ゲストティーチャー
いそあそびの　けいかくを　たてよう ○写真などを見ながら、カニや海のことを話し合う。 ○活動の内容を知り、学習内容の見通しを持つ。（１）	・地域の海のことについて、知っていることを話し合わせる。 ◆地域の海や海の生き物との触れ合いについて関心をもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［発言・観察］
うみのいきものと　なかよしになろう ○海で働く人の話を聞き、磯遊びをする。（２）	・海で安全に遊ぶためのルールやマナーを守らせる。 ※種市南漁協 吹切　安蔵さん ◆安全に気をつけながら、地域の海に親しみ、海の生き物との遊びを楽しんでいる。 ＜知識・技能＞［観察］
いそあそびの　ふりかえりを　しよう ○感想を話し合う。（１）	・磯遊びで気付いたことや楽しかったことを話し合わせる。 ◆海の様子や生き物の特徴に気付いている。 ＜思考・判断・表現力＞［発言・観察］
作品作り ◇図工「ねんどと　なかよし」 ○海の生き物を粘土で作る。≪図工２≫	
◇図工「チョッキン　パッで　かざろう」 ○海の様子を折り紙で表す。≪図工２≫	
◇図工「うみの　えを　かこう」 ○磯遊びで楽しかったことを描く。≪図工２≫　※ゲストティーチャー　竹高　朝子さん ○自分の作品を整理する。≪図工１≫	
はっぴょうするさくひんを　しょうかいしよう ○発表する作品を選び、グループで紹介する。（１）（本時）	・自分の発表する作品を選ばせ、グループで紹介する。 ◇国語「はなしたいな　ききたいな」 ◆伝える相手を意識しながら、身近な海への親しみについて発表する作品を紹介している。 ＜思考・判断・表現力＞［発言・観察］
はっぴょうかいの　れんしゅうをしよう ○発表会の練習をする。（１）	・２年生や家族にしっかり伝わるか、相手の立場に立って考えさせる。 ◇国語「なにに見えるかな」 ◆２年生や家族に、身近な海への親しみが伝わるように発表の仕方を工夫している。 ＜思考・判断・表現力＞［発言・観察］
はっぴょうかいを　たのしもう	・２年生や家族に自分の言いたいことが伝わっているか意識させながら発表させる。

○１・２年で「海洋学習発表会」を行う。（１）	◇国語「すきなきょうかはなあに」 ◆友達の発表に関心をもって聞き、２年生や家族に身近な海への親しみが伝わるように工夫して発表しようとしている。 ＜主体的に学ぼうとする態度＞［発言・観察］
がくしゅうを　ふりかえろう ○今までの学習を振り返る。（１）	・これまでの活動を振り返り、身近な自然の様子や面白さに気付かせる。 ◆学習を通して感じたことやできるようになったことに気付いている。 ＜主体的に学ぼうとする態度＞［記述］

３　本時のねらい

伝える相手を意識しながら、身近な海への親しみについて発表する作品を紹介することができる。

４　本時の指導計画

配時	学　習　活　動	・指導上の留意点
５分	１　前時までに作成した自分の作品のことを想起する。 ○今までの作品について振り返り確認する。 ・粘土でカニを作った。 ・折り紙で魚を折って、色画用紙に貼った。 ・磯遊びの絵を描いた。 ○今日の学習を確かめる。 はっぴょうするさくひんを しょうかいしよう	・粘土・折り紙・絵画等で何について表したのかを確かめる。 ・海洋学習発表会では、２年生や家族の前で発表することを伝え、相手意識をもたせる。
35分	２　何を使って発表するか決める。 ○自分の発表する作品を選ぶ。 ・粘土（写真または実物） ・折り紙 ・絵（写真） ○自分の発表する作品について、グループで紹介する。 ・絵（磯遊びでカニをとったことが楽しかったから） ・粘土（カニの捕まえ方を教えたいから） ・折り紙（海の様子を楽しく作れたから） ３　発表の仕方について考える。 ○発表の仕方について、学級全体で話し合う。 ・作品を見せながら、大きい声で、はっきり話す。 ・詳しく説明する。	・伝える相手は２年生と家族であることを常に意識させる。 ・個別の支援が必要な児童については、対話を通して話の内容を整理したり、言葉を教えたりする。（Ｔ２） ・グループ（３人組４グループ）で交流する場を設定する。 ・話型を示し、なぜその作品にしたのか理由も話させる。 ・上手く進まないグループに支援する。（Ｔ２） ◆伝える相手を意識しながら、身近な海への親しみについて発表する作品を紹介している。 ＜思考・判断・表現力＞［発言・観察］

５ 分	５　本時の振り返りをする 〇今日の学習の振り返りをする。 〇次時は発表練習をすることを知らせる。	・本時の活動や友達とのやりとりを通じて考えたことを振り返らせ、発表会に向けての意欲をもたせる。

５　本時の実践

＜成果＞

□導入段階

・　磯遊びの動画や写真を見て、海の生き物の様子や楽しかったことを想起させてから自分の作品や学習課題を確かめたことで、見通しをもって学習に入ることができた。

＜動画～磯遊びの感想～＞

＜壁面の写真や作文＞

□展開段階

・　伝える相手は２年生と家族であることを意識させながら、自分で作品を選ばせた。子どもたちは、悩むことなくスムーズに選ぶことができた。

・　交流の様子を先生方に見られることに慣れない様子であったが、３人組の４グループで自分の作品を紹介し合ったことで自信をもち、全体の前では大きい声で発表することができた。

＜グループ交流の場面＞

＜全体での発表場面＞

□終末段階

・　本時の学習活動について、全員が「ふりかえりシート」に書くことができた。

＜課題＞

・　体験活動を通して感じた思い・願いの表現の在り方について考えていきたい。

・　相手意識をもった伝え合い、交流によって、気付きの質を高めていきたい。

・　各教科にあるねらいを達成するために、つけたい力（指導要領の内容）と連携し、「生活科」と「総合的な学習」をつなぐ単元づくりをしていく必要がある。

６　単元の実践記録

（１）活動の様子

単元名「うみであそぼう」

毎年５月末に、全校で宿戸漁港の「ごみゼロ運動」を行っている。

計画づくり（生活科）（１時間）

①地域の海について、知っていることを話し合う。

②磯遊びの内容を知り、今後の活動の見通しをもつ。

・家族の仕事の関係で海に行っている児童と、あまり行ったことがない児童に分かれた。ウニやカニのこと、魚釣り等が話題になった。２年生と一緒に「磯遊び」に行くことを知らせ、海に関する作品を作ることや作品発表会をすることを全体で確認した。

体験活動『磯遊び』（生活科）（３時間）

①海で安全に遊ぶためのルールやマナーについての話を聞く。

②地域の海に親しみ、海の生き物との遊びを楽しむ。

・種市南漁協の吹切安蔵さんから、大人の目が届かないに場所に行かないこと、海は急に深くなるので油断しないこと、小さいウニを捕らないこと等を教えていただいた。その後は、磯に移動し、岩を動かしてカニや魚を捕まえたり、アメフラシやヤドカリ、ツブを捕ったりするなど、友だちと関わりながら、時間いっぱい海の生き物と触れ合った。

【宿戸漁港で磯遊びを楽しむ１年生】

・帰校後に、昇降口で海の生き物を触っている様子や教室での「ふりかえり」を話す姿を動画撮影した。ひらがなを習得したばかりで字を書くことにストレスを感じる児童や、午前中に体力を消耗した児童も多かったことから、動画での記録とした。

・国語「こんなことしたよ」の学習を生かし、「磯遊び」について語と語や文と文の続き方に注意して、経験したことを伝える文章を書いた。家に持ち帰り、保護者から感想のコメントを書いてもらった。

作品作り（１）『ねんどと　なかよし』（関連教科：図工）（２時間）

①海の生き物を粘土で作る。
②感想の交流をする。
・磯遊びの翌日だったこともあり、「ぼくはカニを８匹捕まえたんだよ。」「本物と同じ大きさの魚を作ったよ。」等と話しながら、思い思いに作品作りを行った。

作品作り（２）『チョッキン　パッで　かざろう』（関連教科：図工）（２時間）

①海の様子を折り紙で表す。
②感想の交流をする。

・磯遊びで見たものに限定せず、色とりどりの折り紙を使って、イカや魚の形に折ったり、カニの形に切ったりしながら、知っている海の生き物を作った。それらを水色の用紙に貼り、廊下に掲示した。児童は、「宿戸水族館だね。」と笑顔を見せながら、「これは、何の魚なの？」「これは、ダイオウイカだよ」等と交流することができた。

作品作り（３）『うみの　えを　かこう』（関連教科：図工）（３時間）

①磯遊びで楽しかったことを描く。
②感想の交流をする。
③作品（粘土、折り紙、絵画）を整理する。
・かつて宿戸小学校で勤務されていた竹高朝子先生をお迎えして、指導をしていただいた。竹高先生は、「磯遊びのとき、一番楽しかったことはどんなことでしたか？先生に教えてください。」と話し、対話を通して子どもたちの思いを引き出してくださった。磯遊びの楽しさを思い出した子どもたちは、のびのびと絵を描くことができた。

海洋学習発表会に向けて（関連教科：国語「はなしたいな　ききたいな」「すきなきょうかは　なあに」）

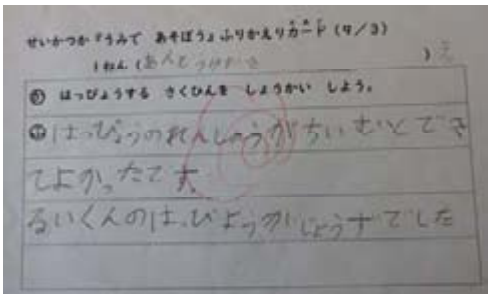
（２時間）

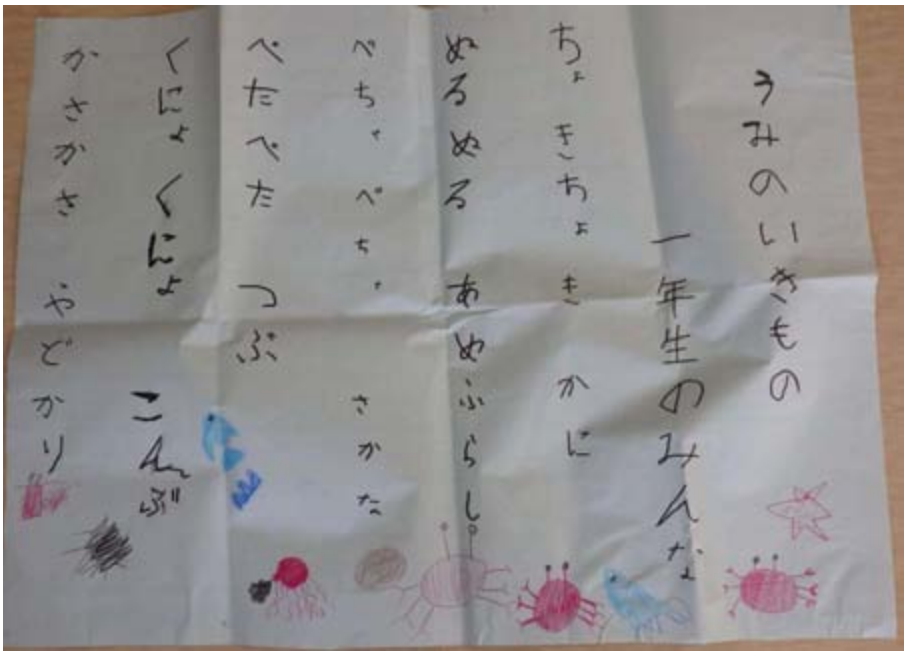
①発表する作品を決め、グループで紹介する。

②発表会の練習をする。

・自分の作品（粘土・絵・折り紙）の中から発表する作品を選び、理由を述べながら紹介し合うグループ学習を行った。

・国語の学習での学びを生かし、「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさを工夫する」「集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ」をめあてにして、練習に取り組んだ。



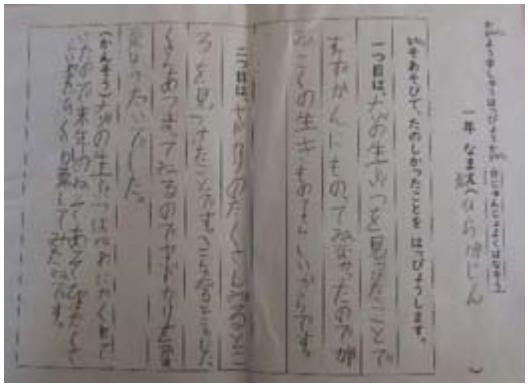


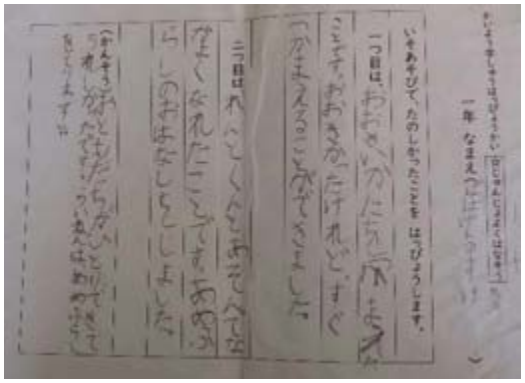
【国語「ことばあそびうたをつくろう」　『磯遊び』を題材にして１行ずつ考えたオリジナル作品】

海洋学習発表会（生活科）（１時間）

①２年生と保護者に、磯遊びの作品について発表する。

・プレイルームに保護者を招いて、１・２年合同で海洋学習発表会を行った。「２年生やおうちの方に、磯遊びのことをしっかり伝えよう」という気持ちで発表することができた。





【１１月２０日（金）海洋学習発表会の様子】

【ふりかえりカード】

・１年生のみんなもじょうずにしっぱいしないでできたし、２年生のクイズがおもしろかったし、２年生がつくったふねもすごかったです。わたしも、２年生になったら２年生みたいにやりたいです。

・大きなこえではきはきとゆっくりよめたので、よかったです。２年生のときも、やくそくをまもりたいです。２年生のクイズが、「よくかんがえたな」とおもいました。２年生になったら１００てんになってるといいです。

ふりかえり（生活科）（１時間）

①これまでの活動を振り返り、活動のまとめをする。

・５月の「ごみゼロ運動」から１１月の「海洋学習発表会」までの半年間の学習について、カレンダーを見ながら振り返った。体験学習を様々な形に表現したり交流し合ったりしたことで、地域の海への親しみを深めることができたことを確認した。また、２年生と合同の活動や発表会を通して、「稚ウニ」「乗船体験」などの来年度の学習への見通しが明るくなり、期待感が高まった。

（２）活動の振り返り

〇地域の特色を実感できる体験活動『磯遊び』について、国語や図工と関連させながら、生活科のねらいに沿った単元づくりを行うことができた。

〇「２年生や家族に伝える」という相手意識をもって、学習に取り組むことができた。

〇２年生と合同の活動を通して、来年度の学習への見通しをもたせることができた。

△７月の体験・作品を１１月に発表する日程となり、児童の意欲の持続のさせ方が難しかった。

△自分の考えの持たせ方や、自分が一番伝えたい部分の表現方法について、各学年の学習のつながりを意識した指導が必要である。

第２学年　生活科学習指導案

日　時　　令和２年９月３日（木）３校時
児　童　　男子７名　女子６名　計１３名
指導者　　夏井　和美（Ｔ１）伊藤　知子（Ｔ２）

１　単元名　「宿戸のすてきをつたえよう！」（２４時間）

２　単元について

（１）教材について

学習指導要領第１学年及び２学年の目標（２）は、「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。」である。また、本単元の主たる内容（８）は、「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする」である。本単元では、稚ウニ放流・乗船体験、磯遊びの活動から地域の人々や海に対して親しみや愛着を持ち、宿戸のよさをみつけるとともに、伝えたい相手に対して適した表現方法を考えることをねらいとしている。

（２）児童について

本学級の児童は生活科の学習に関心を示し意欲的に取り組む姿が見られる。児童はこれまでに稚ウニ放流・乗船体験、２回の磯遊び体験をし自分たちの住む地域や海の生き物に対して興味をもち始めている。また、「１年生をむかえよう」の小単元で、１年生に学校のことを教えるために、宿戸小学校のクイズを考え、シールラリーを作るなどして張り切って学校案内をした。その経験から、１年生に色々教えてあげたいという気持ちと、２年生になった自覚を持てた様子であった。本単元では、こういった児童の気持ちの高まりから宿戸の海と関わる活動をし発見したことや調べたりしたことを、１年生に伝えるためにはどのようにしたらよいのか、自分たちなりに工夫して表現することを体験させたいと考える。

（３）指導について

本単元では、稚ウニ放流・磯遊びの活動から宿戸の海にはどんな生き物がいるのかを考えさせ、海に親しみを持たせるようにする。そして、活動から心に残ったことや楽しかったことなどを話し合うことで自分の考えを表現する力や相手の発言から話をつないでいく力や、相手を意識した言葉や適した表現方法を考える力を伸ばしていきたい。また、国語の「たからものをしょうかいしよう」の単元から、「話すこと・聞くこと」において言葉の力を学び教科横断的な学習を進めていく。

３　単元の指導計画

（１）単元の目標

・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。
・身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとすることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさに気付いている。	・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりしている。	・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、地域の人々や海の生き物に親しみ

		をもち、進んで触れ合い交流しようとしている。

（３）　単元計画（全２４時間　本時１１／２４）

学習課題 ○主な学習活動	・指導上の留意点　　◇教科等の関連 ◆評価規準　＜観点＞　［方法］ ※ＧＴ
オリエンテーション ○昨年度の磯遊びで関わった人や海の生き物について振り返り思い出す。 ○活動の内容を知り、学習内容の見通しを持つ。（１）	・昨年度の学習との関連づけをし見通しをもたせる。 ◆２年生の学習内容に関心をもち、学習の問いをもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［観察］
稚ウニ放流・船に乗る体験しよう ○稚ウニ放流や乗船体験をする。 ○稚ウニ放流のふりかえりをしお礼の手紙を書く。 ○体験をもとに、分かったことを絵や文でまとめる。（４） 磯遊びをして宿戸の海の生き物を見つけよう ○宿戸の海へ行き海で働く人の話を聞き、磯遊びで生き物探しをする。 ○磯遊びの振り返りをし感想を書く。（４）	・稚ウニの成長を知って、ウニを育てる気持ちや、乗船体験をし海に親しむ気持ちをもたせる。 ・初めて経験し思ったことや、楽しかったことなど思い出させる。 ◇図工「たのしかったよドキドキしたよ」 ※吹切　守さん ・磯遊びの約束を伝え、ルールを守りながら色々な生き物を探せるようにする。 ・写真をつかって、ノートに感想を書かせる。 ※吹切　安蔵さん
宿戸のすてきをみつけ、伝えたいこと・伝える相手を決めよう ○グループごとに地域の人や海との関わりで心に残ったことを話し合う。 ○伝えたいことと、伝える相手を決める。（２）	・稚ウニ放流・磯遊びの体験から伝えたいことをまとめさせる。 ・「１年生をむかえよう」の活動を結び付けて伝える相手を考えさせる。 ◆自分の心に残った出来事の中から、伝えたいことや伝える相手の事を考えている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［観察・発言］
宿戸のすてきを伝える準備をしよう ○グループで伝える相手に適した表現方法を話し合う。（１）（本時） ○前時に決めた表現方法で作品を作る。（３） ○作品を見せ合い、工夫した点や、互いの作品のよさを	・伝えたい相手に合った表現方法を選べるようにする。 ◆伝えたい相手に対して、適した表現方法を選び、作品にまとめている。 ＜思考・判断・表現＞［作品・発言・観察］

伝え合い、作品を改良する計画を立てる。（１） （５）	
もっとくわしく調べよう ○作品や表現方法をさらによいものにするために、調べる準備をする。（１） ○様々な方法で必要な情報を集める。（２） ○調べたことをもとに作品を改良する。（２） （５）	・よりよいものにするために、調べる方法を様々な角度から考えさせる。 ◆もっと調べたいという思いをもち、活動を深めていく楽しさを実感している。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［作品・発言・観察］
宿戸のすてきを伝えよう ○１年生を発表会に招待するための手紙やポスターをつくったり学級で発表会の練習をする。（２） ○１年生を招待して発表会をする。（１） （３）	・これまでの学習を振り返り、相手意識をもって発表させる。 ◆自分の表現方法を使って、宿戸のひみつについて進んで発表している。 ＜思考・判断・表現＞［発言・記述］ ◇国語「たからものをしょうかいしよう」
学習を振り返ろう ○１年生からの感想を聞くなどし、今までの活動を振り返る。（１）	・単元を通して身に付いた力を考えさせ、これからの学びにつなげる。 ◆学びを振り返り、自分たちの住む地域に対して新たに考えたり、問いをもったりしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞〔発言・記述〕

３　本時のねらい

話し合う活動を通して、伝えたい相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。

４　本時の指導計画

配時	学　習　活　動	☆外部連携　・指導上の留意点
５分	１　前時の学習をふり返り、学習の見通しをもつ。 ○前の時間にどんなことを決めたのか振り返り確認する。 ・宿戸の海に関わる人々や色々な生き物がいた。 ・１年生にクイズを出す。 ○今日の学習を確かめる。 １年生に分かりやすく伝えるためには、どんな方法がよいのか話し合おう。	・海と関わりのかる人や生き物の名前を書いたカードを提示し学習を振り返る。 ・クイズには色々な方法があることを知らせ、１年生に伝えるという目的・課題を意識させる。
	２　クイズの方法を話し合う。 ○グループごとにクイズの方法にはどんなものがあるのか話し合う。 （つかうもの） ・写真　・絵　・問題文 （クイズの方法）	・クイズの方法を一つずつ考えられるよう、話し合う内容を明確にする。（Ｔ１） ・「１年生をむかえよう」ではどのようにしたのかを思い出させる。

３５分	・言葉だけでクイズを出す。 ・写真を見せてクイズを出す。 ・絵を見せる。 〇グループで出た案をノートにまとめ、整理する。 ・写真と問題文を紙に書く。 ・絵を描いてクイズを出す。 ３　グループで出た案を発表し、分かりやすく伝えるために大切なことを全体で出し合う。 〇グループごとに整理したことを発表する。 〇分かりやすいとはどのような事かを考える。 ・クイズになる生き物は目に見えたほうがよい。 ・言葉だけだと聞き逃すこともある。 ４　グループでどんな方法でクイズを出してみたいか話し合う。 〇全体で出た案をもとに１年生へ向けてのクイズの方法について見通しをもつ。	（Ｔ１・Ｔ２） ・グループでどのようなクイズ形式にするのかまとめさせる。（Ｔ１・Ｔ２） ・なぜその方法にしたのか理由を考えさせる。（Ｔ１・Ｔ２） ・伝える相手は下級生という立場を考えさせる。（Ｔ１・Ｔ２） ・全体で出し合った案から、グループの中で１年生に分かりやすい伝え方を確認させる。（Ｔ１・Ｔ２）
５分	５　学習を振り返る。 〇今日の学習の振り返りをする。 〇次時は実際にクイズ作りをしていくことを伝える。	・１年生に分かりやすく伝えるためには、どんな方法がよいのか話し合うことができたか、ノートに振り返りをする。 ◆話し合う活動を通して、伝えたい相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。 ＜思考・判断・表現＞

５　本時の実践

□導入

・海と関わりのかる人や生き物の写真を提示し学習を振り返ることで、見つけた宿戸のすてきを１年生に伝えるという意識を持って学習に入ることができた

□展開段階

・１年生にクイズを出すにはどんな方法がよいのかをグループで話合わせた。話し合いで出た意見はノートにメモをし整理することで発表しやすいことを伝えた。１学期の生活科で１年生に学校のクイズラリーをした経験を交えながら考えている様子だった。

＜グループでの話し合いとノートにメモをする様子＞

・グループで出た案を発表し全体で確認した。

＜児童の発言＞

児童①
　生き物の様子をジェスチャーで出したら１年生も楽しんでくれると思います。

児童②
　画用紙に問題とヒントも書くと１年生に伝わりやすいと思います。

＜発表する児童の様子＞

・もう一度グループで１年生に分かりやすい伝え方を確認させた。全体で意見を出し合ったことで、様々な方法があることを知り、伝える相手は下級生という立場を再度意識させることができた。

□週末段階

　１年生に分かりやすく伝えるための方法を話し合うことができたかノートに振り返りをした。また、次時は実際にクイズ作りをしていくことを伝えた。

＜課題＞

・導入部分で本時のねらいにつなげ整理しやすくするために、体験活動の振り返りを映像で示すべきであった。
・相手意識を持つための話し合いになるようグループ活動に入る際の発問が不十分であった。ねらいを意識した発問を精選していきたい。
・各教科にあるねらいを達成するために、つけたい力を連携し「生活科」と「総合的な学習」をつなぐ単元づくりをしていく必要がある。

6　単元の実践記録

（１）活動の様子

単元名　「宿戸のすてきをつたえよう！」

課題設定（１時間）

〇昨年度の磯遊びで関わった人や海の生き物について振り返り思い出す。

〇活動の内容を知り、学習内容の見通しを持つ。

・昨年度は宿戸の海へ行き磯遊びをしたことを振り返り、そこで見つけた海の生き物を思い出した。２年生では、もう一度磯遊びをすることと稚ウニ放流・乗船体験をすることを知らせ、稚ウニの成長を知ってウニを育てる気持ちや、海に親しむ気持ちをもつことを全体で確認した

稚ウニ放流・船に乗る体験をする（４時間）

〇稚ウニ放流や乗船体験をする。

・稚ウニ放流・乗船体験では吹切守さんから、放流した稚ウニは海で大きくなり３年後に漁獲できるようになることを教えていただいた。そして、実際に船に乗せていただき海へ稚ウニを放流し、沖まで乗船体験を行った。稚ウニの大きさを見て想像していたよりも小さい事に驚く児童や、船に乗った時の揺れや水しぶきに楽しさを感じた児童がいた。初めて経験し思ったことや、楽しかったことなどを絵で表現した。

（関連：図工「たのしかったよドキドキしたよ」）

【稚ウニについての話】

【稚ウニ放流する様子】

【乗船体験の様子】

磯遊びをして宿戸の海の生き物を見つける（４時間）

〇宿戸の海へ行き海で働く人の話を聞き、磯遊びで生き物探しをする。

・磯遊びでは吹切安蔵さんから、海で遊ぶ時の約束や海には様々な生き物がいることを教えていただいた。磯遊びを経験しているため、児童は「１年生の時よりたくさんいる！」「去年はいなかったかも！」など昨年度の学習と関連付けていた。

【磯遊びの様子】

宿戸のすてきをみつけ、伝えたいこと・伝える相手を決める（２時間）

〇グループごとに地域の人や海との関わりで心に残ったことを話し合う。
〇伝えたいことと、伝える相手を決める。
・稚ウニ放流・乗船体験、磯遊びから知り得た情報や発見したことを話し合いながら「宿戸のすてき」を見つけた。生活科「１年生をむかえよう」の活動を結び付けたり、「2年生ではこんなことするんだよというのを教えたい」という意見も出され、伝える相手を１年生に決めた。

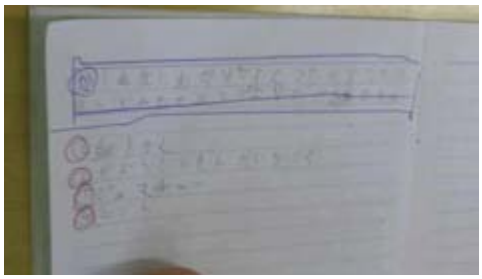
＜主体的に学習に取り組む態度＞［観察・発言］

宿戸のすてきを伝える準備をする（５時間）

〇グループで伝える相手に適した表現方法を話し合う。
〇伝えたい相手に合ったクイズ方法を話し合う。
〇決めた表現方法で作品を作る。
〇作品を見せ合い、工夫した点や、互いの作品のよさを伝え合い、作品を改良する計画を立てる。
・伝えたい相手に合った表現方法についてグループごとに話し合いをした。「１年生をむかえよう」の学習でクイズラリーを行った経験から、クイズ方式で１年生に伝えていく意見が出された。クイズの内容は「磯遊びで１番多くいた生き物は何か」「稚ウニの大きさはどのくらいか」「船に酔った人は何人いたか」「教えてくれた人は誰か」などが出された。１年生に分かりやすく伝えるためにはどんなクイズ方法が良いのかという話し合いでは、「言葉だけだと聞き逃すかも」「字は大きく書く」など、相手意識を持って表現方法を考えている児童たちであった。

＜思考・判断・表現＞［作品・発言・観察］

【グループごとの話し合い・作業の様子】



【グループごとに作ったクイズ】

もっとくわしく調べる（５時間）

〇学級内でクイズ発表をする。

・それぞれのグループで作ったクイズを出し合い、良かったところを互いに見つけ伝え合った。他のグループの良さを真似したり、もっと分かりやすく伝えるために図書館の本を使ったり、地域の人に聞いたりして情報収集をし、作品を改良した。

・学級内でのクイズを出した後「クイズの説明も必要」という考えが出て、話す順序を考えることになった。

宿戸のすてきを伝える（３時間）

〇クイズ発表の練習をする。

〇１年生を招待して発表会をする。

・１年生に向けたクイズ発表を、国語「たからものをしょうかいしよう」と関連付けながら、話す事柄の順序を考え、クイズの内容が聞き手に伝わるようにした。話す内容はグループごとに決めノートにメモをしながら練習をした。練習をする中で「もっとゆっくり話した方がいいね」「相手の顔を見た方がいいよね」などの意見が出され、発表内容を深めていった。

・宿戸の海や人とのかかわりの中で見つけた「宿戸のすてき」を楽しみながら伝えることができた発表会であった。

（関連：国語「たからものをしょうかいしよう」）＜思考・判断・表現＞［発言・記述］

【クイズ発表の様子】

学習を振り返る（１時間）

○１年生からの感想を聞くなどし、今までの活動を振り返る。
・児童からは「大きな声でクイズをすることができた」「１年生のために準備をするのが楽しかった」などの感想が出された他、「１年生の他にも見つけた宿戸のすてきを伝えたい」という意見も出された。
・学習の振り返りから海洋学習発表会につなげていくことになった。

海洋学習発表会（１時間）

○クイズと劇の発表をする。
・宿戸のすてきを伝える相手が保護者になったことで、１年生に向けたクイズとは内容を変えて準備をした。伝える相手を意識し劇も入れた発表にした。クイズだけでなく劇の内容も各グループで考え活動を進めた。

【海洋学習発表会に向けた活動・練習の様子】

【海洋学習発表会本番の様子】

（２）成果と課題

〇体験活動や人とのかかわりから、自分たちの住む地域の特徴を感じ親しみを持って学習することができた。

〇国語や図工と関連させながら、生活科のねらいに沿った単元作りを行うことができた。

〇伝えたい相手を意識した表現方法を考え活動することができた。

△単元の導入時にねらいにつなげるための工夫をしていく指導が必要だった。

△体験活動から発表までの期間が長くなり、児童の意欲の持続が難しかった。

第３学年　総合的な学習の時間学習指導案

日　時　令和２年１１月４日（水）２校時

児　童　男子４名　女子６名　計１０名

指導者　鶴嶋　恵里子

１　単元名　「宿戸の自慢探検　その２：　すごいぞ！　しいたけ」（　１４時間）

２　単元について

（１）教材について

本学年の総合的な学習の時間のテーマは「発見　宿戸自慢探検隊」であり、地域の特産物、３つ(「ウニ」と「しいたけ」と「岡谷神社」)の調査を通して探究活動を行う。子どもたちが挙げた３つのものに関わり合い、本地域の良さを見つけたり、社会に広めたりしていきたいという意欲をもつことができる学習材であると考える。

本単元は、宿戸自慢を探る２つ目である。地域のしいたけ品評会で、すばらしい賞を受賞した方々がいるので、しいたけを学習材として、探究的活動を行う。本地域は、栽培関係者による長年の工夫・努力と、適した気候により優れたしいたけ栽培をしている環境にある。表彰されるための工夫、宿戸（洋野町）の特産物であるしいたけのひみつなどを学び、宿戸の環境（農業）と地域の人々が関係していることを捉え、地域への誇りと愛情を高めるとともに、地域の人の思いや熱意、姿勢など人の生き方を学ぶことをねらいとしている。

（２）児童について

３年生の児童は、宿戸の自慢を３つ挙げている。１学期には、宿戸の自慢の１つ「ウニ」について、「ウニ漁見学」で組合長さんから話を聞いたり、荷捌き場で仕事をする方の姿を見たりすることをきっかけに、さらに調べたい「宿戸のウニに関わる６人」の名人にインタビューを行い、自分がインタビューして理解したことを学級内で伝え合う活動を繰り返し行ってきた。そのため、得た情報を自分で整理し伝えることはできるようになってきた。しかし、友達の考えと自分の考えをつなげて考えたり、共通する事柄を見つけ出したりする活動は、経験の少なさから難しいと感じる児童が多いと思われる。そのため、探究的な学習の過程「整理・分析」については、児童個人では特徴をもとに分類することが困難であると考える。

そこで、課題意識をもち続けながら、洋野町のしいたけの「すごい」を聞いたことをもとに、話し合いの中で、自分と友達の考えで同じところに視点をあて、考えを広げさせていきたい。

（３）指導について

3 年生の総合的な学習の時間を通して、ゲストティーチャーを招いての学習を取り入れ、探究する楽しさや喜びを感じられるようにしたい。

まず、最初に、しいたけの栽培に長けている宿戸の方から、全員で話を聞き、自分たちの身近な生活から興味を基にしいたけに関する理解を深める。次に、それぞれがさらに探究したい「しいたけの内容」に関わる名人にお話を聞き、得た情報を分類したり、関連付けたりさせながら、考えるための技法を意識して学習を行いたい。また、協働的に活動させる中で、表現する力や整理・分析する力を定着させたい。

学習のまとめとして、洋野町の方に向けて「しいたけ自慢ＰＲカード」を書き、相手（お客さん）に（宿戸の）しいたけの自慢を伝える。特産物になっている理由を「すごいひみつ」という視点で考えさせる。どんなことを知りたいか問いをもたせ、主体的にしいたけの自慢やひみつを学ぶことができるようにする。その際、社会「農家の仕事」の単元では、自然条件や地形、気候が人々のくらしと関係していること、各教科

との教科横断的な学習を進めていく。

3　単元の指導計画

（1）単元の目標

・地域の特産であるしいたけのすばらしさのひみつをインタビューする活動を通して、自分たちが生活している地域には様々な方の魅力があることや、宿戸のしいたけ栽培を支える環境や関わる人々の思いや工夫を知ることから、地域に対する誇りや愛情をもつとともに、名人の生き方から思いを感じることができる。

（2）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・宿戸のしいたけ自慢調査（インタビュー）の過程においてしいたけの生態や栽培環境を理解する。 ・しいたけを特産品とするための人々の思いや工夫に気付く。	・地域の特産品の魅力を伝えたいという課題意識を基に、学習計画を立てている。 ・見学やインタビュー等の調査活動によって、しいたけのすごさの情報を収集している。 ・課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができる。 ・相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。	・課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。 ・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学びあおうとする。 主体的・協働的に学び、地域に対する誇りと愛情をもつとともに、自分の学びや生活に生かしていこうとしている。

（3）　単元計画（全14時間／本時11時間）

学習課題 ○主な学習活動　【学習段階】	・指導上の留意点　◇教科等との関連　◆評価規準 ＜観点＞　〔方法〕　※ゲストティーチャー
オリエンテーション ○活動全体の概要を知り、活動の見通しをもつ。（1）	・今までの学習と関連させ、学習への見通しをもつことができるようにする。 ◆3年生の学習内容に関心をもち、学習への問いをもっている。 ◇社会：選択「農家の仕事」8時間 ＜主体的に学習に取り組む態度＞〔記述〕
宿戸のしいたけにはどんなひみつがあるのだろう。 ○宿戸のしいたけのおいしさやたくさんとれる理由について問いをもつ。（1） 【課題設定】	・これまでの学習をもとに知っていることを交流し、特産品であるしいたけに関心をもつことができるようにする。 ◆宿戸のしいたけが立派に育つひみつについて問いをもち、進んで農業や地域に関わろうとしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞〔発言・記述〕

しいたけ栽培場を見学して、宿戸のしいたけのすごいひみつを調べよう。 〇しいたけのひみつを調べる。 ・洋野町パンフレットを見る。(1) ・しいたけ栽培場を見学・インタビューする(1) 【情報の収集】(2)	・しいたけが立派に育つためのひみつについて、生態、栽培など、視点をもって調べることができるようにする。 ◇国語「メモを取りながら話を聞こう」」 ・大事なことを落とさずに聞く ※農業従事者　　高屋敷 幸雄さん ◆調べ学習を通し、しいたけの生態や成長に適した自然環境、働く人々や先人の工夫や努力に気付いている。 <知識・技能>〔発言・記述〕
宿戸のしいたけのすごいひみつについて、メモしたことを整理しよう。 〇これまでの情報を整理、学んだことを振り返る。 【整理・分析】(1)	・成長、自然条件などの視点をもとに、情報を整理し、立派に育つひみつについて自分なりの考えをもつことができるようにする。 ◆学んだことを整理し、しいたけのすごさを考えている。 <思考・判断・表現>〔発言・記述〕
宿戸のしいたけのすごさについて、さらに調べたい内容を考えよう。 〇さらに調べたいしいたけについて次への課題をもつ。 【課題設定】(1)	・自慢を伝えたいという思いをもとに、何を調べるのか、見通しをもてるようにする。 ◆宿戸のしいたけが立派に育つひみつについて、深めたい問いをもち、進んで農業や地域に関わろうとしている。 <主体的に学習に取り組む態度>〔発言・記述〕
宿戸のしいたけ名人の話を聞こう。 〇3人のしいたけ名人の話を聞く。 【情報の収集】(2)	・宿戸のしいたけ農家さん・販売農家さんにインタビューして、必要な情報を収集する。 ◆調べ学習を通し、しいたけの生態や成長に適した自然環境、働く人々や先人の工夫や努力に気付いている。 <知識・技能>〔発言・記述〕
しいたけ名人の話を伝えあい、しいたけについての考えを広めよう。 〇名人ごとにしいたけ名人のひみつを整理・共有する。(1) 〇名人から聞いたことを伝え合い、自分たちが伝えたいしいたけの「すごさ」を決める。 【整理・分析】(2) (本時2／2)	◇国語「調べて書こう、わたしのレポート」 ・調べて分かったことをつたえる。 「『ほけんだより』を読みくらべよう」 ・書き手の工夫を読み取る ・考えるための技法の伝えたいことを「順序付ける」を行うことで、主体的な学びになるようにする。 ・ジグソー法を使って、対話的な 共有できるようにする。 ◆学んだことを整理し、しいたけのひみつを考えている。 <思考・判断・表現>〔発言・記述〕
宿戸のしいたけのすごさをまとめ、伝えよう。 〇宿戸のしいたけのひみつを分かりやすく PR カードに	・相手意識をもち、伝えたい視点を中心にしながら、「名人の言葉・思い」をもとに答え、しいたけが立派に育つひみつを

まとめ、産直で発信する。 【まとめ・表現】(3)	PRカードにまとめることができるようにする。 ◇国語「調べて書こう、私のレポート」」 ◆自分の伝えたいひみつを、相手意識をもって分かりやすくカードにまとめている。 ＜思考・判断・表現＞〔観察・記述〕
宿戸のしいたけのひみつについて振り返ろう。 ○単元を通して学んだこと、考えたことを振り返る。 【振り返り】(1)	・単元を通しての自分の学びを自覚させ、次の学びにつなげる。 ◆学びを振り返り、地域の農業や宿戸の自慢について、新たに考えたり、問いをもったりしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞〔発言・記述〕

4 本時のねらい

インタビューを通して分かったことをもとに、学んだことを比較・分類・関連付けながら協働的に整理し、宿戸のしいたけが立派に育つひみつをとらえることができる。

5 本時の指導計画

配時	学　習　活　動	指導上の留意点 ☆外部連携
5	1 既習を想起し、本時の学習内容につなげる。 ○前の時間までにどんなことを調べてきたか振り返る。 ・宿戸のしいたけ名人にインタビューして、宿戸でとれるしいたけの種類やしいたけの育て方を知った。 ○今日の学習を確かめる。 名人から学んだことをもとに、宿戸のしいたけがすごいひみつを考えよう。	・これまでの学習の振り返りを取り上げることで、思いを共有し活動の見通しをもつことができるようにする。 ・相手に宿戸のしいたけが立派に育つひみつを伝えるという目的・課題を意識させる。
35	2 情報を共有する。 ○それぞれの名人にインタビューした内容をグループの人に伝える。 ・グループ毎に伝え合う。 ・大事だなと思う内容を付箋に書く。 (15 分) 3 情報の比較・分類・整理を個人で考え、グループで話し合う。 ○伝え合いで集めたメモの中で、どんなことを選んで整理すればよいか確かめ、付箋を分類する。(個人：短く) (10 分) 4、調べてきたことを項目に分けて気付いたことを考える。	・ジグソー法で行うことにより、一人一人の伝えたい内容を明らかにできるようにする。また、聞く側も主体的に学習できるようにする。 ・個人での時間を短くすることで、協働的にかかわる時間を設定し、苦手な児童も取り組めるようにする。 ・付箋の内容が何のまとまりのことなのか、意識させることで傾向をとらえやすくする。

	・人々の工夫がなければ宿戸自慢のじまんにならない。 ・いろいろな自慢がある。	◆学んだことを整理し、宿戸のしいたけのひみつを考えている。 ＜思考・判断・表現＞
5	5 本時の振り返りをする。 〇今日の学習で考えたことを振り返る。 〇次時は自慢PRカード作りをすることを確認する。	・しいたけが立派に育つひみつを整理してみて自分はどう考えたかを書かせる。

5　本時の実践

＜成果＞

□導入段階

・　前時までの学習をふり返ることで、これまで個人で整理してきたことを別のグループで活用するという学習の主な流れが分かっており、「しいたけ」について、追求してきた内容を伝えたり、聞いたりして自慢のすごさは何かという課題を意識して学習に入ることができた。

□展開段階

・　それぞれが探究してきた名人のお話を、情報を収集する立場・情報を発信する立場の両方で学習が主体的に進行されるようジグソー法を使って、対話的な活動を位置づけた。その結果、自分が聞いた他の名人から得た情報を意欲的に収集する姿が見られた。また、本時で伝え合い収集した情報を整理・分類することが難しかったことから、次時に整理していく際に、どのような方法で整理していくのか児童に発問した。

・名人ごとに収集した情報を付箋の色で分けることで、整理する場面で似ているものはないか探そう（整理しよう）とする思考のつながりが少しではあるが、見えてくるものがあった。

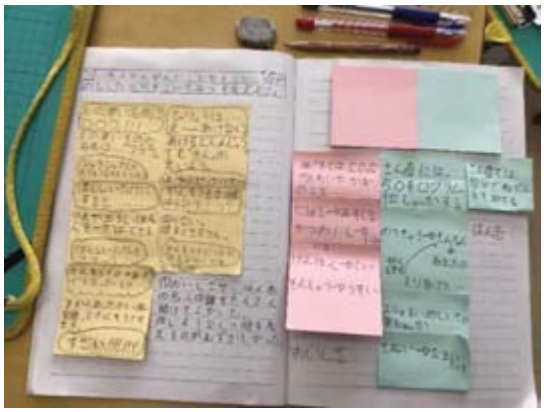
＜本時の児童のつぶやき＞

児童の様子①
名人に聞いた情報をわかりやすく伝えようと、メモを見ながら発信していた。

児童の様子②
　聞き取れなかったからもう一回教えてちょうだい、と主体的に伝え合いや情報収集を行っていた。

＜ジグソー法を用いた伝え合い＞

　このことから、探究的学習を進めていくためには、自分が話を聞いた内容のプロフェッショナルであること、すごいぞと思った内容を伝えるための表現の技法の一つとしてジグソー法という方法を知り、伝えるためにしっかり聞きたいという必要性を感じることができたと考える。また、自分が伝えなければならないという意欲付けに有効性を感じた。



児童の様子③
　名人によって、付箋を色分けすることで、視覚的にわかりやすく、整理分析の時に比べようとする姿が見られた。

□終末段階
　本時の終末では、「学習して分かったこと」という観点で振り返りを行った。

＜振り返りの発言＞

・3人で伝え合うことができたので良かった。
・自分が聞かなかった、しいたけの「育て方」と「おいしさ」が分かった。
・同じ理由（整理分析を意味していると考える）を見つけることが難しかった。

　このことから、「伝え合う」活動を児童も意識して学習に臨んだことが分かった。また、3つの話の内容で活動することにより、しいたけのすごさを共有することができた。

＜課題＞
・学習課題をしいたけの「すごさ」としたが、言葉が抽象的すぎて焦点化されなかった。言葉の吟味が必要であった。
・集めた情報を整理することが指導するねらいであったが、今回得た情報は整理分析できるような内容を書いている児童が少なかった。担任の予想としては、「原木しいたけと菌床しいたけ」に焦点化させれば似ていることと、似ていないことというくくりで、整理分析できるのではないかと考えていたが、時間配分も少なく児童が整理した内容を聞くのみで終わってしまった。
・「伝え合う」活動では、メモをとる活動も取り入れたが、果たしてそれが必要であったか考えることが必要であった。

６　単元の実践記録

（１）活動の様子

単元名「「宿戸の自慢探検　その２：　すごいぞ！　しいたけ」（　１４時間）

課題設定（1時間）

①　宿戸のしいたけのおいしさやたくさんとれる理由について問いをもつ。（1）

・宿戸の自慢として児童が挙げた「しいたけ」について知っていることを書き出した。しかし、知っている情報の数は少なく、実態が分かり、もっと調べたいと声が上がった。そこで、宿戸の高屋敷さんが「しいたけ品評会」で 10 年連続優勝をしていることを提示し、しいたけについて調べていくことを確認した。

情報の収集（2 時間）

①　しいたけ栽培場を見学する。

②　しいたけ名人にインタビューする。

・高屋敷幸雄さんの「しいたけ栽培場」を見学させていただくと、ホダ木がきれいに何千本も並べられていることに驚く。一つのしいたけがとても大きく立派な形をしていることを目にする。インタビューしていると、ハウスの中がとてもひんやりしていることを感じ、これがまさにすごいしいたけを作る工夫というお話を聞いた。最後には、原木しいたけを一人一つずついただいてきた。

整理・分析（1時間）

①　これまでの情報を整理、学んだことを振り返る。

栽培場の見学を通して得た情報の中から、分かったことをノートにまとめた。しかし、はっきりわからなかったことや理解できなかったことが児童から出された。「どうやって、水が足りているか確認するのかな。」「なんで、スーパーで販売しないのかな。」などの内容を知るために、もう一度、インタビューして解決したいということから次の時間の計画を立てた。

課題設定（1 時間）

①　さらに調べたいしいたけについて次への課題をもつ。

高屋敷さんから「育て方」を詳しく聞きたい。宿戸で産直に出荷している人のお話を聞きたい。品評会の最後は味で勝負すると聞いたよ。しいたけのおいしさって何だろう。」などが出されたことから、3つのグループに分かれて、3人の名人にお話を聞くことにした。

情報の収集（2 時間）

① 3人のしいたけ名人の話を聞く。

・3人の名人、高屋敷幸雄さん・うつぼ富蔵さん・高屋敷恵美子さんからは、資料や実物を見せていただきながら、洋野町のしいたけが、なぜ立派に育つのか、なぜすごいのかについての内容を学んだ。「原木しいたけは労力が必要なんだ。」「菌床しいたけとの違いはこういうことなんだ。」など、聞きたいことを確かめることができた。宿戸の人たちだけでなく、洋野町のしいたけ農家さんがみんなで頑張っていることや、東日本大震災がなければ、今年で20連覇になったはずだという言葉を聞き、驚いていた。

整理・分析（2 時間）

① 名人ごとにしいたけ名人のひみつを整理・共有する。（1）

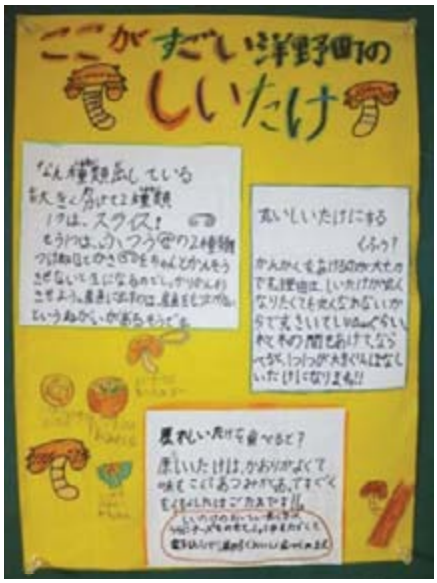
② 名人から聞いたことを伝え合い、自分たちが伝えたいしいたけの「すごさ」を決める。

・グループに分かれて名人にインタビューした内容を整理した。最初は個人で、そのあとはグループに分かれて協働的に活動して「プロフェッショナル」となるために、内容を整理したり、次時の伝え合う活動のために「伝える」ための練習を行った。

まとめ・表現（3 時間）

① 宿戸のしいたけのひみつを分かりやすく PR カードにまとめ、産直で発信する。

・ジグソー法でのグループで PR カードを作成しようと考えていたが、指導していただいたことをもとに、主体的に活動できるようグループの編成を変えた。ジグソー法のメンバーで作成する児童、得た情報の中から伝えたいことを順位づけて作成児童の2つとなった。洋野町のしいたけの良さをつたえるために「ここを伝えたい」「写真を使って工夫を伝えたい」「この言葉に感動したから使いたい」など、それぞれの思いをもち PR カードを作成していた。



振り返り（1 時間）

① 単元を通して学んだこと、考たことを振り返る。

・社会科で学習した洋野町の地域（気候・地形）の特徴が、しいたけ栽培につながっていることに驚いた。5月・6月はやませがあると、寒くなって嫌だったけど、別な見方ができそうだ。

・最初は、高屋敷さん一人がすごいのかと思っていたけど、洋野町しいたけ農家さんがみんなで頑張っていることを知り、すてきだなと思った。

・学習を進めるうちに、スーパーなどのしいたけをじっくりみることが増えた。見た目はとっても似ているけど、見えない部分で違いがあることを心で考えることが増えてきた。

（2）成果と課題

〇この単元も探究する活動を 2 段階（1 次では見学、2 次でさらに探究したいことについて聞く）で実施することで、児童の主体的な思考で進めることができた。

〇宿戸の地域の名人からお話を聞くことで、仕事に対する思いや大変さを感じることができ、キャリア教育とも関連させることができた。

〇実際に、産直に自分たちが作成したＰＲカードを掲示してもらい、しいたけのすごさを伝えるぞ、という高い意欲のまま学習を進めることができた。

〇「伝え合う」ために、得た情報をそのまま話す表現の仕方は合わないことに気付き、プロフェッショナルとなって伝えるための話す方法を見つけることができた。

〇自分たちが住む地域の方に、名人がたくさんいることを分かり、地域のこと、インタビューした人の生き方にも感動していたことから、キャリア教育のねらいも達成できたと考える。

〇これまでの学習を通して、ノートのとり方に工夫がみられるようになった。箇条書きや目立つよう囲みを付けるなど）

■整理分析する力を付けさせたかったが、情報の内容としては適していなかった。わかりやすい内容で思考できるようにしていくことが必要であった。

■児童の次への探究心を大切にし、学習のゴールも主体的に決定させていくことが必要であり、児童の思いを尊重していくことが探究にも大事であった。

■いろいろな思考ツールを活用し、考え方を指導していかなくてはならない。

■自分たちで調べる（インターネット・本）活動は行わず、インタビュー形式で学習を進めてきている。調べる力の育成も必要であると感じる。

産直に掲示してもらった子こどもたちの PR カード

第４学年　総合的な学習の時間学習指導案

日　時　　令和２年１１月４日（水）３校時
児　童　　男子２名　女子６名　計８名
指導者　　今松　尚志

１　単元名　「森と海のつながり調査隊！」
２　単元について
（１）教材について
　本単元では、森と海のつながりについて探究活動を行っていく。森と海のつながりについて調査することをとおして、海でおいしい海産物を採ることができるのは、森があることで可能になっていることを知り、森や海への愛着を深めるとともに自分たちの住んでいる洋野町へ誇りをもつことができる学習材であると考える。
（２）児童について
　児童は、学習への関心意欲が高く、新しいことにも興味をもって取り組むことができる。３年生の総合的な学習の時間では、「宿戸・洋野自慢」や「名人探し隊」などの探究活動をとおして、自分たちが住んでいる地域のよさを学ぶとともに、それらを新聞にまとめる活動を行ってきた。４年生では、「防災マップを作ろう」の探究活動を行い、宿戸学区における津波からの避難の仕方について防災マップにまとめる活動を行ってきた。その中で、課題意識をもって活動したり、インタビューや講義をとおして情報を収集したりすることはできるようになってきた。しかし、収集した情報を整理したり分析したりすることが十分にできない児童も見られた。
　そこで、課題意識をもち続けながら体験や講義などから収集した情報を整理したり分析したりする力を育成していく必要があると考える。

（３）指導について
　本単元では、洋野町の土地としての特徴や海産物について想起し、洋野町でおいしい海産物を採るこがとできるのはなぜなのかを問うことで、植樹体験との活動の結びつきをもつことができるようにする。また、実際に植樹体験を行い初めて知ったことやもっと詳しく知りたいことなどを振り返ることで、これからもっと「森と海のつながり」について調査していきたいという課題意識をもつことができるようにする。
　また、ひろのまきば天文台の台長である阿部俊夫先生や種市南漁協の馬場等さんをゲストティーチャーに招いて情報収集活動を行う。収集した情報を整理・分析していく際には、思考ツールを活用して、比較したり、分類したり、関連付けたりすることができるようにさせたい。さらに、整理・分析した情報を海洋学習発表会で発信することで、森や海への愛着を深めるとともに自分たちの住んでいる洋野町へ誇りをもつことができるようにしていく。

３　単元の指導計画
（１）単元の目標
・　森と海のつながりを調査する活動を通して、海は森によって育まれていることを知り、それらに愛着を深めるとともに、自分たちが生活している洋野町への誇りを高めることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・　「森と海のつながり」と自分たちの生活との関わりに気付いている。 ・　課題解決のために、情報を収集したり、整理・分析したりしながら探究的に課題を解決する力を身に付けている。	・　「どうして洋野町ではおいしい海産物を採ることができるのか」という課題意識をもとに学習計画を立てている。 ・　インタビューや講義などの調査活動によって「森と海のつながり」の情報を収集している。 ・　収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりしながら「森と海のつながり」について自分の考えを整理している。 ・　収集した情報をもとに、「森と海のつながり」が伝わるようにまとめ・表現している。	・　目的や課題意識をもち、既習の知識・技能や振り返りをもとに、どのように学ぶのか見通しをもっている。 ・　共通の目的を達成したり課題を解決したりするために、他者と協働して考えたり活動したりすることを楽しもうとしている。 ・　「森と海のつながり」についての調査をとおして社会での生活に生かそうとしている。

（３）　単元計画　単元名「森と海のつながり調査隊！」（全１７時間　本時８／１７）

学習課題 〇主な学習活動	・指導上の留意点　　◇教科等の関連 ◆評価規準　＜観点＞　［方法］ ※ゲストティーチャー
どうして、洋野町ではおいしい海産物を採ることができるのだろう。 〇洋野町の地形の特徴や海産物について話し合う。 〇「森は巡る」植樹体験を行うことを知る。 〇活動の目的や内容を知り、学習内容の見通しをもつ。課題設定】（１）	・　洋野町の地形の特徴や海産物について話し合う時間を設けることにより「森は巡る」植樹体験の活動との結びつきを意識することができるようにする。 ・　「どうして、洋野町ではおいしい海産物を採ることができるのか。」という問いを投げかけ、植樹体験の中に答えがあるということを確認することにより植樹体験に向けて意欲をもつことができるようにする。 ◆目的や課題意識をもち、既習の知識・技能や振返りをもとに、どのように学ぶのか見通しをもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［発言・観察］ ◇社会科「わたしたちがくらす岩手県」」
植樹体験をしよう 〇「森と海のつながり」についての講義を受ける。【情報収集】（１） 〇植樹体験を行う。【情報収集】（１）	・　活動中に声がけを行うことにより、洋野町でおいしい海産物が採れるひみつについての意識をもつことができるようにする。 ※（有）丸大県北農林 ※ひろのまきば天文台　台長　阿部　俊夫　先生 ◆「森と海のつながり」と自分たちの生活との関わりに気付いている。

	＜知識・技能＞［会話・観察］
植樹体験を振り返ろう。 〇植樹体験を振り返ることを通して、これからもっと森と海のつながりについて知りたいことについて話し合う。 〇学習計画を立てる。 【課題設定】（１）	・　「初めて知ったことは何か」「これからもっと詳しく知りたいこと」という観点を示すことで、森と海のつながりについて、まだ知らないことがあることに気付くことができるようにする。 ・　「解決するためにはどんな方法があるのか」という問いを投げかけることにより、主体的に自分たちで課題解決に向けて見通しをもつことができるようにする。 ◆「どうして洋野町ではおいしい海産物を採ることができるのか」という課題意識をもとに学習計画を立てている。 ＜思考・判断・表現＞［発言・ノート］ ◇国語科「たしかめながら話を聞こう」
「森と海のつながり」についてくわしく聞いてみよう。 〇森と海のつながりについて学ぶ。 〇植樹体験をとおして、海と森のつながりについて、さらに疑問に感じたことや知りたいことをインタビューする。 【情報収集】（２）	・　学級の友達との調査活動だけではなく、阿部先生や馬場等さんから学ぶ場を設けることで、他者と協働的に課題を解決しようとしていくことができるようにする。 ※ひろのまきば天文台　台長　阿部　俊夫　先生 ※宿戸漁港　馬場　等　さん ◆インタビューや講義などの調査活動によって「森と海のつながり」の情報を収集している。 ＜思考・判断・表現＞［観察・発言・ノート］ ◇社会科「水はどこから」 ◇理科「雨水のゆくえと地面の様子」
「海と森のつながり」について整理して、伝え方を決めよう。 〇観点を決める。 〇森と海のつながりについて調べた情報を観点ごとに整理する。（本時） 〇誰に、何を、どのように発表するのか整理・分析する。 【整理・分析】（３）	・　「森」「川」「海」という観点のもと、調べたことを付箋等に書き出し言語分析することで、比較したり関連付けたりしながら情報を整理することができるようにする。 ・　収集した情報の中から、誰に・何を発表するのかを考える時間を設けることにより、相手意識や目的意識の醸成を図ることができるようにする。また、発表の方法を考える時間を設けることにより、目的のためには、どのような方法で発表すればよいのか比較しながら、よりよい方法を考えることができるようにする。 ◆収集した情報を比較したり、関連付けたりしながら森と海のつながりについて自分の考えを整理している。 ＜思考・判断・表現＞［発言・ノート］

	◇国語科「グループにまとめて整理しよう」 ◇国語科「表し方のちがいを考えよう」
校内発表会に向けて発表の練習をしよう。 ○伝えたいことが分かりやすく伝わるように練習をする。 【まとめ・表現】（３）	・　児童同士で教え合いながら練習する場を設けることにより、協働的に課題を解決することができるようにする。 ◆共通の目的を達成したり課題を解決したりするために、他者と協働して考えたり活動したりすることを楽しもうとしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[観察・発言]
中間発表会をしよう。 ○学級の中で中間発表会をする。 【まとめ・表現】（１）	・　中間発表会を行う場を設けることにより、異なる視点から考えが生まれ、新たな課題を立てることができるようにする。 ◆収集した情報をもとに、「森と海のつながり」が伝わるようにまとめ・表現している。 ＜思考・判断・表現＞[観察・発言]
中間発表会の振り返りをしよう。 ○中間発表会をして感じたことを交流し合う。 【課題の設定】（１）	・　前時の中間発表会の振り返りを行うことにより、これまでの活動の学びを自覚するとともに、本番の発表までに修正するべきことを確認することができるようにする。 ◆課題解決のために、情報を収集したり、整理・分析したりしながら探究的に課題を解決する力を身に付けている。 ＜思考・判断・表現＞[発言・ノート]
よりよい発表にするために見直しをしよう。 ○前時の活動を生かして、よりよい発表になるように見直しをする。 【整理・分析】（１）	・　目的を確認して見直しをする時間を設けることにより、主体的な活動をすることができるようにする。 ◆課題解決のために、情報を収集したり、整理・分析したりしながら探究的に課題を解決する力を身に付けている。 ＜知識・技能＞[発言・ノート]
森と海のつながりを全校に発表しよう。 ○在校生と保護者に森と海のつながりを発信する。 ○これまでの活動を振り返り、活動のまとめをする。 【まとめ・表現】（２）	・　海と森のつながりについてまとめたものを発信して、海は森に育まれていることを振り返ることにより、洋野町に対する意識について自己の変容や学びを自覚することができるようにする。 ◆「海と森のつながり」についての調査をとおして社会での生活に生かそうとしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[発言・ノート]

３　本時のねらい

・　森と海のつながりについて調査してきた情報をもとに、協働的に情報を整理・分析することを通して、洋野町でおいしい海産物が採れる理由を考えることができる。

４　本時の指導計画

配時	学　習　活　動	・指導上の留意点
５分	１　前時までを振り返り、活動の見通しをもつ。 〇これまでの活動を写真をもとに振り返る。 〇メモしたことをどうすればよいのか考える。 ２　本時の学習課題を確認する。 メモしたことを整理して、洋野町でおいしい海産物を採ることができる理由を考えよう。	・　これまでの活動を振り返ることで、単元の課題意識をもって活動を行うことができるようにする。 ・　メモしたことをどうすればよいのかを問うことで、単元の課題解決に向けて「整理する」ことの必要感をもつことができるようにする。
33分	３　情報を観点に沿って整理・分析する。 〇グループごとに情報を観点に沿って整理する。 ・　枯れた葉っぱが栄養分になることは「森」だと思う。 ・　小さい川が１５本あることは「川」だと思う。 ・　流れてきた栄養をコンブなどが食べて、そのコンブなどをウニなどが食べることは「海」だと思う。 ４　グループで整理した情報を全体で共有する。 〇グループごとに整理した情報を発表する。 ５　共有したものをもとに理由を話し合う。 〇共有したものをもとにして、洋野町でおいしい海産物を採ることができる理由を話し合う。 ・　森で栄養がつくられて、その栄養が川を流れて海まで届くからおいしい海産物をたくさん採ることができるのだと思います。 ・　鉄が溶けた栄養分をコンブが食べて、そのコンブをウニが食べるから、おいしいウニが採れるのだと思います。	・　整理する時間を観点ごとに分けることで、児童が思考しやすい状況をつくる。 ・　思考ツール（Yチャート）を用いたワークシートを活用することで、思考の可視化を図り児童が主体的に整理・分析することができるようにする。 ・　構造的な板書にすることで、児童が考えを再構成する際の手掛かりとなるようにする。 ・　事実と考えをつなげたり、友達の考えと比較・分類したりする発問をすることで、本時の課題解決に向けた意識をもつことができるようにする。 ◆収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりしながら森と海のつながりについて自分の考えを整理している。 ＜思考・判断・表現力＞［発言・観察］
７分	６　本時の振り返りをする。 〇洋野町でおいしい海産物を採ることができる理由をまとめて、「交流して分かったこと」や「これからやりたいこと」を振り返る。	・　洋野町でおいしい海産物を採ることができる理由をまとめて、「交流して分かったこと」や「これからやりたいこと」という観点を示すことで、本時の学びを自覚するとともに児童の思いを次時の活動へつなぐことができるようにする。

５　本時の実践

＜成果＞

□導入段階

・これまでの単元の学習を振り返ることで、何のために学習しているのか単元の課題を意識して学習に入ることができた。

□展開段階

・思考の可視化を図るために思考ツール（Ｙチャート）を活用した。その結果、収集した多くの情報を観点に沿って分類することができた。また、本時で収集した全ての情報を分類しきれなかったことから、次時に整理していく際に、どのような方法で整理していくのか児童に発問した。

＜次時の児童の発言＞

児童①
　全部は整理できなかったけど､前の時間の時にＹチャートで整理したから多くの情報を分けることができたと思います。

児童②
　海と森と川がキーワードになって、３つに分けていく必要があるから、今日も同じ方法でいいと思います。

＜Ｙチャートを用いた板書＞

　このことから、整理していくために考えていく技法の一つとしてＹチャートという方法を知り、有効性や必要性を感じることができたと考える。

□終末段階

　本時の終末では、「交流して分かったこと」という観点で振り返りを行った。

＜振り返りの発言＞

児童①
　森・川・海に関係がないものだと思っていても、話し合ったら関係するものがあることが分かりました。

　このことから、活動形態をグループから全体に広げたことにより、個人の中では感じることができなかった見方を広げることができたと考える。

＜話し合い場面＞

＜課題＞

・集めた情報を整理するときに、整理する方向性（おいしい海産物が取れるためのひみつ）を再度確認してから活動に入るべきだった。一単位時間の中で児童同士の活動を取り入れつつ、ねらいに迫ることができるように指示のタイミングを吟味していきたい。
・付箋で整理した活動から次の活動に入るときの発問の抽象度が高く、発問としては不十分だった。ねらいに迫る発問を精選していきたい。
・活動の中で児童の意見や考えを受け入れつつ、ねらいとする方向にコーディネートする力を向上していきたい。

６　単元の実践記録

（１）活動の様子

単元名「森と海のつながり調査隊！」（１７時間）

課題設定（１時間）関連教科：社会科「わたしたちがくらす岩手県」

①洋野町の地形や海産物の特徴について話し合う。

②植樹体験の目的や内容を知り、今後の活動の見通しをもつ。

・地形の特徴として、海が近いことや森林が多いこと。海産物の特徴として、ウニやホヤなどのおいしい海産物が取れることを話し合った。植樹体験を行うことを知らせ、植樹とおいしい海産物には何か関係があるのか調査していくことを全体で確認した。

情報収集（２時間）

①森と海のつながりについての講義を受ける。

②植樹体験を行う。

・阿部俊夫先生から、森で作られた栄養分は川や海に流れていくことや洋野町の１５本の川が大きな役割を果たしてくれていること､森が海を育てることなど森と海の深いつながりについて教えていただいた。その後、丸大県北農林の方々に引っ張って抜けないように植えないと冬に抜けてしまうことや大きくなるまでには５０～６０年かかることなどを教えていただきながら、グループに分かれて、カラマツの苗を植えた。

【カラマツの苗を植える植樹体験の様子】

課題設定（１時間）関連教科：国語「たしかめながら話を聞こう」

①植樹体験を振り返り、これからもっと知りたいことについて話し合う。

・植樹体験をとおして得た情報の中から、曖昧な部分や理解できなかったことが児童から出された。「何で１５本の川があることが良いことなのかな？」「葉っぱが栄養分を作るって詳しく分からなかったな。」それらの内容を知るために、もう一度、調査活動が必要ということから次の時間の計画を立てた。

情報収集（２時間）関連教科：社会科「水はどこから」　理科「雨水のゆくえと地面の様子」

①森と海のつながりについて、もう一度確かめたいこと阿部俊夫先生や馬場等さんから学ぶ。

・阿部俊夫先生や馬場等さんからは、資料を使いながら、森と海のつながりについて学んだ。「微生物が栄養を作り出すには大切な存在なのだな。」「洋野町の川は小さいけれど、１５本の川がバランスよく広が

っているから、海に栄養が流れるってことか。」など、聞きたいことを確かめることができたようだった。また、「ウニは食いしん坊で１日にご飯茶碗２０．５杯分も食べるのか！」と新しいことも教えてもらって驚いた表情も見せていた。

【阿部俊夫先生からの講義】

【馬場等さんからの講義】

整理・分析（３時間）関連教科：国語「グループにまとめて整理しよう」「表し方のちがいを考えよう」

①整理するときの観点を決める。
②調べてきたことを観点ごとに整理する。
③誰に・何を・どのように伝えるのか話し合う。

・観点となる言葉を話し合う場面では、『海』『森』という観点が全員から出てきた。数名が『川』も必要だという考えを発表したため話し合うことになった。「川があるから森から海まで栄養が行くのだよ。」「阿部先生が洋野洋の川の特徴を話していたし、必要だと思う。」などの意見が出された。結果、観点は『海』『森』『川』の三つとなった。

・観点ごとに整理する際には、情報量が多いグループもあったが、整理した後には、「僕は森や川、海に関係がない情報だと思っていたけれど、話し合ったら関係するものがあることが分かった。」「私は情報が多ければ良いのではなく、課題解決のための情報を考えないといけないことが分かった。」と話す児童がいた。

【グループごとの整理】

【全体での整理】

・伝える相手の３年生や保護者に対しては、「森と海のつながりを新聞と絵にまとめて発表すると分かりやすいと思う。」という考えに全員が賛成だった。また、「教えてもらった阿部先生や馬場さんも招待したい。」という考えも出たため招待状を作成し、招待することになった。

まとめ・表現（３時間）

①伝えたいことが分かりやすく伝わるように作成し練習をする。

・全体像や色分け、内容や構成、割り付けなど、絵のグループ・新聞のグループに分かれて作成した。完成した後には、それぞれのグループが集まり、絵と新聞をどのように合わせて発表していくのか話し合いを行った。「クイズがあった方が楽しく参加できると思う。」という考えが出てクイズも取り入れることになった。

【どのように発表するか考え中】

【考えた割り付けに沿って書き上げ中】

まとめ・表現（１時間）

①学級の中で発表会をする。

・それぞれのグループで作成したものを持ち寄り、話し合った方法で中間発表会を行った。

課題の設定（１時間）

①中間発表会をして感じたことを全体で話し合う。

・中間発表会を終えた後には、「書いてあることだけだと内容が足りないと思う。」という振り返りが出された。そこで、内容が分かりやすくなるためには、書いたこと以外にメモを作って付け足していくことになった。

整理・分析（１時間）

①中間発表会を終えての話し合いを生かして、よりよい発表になるように見直しをする。

・グループごとに協力して付け足す内容を考えた。その内容をもとに再度、発表をすると、時間が長くなってしまったことから、必要なもの・不要なものを整理する必要があった。「これは、同じことを繰り返していることになるから要らないと思う。」などの意見が出され、まとまった。

まとめ・表現（２時間）

①３年生と保護者に森と海のつながりを発表する。

②これまでの活動を振り返り、活動のまとめをする。

・海洋学習発表会の際には、練習してきた成果を発揮して『森』『海』『川』のつながりがあるからこそ、洋野町でおいしい海産物が取れることを発信することができた。クイズの場面では参加者に笑顔も見られ楽しい発表会となった。

・単元の振り返りの場面では、「ウニがおいしいことは知っていたけど、どうして、おいしいのかまで考えたことはなかった。」「国語で勉強した新聞作りが役に立った。」などの振り返りがあった。

（２）活動の振り返り

〇体験活動や、地域の人材を活用しながら、問題解決に向かうことができた。

〇児童が表現したい方法をもとに３年生や保護者に発信することができた。

△単元導入時の課題意識のもたせ方を工夫していきたい。

△国語についての関わりを振り返りで書く児童もいたが、他教科との関わりについての見方を、ある程度は教師側から促していく必要があると感じた。

第５学年　総合的な学習の時間学習指導案

日　時　令和２年６月１１日（木）２校時

児　童　男子５名　女子５名　計１０名

指導者　大内　智子

１　単元名　「宿戸のウニのひみつとは？」（１５時間）　Ｉ生きる

２　単元について

（１）教材について

本単元では、恵まれた環境によって宿戸がウニの豊富な漁場となっていることや、おいしいウニを安定してとるための工夫など、宿戸の特産物であるウニのひみつを学び、宿戸の環境（水産業、海）と地域の人々が関係していることを捉え、地域への誇りと愛情を高めるとともに、自己の生き方を考えることをねらいとしている。

（２）児童について

５年生の児童は、２年生で「稚ウニ放流」を体験し、３年生で「ウニ漁見学」を行い、宿戸には増殖溝があることや、ウニの生態についても多少の知識ももっている。半分の児童がウニを食べることを苦手としているが、親や親戚など身近な人が水産業に関わっている児童も多く、宿戸の自慢の特産物であるということからも愛着をもっている。しかし、増殖溝などの言葉を知っていても、その歴史や役割を詳しく知っている児童は少ない。そこで、本単元では、宿戸のウニがおいしく育つひみつを知り、ウニの栽培や地域の人々の工夫や努力について視点をあて、探究活動を進めていきたい。

（３）指導について

「宿戸のウニのひみつ新聞」を書き、相手にウニのひみつを伝えるために、どんなことを知りたいか問いをもたせ、主体的にウニのひみつを学ぶことができるようにする。その際、特産物になっている理由を「おいしく育つひみつ」という視点で考えさせる。自分の考えを表現するのが苦手であることや、情報を観点ごとに整理することが初めてとなるため、視点を与え、協働的に活動させる中で、表現する力や整理・分析する力を伸ばしていきたい。また、社会「国土の地形と気候の特色」「自然条件と人々のくらし」の単元では、自然条件や地形、気候が人々のくらしと関係していること、理科「魚のたんじょう」の単元で命の尊さやつながりを学び、各教科との教科横断的な学習を進めていく。海と国土とのつながりが水産業に関わっていることを教科の学習と関連させていく。

３　単元の指導計画

（１）単元の目標

・ウニについて問いをもち、ウニの成長を支える環境や関わる人々の工夫に気付くことができる。

・地域に対する誇りや愛情をもつとともに、自己の生き方を考えることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ウニの生態やとりまく環境を理解し、ウニを特産品とするための人々の思いや工夫に気付いている。	学んだことから必要な情報を整理し、自分の考えをもっている。相手意識や目的意識をもって表現している。	主体的・協働的に学び、地域に対する誇りと愛情をもつとともに、自己の生き方を考えようとしている。

（３）　単元計画（全１５時間／本時１１時間）

学習課題 ○主な学習活動　【学習段階】	・指導上の留意点　◇教科等との関連　◆評価規準 ＜観点＞　〔方法〕　※ゲストティーチャー
オリエンテーション ○活動全体の概要を知り、活動の見通しをもつ。（１）	・今までの学習と関連させ、学習への見通しをもたせる。 ◆5年生の学習内容に関心をもち、学習への問いをもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞〔記述〕
宿戸のウニにはどんなひみつがあるのだろう。 ○宿戸のウニのおいしさやたくさんとれる理由について問いをもつ。（１） 【課題設定】	・これまでの学習をもとに知っていることを交流し、特産品であるウニに関心をもたせる。 ◆宿戸のウニがおいしく育つひみつについて問いをもち、進んで海や地域に関わろうとしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞〔発言・記述〕
水産教室で宿戸のウニのひみつを調べよう。 ○増殖溝やウニ栽培センターを見学したり、本やインターネットで調べたりしてウニのひみつを調べる。 ・水産教室（殻剥き体験・増殖溝見学）（４） ・ウニ栽培漁業センター見学（２） ・本やインターネットで調べる。（１） ・増殖溝について知る。（１） 【情報の収集】（８）	・ウニがおいしく育つためのひみつについて、生態、栽培など、視点をもって調べさせる。 ◇理科「魚のたんじょう」 ◇社会「国土の地形と気候の特色」 「自然条件と人々のくらし」 ◇国語「知りたいことを聞き出そう」 ※漁業従事者　　吹切　守さん ※ウニ栽培漁業センター　箱石　和裕さん ※種市南漁協　　馬場　等さん ◆調べ学習を通し、ウニの生態や成長に適した海洋環境、働く人々や先人の工夫や努力に気付いている。 ＜知識・技能＞〔発言・記述〕
宿戸のウニのひみつについて、メモしたことを整理しよう。 ○学んだことを振り返り、伝えたいウニのひみつを整理する。 【整理・分析】（１）（本時）	・成長、自然条件などの視点をもとに、情報を整理し、おいしく育つひみつについて考える。 ◆学んだことを整理し、ウニのひみつを考えている。 ＜思考・判断・表現＞〔発言・記述〕
宿戸のウニのひみつをまとめ、伝えよう。 ○宿戸のウニのひみつを分かりやすく個人新聞にまとめ、全校やゲストティーチャーの方々に発信する。 【まとめ・表現】（３）	・相手意識をもち、伝えたい視点を中心にしながら、「全校のみんなの質問に答えられ」「GTの方々に合格点をもらえる」ようにウニがおいしく育つひみつを新聞にまとめさせる。 ◇国語「事実と考えを区別しよう」 ◆自分の伝えたいひみつを、相手意識をもって分かりやすく新聞にまとめている。 ＜思考・判断・表現＞〔観察・記述〕

宿戸のウニのひみつについて振り返ろう。 〇単元を通して学んだこと、考えたことを振り返る。 【振り返り】(1)	・単元を通しての自分の学びを自覚させ、次の学びにつなげる。 ◆学びを振り返り、地域の水産業や流通について、新たに考えたり、問いをもったりしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞〔発言・記述〕

3 本時のねらい

調べ学習や見学を通して学んだことを比較・分類・関連付けながら協働的に整理し、宿戸のウニがおいしく育つひみつをとらえることができる。

4 本時の指導計画

配時	学　習　活　動	指導上の留意点 ☆外部連携
5	1 既習を想起し、本時の学習内容につなげる。 〇前の時間までにどんなことを調べてきたか振り返る。 ・水産教室や栽培漁業センターでウニの体のことや、宿戸でとれるウニの種類やウニの育て方を知った。 〇今日の学習を確かめる。 学んだことを整理し、宿戸のウニがおいしく育つひみつを考えよう。	・これまでの見学の写真、ノートにメモしたものをもとに学習を振り返る。 ・相手に宿戸のウニがおいしく育つひみつを伝えるという目的・課題を意識させる。
35	2 情報を比較・分類・整理する。 〇今までの調べたメモの中で、どんなことを選んで整理すればよいか確かめ、付箋に書き出す。 ・おいしく育つひみつ大事な事や相手に伝えたいこと 〇班の中で付箋を関連あるものどうし項目ごとに整理する。 ・3~5年で大きくなることは、「ウニの成長」 ・栽培漁業センターで稚ウニに育てているのは「人々の工夫」だ。 ・昆布が豊富な海であることは「自然条件」だ。 3 整理したものを発表し、学んだことを活用して考える。 〇班ごとに項目ごとに整理したことを発表する。 〇調べてきたことを項目に分けて気付いたことを考える。 ・すべてがつながっていることで宿戸の自慢のウニができる。 ・人々の工夫がなければ宿戸自慢のウニにならない。	・短い言葉で書き出させる。 ・問いを考えた際の項目をもとにさせる。「ウニの成長」「人々の工夫」「自然条件」 ◆学んだことを整理し、宿戸のウニのひみつを考えている。 ＜思考・判断・表現＞
5	4 本時の振り返りをする。 〇今日の学習で考えたことを振り返る。 〇次時は新聞作りをすることを確認する。	・ウニがおいしく育つひみつを整理してみて自分はどう考えたかを書かせる。

５　本時の実践

＜成果＞

□導入段階

・　これまでの学習を壁面の掲示を使って振り返ることで、単元のねらいやまとめ方を確かめ、本時の課題につなげることができた。

□展開段階

・　たくさん情報の中から「おいしいウニになるひみつ」についての情報を選ぶよう確認してから整理分析を行った。また、国語を生かして短くまとめることも確かめた。確かめたことにより、すぐに情報を選び出すことができた。

・　整理分析の観点として、見学や調べ学習の際に子どもたちと考えてきた「ウニの特徴」「人々の工夫」「地形」の３つを与えた。今年度初の整理分析ということもあり、観点を与えることで、その分析に集中することができた。

〈壁面にまとめた単元の流れ〉　〈整理分析の様子〉　〈整理分析結果の発表の様子〉

□終末段階

・　終末では，「話合いで気がついたこと、学んだこと」という観点で振り返りを行った。「おいしいウニはウニの特徴」「人々の工夫・努力」「地形」によってできている」「人々のいろいろな工夫があって、昔から守ってきた人たちの力がある」というふり返りの発言から、宿戸のおいしいウニのひみつを自分なりにとらえることができていた。

＜課題＞

・　整理分析の際、質問や意見が出ないまま授業が進んだ。教師から、分類のしかたについて切り返したり、どこに分類したらよいか分からない付箋を、全体で確認したりするなどの教師からの問いかけがあれば、考えるきっかけを作ることができたと思う。

・　グループでの整理分析後、全体での話合いの際、何を考えていけばよいのかがはっきりしないため、児童が悩み、思考が進まない場面があった。「おいしいウニのひみつで１番大切なのはどれか」などの発問の工夫が必要たった。

６　単元の実践記録

（１）活動の様子

単元名「宿戸のウニのひみつとは？」（１７時間）

オリエンテーション・課題設定（２時間）

①活動全体の概要を知り、活動の見通しをもつ。

②宿戸のウニのおいしさやたくさんとれる理由について問いをもつ。

・　２年生でのウニ放流体験３年生のウニとり見学をふり返り、これまでの学習をもとに知っていることを交

流した。宿戸でウニが特産品になっている理由はおいしいからであることを確認し、そのおいしさやたくさんとれる理由を調べていくことを確認した。

情報収集（８時間）

①水産教室（増殖溝見学・殻剥き体験）を行う。（４）

・　吹切　守さんから宿戸のウニの漁業やウニについて教えていただいた。稚ウニを沖へ放流、３～４年後大きくなったウニを増殖溝に戻す。増殖溝で身入りをよくし、夏にウニをとる。３年生の時に「ウニとり」を学んでいるが、実際に増殖溝を近くで見ることで、どのような溝なのかということや、ウニを育てていることを学ぶことができた。

・　殻剥き体験をすることで、ウニの体のしくみや生態について、本物を見ながら学ぶことができた。また自分でとったウニの殻剥きをすることで、おいしさとその難しさを知り、殻剥きの技術も特産品であるウニにつながっていることを学ぶことができた。

②本やインターネットで調べる。（１）

・　水産教室で新たに出た疑問について、本やインターネットで調べた。ウニについて詳しく書かれた本は少なく、本での調べ学習は難しかった。インターネットがメインとなったが、ウニの生態等内容が難しく、実際に見学したり、詳しい人に聞いたりして調べた方がよい、という子どもたちの声があった。

②ウニ栽培漁業センター見学を行う。（２）

・　稚ウニの栽培について、ウニ栽培漁業センターで教えていただいた。水産教室で、稚ウニはウニ栽培センターからきていることを教えていただいていたので、ウニ栽培漁業センターに見学に行きたいという子どもたちの思いがあった。箱石和裕さんから、稚ウニを育てることで安定して収穫できることや、卵をとって育てていること、育て方などを学んだ。稚ウニだけでなく、アワビの稚貝や稚ナマコを育てていることを知り、岩手の育てる漁業が様々な水産物で行われていることを知ることもできた。

③増殖溝講習会を行う。（１）

・　水産教室で見た増殖溝であるが、その歴史やその仕組みについて、宿戸の地形との関係や人々の思いについて、まだ理解できていなかった。そこで、漁協の馬場等さんに来校していただき、増殖溝の歴史や仕組みについて講習会をしていただいた。増殖溝を作っている貴重な映像を見せていただき、当時の大変さを知るとともに、増殖溝作りへの地域の人々の願いの強さを感じることができた。また、宿戸（種市）の

海岸が遠浅の岩盤であることや、真っ直ぐな海岸であることから増殖溝を作ることができたという地形との関係についても教えていただいた。

整理・分析（１時間）

①宿戸のウニのひみつについて、メモしたことを整理する。

・　課題設定、情報収集と学習を進める中で、宿戸の特産品のウニのおいしさには、「人々の工夫」と「ウニの生態」が関係しているというについて、子どもたちの言葉から出てきた。また、増殖溝講習会を経て、「地形」が大きく関わっているということが確認できたため、観点をこの３つにして整理した。

まとめ・表現（５時間）

①宿戸のウニのひみつを個人新聞にまとめ、全校やゲストティーチャーの方々に発信する。

・　整理したことをもとに、特産品であるウニのひみつを「生態」「地形」「人々の工夫」によるものであることを新聞にまとめた。個人新聞にすることで、自分が１番の秘密だと思うことをトップ記事にすることができた。また、まとめる際には、途中、友達と交流し、疑問や不安なことを確かめながら進めた。

・　書いた新聞は、廊下に掲示し、全校に見てもらうとともに、面談にいらした保護者にも見ていただいた。ゲストティーチャーには感謝としてお届けした。

〈増殖溝講習会の様子〉

〈まとめた個人新聞〉

ふり返り（１時間）

①学びをふり返り、単元を通して学んだこと、考えたことを振り返る。

・　書いた新聞を見合いながら、学んだことやついた力を交流した。特に、情報収集の際には、見学での意欲的な質問の力がついたことを実感していた。実際に見て聞くことの力の大きさを実感した。

・　もっと知りたいこととして、「ウニの他にはどんな水産物がとれるのか」「どのように漁業をしているのか」ということがあがった。出てきた疑問を次の単元「種市の水産業調査隊」につなげた。

その後（４時間）

〇宿戸のウニのひみつを「海洋学習発表会」で保護者や６年生に伝える。

・　１１月の海洋学習発表会では、その後の単元「種市の水産業調査隊」での学びとともに、ウニの栽培漁業について伝えた。

（２）活動の振り返り

〇課題解決に向けて、単元を通してねらいを確認したことで、ねらいからずれずに学習を進めることができた。
〇地域の人材や施設を生かして学習を進めることができた。見学や講習で本物を見たり、聞いたりすることで、学びを深め、なるほどという実感を伴った理解につなげることができた。
△見学学習後は、学校に戻ってから見学で分かったことをメモしたり、まとめたりする時間をとったため、計画以上の時間がかかった。
△他教科との関わりについて教師の見通しが足りなかった。社会の「水産業ではたらく人々」の学習がこの単元の後になってしまったが、事前に学習したかった。単元の入れ替えをすればよかった。

第６学年　総合的な学習の時間学習指導案

日　時　　令和２年６月１１日（木）３校時
児　童　　男子８名　女子５名　計１３名
指導者　　久保田　美佳

１　単元名　「海は世界とつながっている」（２０時間）　Ⅱかかわる

２　単元について

（１）教材について

本単元では、地球または地域の海洋環境の現状と問題点を調べ、それを知ることを通して、地球または地域の海を守るために自分たちができることを考えることをねらいとしている。

（２）児童について

児童は、総合的な学習の時間及び海洋学習に対して意欲的に取り組んでいる。児童は５年生で、水産教室での体験をもとにウニについて調べ、個人新聞にまとめたり、これまでの学習をもとに自分たちの住んでいる地域のよさについてリーフレットにまとめたりするなどの学習に取り組んできた。しかし、学んだことから必要な情報を整理・分析してまとめること、自分の考えを表現することに苦手意識を感じている児童が多く、表現力不足が課題であると考える。

（３）指導について

本単元では、まず、海洋に関する本を読み、そこからわかった地球上の海洋環境の現状と問題点が地域の海洋環境と結びついているのかどうかを考えさせることによって、地域の海洋環境に関する課題を設定させる。そして、調べ学習やＧＴ（ゲストティーチャー）から話を聞く等の情報収集活動を取り入れ、問題と取り組みについての理解を深めていく。学習のまとめでは「自分たちができること」と「洋野町の未来」を考えさせていく。他者へ発信するため、学習の中でグループ、あるいは全体で交流する言語活動を取り入れ、発表する場を確保するとともに表現力を高めていきたい。また、各教科との教科横断的な学習を進めていく。特に、国語科で学んだことを生かして、必要な情報を観点ごとに整理させたり、事実と自分の考えを区別しながらまとめさせたりする。

３　単元の指導計画

（１）単元の目標

・地球規模または自分たちの住んでいる地域の海洋環境を見つめ直すことを通して、海を守るために自分たちができることと宿戸や洋野町の未来を考えることができる。
・地球規模または自分たちの住んでいる地域の海洋環境について考え、自分たちにできることを実践することができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・海洋環境にかかわって、地球規模または自分たちの住んでいる地域の現状と問題点を理解し、自分たちができることと、自分たちの生き方とのかかわりについて気づいている。	・情報を整理し自分の考えをもつとともに、海洋環境を守るために実行可能な方法を考えている。	・主体的、協働的に学んでいる。 ・自分たちの住んでいる地域の海を守るために、考えたり行動したりしている。

（３）　単元計画（全２０時間　本時６／２０）

学習課題 ○主な学習活動　【学習段階】	・指導上の留意点　◇教科等の関連 ◆評価規準　＜観点＞　［方法］ ※ゲストティーチャー
オリエンテーション ○これまでの海洋学習を振り返る。 ○６年生の内容を知り、学習の見通しをもつ。　（１）	・これまでの学習との関連づけを明確にする。 ◆これまでとの関連に気付き、６年生の海洋学習への問いをもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［観察］
海洋ポスターを作ろう ○海洋と環境に関する本を読み、わかったことや友達に伝えたいことを海洋ポスターにまとめる。 【情報収集】（４）	・伝えたいことを２～３つに絞ってポスターにまとめさせる。 ◆海洋環境の現状と問題点に気付いている。 ＜知識・技能＞［記述］ ◇国語「防災ポスターを作ろう」
海洋ポスターから海洋環境について考えよう ○海洋ポスターを交流し、海洋環境の問題を整理する。 【整理・分析】（１）（本時）	・ゴミ０運動を想起させ、地球規模で起きている問題と自分たちの住んでいる地域を結びつけて考えさせる。 ◆海洋環境の現状と問題点を整理し、自分たちの住んでいる地域と関連させて考えている。 ＜思考・判断・表現＞［記述・発言］
自分たちの住んでいる地域の海洋環境はどうなっているのだろう ○自分たちの住んでいる地域について課題意識をもち、学習計画を立てる。 【課題設定】（１）	・地球規模で起きている問題と自分たちの住んでいる地域を結びつけて考えさせる。 ◆主体的に学習計画を立てている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［観察・記述］
自分たちの住んでいる地域の海洋環境について調べよう ○宿戸や洋野町で直面している環境問題やこれまでの取り組み等について調べる。 ○環境教室 【情報収集】（４）	・調べ学習、ＧＴから海の環境問題について学ばせる。（海のゴミ問題、温暖化、水質汚染、生態系の乱れ等） ※種市南漁協 馬場　等さん ※洋野町役場 水産商工課 ※岩手県さけます増殖協会 川崎　光博さん ◆環境問題について気付いている。 ＜知識・技能＞［発言・記述］ ◇理科「生き物のくらしと環境」
わたしたちができることを考えよう ○調べたことを整理・分析し、海を守るために自分たちができることを考える。【整理・分析】（３） ○考えたことをまとめ、学級内で発表し、さらに内容を深める。　【整理・分析】（３）	・これまでの学習から、宿戸や洋野町での取り組みと環境問題とのかかわりについて整理してまとめさせる。 ◆海洋環境を守るために自分たちができることや宿戸・洋野町の未来の水産業について考えている。 ＜思考・判断・表現＞［発言・記述］

	◇国語「町の未来をえがこう」 ◇国語「世界に目を向けて意見文を書こう」
わたしたちの思いを伝えよう ○自分たちの住んでいる地域の海洋環境についてわかったことと自分たちができることや洋野町や宿戸として取り組んでほしいことを発表する。 【まとめ・表現】（１）	・これまでの学習を振り返り、相手意識をもって発表させる。 ◆海を活用し発展してきたふるさとへの誇りをもち、海との共生共存のために自分たちにできることを実践しようとしている。 ＜思考・判断・表現＞［発言・記述］
学習したことをふり返ろう ○自分たちが住んでいる地域の海洋環境を守ろうという意識をもつ。　【振り返り】（１）	・これから自分たちが取り組んでいけそうなことを確認し、意識を高めさせる。 ◆環境を守るために実行できそうなことを考えている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［記述］

３　本時のねらい

海洋ポスターをもとに海洋環境の現状と問題点を整理し、地球上で起きている海洋環境の課題をとらえることができる。

４　本時の指導計画

配時	学　習　活　動	☆外部連携　・指導上の留意点
５分	１　前時の学習をふり返り、学習の見通しをもつ。 ○海洋にかかわる本を読み、海洋ポスターにまとめたことを交流することを確認する。 海洋ポスターを交流し、海洋環境の現状と問題点を整理し、地球上で起きている課題について考えよう。	・自分が何についてまとめたのかを確認させ、聞き手にわかりやすく伝えられるようにする。
３５分	２　海洋ポスターを交流し、海洋環境の現状と問題点を整理する。 ○グループごとに海洋ポスターを交流し、書かれてあることから現状と起きている問題を整理する。 （現状） ・気温や海水温が上がっている。 ・プラスチックごみが海にたくさんある。 ・生き物がプラスチックごみを食べてしまっている。 （問題点） ・地球温暖化 ・海洋ごみ、プラスチックごみ ・排水や排出ガスなどによる海の汚れ ・生き物への影響 ○全体で整理し、確認する。	・海洋環境の現状と問題点について分かったことを付箋に書かせ、それをもとに整理させる。 ・グループで整理したものをまとめながら、全体で整理していく。 ・地球上で起きていることが、自分たちの住んでいる地域ではどうなっているのかについても考えさせる。 ◆海洋環境の現状と問題点を整理し、自分たちの住んでいる地域と関連させて考えている。 ＜思考・判断・表現＞［記述・発言］

５ 分	３　学習を振り返る。 〇学習の振り返りを行い、今後の取り組みへの意欲をもつ。	・海洋環境の現状と問題点を知ってどう感じたのか、また、どう考えたのか書かせる。

５　本時の実践

〈成果〉

□導入段階

・本時の学習の流れを提示することで、スムーズに活動することができた。

□展開段階

・事前に教師が作成したポスターを活用し、整理のしかたを確認したので、１時間の中でポスターの交流と分かったことの整理をすることができた。

・個人で分かったことを付箋にメモし、それを持ち寄ってグループごとに比較・分類をしながら整理をさせた。他者と協力して活動することにより、気付けなかったことにも気付くことができ、学びの深まりが感じられた。また、さらにグループで整理したものを全体で共有することで、現状と問題点を関連付けることができた。

・世界の現状や問題点を確認した後で、自分たちの地域ではどうなっているのかについて考えさせることによって、次の課題をもつことができた。

個人で付箋にメモ

グループでの整理

全体での関連付け

このことから、ポスターを活用して伝え合い、他者と協力して、比較・分類・関連付けをしながら整理・分析することの有効性を感じることができたと考える。また、世界から地域という流れは、児童の思考の流れに合っていて、興味関心意欲をもたせるという点において有効であると考える。

□終末段階

本時の終末では、「現状と問題点を知って感じたことや考えたこと」という観点で振り返りを行った。

〈振り返りの発言〉

児童①

マイクロプラスチックを魚が食べて、それをぼくたちが食べるのはこわいと思いました。なので、ぼくはごみをポイ捨てしないようにして、ゴミを見つけたら拾いたいと思います。

児童②

自分たちに何ができるか考えたいと思いました。

このことから、個が学んだことをグループ、そして全体で整理したことによって、自分事として考え、さらに次につなげることができたと考える。

〈課題〉

・１時間の中で交流と整理・分析まで行ったために、十分な時間が確保できなかった。さらに深めるためにも、交流の時間と整理・分析の時間を分けて取り組むことが必要である。

６　単元の実践記録

（１）活動の様子

単元名「海は世界とつながっている」（３３時間）

課題設定（１時間）

①これまでの海洋学習を振り返る。

②６年生の内容を知り、学習の見通しをもつ。

・これまでに各学年で学習した内容についてふり返り、地域の産業や地形、防災について学習したことを確認した上で、６年生では海洋環境について地球上、地域の順に調べてまとめていくことを確認した。

情報収集（4 時間）

①海洋と環境に関する本を読み、分かったことや伝えたいことを海洋ポスターにまとめる。

・図書室にある海洋学習関連の本の中から、自分が興味をもった本を読み、伝えたいことを２～3 つに絞ってポスターにまとめた。その際には、国語「防災ポスターを作ろう」の学習と関連させて取り組んだ。

整理・分析（３時間）

①海洋ポスターを交流し、海洋環境の問題を整理する。

・海洋ポスターを班ごとに交流し、現状と問題点に分けて整理した。現状としては、環境や生き物に悪影響をあたえている、海面が上昇している、マイクロプラスチックがある、そして、問題点として、地球温暖化、二酸化炭素の濃度、ゴミ問題、プラスチック問題、生き物への影響、体内汚染、自然への影響、砂浜が減っている、などが挙げられ、現在地球上では様々な海洋環境問題が起きていることを確認した。

課題設定（1 時間）

①地球上で起きている海洋環境問題が、自分たちの地域ではどのようになっているのか調べる計画を立てる。

・これまでに調べてきたことを踏まえて、個々に調べてみたいことを考えた。児童からは、ゴミ問題と地球温暖化に関することが出され、まずは地域の方から話を聞くこととした。

情報収集（３時間）

①環境について、川崎光博さんから学ぶ。

②ゴミ問題や地球温暖化について、吹切亮介さんから学ぶ。

・川崎さんからは、海が合成洗剤やゴミ、裸地化した土地から流れ出た土砂などによって汚れてきていること、地球温暖化により海水の温度が上がってきていること、それによって、海洋生物に影響が出ていること、そしてそれが人間にも影響を及ぼしていることなどを教えていただいた。また、吹切さんからは、海洋ごみとしてはプラスチックごみが多く、近隣の地域でもマイクロプラスチックが多く見つかっていること、それが生物や人体に及ぼす影響、改善するためにできることなどを教えていただいた。中でも、マイクロプラスチックが大気中にも存在し、体内に取り込んでしまっていることを知り、児童は非常に驚いていた。

【環境教室】

【吹切亮太さんからのお話】

整理・分析（２時間）

①地域の方の話を聞いて分かったことやさらに調べてみたいことを整理する。

・地域の方から教えていただいたことの中でも、特にマイクロプラスチックに関心をもち、地域のマイクロプラスチック及び海洋ごみについて調べてみることとした。

情報収集（５時間）

①宿戸の浜にゴミ拾いに行き、分別作業を行う。

②戸類家海岸のゴミの分別作業を行う。

・４か月ほど前に全校でゴミ拾いをしたので、浜に着き、予想外のゴミの多さにとても驚いていた。地域の浜をきれいにしたいという思いから、一生懸命に取り組んでいたが、時間や準備していたゴミ袋の枚数の関係で拾い切ることができず、子どもたちは残念に感じていた。ゴミの量は２０L の袋 18 袋分、４５L の袋８袋分となった。分別すると、ペットボトルやプラスチックごみが多く、中には外国の文字が書かれたものも多く見られた。

・戸類家海岸のゴミは４５L の袋７袋分だった。やはり、ペットボトルが多く、外国のゴミも見られた。

・マイクロプラスチックについても調べる予定で宿戸の浜の砂を採取してきたが、肉眼で見分けることが難しく、断念した。

【宿戸の浜のゴミ拾いの様子】

【外国からのゴミ】

【分別作業の様子】

整理・分析（２時間）

①ゴミ拾い・分別の結果からわかったことをまとめる。

②現状を踏まえて、海を守るために自分たちができることを考える。

・ゴミ拾い・分別の結果から、地域でも、地球上で起きている問題と同じ問題が起きていることを実感し、何とかしていかなければいけないという思いをもつことができた。

・国語「町の未来をえがこう」の単元と関連させて学習を進めた。まず、町の未来の姿をイメージし、その未来に近づけるためにできる取り組みについてグループで話し合った。児童が考えた町の未来は、海がきれいな町、生き物が暮らしやすくなる町、生活しやすい町というものだった。そして、そんな姿にするために、さらにゴミ拾いをしたり、呼びかけるポスターを製作したり、作品作り体験をしたりしていけばよいという意見が出された。

まとめ・表現（７時間）

①伝えたいことが分かりやすく伝わるように発表資料と発表原稿を作成し、練習する。

②学級で発表会をする。

・生活・生き物・観光の ３ つのグループに分かれ、海洋学習発表会に向けて、これまでの学びをまとめた。資料を作成するときには伝えたいことがよく伝わるための効果的な資料を選択する、必要なことだけを矢印や吹き出しを使って短くまとめるなどに気をつけながら、苦労してまとめる様子が見られた。また、資料作成後、つながりを考えながら発表原稿を考えた。

・それぞれのグループで作成したものを持ち寄り、中間発表会を行った。

【発表資料作成】

【効果的な資料を選択】

【資料の順序を確認】

【発表練習】

【中間発表会】

整理・分析（1 時間）

①中間発表会をもとに、よりよい発表になるように見直しをする。

・資料の提示のしかたや話し方など、友達から出されたアドバイスをもとに見直しを行い、さらに練習をした。

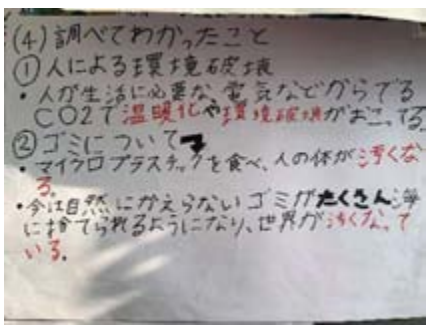
まとめ・表現（3時間）

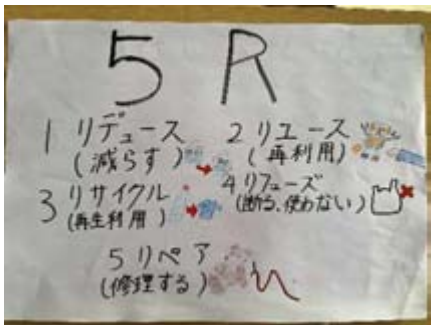
①5 年生と保護者に発表する。

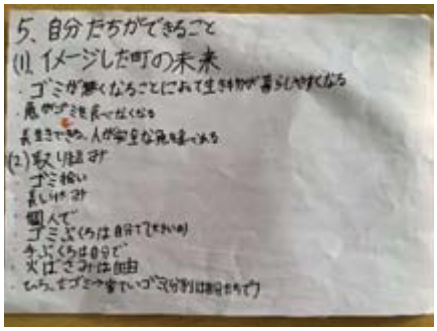
②海洋教育子どもサミットに参加する。

・海洋学習発表会では、時間の関係で 3 グループ同時に発表するポスターセッションの形での発表とした。どのグループも、これまでの学びをしっかりと発信し、これから自分たちにできることを提案することができた。5 年生の発表を聞き、自分たちの学びとのつながりを考えることもできた。

・海洋教育子どもサミットでは、代表児童が自分たちの学びを発信するとともに、他校の取り組みについても聞き、新たな発見をするよい機会となった。







【発表資料】

【サミットでの発表】

【サミット視聴】

ふり返り（1 時間）

①これまでの学びをふり返る。

②代表委員会で「これから取り組みたいこと」を提案する。

・ふり返りでは、地球上で起きている問題が自分たちの地域でも起きていることを知り、海が世界とつながっていることを実感できたり、この問題を改善するために、自分たちが考えたことを実行していく必要性を感じたりする様子が見られた。また、自分たちの学びを様々な人達に発信できたことに達成感が得られた様子も見られた。

・代表委員会で地域の浜の現状を伝え、ゴミ拾いについて提案することができた。

（2）活動の振り返り

〇世界⇒地域の流れにしたことで、児童は問題意識をもち、自分事として考えることができた。

〇教科と関連させながら取り組むことで、まとめ方のイメージをもって活動するとともに、活動時間を確保することができた。

△児童の興味関心に応じた活動ができるように、講師や研究機関等の発掘が必要だと感じる。

洋野町立中野小学校

海洋教育全体計画

関連法規等
日本国憲法　教育基本法
学校教育法　学習指導要領
岩手県教育指導指針
洋野町学校教育目標

海洋教育の４つの視点
○海に親しむ
○海を知る
○海を守る
○海を利用する

海洋教育『ひろの学』
自分たちの生まれ育ってきた地域に愛情と誇りをもち，たくましく生き抜くことができる子どもを育てる。

学校教育目標
○進んで勉強する子ども
○体のじょうぶな子ども
○心のゆたかな子ども
○みんなのためにつくす子ども

海洋教育の目標
「海と人との共生」をテーマとした探究的な学習を通して，持続可能な社会を構築するための資質，能力，態度を育てる。

本校の目指す児童の姿
自分たちの生まれ育った地域を愛し，
地域のためにつくそうとする児童

児童の実態
・明るく素直
・決められたことはきちんとやり抜こうとする。
・よく働く。
・面倒見がよい。
・自主性に欠ける面がある。

父母・教師の願い
・優しさと思いやりをもち，他と協力し合う気持ちを育てたい。
・自分のよさや可能性を伸ばし，自己肯定感を持てる子どもに育てたい。
・目標に向かって前向きに粘り強く取り組もうとする気持ちを育てたい。

◎　育成を目指す資質・能力

探究課題		知識及び技能	思考力・判断力・表現力等				学びに向かう力・人間性等
生活科	〈1，2年〉身近な海のすばらしさ	身近な海のすばらしさに気づいたり親しみをもったりする。	思いや願い：対象との関わりをもとに思いや願いをもつ。	かかわる：対話を通じて気づきの質を高める。気づきや思いを表現する。	ふりかえる：対象との関わり方や自分の成長，よさに気づく。		進んで対象に関わる。自分の成長やよさを自覚し意欲や自信をもつ。
海洋科	〈3，4年〉海のすばらしさと暮らしとの関わり	地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気づく。	課題設定の力：問いをもち，解決方法を考える。	情報収集の力：既習の方法を生かして情報を収集する。	整理・分析の力：情報を整理・分析し自分の考えをもつ。	まとめ・表現の力：目的や相手に応じて分かりやすく表現する。	主体的・協働的に学ぶ。地域に愛情と誇りをもつ。
海洋科	〈5，6年〉海洋環境と自分の生き方	身近な自然環境とそこに起きている環境問題を理解し持続可能な開発と自分たちの生き方との関わりに気づく。	問いをもち，解決の見通しをもつ。	適切な方法を考え，情報を収集する。	情報を整理・分析し自分の考えをもつとともに，実行可能な方法を考える。	目的や相手に応じて根拠をもって表現する。	主体的・協働的に学ぶ。持続可能な開発のために，考えたり行動したりする。

◎　単元計画

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
視点	海に親しむ・海を知る	海に親しむ・海を知る・海を守る	海に親しむ・海を知る	海を知る・海を守る	海を知る・海を守る	海を知る・海を守る
単元名	○水や砂で遊ぼう ○砂浜で遊ぼう ○作ろう遊ぼう中野のたからで	・サケの稚魚放流 ○中野の「すてき」を見つけよう ○中野の「すてき」を伝えよう	○潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう ○有家浜生き物図鑑を作ろう ○私たちの海の名物自慢！	○安心して海と暮らそう ○海につながる有家川はどんな川？ ○山から川へ，そして海へ	○洋野町のウニのひみつとは？ ・有家浜清掃 ・海洋自由研究 ○お帰りなさい，また来てね～洋野町のサケのひみつとは？～	・サケの稚魚放流 ○ウニが危ない！～考えよう，生き物のバランス～ ・有家浜清掃 ・海洋自由研究 ○サケが帰ってこられない！～洋野町の恵みを守るために～ ・卒業論文

指導方法
○体験的活動の重視
○学習内容や狙い，学年実態と関連させた学習形態の工夫
・一斉，グループ研究，個人研究等
○子どもたちの個性を生かした個別指導

指導体制
○担当者や学年会における連絡調整と支援体制の確立
○担任外との連携を密にした授業協力
○地域の関係機関，保護者，地域の方との連携

評価計画
○観点別学習状況を把握するための評価
〈評価の観点〉
①　知識・技能　②　思考・判断・表現　③　主体的に学習に取り組む態度
○作成資料，海洋ノート（3～6年）を活用した評価
○年間指導計画の改善と実施

家庭・地域との連携
○町内海洋関係施設への見学等の要請
○地域の方や団体への協力の要請
○体験活動実施時や移動の際の保護者の協力
○教育委員会，その他専門の知識を持つ方の授業援助

教科との関連
海とかかわる学習内容，技能を横断的総合的に関連させていく。（カリキュラムマネジメントの推進）

1年 生活科単元計画 単元名「なつだ あそぼう」(全14時間)

	○生活科の主な学習活動 【学習段階】	◇教科等の関連　・指導上の留意点 ◆評価規準と＜観点＞
くさばなやむしをさがそう	くさばなであそんだりむしをさがしたりするけいかくをたてよう ○これまでに自分がしたことがある，草花遊びや虫探しを紹介し合う。（1）【思いや願い】	・これまでに自分がした草花遊びや虫探しをした活動を紹介させる。 ◆自分がしたことのある草花遊びや虫探しを紹介する。〈主体的に学習に取り組む態度〉
	くさばなであそぼう ○草花や樹木を利用して遊びを工夫したり，遊びに使う物を作ったりする。（1）【かかわる】	・草花や樹木を利用して遊びを工夫したり，遊びに使う物を作ったりさせる。 ◆夏の草花の特徴を生かして遊んでいる。〈思考・判断・表現〉
	はっけんしたことをつたえよう ○遊びを通して見付けたことを，みんなに発表する。（1）【かかわる】	・遊びを通して見付けたことをみんなに発表させる。 ◆草花や樹木，虫などの自然物の色や形などの特徴を，みんなに発表したり，記録カードにかいたりしている。〈知識・技能〉
みんなのこうえんであそぼう	こうえんにいくけいかくをたてよう ○公園で，どんな遊びをしたいかを話し合う。（1）【思いや願い】	・公園でどんな遊びをしたいか話し合わせる。 ◆身近な公園や施設に関心をもち，みんなで楽しく遊ぼうとしている。〈主体的に学習に取り組む態度〉
	こうえんにいって，ともだちとあそぼう ○友達といっしょに遊ぶ（2）【かかわる】	・公園で遊ぶときの約束を確認する ◆みんなで決めた公園での約束を守って，友達といっしょに遊んだり，公園に来ている人と関わったりしている。〈思考・判断・表現〉
	じぶんたちがしたあそびやきづいたことを，ともだちおしえあおう。 ○自分のした遊びや気付いたことを書く。（1）【かかわる】	・公園はみんなのものであることに意識を向けさせる ◆公園はみんなのものであることを友達と話したり，記録カードにかいたりしている。〈知識・技能〉
みずであそぼう	みずであそぼう ○水を使った夏の遊びについて話し合い，水を使った遊びを考える。（1）【かかわる】	・水と戯れたり，水を利用して遊ぶものを工夫して作ったりしながら，水の性質や不思議さや面白さに気付かせる。 ◆身近にある物を使い，遊びを創り出すことの面白さに気付いている。〈知識・技能〉
	みんなで，みずであそぼう。 ○道具の工夫や安全面を考えながら水で遊ぶ。（1）【思いや願い】	・シャボン玉遊びや水鉄砲に関心をもち，友達と楽しく遊ぼうとしている。 ◆自分のしてみたい遊び方をし，繰り返し試したりしながら，自分なりに工夫して遊んでいる。〈主体的に学習に取り組む態度〉
	すなはまであそぶけいかくをたてよう ○前時の砂場遊びをもとに，どんな砂遊びができるか考え，有家浜での計画を立てる。（1）【思いや願い】	・身近な自然にふれあうことの楽しさや，友達・自分の良さに気付かせる。 ◆海の砂でどんな遊びができそうか話している。〈思考・判断・表現〉
	すなはまであそぼう ○有家浜で海のすなを使いながら自分たちで考えた遊びを実践してみる。（2）【かかわる】	◇国語「絵日記をかこう」 ・砂浜での活動や，海と楽しく関われる自分や友達のよさに気付かせる。 ◆砂を使って楽しく遊べることや遊びを工夫する面白さ，砂の性質の不思議さに気付いている。〈知識・技能〉

2年 生活科単元計画 単元名「なかのの『すてき』を見つけよう」(全13時間)

小単元	○生活科の主な学習計画 【学習段階】	◇教科等の関連 ・指導上の留意点 ◆評価基準と＜観点＞
1 町のことを話そう	○自分が生活している地域の中で，お気に入りの場所や興味のある場所，不思議に思っている場所などを話し合う。(1) 【思いや願い】	・「行ったことがある場所」，「行ってみたい場所」など，児童から地域について知っている情報を引き出す。 ◆身近な地域に関心をもち，自分の知っている場所や興味のある場所について考えを伝え合っている。〈主体的に学習に取り組む態度〉
2 町たんけんの計画を立てよう	○グループごとに探検する順番や探検のマナー，探検先で聞いてみたいことなどを話し合い，計画表に書く。(2)【かかわる】	・安全に探検するためにふさわしい行動や，マナーを全体で確認しながら，探検の見通しを持たせる。 ◆友達と相談しながら探検先への質問や探検のマナー，安全な行動について考え，探検の計画を立てている。 〈思考・判断・表現の基礎〉
3 町たんけんに行こう	○グループごとに探検に出かけ，友達と協力しながら計画に沿って探検し，地域について気付きを深めたり，途中で新たに興味のある場所を見付けたりする。(3) 【かかわる】	・探検先だけでなく，地域を歩いて面白いものや興味のあるものを広げる。 ◆場に応じた行動や安全な行動について考えながら，計画に沿って探検をしている。 〈思考・判断・表現の基礎〉
4 見つけた「すてき」を教え合おう	○探検したことを振り返り，見付けた場所やもの，関わった人のことを絵や文などにまとめ，自分たちが調べてきたことや，新しく見付けたことなどを発表する。(6) 【かかわる】	◇国語「こんなことをしているよ」 ・友達と町探検感想を伝え合うことを通して，もっと詳しく知りたい，身近な人に伝えたいという意欲を喚起する。 ◆地域には様々な場所があることや，多様な人々がいることに気付いている。 〈知識・技能の基礎〉
5 学習をふりかえろう	○町探検の取り組みで，どんな活動をしてきたか振り返り，その中で分かったことや自分ができるようになったこと，新たな問いなど，次時の活動に向けた思いをもつ。 (1)【振り返る】	・活動の様子を撮影しておき，どんな学習をしてきたか想起しやすくする。町探検の取り組みの中で友達の良いところを見つけた児童の考えを学級に広め，一人一人が自分の成長を実感することができるようにする。 ◆活動を振り返り，次時の活動に向けた思いや願いを発表している。 〈主体的に学習に取り組む態度〉

洋野町立中野小学校　第３学年　ストーリーマップ

主な関連機関	内容
種市南漁協	地域の海の生き物を調べる。
有家さけますふ化場	サケについて知る。
岩手県栽培漁業協会	ウニについて知る。

【テーマ】　海洋生物と環境　・地域の海洋生物　・地域の特産

【目　標】　地域の海に親しむ活動を通して，海洋生物や海洋環境について知り，ふるさとの豊かな海に誇りと愛情をもって大切にしていくことができる。

（ア）地域の海洋生物や海洋環境などについて知ろうとしている。【知識・技能】

（イ）地域の海に対する問いをもち，それらを解決する方法を考え，学んだことを分かりやすく伝えようとしている。【思考・判断・表現】

（ウ）地域の海の豊かさに気付き，大切にしていこうとしている。【学びに向かう力・人間性】

【海洋教育の視点】　「海に親しむ」「海を知る」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月
海洋科の活動の流れ	**大単元名「 海はふしぎがいっぱい 」（30時間）**									
	オリエンテーション（1時間） ・海洋学習について知る。 ・学習の見通しをもつ。	**① 潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう（4時間）** ・潮風トレイルの計画を立てる。（1） ・地域の海を散策し，海の様子を知る。（2） ・潮風トレイルをふりかえり，見つけた不思議を全体で共有する。（1）	**② 有家浜生き物図かんを作ろう（12時間）** ・図鑑を作る計画を立てる（1） ・地域にある有家浜で生き物を探し，見つけた生物について詳しく調べる。（4） ・調べたことを整理し，図鑑にまとめる。（4） ・有家浜の生き物を紹介する。（2） ・学習を振り返る。（1）				**③ わたしたちの海の名物じまん！（12時間）** ・学習の計画を立てる。（1） ・洋野町の海の名物を知り，詳しく調べる。（5） ・調べたことを整理し，話し合いで決定した方法でまとめる。（3） ・海の名物じまん（発表会）をする。（2） ・学習を振り返る。（1）		**1年間の学習をまとめよう（1時間）** ・学習したことを振り返り，思いや願い・新たな問い・生かしたいことなどについてまとめ，発表し合い，次年度以降の活動に生かす。
関連	・国語「何をしているのかな」「くらべてみよう」	・国語「メモを取りながら話を聞こう」 ・社会科「わたしたちのまちと市」 ・理科「チョウを育てよう」 ・おにぎりの日	・国語「調べて書こう、わたしのレポート」 ・算数「長いものの長さのはかり方と表し方」 ・理科「トンボやバッタを育てよう」	・国語「インタビューをしてメモを取ろう」 ・社会科「店で働く人と仕事」 ・道徳「ひきがえるとろば」	・海はともだち	理科「こん虫を調べよう」	・総合「しいたけを育てよう」 ・道徳「心をつないだ合言葉」 ・わたしたちの洋野 p34～37，p64，65	・国語「案内の手紙を書こう」 ・おにぎりの日 ・海洋教育子どもサミット	・国語「自分の考えをつたえよう」 ・社会科「わたしたちの市の歩み」 ・海洋教育カンファレンス ・おにぎりの日 ・東大サミット	

3年 海洋科単元計画 単元名「有家浜生き物図鑑を作ろう」(全12時間)

学習課題 ○主な学習活動 【学習段階】	・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準＜観点＞［方法］
有家浜生き物図鑑を作ろう 【課題設定】 ○図鑑を作る計画を立てる。(1)	・潮風トレイルでさまざまな生き物を見つけたことを想起させ，地域の海にいる生き物について詳しく調べ，図鑑を作るという目的意識をもたせる。 ・図鑑を作るために必要な活動を考えさせる。 ◆主体的に計画を立て，図鑑を作るために必要な活動を考えている＜思考・判断・表現＞
有家浜の生き物を調べよう 【情報収集】 ○地域にある有家浜で生き物を探し，見つけた生き物について詳しく調べる。(4)	・生き物探しをするために，必要なことや気を付けることを確かめる。 ・有家浜に行き，生き物を探す。 ・見つけた生き物について，図鑑や本から必要な情報を集めたり，詳しい人に聞いたりして調べる。 ◆安全に気を付けて生き物を探し，さまざまな生き物を見つける。＜知識・技能＞ ◆有家浜の生き物について詳しく知る＜知識・技能＞ ◆有家浜に生息する生き物について，自分なりの方法で調べている。＜思考・判断・表現＞ ◆生き物を大切にしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞ ◇理科「こん虫を調べよう」
調べたことをまとめて，図鑑を作ろう 【整理・分析】 ○調べたことを整理し，図鑑にまとめる。(4)	・調べたことの中から，図鑑に必要な情報を選び，整理してまとめる。 ・絵や写真も取り入れ，見る人が分かりやすい図鑑になるように作る。 ◆相手意識を持って必要な情報を選び，整理してまとめる。＜思考・判断・表現＞
図鑑を紹介しよう 【まとめ・表現】 ○図鑑を見合い，展示する。(2)	・発表相手を決め，相手にふさわしい発表の仕方を考えて発表する。 ◆相手意識をもって発表をしている。＜思考・判断・表現＞
学習を振り返ろう ○学習を振り返る。(1)	◆洋野町の海の良さに気付き，大切にしていこうとしている。＜主体的に学習に取り組む態度＞

洋野町立中野小学校　第４学年　ストーリーマップ

主な関連機関	内容
岩手県県北広域振興局土木部	防潮堤など，防災施設について知る。
久慈地域森林組合	植林体験を通して山の環境が川や海へ影響を与えることを知る。

【テーマ】　水の循環と環境　・防災　・安全　・環境保全
【目　標】　地域の自然について誇りと愛情をもち，環境を守ることができる。
（ア）地域の自然の様子を知り，具体的な行動をしようとする。【知識・技能】
（イ）地域の自然について，体験活動を通して情報を整理・分析したり，分かりやすく伝えようとしたりしている。【思考・判断・表現】
（ウ）地域の自然について意欲的に学び，自分たちができることを考え，行動しようとしている。【学びに向かう力・人間性】
【海洋教育の視点】　「海を知る」「海を守る」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12・1・2・3月
海洋科の活動の流れ	**大単元名「水の旅」（30時間）**								
	オリエンテーション（1時間） ・前学年の海洋学習を振り返る。 ・水はどこからどこへ行くのか考え、問いをもつ。	**① 安心して海と暮らそう（10時間）** ・安全を守る方法について問いをもち，課題解決の方法を考える。(1) ・防潮堤の役割や仕組みについて知る。(2) ・自分で自分の身を守る方法について知る。(1) ・防災施設と自分の身を守る方法を整理・分析する。(1) ・安心して海と暮らす方法をまとめ，相手意識をもって発表する。(4) ・課題に対する思いや願い，実行可能な行動について交流し，自分の命を守ることについての考えを広げ深める。(1)	**② 海につながる有家川はどんな川？（10時間）** ・有家川の水質について問いをもち，課題解決の方法を考える。(1) ・有家川の水質や周りの環境を知る。(4) ・有家川の水質や周りの環境の実態について整理する。(1) ・有家川の環境状況をまとめ，相手意識をもって表現する。(3) ・課題に対する思いや願い，実行可能な行動について交流し，自分の考えを広げ深める。(1)		**③ 山から川へ，そして海へ（8時間）** **※総合2時間** ・海産物が豊富である洋野の海の実態を知る。また，海産物が豊富であるのは，既習を活かして森からの水にひみつがあると考え，問いをもち解決の方法を考える。(1) ・植林体験を通して，植林の意味や森からの水と海の関係について調べる計画をたてる。(1) ・植林によって森の環境を整えることを知る。(2) ・森からの栄養のある水が，海産物にとってよい環境をつくることを知る。(1) ・森と海の関係をもとに，海産物が豊富である理由についての情報を整理・分析し，自分の考えをもつ。(1) ・整理・分析したことについて資料を作成し，相手意識をもって伝える。(3) ・洋野町の自然を守りたい，守らなければならないな			**1年間の学習をまとめよう（1時間）** ・学習したことを振り返り、できるようになったことや感想、新たな問い、生かしたいことなどについてまとめ、発表し合い、次年度以降の活動に生かす。
関連	・算数「折れ線グラフと表」	・国語「ヤドカリとイソギンチャク」「たしかめながら話を聞こう」「みんなで新聞を作ろう」 ・いきる・かかわる・そなえる p48.49 ・社会科「災害からまちを守るために」 ・おにぎりの日	・国語「お願いやお礼の手紙を書こう」 ・理科「雨水のゆくえと地面のようす」	・社会科「水はどこから」	・海はともだち	・社会科「水害にそなえるまちづくり」 ・理科「自然の中の水のすがた」	・学活「災害時の行動」	・おにぎりの日 ・海洋教育子どもサミット	・国語「調べたことを報告しよう」 ・理科「物のあたたまり方」「水のすがたと温度」 ・東大サミット ・海洋教育カンファレンス ・おにぎりの日

4年 海洋科単元計画 単元名「山から川へ，そして海へ」(全8時間 ※総合2時間)

学習課題 ○主な学習活動 【学習段階】	・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準と＜観点＞[方法]
洋野町でたくさんの海産物がとれるのはどうしてだろう。 ○海産物が豊富である洋野町の実態を知る。 ○海産物が豊富である理由を，これまでの社会科や海洋科の学習と関連させながら予想し，自分なりの考えをもつ。 【課題設定】(1)	・洋野町のウニやサケの漁獲量を表した資料をもとに，地域の海では，海産物がたくさん獲れることに気付かせ，学習課題につなげさせる。 ・これまでの学習と関連させながら，理由を考えさせる。 ◇社会科「水はどこから」 ◇海洋科「私たちの海の名物じまん！」(3年) 「海につながる有家川はどんな川？」 ◆洋野町で海産物がたくさん獲れるのはなぜかという問いをもち，これまで学習したことをもとに自分なりの考えをもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[記述・発言]
森と川と海の役割やつながりを調べよう。 ○植林によって，人間が森の環境を整えていることを知る。 ○森からの栄養のある水が，川を流れ海に行くことで海産物にとってよい環境をつくっていることを知る。 ○森や川の汚染が海に与える影響を知る。 【情報収集】(2) 総合「植林体験をしよう」(2)	・植林体験『森は巡る』で体験したことを想起させ，森の役割を考えさせる。 ・森と川と海のつながりについて，本やインターネット，詳しい方へのインタビュー等で調べさせる。 ・畠山重篤さんの「森は海の恋人」を紹介し，言葉の意味を考えさせる。 ・恵まれた環境は人々の努力や工夫によって続いてきたものであり，人々が守っていかなければ，この先も続いていくことは難しいことに気付かせ，自分たちも何か行動しなければならないという必要感をもたせる。 ◇社会科「水はどこから」 ◇海洋科「海につながる有家川はどんな川？」 ◇総合「植林体験をしよう」 ◇洋野町海洋教育事業「植林体験『森は巡る』」 ◆森・川・海のつながりを意識してその関係を調べている。 ◆自然環境と生活に関わりがあることに気付いている。 ◆植林の意味と森からの栄養のある水が海によい影響を与えていることを理解している。 ＜知識・技能＞[観察・記述]

森と川と海の役割やつながりについて，調べたことを整理し，海産物がたくさんとれる理由をまとめよう。 ○森・川・海の役割やつながりについて調べたことをもとに，洋野町で海産物がたくさんとれる理由をまとめる。 【整理・分析】（1）	・仲間に分ける，順序立てる，関連させるなどさまざまな方法を用いて整理させる。 ◆調べたことの中から，必要な情報を選び整理してまとめている。 ＜思考・判断・表現＞[記述・発言]
海産物がたくさんとれる洋野町の自然環境を守るために自分たちにできることを考え，伝えよう ○洋野町の自然環境を守るために，自分たちにできることを考えたり，これからも洋野町のよい環境が続いていくようにという思いや願いをもったりする。 【まとめ・表現】（3）	・地域の豊かな自然環境を守りたいという思いをもたせ，自分たちで実行可能な具体的な取り組みや行動を考えさせる。 ・海に近い地域で暮らす自分たちだけの力では，森の環境を守っていくことは難しいことに気付かせ，伝える相手や伝え方を選ばせる。 ◆自然環境を守ろうという思いをもち，具体的な取り組みや行動を考えている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[記述・観察] ◆目的や相手に応じた伝え方を考えている。 ＜思考・判断・表現＞[発言]
【実行】（時数外）	・考えた取り組みや行動の中から，実行できそうなものに取り組ませる。 ・必要に応じて取り組みシートなどを作成し，活用させる。
学習をふりかえろう ○学習を振り返る。 【振り返り】（1）	・取り組んだ感想を伝え合い，地域の豊かな自然環境をこれからも大切にしていきたいという思いをもたせ，継続的に取り組んでいこうとする意欲を高めさせる。 ◆地域の豊かな自然環境に誇りと愛情をもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[観察・発言]

洋野町立中野小学校　第５学年　ストーリーマップ

主な関連機関	内容
岩手県栽培業業協会	ウニの生態や海洋環境，育てる人々の工夫や努力を知る。
有家さけますふ化場	サケの生態や回遊，水産業の仕組みや海洋環境を知る。

【テーマ】　水産業と環境

【目　標】　・ウニやサケについて問いをもち，探究的な活動を通して，ウニやサケの成長を支える環境や関わる人々の工夫に気付くことができる。
・進んで地域へ関わりながら課題解決をし，地域の特産であるウニやサケを守るために自分ができそうなことを実践することができる。
（ア）ウニやサケの生態やとりまく環境（水産業，海流など）を理解し，ウニやサケが生きることができるようにするための地域の在り方や自己の生き方に気付いている。【知識・技能】
（イ）学んだことから必要な情報を整理し，自己の生き方を考え，相手意識や目的意識をもちながら表現している。【思考・判断・表現】
（ウ）問いをもちながら主体的・協働的に学習活動に取り組み，進んで地域に関わり，自己の生き方を考えようとしている。【学びに向かう力，人間性】

【海洋教育の視点】　「海を知る」「海を守る」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月
海洋科の活動の流れ	大単元名「ぼくたち・わたしたちの海のひみつを探ろう」（30時間）									
	オリエンテーション（1時間） ・前学年の海洋学習を振り返る。 ・5年生の学習内容を知り、見通しをもつ。	① 洋野町のウニのひみつを探ろう（13時間） ・洋野町のウニの漁獲量の多さや美味しさについて問いをもち，学習計画を立てる。(1) ・本やインターネットで調べたり，ウニ栽培センター，増殖溝を見学したりしてウニの秘密を調べる。(5) ・学んだことを振り返り，誰に，何を，どのように伝えるのか考える。(1) ・伝えたいテーマを中心に，ウニ新聞をつくり，ポスターセッションをする。(5) ・本単元の導入時と終末時の自分を振り返り，学習を通して考えたことや学んだことを振り返る。(1)		海洋自由研究（夏休み）	② 洋野町のサケのひみつを探ろう（15時間） ・洋野町のサケの漁獲量の多さや美味しさについて問いをもち，サケを広めるための学習計画を立てる。(1) ・本やインターネットで調べたり，サケマスふ化場を見学したりしてサケの秘密を調べる。(4) ・学んだことを整理し，サケの秘密について伝える内容や伝える方法を考える。(7) ・サケの秘密をリーフレットや紙芝居にまとめ，発表する。(2) ・本単元の導入時と終末時の自分を振り返り，学習を通して考えたことや学んだことを振り返る。(1)			1年間の学習をまとめよう（1時間） ・1年間の学習を振り返り、思いや願い・新たな問い・活かしたいことなどについて考え、次年度の活動につなげる。	海洋自由研究（冬休み）	サケの飼育
関連	・国語「ぼくらのもの」	・国語「一つの言葉から」 ・おにぎりの日	・国語「意見と理由を聞き取ろう」 ・社会「水産業のさかんな地域」 ・わたしたちの洋野 p34～36 ・理科「魚のたんじょう」	・国語「新聞記事を読み比べよう」 ・社会「自然条件と人々のくらし」「水産業のさかんな地域」	・有家浜清掃・ひろのエモーション ・海はともだち	・算数「算数の目で見てみよう」「百分率とグラフ」 ・社会「水産業のさかんな地域」	・社会「水産業のさかんな地域」 ・わたしたちの洋野 p37 ・あたらしい郷土岩手 P48～57 ・理科「魚のたんじょう」「人のたんじょう」 ・総合「自分ができること，復興へ」	・国語「資料を生かして考えたことを書こう」「和の文化について調べよう」 ・社会「水産業のさかんな地域」 ・わたしたちの洋野 p37 ・あたらしい郷土岩手 P48～57 ・理科「流れる水のはたらき」 ・おにぎりの日 ・海洋教育子どもサミット	・社会「生活環境を守る人々」 ・総合「自分ができること，復興へ」 ・いきる・かかわる・そなえる p12，13「海人の心」 ・保健「けがの防止」 ・道徳「アルソミトラの空」 ・図工「じっと見つめてみると」 ・海洋教育カンファレンス ・おにぎりの日 ・東大サミット	

5年 海洋科単元計画 単元名「洋野町のサケの秘密を探ろう」(全15時間)

学習課題 ○主な学習活動 【学習段階】	・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準<観点>〔方法〕
オリエンテーション ○洋野町のサケの漁獲量について知り，洋野町のサケを広めるための学習計画を立てる。 【課題の設定】（1）	・洋野町のサケの漁獲量を表すグラフの考察や，八木漁港見学から問いをもたせる。 ・洋野町のサケを広めるために，「だれに」「何を」「何のために」伝えたいか考えさせる。 ◇社会科「水産業のさかんな地域」 ◇社会科「自然条件と人々のくらし」 ◆洋野町のサケについて問いをもち，進んで海や地域に関わろうとしている。 〈主体的に学習に取り組む態度〉〔発言・記述〕
洋野町のサケの秘密を調べよう。 ○本やインターネットで調べたり，サケマスふ化場を見学したりして，サケの生態や洋野町のサケの特徴について調べる。【情報の収集】（4）	・サケの生態や，洋野町のサケの特徴，関わる人々など，視点をもって調べさせる。 ・サケマスふ化場見学において，実際にサケの様子を見たり，採卵体験をしたりして，実感的に学ばせる。 ◇理科「魚のたんじょう」 ◇算数「ならした大きさを考えよう」 ◆調べ学習を通して，サケの生態や洋野町の水産業，豊かな環境に気付いている。 〈知識・技能〉〔記述・観察〕
目的・相手に合わせた内容や伝える方法を考えよう。 ○グループに分かれ，相手や目的に合わせてどのような方法で伝えればよいか考える。 ① １年生に向けて（来年度の放流のため） ② 洋野町の人たちに向けて ○助言を生かして検討し，まとめる。 【整理・分析】（7）	・サケの疑問について調べたことをもとに，洋野町のサケの特徴を捉え，目的や相手に合わせて情報を整理させる。 ・互いのグループで内容，方法の視点をもとに助言し合い，より分かりやすく伝える方法について考えさせる。 ・助言をもとにグループで十分に検討させ，より分かりやすく伝わる方法で発表準備をさせる。 ◇国語科「和の文化について調べよう」 ◇国語科「問題を解決するために話し合おう」 ◆学んだことを目的や相手に合わせて整理，分析し，適切な方法で伝えようとしている。 〈思考・判断・表現〉〔発言・記述〕
洋野町のサケの秘密を伝えよう ○グループごとにまとめたものを発表する。 【まとめ・表現】（2）	・相手，目的意識をもって１年生への発表や洋野町民へのポスターやパンフレットの配布を行わせる。

	・助言したことを生かして相手グループの発表の際にそれぞれ協力し，自分事として捉えながら発表させる。 ◇国語科「伝えたい，心に残る言葉」 ◆相手意識や目的意識をもってそれぞれのグループでまとめ，表現している。 〈思考・判断・表現〉〔観察・記述〕
洋野町のサケの秘密について振り返ろう ○学習を通して考えたことや学んだことを振り返る。【振り返り】（1） ※３学期にサケの飼育，観察をする。	・本単元の導入時と終末時の知識や考えを比較しながら，本単元での学びを自覚させる。 ・学びをもとに，サケの漁獲量を保ち，守っていくために自分たちができることについて考えさせる。 ◇社会科「水産業のさかんな地域」 ◆学びを振り返り，サケについて考えたり，新たな問いをもったりして，進んで海や地域に関わろうとしている。 〈主体的に学習に取り組む態度〉〔発言・記述〕

洋野町立中野小学校　第６学年　ストーリーマップ

主な関連機関	内容
岩手県栽培漁業組合	ウニ栽培の現状について知る。
有家さけますふ化場	サケの放流，生態や環境問題を知る。

【テーマ】　環境問題と未来

【目　標】　・地域の水産業を見つめ直し，ふるさとに誇りをもつと共に，それを守り活用発展していくために自分たちにできることを考えることができる。
・地域の水産業を通して，地球環境について考え，自分たちにできることを実践することができる。
（ア）水産業のさかんな地域の地形や海流の特徴，歴史的背景や先人の努力などを知ろうとしている。【知識・技能】
（イ）地域の水産業が取り巻かれている地球環境について調べ，起こっている問題やこれからの課題に気付き，それらを分かりやすく発信しようとしている。【思考・判断・表現】
（ウ）海を活用し発展してきたふるさとへの誇りをもち，海との共生共存のために自分たちにできることを実践しようとしている。【学びに向かう力・人間性】

【海洋教育の視点】　「海を知る」「海を守る」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月
海洋科の活動の流れ	**大単元名「　私たちのふるさと洋野　～ 洋野そして世界へ ～」（30時間）**									
	オリエンテーション（1時間） ・前学年の海洋学習を振り返る。 ・6年生の内容を知り、学習の見通しをもつ。	**① ウニがあぶない！ ～考えよう生物のバランス～（10時間）** ・ウニが置かれている問題について課題意識をもち，学習計画を立てる。(1) ・ウニを取り巻く環境の変化を調べ，様々な問題があることを知る。(2) ・ウニがえさを食べる様子や生態について詳しく観察する。(2) ・ウニを守るために自分たちができることを考える。(1) ・学習まとめをリーフレットにまとめ，発信する。(3) ・洋野町の海洋環境を守ろうという意識をもつ。(1)				**③ サケが帰って来られない？ ～洋野の恵みを守るために～（11時間）** ・サケと環境の変化について課題意識をもち，学習計画を立てる。(1) ・サケの生態と地球温暖化との関わりについて調べる。(2) ・洋野町のサケを守るための取り組みをまとめる。(1) ・地元のサケの美味しい頂き方（レシピ）を考え調理する。(3) ・自分たちができることと洋野町として取り組んでほしい未来について考える。(1) ・考えたことをまとめ学級内で発表し，さらに内容を深める。(1) ・自分たちができることと，洋野町として取り組んでいってほしいことを発表する。(1) ・洋野町の海洋環境を守ろうという意識をもつ。(1)		**1年間の学習をまとめよう（1時間）** ・学習したことを振り返り、思いや願い・新たな問い・生かしたいことなどについてまとめ、発表し合う。	
		サケの稚魚を放流しよう（2時間） ・有家川にサケの稚魚を放流する。	**② 個人研究に取り組もう（3時間）** ・個人研究の計画を立てる。(1) ・個人研究に取り組む。(夏休み中) ・中間発表会をする。(2)						**④ 卒業論文を書こう（4時間）** ・卒業論文を書く。(3) ・卒業論文発表会をする。(1)	
関連	・国語科 「気持ちよく対話を続けよう」 「原因と結果に着目しよう」	・国語科 「イースター島にはなぜ森林がないのか」 「友達の意見を聞いて考えよう」 ・理科 「地球と私たちのくらし」 ・おにぎりの日	・理科 「動物のからだのはたらき」 「植物のからだのはたらき」 ・社会科「わたしたちの暮らしを支える政治」 ・道徳科 「チョモランマ清掃登山隊」	・書写「書く速さ」 「インタビューのメモを取ろう」 ・理科「生き物のくらしと環境」 ・社会科 「災害からわたしたちを守る政治」	・理科 「太陽と月の形」 ・音楽科 「われは海の子」 ・海はともだち	・国語 「海のいのち」 ・国語科「話し合って考えを深めよう」 ・理科 「大地のつくり」 ・社会科「新しい時代の幕開け」	・国語科 「町の未来をえがこう」 ・理科 「変わり続ける大地」 ・道徳科 「帰ってきたクニマス」	・国語科「世界に向けて意見文を書こう」 ・おにぎりの日 ・海洋教育子どもサミット	・国語科 「プロフェッショナルたち」 ・理科「地球に生きる」 ・社会科 「地球規模の課題の解決と国際協力」 ・海洋教育カンファレンス ・おにぎりの日 ・東大サミット

6年 海洋科単元計画「私たちのふるさと洋野～洋野そして世界へ～」(全30時間)

学習課題 【学習段階】 ○海洋科の主な学習活動	・指導上の留意点 ◇教科等の関連 ◆評価規準 <観点> [方法]
オリエンテーション ○前学年の海洋学習を振り返る。 ○6年生の内容を知り，学習の見通しをもつ。 (1)	・前年度の学習との関連づけを明確にしてストーリー性のある計画を立てさせる。 ◆前学年との関連に気付き，6年生の海洋科学習への問いをもっている。 <主体的に学習に取り組む態度>[観察・記述]
1.「ウニがあぶない！ ～考えよう生物のバランス～」 ウニが直面している問題とは？ ○ウニが置かれている問題について課題意識をもち，学習計画を立てる。 【課題設定】(1)	・前年度に作成したウニのキャラクターをもとに，最近のウニの課題について知らせ，課題意識をもたせる。 ◆主体的に学習計画を立てている。 <思考・判断・表現>[観察・記述] ◇理科「地球と生き物のくらし」
最近の海の環境を調べよう ○ウニを取り巻く環境の変化を調べ，様々な問題があることを知る。 【情報収集】(2) ウニを育てて観察しよう ○ウニがえさを食べる様子や生態について詳しく観察する。 【情報収集】(2)	・調べ学習，GTから海の環境問題について学ばせる。(海のゴミ問題，温暖化，乱獲，生態系の乱れ等) ・ウニの飼育を通して，ウニが住みやすい環境を作る人々の努力を知り，自分たちでもできることはないか考えさせる。 ◆環境問題について気付いている。 <知識・技能> [発言・記述] ◇理科「動物のからだとはたらき」 「植物のからだとはたらき」 「生き物のくらしと環境」
わたしたちができることは何だろう ○ウニを守るために自分たちができることを考える。 【整理・分析】(1)	・ウニの成長に適した環境を守るために自分でもできることについて考え整理させる。 ◆海洋環境を守り，洋野町のウニを守るために自分たちができることを考えている。 <思考・判断・表現>[発言・記述]
ウニリーフレットを作ろう ○学習まとめをリーフレットにまとめ，発信する。 【まとめ・表現】(3)	・前年度作成のキャラクターに書き加える形で学習をまとめるリーフレットを作り，校報などを通じて保護者や地域に発信させる。 ◆洋野町のウニを守るために自分たちができることや呼びかけたいことを考えている。 <思考・判断・表現>[記述]

ウニと洋野町の環境についてふりかえろう ○洋野町の海洋環境を守ろうという意識をもつ。 【振り返り】（1）	・これから自分たちが取り組んでいけそうなことを確認し，意識を高めさせる。 ◆環境を守るために実行できそうなことを考えている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[観察・記述]
2.「個人研究に取り組もう」 ○個人研究の計画を立てる。（1） ○個人研究に取り組む。（夏休み中） ○中間発表会をする。 （2）	・夏季休業を利用して，５年生からの継続研究に取り組ませる。 ◆問いをもち，それを解決するための方法を考え，取り組んでいる。 ＜思考・判断・表現＞ ＜主体的に学習に取り組む態度＞[記述]
3.「サケが帰って来られない？ ～洋野の恵みを守るために～」 サケが直面している問題とは？ ○サケと環境の変化について課題意識をもち，学習計画を立てる。 【課題設定】（1）	・サケ飼育や遡上の様子を想起し，最近の三陸の魚や，サケの課題について知らせ，課題意識をもたせる。 ・問題に対する仮説を考えさせる。 ◆主体的に学習計画を立てている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・発言]
サケが帰って来られない理由とは？ ○サケの生態と地球温暖化の関わりについて調べる。 【情報収集】（2）	・調べ学習，ＧＴから海の環境問題について学ばせる。（温暖化による海水温上昇や海流の変化等） ◆環境問題について気付いている。 ＜知識・技能＞[発言・記述]
サケを守るための努力とは？ ○洋野町のサケを守る取り組みをまとめる。 【整理・分析】（1）	・今までの学習から，洋野町での取り組みと環境問題との関わりについて整理してまとめさせる。 ◆地域の水産業の取り組みと努力に気付いている。 ＜知識・技能＞[記述]
サケの命のつながりを考えよう。 ○地元のサケの美味しい頂き方（レシピ）を考え調理する。 【整理・分析】（3）	・サケを使った料理のレシピを考えて実際に料理し，命を頂いていることと，恵みを頂くために水産業に関わる人々が努力していることに気づかせる。 ◆地域の水産業のための人々の努力に気付いている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・発言] ◇社会科「世界の人々とともに生きる」 ◇理科「地球に生きる」

洋野町の「ちょこっと未来」を考えよう ○自分たちができることと洋野町として取り組んでほしい未来について考える。 【整理・分析】（1） ○考えたことをまとめ学級内で発表し，さらに内容を深める。 【整理・分析】（1）	・グループで話し合い，自分たちが選んだ方法でプレゼンの準備・発表をさせる。 ◆海洋環境を守り，洋野町のサケを守るために自分たちができることと，洋野町の未来の水産業について考えている。 ＜思考・判断・表現＞[発言・記述]
わたしたちの思いを伝えよう。 ○自分たちができることと，洋野町として取り組んでいってほしいことを発表する。 【まとめ・表現】（1）	・これまでの学習を振り返り，テーマを決めて保護者に向けて発表させる。 ◆海を活用し発展してきたふるさとへの誇りをもち，海との共生共存のために自分たちにできることを実践しようとしている。 ＜思考・判断・表現＞[発言・記述]
学習したことを振り返ろう ○洋野町の海洋環境を守ろうという意識をもつ。 【振り返り】（1）	・これから自分たちが取り組んでいけそうなことを確認し，意識を高めさせる。 ◆環境を守るために実行できそうなことを考えている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[発言・記述]
1年間の学習をまとめよう ○学習したことを振り返り，思いや願い・新たな問い・生かしたいことなどについてまとめ，発表し合う。（1）	◆海を守るためにこれから自分たちができることを考えている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・発言]
4.「卒業論文を書こう」 ○卒業論文を書く。（3） ○卒業論文発表会をする。（1）	・２年間取り組んだ個人研究を卒業論文にまとめさせる。 ◆今後の課題につなげている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[記述]

第１学年　生活科学習指導案

日　時　令和２年７月２日（木）２校時
児　童　男子１０名　女子５名　計１５名
指導者　松浦　ふみか

１　単元名　「なつだ　あそぼう」（東京書籍　あたらしいせいかつ　上）
小単元　「みずであそぼう」

２　指導するにあたって

学習指導要領第１学年及び２学年の目標（２）は，「身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。」である。また，本単元の主たる内容（６）は，「身近な自然を利用したり，身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，遊びや遊びに使うものを工夫してつくることができ，その面白さや自然の不思議さに気付くとともに，みんなと楽しみながら創り出そうとする」である。本単元は，水と戯れたり，遊ぶ物を工夫してつくったりしながら，水の性質や面白さに気付き，地域の海に対する愛着をもって，友達と遊び楽しむことができるようにすることをねらいとしている。

本学級の児童は，入学時から好奇心旺盛で，興味をもって与えられた課題に取り組むことができる。外に出て活動したり物をつくったりするのが好きで，いつも活発に活動している。4，5月には，新型コロナウイルス感染防止のため長期休業があり，児童の活動にいろいろな制限がされ，例年のような学校内や校舎の周りの探検や公園での活動が遅れた。公園では，草花遊びが十分にできず，生き物の少なかった。しかし，限られた環境の中で草花を使って工夫して遊べる児童が数名おり，その児童を中心に遊びが広がっていった。児童は学習に意欲的にではあるが，語彙が不十分で自分の考えを伝えることが難しく，話すのに躊躇してしまったり「忘れました」と発表を途中で中断してしまったりすることがよく見られる。また，長く集中することができない児童が数名おり，教師の指示がないと活動を広げたり継続したりすることはできない。そのため，活動中に「問い」を投げかけ，意識させる声がけが必要である。

学習を進めるにあたり，本校の自然に囲まれた豊かな環境を生かし，学校の周りや砂浜へ出かけ，自然の中で遊びながら季節の変化を感じ取らせていきたい。児童は，自然と直接関わる体験の中で，自然の変化を目で見たり触れたり，新しい発見をしていく。その中で，繰り返し観察して考えを深めたり，疑問をもって調べようとしたり，活動を広げていくと考える。本単元では，草花遊び，水遊び，有家浜での砂遊びを経験している。身近な自然と関わり，それらを利用して遊ぶことを通して，遊びの面白さや自然の不思議さに気付き，みんなで遊びを楽しんだり，自分たちの生活を楽しくしたりすることができるようにしたい。

3　小単元の指導計画

思いや願い	かかわる	振り返る
・くさばなであそんだりむしをさがしたりするけいかくをたてよう	・くさばなであそぼう。 ・はっけんしたことをつたえよう。 ・こうえんにいくけいかくをたてよう。 ・こうえんにいって，ともだちとあそぼう。 ・じぶんたちがしたあそびやきづいたことを，ともだちおしえあおう。 ・しゃぼんだまであそびをしよう。 ・すなはまであそぶけいかくをたてよう。 ・すなはまであそぼう。 ・なかののすてきをつたえよう。	・学習をふりかえろう

単元計画　単元名「なつだ　あそぼう」(8／14)

	○生活科の主な学習活動 【学習段階】	◇教科等の関連　・指導上の留意点 ◆評価規準と＜観点＞
くさばなやむしをさがそう	くさばなであそんだりむしをさがしたりするけいかくをたてよう ○これまでに自分がしたことがある，草花遊びや虫探しを紹介し合う。（1）【思いや願い】	・これまでに自分がした草花遊びや虫探しをした活動を紹介させる。 ◆自分がしたことのある草花遊びや虫探しを紹介する。〈主体的に学習に取り組む態度〉
	くさばなであそぼう ○草花や樹木を利用して遊びを工夫したり，遊びに使う物を作ったりする。（1）【かかわる】	・草花や樹木を利用して遊びを工夫したり，遊びに使う物を作ったりさせる。 ◆夏の草花の特徴を生かして遊んでいる。〈思考・判断・表現〉
	はっけんしたことをつたえよう ○遊びを通して見付けたことを，みんなに発表する。（1）【かかわる】	・遊びを通して見付けたことをみんなに発表させる。 ◆草花や樹木，虫などの自然物の色や形などの特徴を，みんなに発表したり，記録カードにかいたりしている。〈知識・技能〉
みんなのこうえんであそぼう	こうえんにいくけいかくをたてよう ○公園で，どんな遊びをしたいかを話し合う。（1）【思いや願い】	・公園でどんな遊びをしたいか話し合わせる。 ◆身近な公園や施設に関心をもち，みんなで楽しく遊ぼうとしている。〈主体的に学習に取り組む態度〉
	こうえんにいって，ともだちとあそぼう ○友達といっしょに遊ぶ（2）【かかわる】	・公園で遊ぶときの約束を確認する ◆みんなで決めた公園での約束を守って，友達といっしょに遊んだり，公園に来ている人と関わったりしている。〈思考・判断・表現〉
	じぶんたちがしたあそびやきづいたことを，ともだちおしえあおう。 ○自分のした遊びや気付いたことを書く。（1）【かかわる】	・公園はみんなのものであることに意識を向けさせる ◆公園はみんなのものであることを友達と話したり，記録カードにかいたりしている。〈知識・技能〉
みずであそぼう	みずであそぼう ○水を使った夏の遊びについて話し合い，水を使った遊びを考える。（1）【かかわる】本時	・水と戯れたり，水を利用して遊ぶものを工夫して作ったりしながら，水の性質や不思議さや面白さに気付かせる。 ◆身近にある物を使い，遊びを創り出すことの面白さに気付いている。〈知識・技能〉
	みんなでみずであそぼう。 ○道具の工夫や安全面を考えながら	・シャボン玉遊びや水鉄砲に関心をもち，友達と楽しく遊ぼうとしている。

	水で遊ぶ。（1） 【思いや願い】	◆自分のしてみたい遊び方をし，繰り返し試したりしながら，自分なりに工夫して遊んでいる。〈主体的に学習に取り組む態度〉
	すなはまであそぶけいかくをたてよう ○前時の砂場遊びをもとに，どんな砂遊びができるか考え，有家浜での計画を立てる。（1）【思いや願い】	・身近な自然にふれあうことの楽しさや，友達・自分の良さに気付かせる。 ◆海の砂でどんな遊びができそうか話している。〈思考・判断・表現〉
	すなはまであそぼう ○有家浜で海のすなを使いながら自分たちで考えた遊びを実践してみる。（2）【かかわる】	◇国語「絵日記をかこう」 ・砂浜での活動や，海と楽しく関われる自分や友達のよさに気付かせる。 ◆砂を使って楽しく遊べることや遊びを工夫する面白さ，砂の性質の不思議さに気付いている。〈知識・技能〉
	なかののすてきをつたえよう ○気付いたことを発表したり，記録カードに書いたりする。【かかわる】（1）	◇国語「はなしたいな　ききたいな」 ◆砂浜で遊んだことや発見したことをみんなに話したり，記録カードにかいたりしている。〈思考・判断・表現〉
ふりかえろう	学習をふりかえろう（1）【振り返る】	◆学習を通して，感じたことや分かったことをできるようになったことなどに気付かせる。〈主体的に学習に取り組む態度〉

4　本時の学習

（1）　本時のねらい

身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりして，遊びを創り出すことの面白さに気付く。

（2）　展開案

	学習内容　○発問・主な子供の反応	〈手立て〉・留意点　　☆評価
導入 15分	1　2種類の水(水道水・海水)を準備して，クイズを出す。 ○この2種類の水は，どこの水でしょう？ ・臭いを嗅いだり触ったりして予想する。 あ)海水 透明。 べたべたする。 い)水道水 透明。 さらっとしている。 ○この2種類の水は，それぞれ大切な仕事をしています。 どんな仕事でしょう。 あ)海水 魚が生きることができる。 ウニを育てる。 い)水道水	〈手立て1〉水道水と海水を比べ，性質の違いや働きに触れ，「水」といっても種類があることに気付かせる。 ・見たり，嗅いだり，触ったりして「水」に関心をもたせ，意欲を高める。 ・3年生が作った「有家浜図鑑」を見せながら，「海水」は多くの生物の命の水であることに気付かせる。

	飲むことができる。 体をきれいにすることができる。 ○この大切な水を使って，みんなで楽しく遊べる物を作りましょう。 みずをつかったあそびをかんがえよう。	〈手立て２〉「有家浜図鑑」をみて海への関心をもたせる。 ☆水の性質や大切さ，面白さについて発言している（思考・判断・表現）〔発言〕 ・それぞれの水が命を繋ぐ大切な物であること，生活を楽しく豊かにしてくれることを押さえ，遊びを創り出す関心を高める。
活動25分	２ グループごとに遊びを考える。 ○グループごとに遊ぶ相談をする。 ・水鉄砲(遠くに飛ばす・的当て) ・シャボン玉 ○発表タイム ・グループの発表を聞いて感想を言い合う。また，なかなか決まらないグループは，他のグループの発表を参考にして考える。 ○友達の発表を参考にして，改良する。	〈手立て３〉グループで話し合う場を設定する。１グループ３～４人。 ☆身近にある物を使い，遊びを創り出すことの面白さに気付くことができる。（知識・技能）〔発言・観察〕 ・水遊びの道具のイメージが沸くように，ストローや針金，輪ゴム，ペットボトルなど準備しておく。
振り返り５分	３本時の振り返りをする ○今日の学習を振り返って感想を発表しましょう。	・友達の発表を聞いて，「自分もやってみたい」「おもしろそう」という思いをもたせる。 ・次時の活動への意欲を高めさせる。

第２学年　生活科学習指導案

日　時　令和２年７月２日（木）３校時
児　童　男子７名　女子７名　計１４名
指導者　石澤　牧子

１　単元名　「なかのの『すてき』を見つけよう」

２　指導するにあたって

学習指導要領第１学年及び２学年の目標（２）は，「身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分達の遊びや生活をよりよくするようにする。」であり，地域と密接に関わる本校のよさを十分に生かすことができる目標である。本単元の主たる内容（３）は，「地域に関わる活動を通して，地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ，自分達の生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり，それらに親しみや愛着をもち，適切に接したり安全に生活したりしようとする。」である。地域の中で見つけた場所や事象に問いを膨らませたり，新しい発見を積み重ねたりする中で，「問いをもち，主体的に学び続ける子供」を育成していきたいと考える。

本学級の児童は，好奇心旺盛で，学習に意欲的に取り組み，楽しみながら活動する姿が多く見られる。生活科の学習も好み，植物を育てて成長を喜んだり，学校探検，町探検に出掛けたりするなど，自然や地域に触れる活動を経験してきた。研究主題に関わって，児童は「知りたい」「体験したい」という思いを持ちながら体験し，気づいたことや思ったことを伝え合う活動に主体的に取り組むことができる。一方で，一つの活動で考えや意欲が完結してしまうことがある。そのため，何のために活動するのかを確認しながら，次の活動につながる児童の思いや考えを認める声がけが必要である。

そこで，学習を進めるにあたり，地域と密接に関わる本校の特徴を生かし，身近な生活圏にある店や施設に出掛け，地域にはどんな場所があるのかを知る。既に知っている場所でも，そこで働く人にインタビューしたり詳しく見学したりすることを通して，さらに興味関心が高まると考える。探検中に新たに見つけた疑問や思い，別の場所を見学した友達の発表を聞いて得た気付きなども取り上げ，次の活動につなげたい。また，「場所」のみにとらわれず，そこで生活したり働いたりする人の思いに触れることで，地域と自分たちの生活がつながっていることに気付き，よりよく地域と関わっていこうとする姿勢を身に付けられるようにしたい。

３　小単元の指導計画

思いや願い	かかわる	振り返る
・自分が生活している地域の中で，お気に入りの場所や興味のある場所，不思議に思っている場所などを話し合う。	・グループごとに探検する順番や探検のマナー，探検先で聞いてみたいことなどを話し合い，計画表に書く。 ・グループごとに探検に出かけ，友達と協力しながら地域を調べたり，途中で新たに興味のある場所を見付けたりする。 ・探検したことを振り返り，見付けた場所やもの，関わった人のことを絵や文などにまとめ，自分たちが調べてきたことや，新しく見付けたことなどを発表する。本時	・町探検の取り組みで，どんな活動をしてきたか振り返り，その中で分かったことや自分ができるようになったこと，新たな問いなど，次時の活動に向けた思いをもつ。

単元計画　単元名「なかのの『すてき』を見つけよう」(11／13)

小単元名	○生活科の主な学習計画 【学習段階】	◇教科との関連　・指導上の留意点 ◆評価と〈主な資質・能力〉
1 町のことを話そう	○自分が生活している地域の中で，お気に入りの場所や興味のある場所，不思議に思っている場所などを話し合う。(1) 【思いや願い】	・「行ったことがある場所」，「行ってみたい場所」など，児童から地域について知っている情報を引き出す。 ◆身近な地域に関心をもち，自分の知っている場所や興味のある場所について考えを伝え合っている。〈主体的に学習に取り組む態度〉
2 町たんけんの計画を立てよう	○グループごとに探検する順番や探検のマナー，探検先で聞いてみたいことなどを話し合い，計画表に書く。(2)【かかわる】	・安全に探検するためにふさわしい行動や，マナーを全体で確認しながら，探検の見通しを持たせる。 ◆友達と相談しながら探検先への質問や探検のマナー，安全な行動について考え，探検の計画を立てている。 〈思考・判断・表現の基礎〉
3 町たんけんに行こう	○グループごとに探検に出かけ，友達と協力しながら計画に沿って探検し，地域について気付きを深めたり，途中で新たに興味のある場所を見付けたりする。(3) 【かかわる】	・探検先だけでなく，地域を歩いて面白いものや興味のあるものを広げる。 ◆場に応じた行動や安全な行動について考えながら，計画に沿って探検をしている。 〈思考・判断・表現の基礎〉
4 見つけた「すてき」を教え合おう	○探検したことを振り返り，見付けた場所やもの，関わった人のことを絵や文などにまとめ，自分たちが調べてきたことや，新しく見付けたことなどを発表する。(6) 本時　【かかわる】	◇国語「こんなことをしているよ」 ・友達と町探検感想を伝え合うことを通して，もっと詳しく知りたい，身近な人に伝えたいという意欲を喚起する。 ◆地域には様々な場所があることや，多様な人々がいることに気付いている。 〈知識・技能の基礎〉
5 学習をふりかえろう	○町探検の取り組みで，どんな活動をしてきたか振り返り，その中で分かったことや自分ができるようになったこと，新たな問いなど，次時の活動に向けた思いをもつ。 (1)【振り返る】	・活動の様子を撮影しておき，どんな学習をしてきたか想起しやすくする。町探検の取り組みの中で友達の良いところを見つけた児童の考えを学級に広め，一人一人が自分の成長を実感することができるようにする。 ◆活動を振り返り，次時の活動に向けた思いや願いを発表している。 〈主体的に学習に取り組む態度〉

4　本時の学習

（1）本時のねらい

探検で見付けたことの中から，１年生に伝えたいことを相談して，中野の「すてき」を伝え合うことができる。

（2）展開案

	学習内容　　○発問　・主な子供の反応	＜手立て＞・留意点　☆評価
導入　8分	1　既習を振り返り，学習の見通しをもつ。 ○１年生に中野の「すてき」を伝えるために，どんな発表をしたらいいでしょうか。ふみか先生のお話を聞いてみましょう。 ・ゆっくり話す。 ・はっきり話す。 ○みんなが１年生に絶対に伝えたいことは，どんなことでしたか。 ・中野の山をきれいにしたい。 ・おいしいとうふをたべてほしい。 ・おきゃくさんをおしゃれにしたい。 中野の「すてき」をつたえ合おう。	・１年担任の説明により，１年生に伝えるときのポイントを確認する。 ・１年生の写真を示し，相手を意識させる。 ＜手立て１＞１年生の写真提示し，活動の意欲をもたせる。 ・１年生に伝えたいことを確認し，発表を見る際の視点をもたせる。 ＜手立て２＞子どもの思いや願いに基づき活動を進める。
活動　30分	2　地域の良さを伝え合う。 ○いいね，こうするといいよを伝え合いましょう。 ＜内容＞ ・中野の山をきれいにしたい。 ・おいしいとうふをたべてほしい。 ・おきゃくさんをおしゃれにしたい。 ＜方法＞ ・声を大きくしている。 ・ゆっくり話している。 3　グループで１年生に伝えるための発表の改善点を話し合う。 ○１年生に中野の「すてき」を伝えるために，もっとこうしたいというところを探検隊ごとに話し合いましょう。	＜手立て３＞他のグループの発表を聞いて意見を発表する場を設ける。 ・いいねカード，こうしたらいいよカードを準備し，良い点，改善点を発表する意欲をもたせる。 ・「１年生」という相手意識をもとに意見をもっている児童を取り上げ，学級全体に広げる。 ☆探検で見付けたことの中から，１年生に伝えたいことを相談して，中野の「すてき」を伝え合っている。 【思考・表現】 ・板書で意見をまとめ，よりよい発表につなげられるように，確認させる。

振り返り　7分	4　本時の振り返りをする。 ○１年生に「すてき」を伝えられそうですか。 　振り返りカードを書きましょう。	・次時は，１年生に中野の「すてき」を伝えることを伝える。

第３学年　海洋科学習指導案

日時　令和２年９月３０日（水）　３校時
児童　男子０名　女子１０名　計１０名
指導者　野田　健友

１　単元名　「　有家浜生き物図鑑を作ろう　」

２　単元について

（１）教材について

本単元では，前単元「潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう」で見つけた海の不思議の中から，地域の海に生息する生き物に焦点を当て，生き物探しという体験活動を通して，海に親しみをもつとともに，見つけた生き物の図鑑をつくることで，同じ海に生息する生き物でも，さまざまな点で違いがあるという生物の多様性に気付かせることをねらいとしている。また，図鑑を作るために必要な情報を集めたり，見る人を意識した構成を考えたり，発表したりすることで，課題解決の手段や情報整理の仕方，表現の工夫などの学び方を身につけさせるとともに，たくさんの生き物がいる地域の海のよさを実感し，地域の海を大切にしていこうとする心情を持つことができるようになると考える。

（２）児童について

本校では，第３学年から海洋科に取り組んでいる。海がある地域に暮らす児童ではあるが，実際に海に入って遊んだり，海の生き物に触ったりという経験は多くない。しかし，目的をもって海と関わりはじめたことで，自分たちの地域の海を身近に感じられるようになり，海洋科の学習にも意欲的に取り組んでいる。前単元「潮風トレイルで海の不思議を見つけよう」では，地域の海の海岸線を約１．５ｋｍに渡って歩き，たくさんの発見をした。海の生き物をはじめ，海の様子，風や潮のにおい，砂の感触や色，海に関する施設，海のゴミなどを実際に五感で感じ，海に対しての興味や，自分なりの問いをもつことができた。

（３）指導について

前単元で児童から生まれた問いをもとに課題を設定することで，海洋科の学習の導入期でもある３年生の児童に，海を自分たちにとって身近なものとして捉えさせ，自ら海に関わっていくことができるようにしたい。来年度の３年生の生き物探しに役立ち，海洋科の学習について教えてくれた４年生に学習の成果を伝えられる図鑑をつくるという相手意識を持たせ，本やインターネットなどで集めた情報の取捨選択や，掲示・発表の工夫を行わせたい。

３　単元の指導計画

（１）単元の目標

有家浜に住む生き物の図鑑を作る活動を通して，海洋生物や海洋環境について知り，ふるさとの豊かな海に誇りと愛情をもって大切にしていくことができる。

（2）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生き物がいそうな場所を予想して探し，さまざまな方法で生き物を採集している。 ・有家浜の生き物について詳しく知ることができている。	・有家浜に生息する生き物について，自分なりの方法で調べている。 ・必要な情報を選び，整理してまとめている。 ・相手意識をもって発表をしている。	・生き物や海の環境を大切にしている。 ・洋野町の海の良さに気付き，大切にしていこうとしている。

（3）単元計画　単元名「有家浜生き物図鑑を作ろう」（全　１２時間　本時　7/１２）

学習課題 ○主な学習活動　【学習段階】	・指導上の留意点 ◇教科等の関連◆評価規準＜観点＞［方法］
「有家浜生き物図鑑を作ろう」 １有家浜生き物図鑑を作ろう 【課題設定】 ○図鑑を作る計画を立てる。（１）	・潮風トレイルでさまざまな生き物を見つけたことを想起させ，地域の海にいる生き物について詳しく調べ，図鑑を作るという目的意識をもたせる。 ・図鑑を作るために必要な活動を考えさせる。 ◆主体的に計画を立て，図鑑を作るために必要な活動を考えている＜思考・判断・表現＞
２有家浜の生き物を調べよう 【情報収集】 ○地域にある有家浜で生き物を探し，見つけた生き物について詳しく調べる。（４）	・生き物探しをするために，必要なことや気を付けることを確かめる。 ・有家浜に行き，生き物を探す。 ・見つけた生き物について，図鑑や本から必要な情報を集めたり，詳しい人に聞いたりして調べる。 ◆安全に気を付けて生き物を探し，さまざまな生き物を見つける。＜知識・技能＞ ◆有家浜の生き物について詳しく知る＜知識・技能＞ ◆有家浜に生息する生き物について，自分なりの方法で調べている。＜思考・判断・表現＞ ◆生き物を大切にしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞ ◇理科「こん虫を調べよう」
３調べたことをまとめて，図鑑を作ろう 【整理・分析】 ○調べたことを整理し，図鑑にまとめる。（４） ４年生と来年度の３年生に伝えるために，調べたことの中から，図鑑に載せる情報を選ぼう。	・調べたことの中から，図鑑に必要な情報を選び，整理してまとめる。 ・絵や写真も取り入れ，見る人が分かりやすい図鑑になるように作る。 ◆相手意識を持って必要な情報を選び，整理してまとめる。＜思考・判断・表現＞

（4）図鑑を紹介しよう 【まとめ・表現】 ○図鑑を見合い，展示する。（2）	・発表相手を決め，相手にふさわしい発表の仕方を考えて発表する。 ◆相手意識をもって発表をしている。＜思考・判断・表現＞
（5）学習を振り返ろう ○学習を振り返る。（1）	◆洋野町の海の良さに気付き，大切にしていこうとしている。＜主体的に学習に取り組む態度＞

4　本時の学習

（1）本時の目標

調べたことの中から，図鑑に必要な情報を整理し，選ぶことができる。

（2）展開案

時間	学習内容　○発問　・主な子供の反応	＜手立て＞・留意点◆評価規準＜観点＞［方法］
10分	1　調べたことを発表する。 ○前時までに調べた項目を確認しましょう。 ・形・色・大きさ・食べ物・餌 ○新しく調べた情報を発表しましょう。 4年生と来年度の3年生に伝えるために，調べたことの中から，図鑑に載せる情報を選ぼう。	・前時までに調べた項目を確認する。 ・4年生に学習したことを報告することと，来年度の3年生の生き物探しに役立つ図鑑を作ることを確認する。
15分	2　図鑑に載せる，必要な情報を考える。 ○4年生と来年度の3年生に見てもらう図鑑に載せたほうがいい，又は，載せたい情報を考えましょう。 ［役立つ情報］・名前・大きさ・形・色・住処など ［新しい情報］・捕食関係・分布・生き物の特質など	＜手立て（3）＞生き物探しに役立つ情報と，4年生の作った図鑑を参考に，さらに自分たちが新しく調べた情報を載せることを考える基準にし，図鑑に載せる情報を選ばせる。 ・選ぶことが難しい児童には，友達の考えを参考にするように促す。 ・選んだ項目と理由をワークシートに記入させる。
15分	3　全体で交流する。 ○図鑑に載せる情報と，理由を発表しましょう。 ○聞きたいことがあったら質問しましょう。	・図鑑の目的と合った内容を選べているかという視点で交流させる。
5分	4　図鑑に載せる情報を確認する。 5　本時の振り返りをする ○今日の学習で学んだことや感想，図鑑作りへの意気込み，新たな疑問などを書きましょう。	・次時，図鑑を作ることを確認する。 ◆自分が調べたことを整理し，相手意識を持って，図鑑に載せる情報を選んでいる。 ＜思考・判断・表現＞ ［観察・記述・発言］

第４学年　海洋科学習指導案

日　時　令和２年１１月１９日（木）２校時
児　童　男子６名　女子４名　計１０名
指導者　藤根　咲樹

１　単元名　　「　山から川へ，そして海へ　」

２　単元について

（１）教材について

洋野町は，ウニやサケといった海産物が豊富なことで有名である。その一因となっているのが，森から流れ出る栄養のある水であると考えられており，洋野町は全体で１５の河川が海に流れ出る非常に恵まれた環境となっている。本単元では，山から川，海へと流れる水の循環の視点から，地域が豊かな自然環境となっていることに誇りをもつとともに，人々の生活と関わりの大きい地域の環境を守るために，児童が実行可能な行動を考えていくことをねらいとしている。

（２）児童について

社会科「水はどこから」では，水が水源となる山の森林から川，海へと流れ，蒸発して再び山に降るという水の循環やその水が人々の生活用水として利用されていることを学んだ。また，海洋科「海につながる有家川はどんな川？」では，児童にとって最も身近な河川である「有家川」の水質を調査し，生息する水生生物の種類から，きれいな水が海へ流れていることを理解した。しかし，空き缶やプラスチック類などのごみが落ちているという残念な事実を知ることにもなった。このことから，単元の終末には，「もし有家川の水が汚れていたらどうなるのか」という新たな問いをもち，「海が汚れ，ウニがとれなくなる」「栄養がなくなり，魚のえさがなくなる」など海とのつながりを意識した自分なりの予想を立てている。

（３）指導について

水を視点とした山・川・海のつながりを調べることで，洋野町で海産物が豊富にとれる理由に気付かせたい。洋野町が恵まれた環境にある一方で，水質汚染等により海洋生物にとってよくない環境の地域もあることを，実際にある地域の例をもとに知らせることで，多様な見方・考え方を広げていきたい。また，恵まれた環境は，人々の努力があって守られていることにも気付かせ，自分たちの生活と関わりのある自然環境を守りたいという思いをもたせたい。そして，自分にできることを具体的に考えさせたい。

３　単元の指導計画

（１）単元の目標

・山・川・海のつながりを調べることで，洋野町で海産物が豊富にとれる理由を考えることができる。
・地域の豊かな自然環境に誇りと愛情をもち，それらを守るために自分にできることを具体的に考えることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地域の山や川，海がよい環境となっていることを理解している。 ・自然環境と生活に関わりがあることに気付いている。	・収集した情報の中から，必要なものを選び，整理してまとめている。 ・目的や相手に応じて分かりやすくまとめたり，表現したりしている。	・主体的・協働的に学び地域の豊かな自然環境に誇りと愛情をもっている。 ・自然環境を守るためにできることを具体的に考えている。

（3）単元計画　単元名「山から川へ，そして海へ」（全８時間　※総合２時間　本時５／８）

学習課題 ○主な学習活動　【学習段階】	・指導上の留意点　◇教科等の関連 ◆評価規準と＜観点＞[方法]
「山から川へ，そして海へ」 洋野町でたくさんの海産物がとれるのはどうしてだろう。 ○海産物が豊富である洋野町の実態を知る。 ○海産物が豊富である理由を，これまでの社会科や海洋科の学習と関連させながら予想し，自分なりの考えをもつ。 【課題設定】（1）	・洋野町のウニやサケの漁獲量を表した資料をもとに，地域の海では，海産物がたくさん獲れることに気付かせ，学習課題につなげさせる。 ・これまでの学習と関連させながら，理由を考えさせる。 ◇社会科「水はどこから」 ◇海洋科「私たちの海の名物じまん！」（3年） 「海につながる有家川はどんな川？」 ◆洋野町で海産物がたくさん獲れるのはなぜかという問いをもち，これまで学習したことをもとに自分なりの考えをもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[記述・発言]
森と川と海の役割やつながりを調べよう。 ○植林によって，人間が森の環境を整えていることを知る。 ○森からの栄養のある水が，川を流れ海に行くことで海産物にとってよい環境をつくっていることを知る。 ○森や川の汚染が海に与える影響を知る。 【情報収集】（2） 総合「植林体験をしよう」（2）	・植林体験『森は巡る』で体験したことを想起させ，森の役割を考えさせる。 ・森と川と海のつながりについて，本やインターネット，詳しい方へのインタビュー等で調べさせる。 ・畠山重篤さんの「森は海の恋人」を紹介し，言葉の意味を考えさせる。 ・恵まれた環境は人々の努力や工夫によって続いてきたものであり，人々が守っていかなければ，この先も続いていくことは難しいことに気付かせ，自分たちも何か行動しなければならないという必要感をもたせる。 ◇社会科「水はどこから」 ◇海洋科「海につながる有家川はどんな川？」 ◇総合「植林体験をしよう」 ◇洋野町海洋教育事業「植林体験『森は巡る』」 ◆森・川・海のつながりを意識してその関係を調べている。 ◆自然環境と生活に関わりがあることに気付いている。 ◆植林の意味と森からの栄養のある水が海によい影響を与えていることを理解している。 ＜知識・技能＞[観察・記述]

森と川と海の役割やつながりについて，調べたことを整理し，海産物がたくさんとれる理由をまとめよう。 ○森・川・海の役割やつながりについて調べたことをもとに，洋野町で海産物がたくさんとれる理由をまとめる。 【整理・分析】（1）	・仲間に分ける，順序立てる，関連させるなどさまざまな方法を用いて整理させる。 ◆調べたことの中から，必要な情報を選び整理してまとめている。 ＜思考・判断・表現＞［記述・発言］
海産物がたくさんとれる洋野町の自然環境を守るために自分たちにできることを考え，伝えよう ○洋野町の自然環境を守るために，自分たちにできることを考えたり，これからも洋野町のよい環境が続いていくようにという思いや願いをもったりする。 【まとめ・表現】（3）本時（5／8）	・地域の豊かな自然環境を守りたいという思いをもたせ，自分たちで実行可能な具体的な取り組みや行動を考えさせる。 ・海に近い地域で暮らす自分たちだけの力では，森の環境を守っていくことは難しいことに気付かせ，伝える相手や伝え方を選ばせる。 ◆自然環境を守ろうという思いをもち，具体的な取り組みや行動を考えている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［記述・観察］ ◆目的や相手に応じた伝え方を考えている。 ＜思考・判断・表現＞［発言］
【実行】（時数外）	・考えた取り組みや行動の中から，実行できそうなものに取り組ませる。 ・必要に応じて取り組みシートなどを作成し，活用させる。
学習をふりかえろう ○学習を振り返る。 【振り返り】（1）	・取り組んだ感想を伝え合い，地域の豊かな自然環境をこれからも大切にしていきたいという思いをもたせ，継続的に取り組んでいこうとする意欲を高めさせる。 ◆地域の豊かな自然環境に誇りと愛情をもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［観察・発言］

4　本時の学習

（1）本時の目標

洋野町の豊かな自然環境を守るために自分たちにできることを，根拠をもって考えることができる。

（2）展開案

時間	学習内容　○発問　・主な子供の反応	＜手立て＞・留意点◆評価規準＜観点＞［方法］
7分	1　既習を振り返り，本時の見通しをもつ。 ○洋野町で海産物がたくさんとれる理由はなんですか。 ・森からの栄養が海に流れているから ・栄養のある水が流れる川がたくさんあるから ・植林などをして森の環境を整えているから ○洋野町の豊かな自然環境をこれからどうしていきたいですか。 ・大切にしたい　・守りたい　・受け継ぎたい 海産物がたくさんとれる洋野町の自然環境を守るために，できることを考えよう。	・海産物がたくさんとれる理由についてまとめたものを振り返りながら，洋野町が恵まれた環境であることを確かめる。 ＜手立て（2）＞前単元で分かった有家川がきれいな川であるということと，児童に生まれた「有家川を大切にし，守りたい。」という思いを，この単元で学んだ森・川・海の役割やつながり，環境を守るための人々の努力や工夫と関連させながら，洋野の自然環境全体を守っていかなければならないという必要感をもたせ，本時の活動に生かす。
33分	2　洋野町の自然環境を守るために，できることを考える。 ○洋野町の豊かな自然環境を守っていくために，私たちにできることを考えましょう。（ワークシート） ・森の腐葉土にしみこんだ水が海に流れてくるので／森にごみを捨てないようにする／よびかけの看板を作る ・木が減ると，森の役割が失われるので／木を切りすぎないようにする／植林体験をもっと多くの人にしてもらう ・生活排水が流れることで川が汚れるので／洗剤を使う量を減らす／油の多い物は紙などで吸い取ってから洗う／家族にも呼びかける ・海の周りや近くの環境が悪いと，森の栄養が生き物に十分行かなくなるので，中野小で行っている５３０運動や海のごみ拾いをこれからも続けていく 3　考えたことを発表する。 ○考えたことと，その理由を発表しましょう。	＜手立て（3）＞森・川・海の役割やつながりについて調べたことをもとに，根拠をもって考えさせる。 ・児童が自分の考えを整理できるように，ワークシートを用意する。 ・グループで活動することで考えを深められるようにする。 ・考えることが難しい児童については，「森にはどんな役割があったか」「川が汚れるとどうなるか」等を一緒に確かめる。 ・「できること」は，自分たちだけでなく，大人ならできること，自分が大人になったらできることなど視野を広げて考えるように促す。 ◆自然環境を守ろうという思いをもち，具体的な取り組みや行動を考えている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞［記述・観察］ ・発表を聞いて考えたことや新しく浮かんだことがあれば付け足しをしたり，分からないことやもっと聞きたいことを質問したりして，全体で深める。
5分	4　本時の振り返りをする。 ○今日の学習を通して考えたことや思ったこと，これからやっていきたいことを書きましょう。（ノート）	・本時での児童の考えのよさを認め，次時の学習への意欲をもてるようにする。

第５学年　海洋科学習指導案

日　時　令和２年１１月１９日（木）３校時
児　童　男子７名　女子７名　計１４名
指導者　小暮　美麻

１　単元名　　「洋野町のサケの秘密を探ろう」

２　単元について

（１）　教材について

本教材では，洋野町において多くの漁獲量を誇るサケについて生態を学び，なぜサケが多く取れるのか，美味しい秘密は何か知識を活用して考える活動を行う。また，洋野町を含む三陸沿岸の地域が豊富な漁場であるとともに，サケが生きるために洋野の自然環境と人々が関わっていることについて捉えることをねらいとしている。

（２）　児童について

児童は，海洋科に対しての関心意欲が高い。社会科「水産業のさかんな地域」では，日本の水産業がさかんな地域を学習するとともに，洋野町もその一つであると感じ，八木漁港見学等を通して漁業に関わる人の苦労や努力も学んできた。また，６年生の姿を見て，サケの飼育，放流に関わることや発表することについても関心が高く，他教科と関連させたり，既習を活用したりしながら探究的な活動のよさを感じている様子である。しかし，調べたり，学んだりした情報を整理した上で，目的や相手にとって必要な情報か適切に分析することが課題として挙げられる。

（３）　指導について

本単元では，調べ学習から大きく２つに分かれて学習を進めている。１つ目は，来年度の稚魚放流に向けて必要な知識を蓄えた上で，共に放流する現１年生に対して簡単な生態や飼育時の注意点等を紹介するグループである。２つ目は，洋野町で多くの漁獲量を誇るサケの魅力について洋野町の人々に向けて伝えるグループである。どちらのグループも「洋野町のサケ」というテーマから必要な情報を整理し，相手に合わせた内容や伝える方法を精選させることで，相手意識，目的意識を明確にし，ねらいに沿った表現方法を身に付けさせたい。また，互いのグループで助言し合いながら洋野町のサケについて思考を深めることで，地域と自分たちが関わり合っていることについて考えさせたい。

３　単元の指導計画

（１）　単元の目標

・サケについて問いをもち，探究的な活動を通して，サケの成長を支える環境や関わる人々の工夫や努力に気付くことができる。
・地域の特産であるサケを守り，伝えていくために自分にできることを考え，実践しようとすることができる。

（２）　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
サケの生態やとりまく環境について理解し，サケが回帰するために自分たちにできることについて気付いている。	学んだことから必要な情報を整理し，相手意識や目的意識をもって表現している。	問いをもちながら主体的・協働的に学習活動に取り組み，進んで地域に関わろうとしている。

（3） 単元計画　単元名「洋野町のサケの秘密を探ろう」（全１６時間　本時１０／１６）

学習課題 ○主な学習活動　【学習段階】	・指導上の留意点 ◇教科等の関連　◆評価規準＜観点＞［方法］
オリエンテーション ○洋野町のサケの漁獲量について知り，洋野町のサケを広めるための学習計画を立てる。 【課題の設定】（１）	・洋野町のサケの漁獲量を表すグラフの考察や，八木漁港見学から問いをもたせる。 ・洋野町のサケを広めるために，「だれに」「何を」「何のために」伝えたいか考えさせる。 ◇社会科「水産業のさかんな地域」 ◇社会科「自然条件と人々のくらし」 ◆洋野町のサケについて問いをもち，進んで海や地域に関わろうとしている。 〈主体的に学習に取り組む態度〉〔発言・記述〕
洋野町のサケの秘密を調べよう。 ○本やインターネットで調べたり，サケマスふ化場を見学したりして，サケの生態や洋野町のサケの特徴について調べる。【情報の収集】（４）	・サケの生態や，洋野町のサケの特徴，関わる人々など，視点をもって調べさせる。 ・サケマスふ化場見学において、実際にサケの様子を見たり，採卵体験をしたりして，実感的に学ばせる。 ◇理科「魚のたんじょう」 ◇算数「ならした大きさを考えよう」 ◆調べ学習を通して，サケの生態や洋野町の水産業，豊かな環境に気付いている。 〈知識・技能〉〔記述・観察〕
目的・相手に合わせた内容や伝える方法を考えよう。 ○グループに分かれ，相手や目的に合わせてどのような方法で伝えればよいか考える。 ①　１年生に向けて（来年度の放流のため） ②　洋野町の人たちに向けて 本時（５／７） ○助言を生かして検討し，まとめる。 【整理・分析】（７）	・サケの疑問について調べたことをもとに，洋野町のサケの特徴を捉え，目的や相手に合わせて情報を整理させる。 ・互いのグループで内容，方法の視点をもとに助言し合い，より分かりやすく伝える方法について考えさせる。 ・助言をもとにグループで十分に検討させ，より分かりやすく伝わる方法で発表準備をさせる。 ◇国語科「和の文化について調べよう」 ◇国語科「問題を解決するために話し合おう」 ◆学んだことを目的や相手に合わせて整理，分析し，適切な方法で伝えようとしている。 〈思考・判断・表現〉〔発言・記述〕
洋野町のサケの秘密を伝えよう ○グループごとにまとめたものを発表する。 【まとめ・表現】（２）	・相手，目的意識をもって１年生への発表や洋野町民へのポスターやパンフレットの配布を行わせる。

	・助言したことを生かして相手グループの発表の際にそれぞれ協力し，自分事として捉えながら発表させる。 ◇国語科「伝えたい，心に残る言葉」 ◆相手意識や目的意識をもってそれぞれのグループでまとめ，表現している。 〈思考・判断・表現〉〔観察・記述〕
洋野町のサケの秘密について振り返ろう ○学習を通して考えたことや学んだことを振り返る。【振り返り】（1） ※３学期にサケの飼育，観察をする。	・本単元の導入時と終末時の知識や考えを比較しながら，本単元での学びを自覚させる。 ・学びをもとに，サケの漁獲量を保ち，守っていくために自分たちができることについて考えさせる。 ◇社会科「水産業のさかんな地域」 ◆学びを振り返り，サケについて考えたり，新たな問いをもったりして，進んで海や地域に関わろうとしている。 〈主体的に学習に取り組む態度〉〔発言・記述〕

4　本時の学習

（1）　本時の目標

自他のグループの発表のよい点や改善点について，相手・目的意識を明確にし，視点に沿って助言することができる。

（2）　展開案

時間	学習内容　○発問　・主な子供の反応	＜手立て＞・留意点◆評価規準＜観点＞［方法］
5分	1　既習を振り返り，本時の見通しをもつ。 ○２つのグループは，誰に，何のために洋野町のサケについて伝えようとしているのですか。 ・１年生。サケの飼育するときや来年度の稚魚の放流に向けてサケの知識や注意してほしいことを伝えたい。 ・洋野町民。ウニが有名だけれど，サケのよさや漁獲量が多いことを広めて地産地消を進めたい。 相手に伝わる発表にするために，アドバイスをし合おう。	・それぞれのグループの相手・目的意識を明確にするため，「誰に」「何のために」伝えるのか共通理解を図る。 ・単元計画をもとに，適切な資料作成のための最終段階であると認識させ，本時は助言をもらいながら，伝え方や内容が適切か十分に検討することを伝える。
25分	2　２つのグループの発表内容を聞き，良いところや改善点等を伝え合う。 ○内容や伝える方法について，相手や目的に合っているか，考えながら発表を聞きましょう。 ①　１年生グループ ②　洋野町グループ	・発表の仕方ではなく，伝える内容や方法について考えることを伝える。 ＜手立て（3）＞相手・目的意識をもって発表を聞くため，以下を視点とする。 ①　伝える内容　②伝える方法 ・出た意見について，他の人はどう考えるか意見を聞きながら助言内容も深めていく。 ◆目的・相手意識をもちながら視点に沿って考え，助言している。 ＜思考・判断・表現＞［記述・発言］
5分	3　助言をもとに，グループ内で検討する。 ○助言をもらった点について，どうすればよいかグループで話し合いましょう。	・助言をもらった内容について，目的や相手にとって採用したほうがよい情報かという視点で検討する。
5分	4　検討した点を伝え合い，必要な場合は助言をし合う。 ○検討した内容で相手に伝わるか，確かめましょう。	・自分のグループが伝えたいことの意図を明確にしながら，助言内容について検討した結果を発表させる。
5分	5　本時の振り返りをする。 ○今日の学習で考えたことやそれぞれのグループが伝えるまでに生かせることを書きましょう。	・相手や目的に合わせた内容や方法を選択できたか振り返り，発表への意欲を高めさせる。 ・本時の助言を生かし，本番の資料や発表準備を進めていくことを確認する。

生活科実践記録

指導者名　松浦　ふみか

学年	単元名（時数）
１年	「なつだ　あそぼう」（１４時間）
実施期日	令和２年６月～７月
海洋教育の視点	（親しむ）　（知る）　守る　利用する　（複数選択可）

１　単元のねらい

身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分たちの遊びや生活をよりよくできるようにする。

２　学習活動について

○海洋教育の視点４項目（親しむ，知る，守る，利用する）との関連について

自然に囲まれた豊かな環境を生かし，学校の周りや砂浜へ出かけ，自然の中で遊びながら地域に親しめるようにした。児童は，自然と直接関わる体験の中で，自然の変化を目で見たり触れたり，新しい発見をしていった。学校の周りでの草花遊び，校庭での水遊び，有家浜での砂遊びを経験し，身近な自然と関わりながら遊ぶことを通して自然の不思議さや遊びの面白さに気付かせるようにした。

【有家の砂浜で遊ぶ児童】

○活動内容の概要

地域の豊かな自然を知り，遊びながら地域の素晴らしさを感じることができるように活動を行った。海への関心を高めるために，水道水と海水を比較させ，違いや役目に気付き，どちらも大切な命の水であることに気付かせた。そして，水鉄砲やシャボン玉を作って遊び，水での遊びの楽しさを感じたり，砂場で砂遊びを楽しんだりした。校庭で十分遊んだ後，地域には広い砂浜があることを知り，砂浜で砂と水を使って遊ぶ活動をした。

【砂と水で遊ぶ】

【砂の中から虫を見つける】

【丸い石を見つける】

○活動している時の児童の様子

水の性質や不思議さや面白さに気付かせたり，関心をもたせたりするために，水道水と海水をペットボトルに入れ，どちらが海水かクイズを出した。見た感じは同じように見えるため，児童は臭いを嗅いだり，触ったりしながら考えていた。見分けるのは難しいが，それぞれが大切な役割をもっていることを知ることができた。

【どちらが海水？水道水？】

そのあと，水で遊ぶ道具を作る活動をした。水遊びのイメージが沸かない児童のために，遊び道具を作る材料を準備し，友だちの活動を見られるような場を設定し，自分たちでアイディアを出しながら活動することができた。自分たちが作った道具で遊び，水での遊びの楽しさを感じることができ，もっと遊びたいという感想が多くあったため，地域には広い砂浜があることに気付かせ有家浜にいって遊ぶ計画を立てた。

【ジャンボシャボン玉で遊ぶ】

○児童の変化など

全員が砂場遊びや水遊びに興味をもって遊んでいた。地域には，砂遊びも水遊びも同時にできる砂浜があることに気付き，砂浜にいって活動したいという意欲が高まった。砂浜では，砂を掘ると海水が出てきて池を作ったり，掘った砂を集めて山を作ったり，砂浜の遊びを十分楽しんでいた。そのうち，砂の中から小さい虫を発見して見せ合ったり，石が丸い形になっていることに気付いたりする児童も出てきた。活動しながら「海っていいね」と言う声が聞こえてきた。振り返りで，「楽しかった」という感想の他に「中野は，すてきだね」という感想もあった。活動を通して，地域の自然の素晴らしさに気付いた児童も多くいた。

【活動後の絵日記より】

3　反省と次年度への引き継ぎ事項

・児童の実態に合った単元だった。有家浜の豊かな自然に触れ，地域の自然の素晴らしさを感じることができた。導入で地域に関心をもたせるために水道水と海水を比較させたが，活動の時間を十分確保するために省略してもよかった。

・海での活動は，自然環境だけでなくボランティアさんの派遣が必要なため，早めの計画，準備が必要。

生活科実践記録

指導者名　石澤　牧子

学年	単元名（時数）
２年	「中野の『すてき』を見つけよう」（全１４時間）
実施期日	令和２年５月～７月
海洋教育の視点	(親しむ)　(知る)　守る　利用する　（複数選択可）

１　単元のねらい

身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分達の遊びや生活をよりよくするようにする。

２　学習活動について

○海洋教育の視点４項目（親しむ，知る，守る，利用する）との関連について

地域と密接に関わる本校の特徴を生かし，身近な生活圏にある店や施設に出掛け，地域にはどんな場所があるのかを知ることができるようにした。既に知っている場所でも，そこで働く人にインタビューしたり詳しく見学したりすることを通して，さらに興味関心が高まった。探検中に新たに見つけた疑問や思い，別の場所を見学した友達の発表を聞いて得た気付きなども取り上げ，次の活動につなげた。

○活動内容の概要

身近な地域の場所を知ったり，地域で働く人々の思いを感じたりすることができるように活動を行った。３グループに分かれて，それぞれ３～４か所に探検に行き，見学，インタビューなどをした。町探検の体験について，拡大した学区の地図に，絵や文で，グループごとに気づいたことをまとめた。同じグループで気づいたことを出し合ったり，他のグループと交流したりする中で，児童は，有家や中野で働く人々の地域を思う気持ちが「中野の『すてき』」だという思いをもった。その後，１年生に「中野の『すてき』」を教えることを目的とし，ペープサート，劇，絵等の表現活動に取り組んだ。

【一緒に重機を動かしてみよう】

【お気に入りの仕事道具のバリカン】

【舘豆腐店の舘さんにインタビュー】

○活動している時の児童の様子

町探検では，見学先で働く人の人数や仕事内容について，事前に問いをもって見学に臨み，質問をして問いを解決しようとする姿が見られた。実際に仕事場を目にしたり，体験したりすることで，たくさんの気づきが生まれたことが，つぶやきや質問の様子に表れていた。意欲的に地域の方々と関わった後，同じグループで気づいたことを出し合ったり，他のグループと交流したりする中で，児童は，有家や中野で働く人々の地域を思う気持ちが「中野の『すてき』」だという思いをもった。

【気づいたことをまとめた地図】

【ペープサートで伝えよう】

来年度町探検をする１年生に中野のことを教えてあげたいという思いから表現活動を行った際には，１年生にとって分かりやすい発表を目指し，グループ内でアイディアを出し合っていた。また，他のグループへのアドバイスでは，「自分だったらこうする」「いや，私たちはこんな考えがあるからこの発表にしたんだ」と，自分の思いをもって意見を話す児童がいた。

○児童の変化など

地域の人々と関わって，仕事を体験したり，道具を触ったりする体験を通して，地域と自分達の生活がつながっていることを実感することができた。また，学習を進めるうちに，学習の前には「ミニストップの人」や「１００円店の人」と話していた児童らの言葉が「加藤さんはアイス作りが得意」「よしみさんに手紙を書きたい」と変化していて，地域の人をより身近に感じ，地域への愛着をもった様子が見られた。

【「こうするといいよカード」】

3　反省と次年度への引き継ぎ事項

・地域に繰り返し出掛けることができなかった。他の単元の校外学習と合わせて，早めに調整する必要がある。

・町探検の単元は海と直接の関連が薄く，３年生の海洋科とのつながりを持たせるために，生き物探しの単元を海洋と関わる単元として計画したので，来年度からはこの単元は海洋と関わる単元としては取り扱わない。

海洋科実践記録

指導者名　野田　健友

学年	単元名（時数）
３年	有家浜生き物図鑑を作ろう（全１２時間）
実施期日	令和２年７月～１２月
海洋教育の視点	（親しむ）　（知る）　守る　利用する　（複数選択可）

１　単元のねらい

・有家浜に住む生き物の図鑑を作る活動を通して，海洋生物や海洋環境について知り，ふるさとの豊かな海に誇りと愛情をもって大切にしていくことができる。

・有家浜に生息する生き物について，自分なりの方法で調べ，必要な情報を選び，整理してまとめることができる。

【砂の中に何かを見つけた！】

２　学習活動について

○海洋教育の視点４項目（親しむ，知る，守る，利用する）との関連について

前単元で見つけた海の不思議の中から，地域の海に生息する生き物に焦点を当て，生き物探しという体験活動を通して，海に親しみをもてるようにした。同じ海に生息する生き物でも，さまざまな点で違いがあるという生物の多様性に気付かせ，たくさんの生き物がいる地域の海のよさを実感し，地域の海を大切にしていこうとする心情を持つことができるようにした。

○活動内容の概要

地域の海で見つけた生き物について詳しく調べ，図鑑をつくる活動を行った。図鑑を作るために必要な情報を集め，見る人を意識した構成を考えたり，発表の仕方を考えたりするなど，相手意識をもった活動を，単元を通して行った。

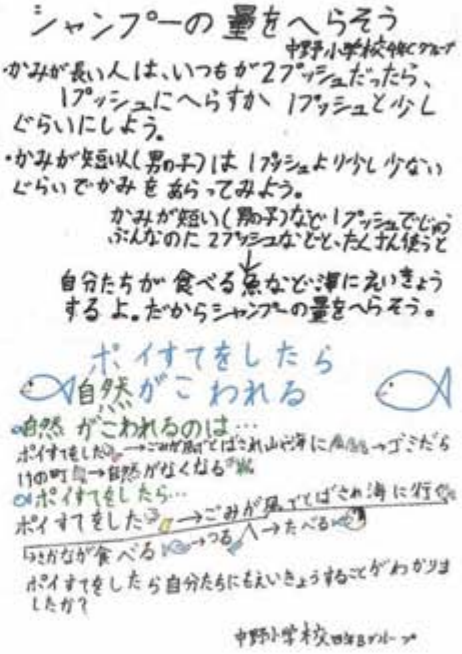
【大きな石の下に生き物がいそうだよ】

○活動している時の児童の様子

「４年生に伝えるときは」「２年生に伝えるために必要な情報は」など，伝える学年や，わかりやすい発表にするために必要なことなど，伝える相手を常に意識して活動を行うことができた。

○活動している時の児童の様子

植林の意味や森と海の関係について，事前に問いをもってゲストティーチャーによる授業に臨み，質問するなどして問いを解決しようとする姿が見られた。４年生児童には難しい言葉や内容もあったが，熱心に話を聞き，新しい知識を得ることができた。植林体験では，木の役割や大切さを知り，一本一本の苗を丁寧に植え，自分が植えた木が大きく育って，たくさんの栄養を海に届けてほしいという思いをもった。



【児童が作成したよびかけのポスター】

自然環境を守るためにできることを考えた際には，「自分たちでできること」「大人の協力があればできること」「大人になったらやってみたいこと」と発想を広げていき，ゴミ拾いやシャンプーの減量といった身近なものから，ゴミ箱の設置数を増やす，よびかけの看板を立てる，ゴミ拾いロボットを作るといった夢のあるものまでたくさんのアイディアを出していた。

有家浜清掃は１２月の海という寒さの厳しい状況で行ったが，どの子も時間いっぱいごみを拾った。「１回だけでは変わらないので，定期的にやらなければならない。」と誰かが行動しなければ変わらないということに気付いた子もいた。

○児童の変化など

社会科や理科など他教科と関連させながら，山・川・海の役割やつながりを理解することができた。児童一人ひとりが地域の自然を守りたいという思いをもって，小さなことでも良いので自分にできることをしようと行動する姿が見られた。みんなで決めた取り組み以外にも，自然環境の汚染を防ぐためのアイディアを家庭学習で考えたり，家族にも協力を呼びかけたり，自主的に取り組んでいた。

【有家浜清掃（前・後）】

3　反省と次年度への引き継ぎ事項

・植林体験は，町の海洋事業としてあらかじめ日程が決まっているため，時期の調整ができない。体験と本単元の実施時期が離れすぎないように注意する必要がある。

・山・川・海の役割やつながりについて詳しく調べるために，まきば天文台の阿部俊夫さんをゲストティーチャーとしてお招きした。難しい内容を分かりやすく説明してくださったので，引き続き協力をお願いしたい。

海洋科実践記録

指導者名　小暮　美麻

学年	単元名（時数）
５年	「洋野町のサケの秘密をさぐろう」（全１６時間）
実施期日	令和２年９月～令和３年１月
海洋教育の視点	親しむ　(知る)　(守る)　利用する　（複数選択可）

1　単元のねらい

・サケについて問いをもち，探求的な活動を通して，サケの成長を支える環境や関わる人々の工夫や努力に気付くことができる。

・地域の特産であるサケを守り，伝えていくために自分にできることを考え，実践しようとすることができる。

2　学習活動について

○海洋教育の視点４項目（親しむ，知る，守る，利用する）との関連について

洋野町のサケについて，有家ふ化場を見学することで働く人々の努力や自然環境との両立によって多くの漁獲量を誇っていることを知り，そこで疑問に思ったことをさらに深く調べることで理解を深めるようにした。サケの回帰数が減少していることから，回帰数を増やすために自分達にできることを考え，児童や地域の人々に伝えるようにした。

【有家さけますふ化場での採卵体験】

○活動内容の概要

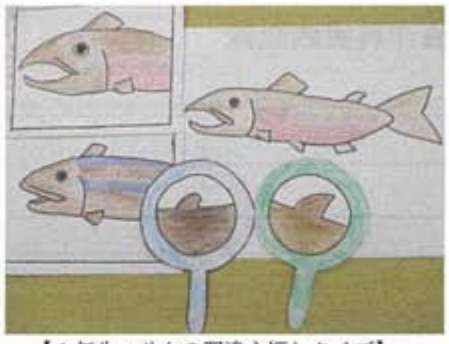
社会科の「水産業のさかんな地域」の学習で八木漁港を見学し，洋野町の水産業の漁獲量はサケが最も多いという発見から，なぜサケが多く獲れるのかという問いをもった。調べたり，話を聞いたりする中で，洋野町の恵まれた自然環境の他に，有家ふ化場で働く人々の努力があってサケが守られていることに気付くことができた。また近年サケの回帰が減少していることも知り，自分達にできることについて考え，サケの飼育，放流時の注意を低学年に向けて伝えたり，洋野町の人々に改めて地域のサケについて知ってもらうためのパンフレットを作製したりした。

【サケの回遊についてのペーパークラフト】

○活動している時の児童の様子

有家ふ化場で採卵体験も行い，大切な命をいただ

いていることや，サケを丁寧に扱い守り育てているふ化場の人々の工夫や努力をよく感じていた。また，自分達が２年生の時に放流したサケが戻ってきていることを知り，興味・関心がより深まった。


【１年生へサケの間違え探しクイズ】

洋野町のサケについて，誰に，どのように伝えるか考える場面では，「放流できるサケを増やすために，サケの稚魚を飼育するときの注意を１年生に教えたい。」「洋野の自然環境とふ化場の人々の努力があるからこそ，サケが守られ漁獲量が多いことを地元の人たちにもっと知ってほしい。」という思いをもち，それぞれの相手，目的に合った方法についてよく吟味していた。１年生に伝えるグループは，紙芝居やペーパークラフトを用いたり，大きさや重さを本物に近づけたサケの見本を作ったりして，分かりやすくサケのことを知ってもらう工夫を取り入れた。洋野町の人々に伝えるグループは，パンフレットを作り，地域のお店や役場などに置いてもらうよう計画し，より多くの人に知ってもらう工夫について考え，実践した。

【大きさや重さを本物に近づけたサケ見本】

○児童の変化など

有家ふ化場の見学を通して，働く人々の工夫や努力を感じ，自分達も大切にしていかなければいけないという思いを強くもっていた。他教科と関連させながら，洋野町の水産業について多面的に思考する場面が増え，自分事として考えることができた。また，相手意識をもって発信することで足りないことをより深く調べようという意欲にもつながった。自分達から出たアイディアを実現させる方法を模索しながら，全体でよりよくしていこうという強い思いをもって取り組むことができた。

【１年生に飼育時の注意をするための水槽模型】

３　反省と次年度への引き継ぎ事項

・有家ふ化場での採卵体験は，とても有効であった。不漁のため時期が難しかったが，ふ化場へサケの遡上の様子を聞き，時期を調整して見学へ行くとよい。

・低学年へ伝えるために紙芝居や実物大のサケを作るなどの製作物があり，時数がかなりとられた。昨年度までの物で再利用できる物があれば用いたり，児童にも見通しをもたせたりして，無理のない計画を立てさせるようにしたい。

海洋科実践記録

指導者名　花田　栄順

学年	単元名（時数）
６年	「洋野町の未来を考えよう～洋野の海やウニを守るためにできること～」 （海洋科２０時間　国語科１０時間）
実施期日	令和２年５月～１１月
海洋教育の視点	親しむ　知る　守る　利用する　（複数選択可）

１　単元のねらい

・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気付き，その原因を考えたり，調べたりすることができる。

・進んで地域へ関わりながら課題解決し，地域の特産であるウニや洋野の海を守るために自分ができそうなことを考え・表現し，実践することができる。

２　学習活動について

○海洋教育の視点４項目（親しむ，知る，守る，利用する）との関連について

洋野の特産品であるウニを題材として，そのウニや洋野の海が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題とその原因などを知り（海を知る），ウニや洋野の海を守っていきたい思いをもち，自己の生き方（海を守る）を考えるようにした。また，洋野の水産業を守っていくために，海の恵みであるウニを活用した料理づくりを行ったり，それを広める活動を行ったりして，地域への貢献，発展に努める態度を育てようとした。（海を利用する）

○活動内容の概要

児童たちは，５年生時に「洋野町のウニの秘密とは？」で，なぜ洋野町でウニがたくさん獲れるのか，なぜ美味しいのかなどを学び，洋野町の特産品であるウニに誇りと愛情をもっていた。そこで，ウニや海には抱えている問題があることに気付かせ，その問題が起こり続けると洋野の未来はどうなるのか考えさせた。ウニ栽培センターの箱石さんからも話を聞き，このままでは洋野町の水産業が危ないということを知り，どうすれば解決できるのか考えさせ，実践できるようにした。

○活動している時の児童の様子

誇りと愛情をもっていた洋野のウニに対して，問題があることを知り，児童たちは大きなショックを受けていた。「原因はどうして？」「なぜ？」といった問題意識が強く生まれ，主体的に学習に取り組むことができた。

【児童の未来想像図】

また，その問題が起こり続けると洋野町の水産業の未来はどうなるのか考え，「美味しいウニが獲れなくなると，洋野町の産業に大きな影響が出る。」「何とかしなければ。」などの思いをもつことができた。

その思いをもち，どうすれば解決できるのか考えていく際に，自分たちにできることと自分たちでは解決できないことが出てきた。そこで，自分たちができることと，洋野町として取り組んでほしいことや，全国の人々にも協力してほしいことなどを各グループで整理し，発表することができた。（整理する力や表現力の向上）

学習を進めていく中で，ウニを守ることにより，働く人々の仕事も守られたり，海を守ることにつながったりすることに気付く児童もいて，人・もの・ことなどの関連で深く学ぶことができた。

【森・川・森林のつながりについてのまとめ】

○児童の変化など

洋野のウニや海の抱えている問題の原因を調べたり，自分たちにできることを考えたりする際に，理科や社会科，家庭科など他教科の学びや見方・考え方を活かしながら考える児童が増えた。

洋野のウニを守るためにできることを考える際に，洋野の海や働く人々とのつながりで考えることにより，学びを深めることができ，ウニだけではなく，海や洋野町の人や自然を守りたいという思いをもつ姿が見られた。

【自慢のウニ】

3　反省と次年度への引き継ぎ事項

・５年生時の海洋科の復習をするために，ウニ栽培センターへ見学に行った。見学に行ったことにより，５年生時の学びを思い出し，洋野のウニに対する誇りと愛情を再度もたせることができた。

・子供たちに問題意識をもたせる資料の厳選が必要である。今回，他市町村のウニや海の課題が分かる資料を提示した。そのことにより，「洋野町のウニはどうなのだろう？」と問いをもたせることができた。

▲問題の原因を考える際に活用に適した書物は見付けられなかったため，インターネットやGT（ウニ栽培センターの箱石さん）を活用した。できれば書物も利用したい。

▲調べたこと，聞いたことをどのように整理・分析するのか考えていかなければならない。

▲今回新型コロナウイルス感染症の影響で，１学期に学習をすることができなかった。２学期には海洋サミットがあるので，１学期に実施するのが望ましい。

▲学びを深めるために，５年生時の学びと６年生時の学びをどのように関連付けるのか，２学年を通して，学習計画を立てる必要がある。

▲国語科「町の未来をえがこう」と関連させて海洋科の学習を進めたが，国語科と海洋科のねらいは異なるので，それぞれの学習のねらいを明確にして，学習計画を立てる必要がある。

有家浜 生き物図鑑 20020

<名前>	<見た目のとくちょう>
<写真>	<見つけたところ>
	<きけんせい>
	<ぶんぷ>
< >	< >
参考文献	制作者

★洋野町の自然環境を守るために、できることを考えよう

森 川 海

4年 名前

できること	理由
例 森のごみひろい	森にしみこんだ水が、川を通って海に流れてくるから。／森のふよう土から、えいようのある水が海に流れてくるので、土をよごさないため。

4年 海洋 「水の旅」　　月　日

名前

㋕

○4年生の海洋学習の内容では、こんなことを体験し、学びました！

・安心して海と暮らそう
　津波のこわさ、ぼうちょうていの役割や仕組み、海から身を守り安心してくらす方法

・海につながる有家川はどんな川？
　有家川の水質調査、有家川の周りの様子、水のじゅんかん

・山から川へ、そして海へ
　植林体験、阿部俊夫さんのお話、森・川・海の関係
　洋野町でたくさんの海産物がとれる理由、自然環境を守るための取り組み

○ふりかえってみよう！

・洋野町の地域や自然の様子が分かった。 海から私たちを守るしせつ、森・川・海のつながりなど	◎	○	△
・分かったことや調べたことを、分かりやすく整理したり、相手に伝えたりすることができた。	◎	○	△
・自然を守るために、自分にできることを考えて、行動した。	◎	○	△

①自分のことについて（自分の学びはどうだったか／どんな力がついたか／何が分かって、何が分からなかったか／これからどうしていきたいか）

②友達のことについて（友達の考えや学び方のどんなところが良かったか）

③山・川・海について（山・川・海に対して、どんな思いや考えをもったか／学習する前と後で、どのように考えが変わったか）

○これからの海洋学習（5年・6年）で取り組んでみたいこと

洋野町のウニの秘密をさぐろう！

名前　（　　）

６月２５日（木）種市栽培漁業センター見学

○必ず聞いてくること

○メモ

水産業のさかんな地域～洋野町編～

名前(　　)

8月31日(月)社会科見学　☆八木魚市場　　☆八木製氷冷凍工場

○必ず質問すること

○メモ

洋野町のサケの秘密をさぐろう！

名前（　　）

１０月９日（金）有家 鮭ますふ化場

○必ず聞いてくること

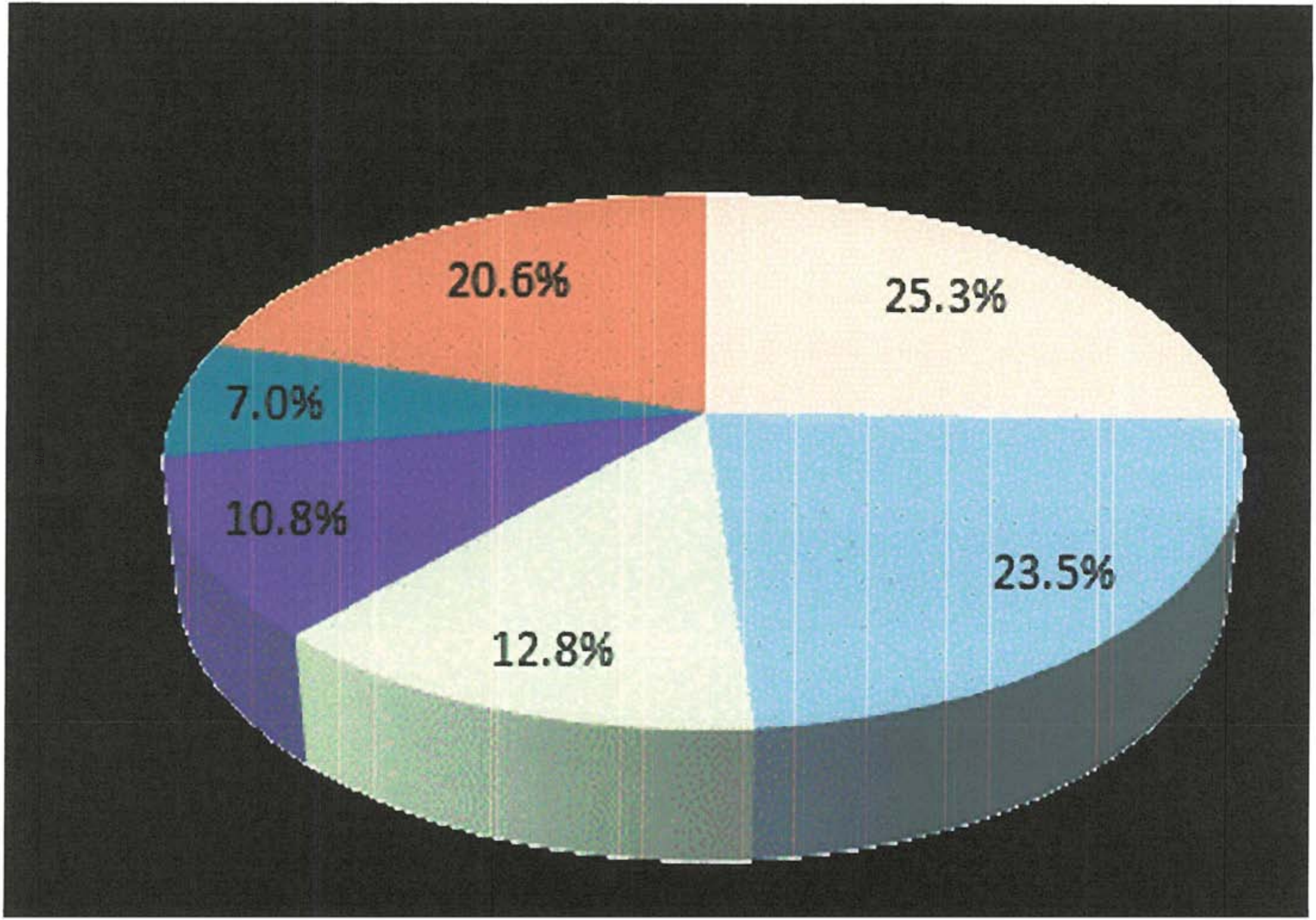
○メモ

1年生グループへのアドバイス	アドバイスをもらったこと
①内容	①内容
②方法	②方法

洋野町グループへのアドバイス	アドバイスをもらったこと
①内容	①内容
②方法	②方法

海面漁業の魚種別漁獲量(うち上位 10 種)

	合計	1,850 t
1	さけ・ます類	468 t
2	たら類	434 t
3	たこ類	236 t
4	うに類	200 t
5	ぶり類	130 t
6	海藻類	91 t
7	ひらめ・かれい類	51 t
8	貝類	34 t
9	いか類	24 t
10	さば類	9 t


20.6%
25.3%
7.0%
10.8%
23.5%
12.8%

目に留めていただき ありがとうございます！

私たち、洋野町立中野小学校５年生は、「海洋科」の学習で洋野町のサケについて学びました。

「洋野町の皆様に、サケの魅力を知ってもらいたい！」という思いのもと、調べたことをパンフレットにまとめました。

ぜひお手に取っていただき、洋野町の特産であるサケについて知る機会にしていただければ幸いです。

学校でサケの稚魚を育てています

ご意見・ご感想等ありましたら、下記までご連絡ください。
洋野町立中野小学校　５年担任　小暮（こぐれ）
０１９４－６７－２１０７

海洋科　1･2年へサケを伝えよう会

～マサイくんとサケ博士にサケの秘密を聞いてみよう！～

1月22日(金)2校時
音楽室

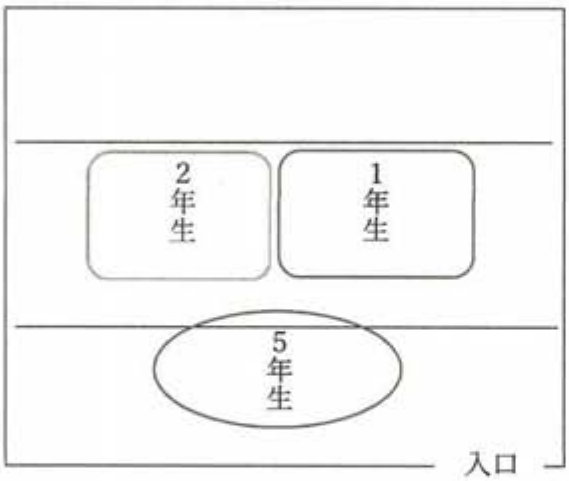
＜当日の流れ＞

9:30　開会･説明
　　発表
9:45　サケの実物大体験
9:55　質問･感想等

＜その他＞

･最後に質問、感想タイムを取りたいと思います。学級でふれておいていただけるとありがたいです。
･発表後に子ども達が作った実物大のサケをもってもらおうと思います。4匹のサケを回しますので、サポートお願いします。

･音楽室は真ん中の段に整列をお願いします。



ウニの世話の仕方

①毎日，朝と帰り２人で世話をする。

②毎回泡取りをする。

③水温チェックをしたり，ウニは元気か，弱っているウニはいないか確認したりして，日誌へ記入する。

④月曜朝の当番の人と金曜日の帰りの当番の人は，エサをやる。

⑤火曜日と木曜日の当番の人は，朝にウニの水そうの掃除をする。

⑥水曜日の当番の人は，帰りに先生と水替えをする。

※日誌は必ず先生に手渡しして下校する。

海洋科「ウニが危ない！ウニが直面している問題とは？」

6年　　番 名前

1 解決したい問題

2　問題の原因

3　解決の方法

海洋科「ウニが危ない！ウニが直面している問題とは？」

6年　　番 名前

1 調べたいこと(疑問)

2 調べたいこと（疑問）に対する予想

海洋科「ウニが危ない！ウニが直面している問題とは？」

6年　　番 名前

1 調べたいこと(疑問)，質問したこと

2 調べたこと

洋野町の未来を考えよう
～洋野の宝と恵みを守るために できること～

洋野町立中野小学校　６年生

岩手県洋野町とは！？

世界一の太平洋

森や山

有家川

世界一の太平洋

学校全体で海の学習

１・２年生　　生活科

３～６年生　特別な教科　海洋科

５・６年生　夏と冬休み
海洋科自由研究

５年生
「洋野町のウニの秘密とは？」

洋野町のウニの漁獲量は本州一

都道府県別の主なウニ生産地及び漁獲量（平成２８年）

順位	１位	２位	３位
都道府県	北海道	岩手県	青森県
漁獲量（ｔ）	４，３８６	１，０９４	５９３

全国市町村別のウニの生産状況（平成２８年）

順位	１位	２位	３位	４位
市町村	函館市	礼文町	根室市	洋野町
漁獲量（ｔ）	７５７	６１６	３３７	２３８

洋野町のウニ

・身入りが豊富　・おいしい

日本で洋野町にしかない

増殖溝

増殖溝とは！？

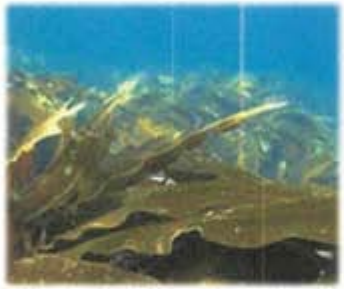
・干潮時に岩盤の上にあるウニを太陽や，天敵（鳥類等）から守りたくさん育てるための溝。

・水たまりにウニのエサであるこんぶやわかめが，豊富にあることをヒントにして作ったウニをたくさん育てる場所。

・別名「ウニ牧場」とも言われている。

・波浪に左右されにくいため，一般漁場と比べ，安定して漁業ができる。

豊富なエサがある増殖溝で育つウニ



増殖溝での作業の様子

洋野町のウニのすごいところ

- わかめやこんぶなど，ウニのエサが豊富な増殖溝が海にあり，そこで育つウニは身入りがよく，とてもおいしい。
- 増殖溝があることにより，安定したウニの漁獲ができる。
- そのため，味も漁獲量も本州一といえる。

学習してみての感想

- 日本に一つしかない増殖溝が自分の住んでいる洋野町の海にあることにすごい。
- もし洋野の海に問題が！？洋野町の漁業が成り立たないと思う
- 洋野町の海には，ウニのエサである海藻が豊富にあるから，洋野のウニがとってもおいしいんだと分かった。

６年生
「洋野のウニが危ない
～洋野の宝と恵みを守るために～」

洋野町のウニに関わる課題

1　洋野町のウニの知名度の低さ

2　海で働く人の減少，
高齢化問題

3　海洋環境の変化（磯焼け）
ウニのエサの減少

1　洋野町のウニの知名度の低さ

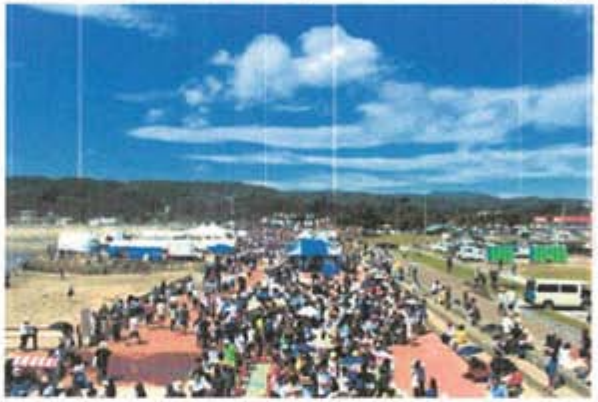
- 岩手県では，ウニとして有名な洋野町。
- 全国では，ウニといえば洋野町と知られていない。

全国の人に広めたい

1　洋野のウニの知名度を上げる方法

（１）洋野のウニのすごさや，ウニ祭りの様子をポスターやCM，ラジオで広めること。

実際にウニ祭りをしている様子



1　洋野のウニの知名度を上げる方法

知名度を上げるポスター

ぼくたちは、ダイちゃんのようなウニキャラクターを作りました。
ウニ博士は、ウニのことを調べている博士です。

1　洋野のウニの知名度を上げる方法

ウニのスペシャリスト箱石さんに
ウニのCMやラジオに出ていただく。

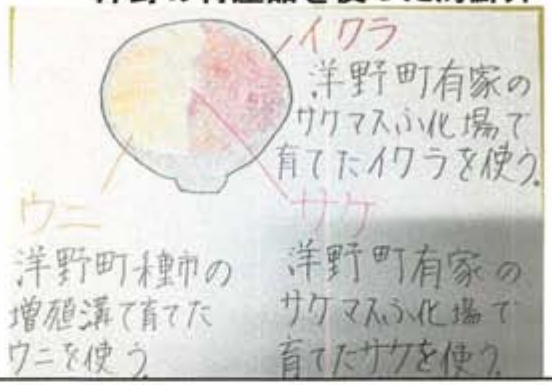
種市の
ウニ増殖センター
でウニを育てていて
とてもウニのことに
ついてくわしく、
私たちは、ウニの
ことについて見学しに
行き、学んで来ました。

1　洋野のウニの知名度を上げる方法

（２）洋野の特産物を使った料理を広めること。

1　洋野のウニの知名度を上げる方法

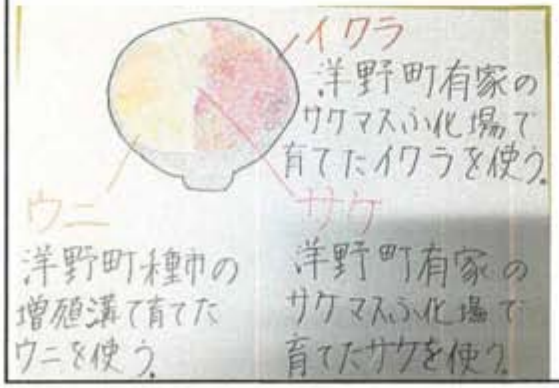
洋野の特産品を使った海鮮丼



1　洋野のウニの知名度を上げる方法

サケマス
ふ化場とは？
サケを卵から
大きく育て，
海に放流する。

1　洋野のウニの知名度を上げる方法



自分たちの作った料理を
食べていただく。

2　海で働く人の減少，高齢化問題

洋野町の[illegible]を考える

何とかしたい！

もし，[illegible]が続くと…

海で働く人がいないと，
ウニの町ではなくなる！！

2　海で働く人の減少，高齢化問題の解決方法

若い人に海の仕事に興味をもってもらうこと

2　海で働く人の減少，高齢化問題の解決方法

海の仕事に関わる体験

2　海で働く人の減少，高齢化問題の解決方法

洋野町の各小学校の海洋科の学習で，ウニの殻むきなど，海に関わる仕事を体験し，海の仕事に興味をもってもらう。

2　海で働く人の減少，高齢化問題の解決方法

- 海に興味をもつ
- 洋野町の未来の担い手を育てる

3　海洋環境の変化（磯焼け），ウニのエサの減少

3　海洋環境の変化（磯焼け），ウニのエサの減少

洋野町の未来を考える

もし，[illegible]洋野のウニや海[illegible]焼くと…

を守りたい！

・おい[illegible]なくなる

・おいしいウニがたくさん獲れなくなる

3　磯焼けの発生，ウニのエサの減少に対する解決方法

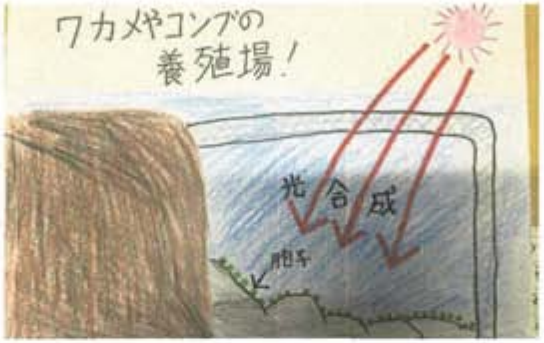
・わかめやこんぶの養殖場を作ること

・海水温の上昇を防ぐために，植林活動やマイバック持参の取組を行うこと

3　ウニのエサの減少に対する解決方法

・わかめやこんぶの養殖場を作ること

3　ウニのエサの減少に対する解決方法

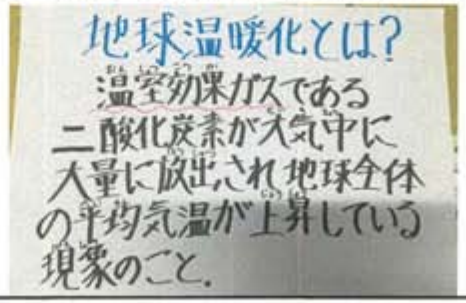


3　磯焼けの発生，ウニのエサの減少に対する解決方法

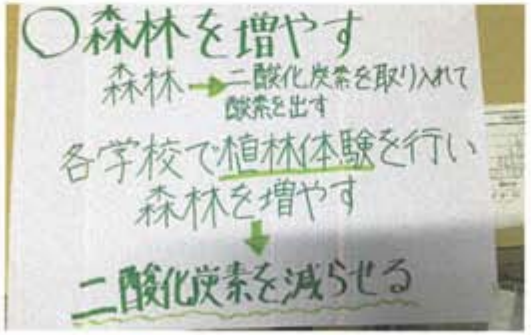
・海水温の上昇を防ぐために，植林活動を行うこと。

3　磯焼けの発生，ウニのエサの減少に対する解決方法

・海水温の上昇には地球温暖化が関係している。



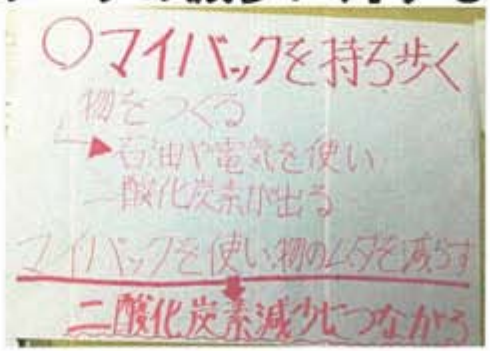
3　磯焼けの発生，ウニのエサの減少に対する解決方法



3　磯焼けの発生，ウニのエサの減少に対する解決方法

3　磯焼けの発生，ウニのエサの減少に対する解決方法

3　磯焼けの発生，ウニのエサの減少に対する解決方法



まとめ

様々な洋野のウニに関する課題があるけれども，共通点は海を大切にしていかなければいけないということ。

例　・ウニがいるところは海
　　・ウニの町，洋野町を支えているのは海に関わる仕事をしている人　など

海洋科の学習の感想

ありがとうございました。

洋野町立大野小学校

総合的な学習の時間全体計画

今日的教育課題	学校教育目標	子どもの実態
・特色ある教育活動 ・基礎・基本の習得 ・確かな学力と生きる力の育成 ・個性を生かす教育	・進んで勉強する子ども ・明るく素直な子ども ・健康でたくましい子ども	・明るく素直 ・体を使う活動が好き ・気づきを課題にする力が不十分 ・言葉での表現が苦手

↓

総合的な学習の時間で育てたい力		
地域の人や自然、社会・文化に自ら関わろうとする態度と関わる力	自ら課題を見つけ、自分なりの方法で意欲的に課題を追究、解決していく力	発表方法を考え、追究してきたことを自分の言葉でまとめ、伝える力

共通テーマ　ふるさと大野大発見・クラスタイム　＜自ら学習活動に取り組む子どもの育成＞

↓

	3年	4年	5年	6年
学年の目標	課題解決的な学習の体験を通して学び、協同しての追究の仕方やまとめ方を身につけ、自分の考えを持つことができる	課題解決的な学習の体験を通して学び、協同しての課題設定や追究の仕方やまとめ方を身につけ、自分の考えを持つことができる	自ら課題を設定し、協同して追究し、まとめるとともに、多面的な見方をしながら自分の考えを持つことができる	自ら課題を設定し、協同して追究し、まとめるとともに、多面的な見方をしながら自分の考えを持つとともに、地域貢献することができる
評価の観点	①学習への意欲関心態度　②課題を発見する力　③探究し、問題を解決する力 ④学び方、ものの考え方　⑤協同して追究する力　⑥自分の考えを持つ			
指導過程	①課題設定→②追究・体験→③情報整理・まとめ→④発信する→⑤自分を見つめる			
テーマ	「ふるさと大野大発見」			
	大野の魅力発見 ・雑穀 ・農業 ・施設 ・文化・伝統	大野川探検隊 ・水生生物調査 ・源流探索 ・鮭の放流	一人一芸の村に生まれてⅠ ・ふるさと大野大発見 ・子どもサミット参加 ・産業博士になろう ・職業調べ	一人一芸の村に生まれてⅡ ・松島・仙台と比べる ・旅行の計画、まとめ ・これからのふるさと
クラスタイム	・パソコンとなかよくなろう ・あたまの中の地図を作ろう	・タブレットに記録を残そう ・バリアフリーって何だろう	・パソコンやタブレットを活用しよう	・パソコンやタブレットを活用しよう ・つくろうドリームマップ
復興教育	もぐらんぴあ見学　副読本	副読本	副読本	副読本
合計	70	70	70	70

↕　↕　↕

生活科	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育
・身近な人々、社会、自然に関心を持つ ・集団や社会の一員として適切に行動する ・気づいたことなど簡単な表現ができる	・相手や目的に応じて話したり聞いたりする。 ・目的に応じ資料を読み取り効果的に表現 ・言葉に対する知識・理解・技能	・地域社会の一員としての自覚と愛情を持つ ・資料を活用したり調査事項を表現したり、社会事象について考える ・環境保全の重要性に関心を持つ	・数理的処理の良さに気づき、生活に生かす ・長さ、かさ、重さなど測定できる ・目的に応じて数量的に分類整理し考察する	・動植物に愛情を持つ ・自然事象に親しみや関心をもち、観察や実験を行い問題解決を図る ・観察や実験の技能	・音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う	・進んで表現する態度、作品や材料のよさ、美しさに関心を高め、豊かな情操を養う ・創造的に表現する態度	・日常生活に必要な基礎知識と技能と実践的態度	・身近な生活に対する健康で安全な生活を営む資質、態度

道徳	・節度節制、自立　・勤勉、努力、向上心　・思いやり、親切　・敬愛、感謝　・敬虔な心 ・自然愛、動植物愛護、環境保全　・生命尊重　・郷土愛、愛国心　・国際理解と親善 ・公徳心、規則の尊重　・社会奉仕　・寛容、謙虚
特別活動	・集団を高めるための自覚と意欲　・話し合いにより協力して問題の解決を図ろうとする態度 ・自主的、自治的、実践的な態度
外国語活動	・外国の言語、生活習慣、食文化などについて学ぶ

総合的な学習の時間

1　目　標

地域のさまざまな「人・自然・社会・文化」について、横断的・総合的学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、協同しながら自ら調べたり体験したり、自ら考えたり判断したりする中で、物事に主体的に関わり解決する気持ちや力を育てるとともに、学び方や考え方を身につけ、自分の生き方についても考えることのできるようにし、「生きる力」を育てる。

2　重　点

「生きる力」を育てるためには「関わる力」「追究する力」「表現する力」の３つの力を育てる。

(1)「かかわる力」―　地域の人や自然、社会・文化に自ら関わろうとする態度とかかわることができる力友達と協同して、学習する力

(2)「追究する力」―　自ら課題を見つけ、解決のための解決の仕方を考え、体験を通して意欲的に課題を追究、解決していく力

(3)「表現する力」―　発表方法を考え、追究してきたことを自分の言葉でまとめて伝え、学習したことを活かして地域に貢献しようとする力

＜目指す子ども像＞

	かかわる力	追究する力	表現する力
中学年	・地域の人々や自然、社会に接し、進んで身近な地域にかかわることができる。 ・ゲストティーチャーに進んで質問したり話を聞いたりすることができる。	・身近な自然や社会に関心を持ち、学んだことや生活の中ら　課題を見つけることができる。 ・友だちと協力しながら自分なりの方法で課題を追究することができる。	・発表方法を工夫し、追究してきたことを、自分の言葉で分かりやすくまとめ、伝えることができる。
高学年	・地域の人々や自然、社会や文化に接し、興味関心を持ち、ものに積極的にかかわることができる。 ・ゲストティーチャーと連絡を取り、必要なことを質問したり話を聞いたりすることができる。	・広い視野に立って情報を収集　し、学んだことや生活の中から課題を決めることができる。 ・友だちの意見を聞きながら計　画に沿って更に深く追究することができる。	・テーマにあった発表方法を考え、追究してきたことを要点に分かりやすくまとめ、伝えることができる。

3　指導内容

ひろの学（海洋教育）として、共通テーマ「ふるさと大野大発見」に基づく学習を各学年で行う。

クラスタイムとして「情報」「環境」「福祉・健康」「児童の興味・関心」「地域の暮らし、伝統と文化」などの内容について、３～６年生の４年間を通して学習する。

（1）各学年の目標

学年	目　　標
3年	課題解決的な学習の体験を通して学び、協同しての追究の仕方やまとめ方を身につけ、自分の考えを持つことができる。
4年	課題解決的な学習の体験を通して学び、協同しての課題設定や追究の仕方やまとめ方を身につけ、自分の考えを持つことができる。
5年	自ら課題を設定し、協同して追究し、やまとめるとともに、多面的な見方をしながら自分の考えを持つことができる。
6年	自ら課題を設定し、協同して追究し、やまとめるとともに、多面的な見方をしながら自分の考えを持つとともに、地域貢献することができる。

（2）各学年の内容

	3年　70時間	4年　70時間	5年　70時間	6年　70時間
ひろの学	○大野大好き ・大野の雑穀 ・大豆栽培、料理 ○大野魅力発見 ・なにゃどやら、駒踊り、お祭り、パークゴルフ　35時間	○たんけん大野川 ・水質調査 ・大野川生き物調べ ・源流探索 27時間	○一人一芸の里に生まれてⅠ ・ふるさと大野大発見 ～一人一芸の村に生まれて～ ・子どもサミットでの発表 ・産業博士になろう ・職業調べ 49時間	○一人一芸の村に生まれてⅡ ・松島・仙台の町と比べよう ・旅行の計画を立てる ・旅行のまとめをする ・これからのふるさと 30時間
クラスタイム	○パソコンとなかよくなろう 10時間 ○あたまの中の地図を作ろう（マインドマップ）　5時間	○タブレットに記録を残そう 5時間 ○バリアフリーって何だろう 23時間	○パソコンやタブレットを活用しよう 6時間	○パソコンやタブレットを活用しよう　5時間 ○つくろうドリームマップ 20時間
復興教育	○「いきるかかわるそなえる」 15時間 ○社会科見学 5時間	○「いきるかかわるそなえる」副読本番号10，3，15，9，18，1，38，24 15時間	○「いきるかかわるそなえる」副読本番号5，30，7，4，32，8，25，24 15時間	○「いきるかかわるそなえる」副読本番号29，23，37，6，26，20，19，14，24 15時間

（3）指導上の留意点

ア　地域の人、自然、社会・文化に子ども達から働きかける場を設定し、地域とのふれあいを大事にした体験活動を重視していく。<u>いつどんな体験活動をするのか、前年度に計画したものを見て、見通しをもつ。</u>

イ　自ら課題を見つけ、考え、追究し、主体的に判断して課題を解決していく問題解決的な学習は各教科で身につけた知識や技能等を相互に関連付け学習できるように指導の工夫を図る。

ウ　学習の中で、まとめたり、表現したり、発信したり、地域貢献したりすることを大切にする。その学年で使用した指導資料、学習プリント、写真、名簿などは、学年ごとファイルに綴り、次年度の担任へ引き継いでいく。外部講師についてはコーディネーターに相談の上進める。

3年　総合的な学習　単元計画　　７０時間

月	ひろの学（海洋教育）	時数	クラスタイム	時数	復興教育	時数	合計
４月	オリエンテーション ・３年生から学ぶ「ひろの学」について学ぶ。 ・大野の農業、酪農について	3	パソコンと仲良くなろう ・パソコンの基本操作を学習する。	1	避難経路を知ろう	1	5
５月	○大野大好き ・大野の雑穀（大豆、そば、あわ、ひえ、キビ…）を知る。 ・課題を発見する。	3	パソコンと仲良くなろう ・パソコンの基本操作を学習する。	2	副読本 「しぜんとともに」 「思いやりの心」	2	7
６月	大豆を栽培しよう。 ・ゲストティーチャーから学ぶ。（大豆の種類、植え方、管理方法） ・成長の様子を観察する。 ・成長の記録をとる。	4	パソコンと仲良くなろう ・インターネットをやってみよう。	2	副読本 「地震のしくみとひがい」	1	7
７月	大豆を栽培しよう。 ・黄豆、青豆、黒豆の特徴や豆料理を調べる。 ・成長の様子を観察する。 ・成長の記録をとる。	3	パソコンと仲良くなろう ・プログラミングをやってみよう。	1	副読本 「岩手の主な災害」 「津波のしくみとひがい」	2	6
８月	○大野の魅力発見 ・疑問発見 ・課題設定 ・なにゃどやら、パークゴルフ、駒踊り、パークゴルフ等	2			地震時の避難の仕方	1	3
９月	大野の魅力発見 ・課題追究	4			社会科見学の計画 社会科見学 ・もぐらんぴあ見学 ・まとめ	3	7
１０月	大豆収穫しよう ・大豆料理の計画を立てる。 ・役割分担を話し合う。	4	パソコンと仲良くなろう ・プログラミングをやってみよう。	2	副読本 「つらいとき、かなしいとき、どうする？」	1	7
１１月	大豆料理を作ろう ・大豆料理（豆腐、豆しとぎ等）を作る。 ・これまでの活動をまとめる。	4	パソコンと仲良くなろう ・プログラミングをやってみよう。	2	火災時の避難の仕方	1	7
１２月	まとめよう ・発表会に向けて資料を作る。 ・発表会をする。	2	あたまの中の地図を作ろう ・マインドマップ	2	副読本 地域の方へ感謝しよう	2	6
１月	○大野の魅力発見 ・まとめ ・発表会に向けて資料を作る。	2	あたまの中の地図を作ろう ・マインドマップ	1	副読本 「かえってきた、いらっしゃませ」	1	4
２月	大野の魅力発見 ・発表会	3	あたまの中の地図を作ろう ・マインドマップ	1	副読本 「ひさいした犬をセラピードッグに育てる」 「今度は自分たちが」 「四つの教え」	3	7
３月	来年度に向けて	1	あたまの中の地図を作ろう ・マインドマップ	1	副読本 「みんなでぼうさい力を高めよう」 ３．１１集会	2	4
合計		35		15		20	70

４年　総合的な学習　単元計画　　７０時間

月	ひろの学（海洋教育）	時数	クラスタイム	時数	復興教育	時数	合計
４月	オリエンテーション ○大野川探検隊 ・大野川について知っていることを話し合う。	2	タブレットに記録を残そう ・基本操作や写真などの記録の残し方を学ぶ。	2	避難経路を知ろう（避難訓練）	1	5
５月	大野川探検隊 ・大野川（明寿橋付近）を観察し、記録や感想を整理する。	4	タブレットに記録を残そう ・写真等の整理の仕方を学ぶ。	1	副読本⑮ 副読本⑨	2	7
６月	大野川探検隊 ・大野川（給食センター付近）を観察し、記録や感想を整理する。 ・大野川源流を観察する。	7					7
７月	大野川探検隊 ・水生生物等を調べ、記録や感想をまとめる。	5			副読本⑱	1	6
８月	大野川探検隊 ・記録や感想をまとめる。	1	タブレットに記録を残そう ・記録を整理する。	2	地震時の避難の仕方（避難訓練）	1	4
９月			バリアフリー調査隊 ・パラリンピックについて調べる。	5	地震時の避難の仕方（避難訓練） 副読本①	1	6
１０月	大野川探検隊 ・鮭について調べたことや放流体験について記録をまとめる。	6			副読本㉙	1	7
１１月	大野川探検隊 ・大野川探検についてまとめる	2	バリアフリー調査隊 ・久慈平荘慰問	3	副読本 火災時の避難の仕方（避難訓練）	2	7
１２月	大野川探検隊 ・報告会 ・振り返り	3			副読本 地域の方へ感謝しよう	2	5
１月			バリアフリー調査隊 ・瀧音さんのお話を聞く会 ・お礼の手紙を書く。	3	副読本㉔	1	4
２月			バリアフリー調査隊 ・キャップハンディ体験 ・体験をまとめる。 ・お礼の手紙を書く。	6	副読本⑩	1	7
３月			バリアフリー調査隊 ・感想交流 ・振り返り	3	副読本③ ３．１１集会	2	5
合計		30		25		15	70

5年　総合的な学習　単元計画　　７０時間

月	ひろの学（海洋教育）	時数	クラスタイム	時数	復興教育	時数	合計
４月	オリエンテーション 《ふるさと大野大発見》 ○一人一芸の村に生まれてＩ ・１年間の見通しをもとう	2	パソコンやタブレットを活用しよう ・パソコンを使って情報を集めてみる	2	避難経路を知ろう（避難訓練）	1	5
５月	・「一人一芸の村」について課題を確かめる ・予想する ・調べるための計画を立てる	4	パソコンやタブレットを活用しよう	2	副読本⑤	1	7
６月	・「一人一芸の村」について調べる ア　昔の広報を読む イ　インターネットで調べる ウ　当時を知る方から聞く エ　ヤマセについて調べる	4	パソコンやタブレットを活用しよう	2	副読本④	1	7
７月	・調べたことを深める ア　当時を知る方との交流会 イ　大野木工のルーツを調べる ウ　調べたことをまとめる	5			副読本⑦	1	6
８月	・発表会をする。	2			地震時の避難の仕方（避難訓練）	1	3
９月	○「一人一芸」な人を見つけよう ・「一人一芸」について課題をもつ ・調べる見通しをもつ ・大野に住む「一芸」をもつ方々をリストアップする	6			副読本㉚	1	7
１０月	・「一芸」をもつ方々を分類する ・調査結果をまとめる ・交流（発表）のための準備をする ・調べたことを交流する	6			副読本㉜	1	7
１１月	○海洋サミットへの参加 ○職業調べ ・インターネットや図書で調べる	5			副読本 火災時の避難の仕方（避難訓練）	2	7
１２月	・見学のまとめをしよう ・学んだことを交流しよう	3			副読本 地域の方へ感謝しよう	2	5
１月	○産業博士になろう ・大野の産業について調べる計画 ・見学の計画を立てよう	3			副読本㉕	1	4
２月	・見学 ・調べたことをまとめる ・発表の準備をする	6			副読本㉔	1	7
３月	・調べたことを交流する	3			副読本⑧ ３、１１集会	2	5
合計		49		6		15	70

6年　総合的な学習　単元計画　　７０時間

月	ひろの学（海洋教育）	時数	クラスタイム	時数	復興教育	時数	合計
４月	オリエンテーション 〇一人一芸の村に生まれてⅡ ・前年度に学習したことを振り返り、さらに深めたいことについて考える。	4	パソコンやタブレットを活用しよう ・タブレットのカメラ機能を使って調べたことの記録を残したり、パソコンに取り入れて活用したりする方法を知る。	2	避難経路を知ろう（避難訓練）	1	7
５月	一人一芸の村に生まれて ・さらなる課題を追究する。（洋野町と修学旅行地仙台を比べる等） ・まとめ、発表準備をする。	4	パソコンやタブレットを活用しよう ・タブレットのカメラ機能を使って調べたことの記録を残したり、パソコンに取り入れて活用したりする方法を知る。	2	副読本㉛	1	7
６月	一人一芸の村に生まれて ・さらなる課題を追究する。（洋野町と修学旅行地仙台を比べる等） ・まとめ、発表準備をする。	4	パソコンやタブレットを活用しよう ・タブレットのカメラ機能を使って調べたことの記録を残したり、パソコンに取り入れて活用したりする方法を知る。	3	副読本⑥	1	8
７月	一人一芸の村に生まれて ・発表をする。	4			副読本㉕	1	5
８月	一人一芸の村に生まれて ・これからのふるさと	4			地震時の避難の仕方（避難訓練）	1	5
９月	一人一芸の村に生まれて ・これからのふるさと ・まとめる。	5			副読本⑪	1	6
１０月			つくろうドリームマップ ・自分の歩みについて、課題を設定する。	6	副読本⑮	1	7
１１月			つくろうドリームマップ ・自分の過去について振り返り、まとめる。	5	副読本⑭ 火災時の避難の仕方（避難訓練）	2	7
１２月			つくろうドリームマップ ・自分の過去について振り返り、まとめる。	4	副読本 地域の方へ感謝しよう	2	6
１月			つくろうドリームマップ ・自分の将来について考え、就きたい職業やそれに至るまでの道のりを調べ、まとめる。	5	副読本㉓	1	6
２月			つくろうドリームマップ ・発表をして、まとめをする。	3	副読本㉑	1	4
３月					副読本㉔ ３．１１集会	2	2
合計		25		30		15	70

令和２年度　総合的な学習の時間

「大野の魅力大発見！～大野の自慢探検隊～」計画書

洋野町立大野小学校　３学年

１　学習のねらい

自分たちのふるさとである大野の「人・もの・こと・自然」について課題をもち、地域の方々とのふれあいや調べ学習、体験を通して大野の魅力を知り、大切にしようとする心を育む。

２　学習の計画

日　時	学習内容	備考
５月中旬～ ６月中旬	大野の魅力について考える。 大野の「人・もの・こと・自然」について調べたいことを決め、調べ学習を行う。	PC、本、広報等
６月中旬～ 下旬	**調べ学習（こと）** ・ パークゴルフについて知っていることを話し合う。 ・ パークゴルフをする際のルールやきまりを学ぶ。	
６月２９日 （雨天時 30 日） ８：４０～ １１：５５	**「パークゴルフ」体験** ・ 「パークゴルフの由来と発祥について」のお話を聞く。 ・ ５つのグループに分かれて，パークゴルフを体験する。 ・ パークゴルフの魅力やルールについて学ぶ。	GT 岩山　義明さん 松橋　栄さん 佐々木 祥吉さん 佐々木 智子さん 舘　サツさん
７月～９月	**調べ学習（人・もの・こと・自然）** ・ 大野木工、大野りんご、ゆめ牛乳、ナニャドヤラ、駒踊り、雑穀（大豆、そば、あわ等）、自然について調べる。 ・ 産直（ゆうきセンター）に行き、大野で作られている食べ物について学ぶ。	PC 等で調べ学習 ゆうきセンター見学
１０月	**「大豆料理」体験** ・ 大豆の収穫をする。大豆料理を作る。（豆腐、豆しとぎ等）	GT 安藤イシさん
１１月	**学習のまとめ** ・ これまでの学びをパンフレットにまとめる。	一つにまとめられるように、少しずつ書き溜めておく。
１２月	**学習の発表** ・報告会を行う。	

令和２年度　総合的な学習の時間

大野の魅力大発見！　～パークゴルフ体験～

洋野町立大野小学校　３学年

１　ねらい

　大野で行われているパークゴルフの由来やプレーの仕方を学んだり，実際にやってみたりしながら，大野の文化の魅力を知り，大切にしようとする心を育む。

２　日　　時　　令和２年６月２９日（月）　【雨天時３０日（火）】

３　場　　所　　おおのキャンパス内　大野パークゴルフ場

４　対 象 者　　大野小学校３年生　１４名

５　ゲストティーチャー

岩手県パークゴルフ協会連合会　主任指導員　岩山　義明さん
学習支援ボランティア　松橋　栄さん
佐々木　祥吉さん
佐々木　智子さん
舘　サツさん

６　引 率 者　　教　諭　　大沢　菜摘
支援員　　関向　麻美
現地案内：地域コーディネーター　関口　ミエ子

７　活動内容

時　　間	活　動　内　容
８：４０	学校でパークゴルフのルール等を学ぶ。（GT）
９：３０	学校出発（スクールバス）
９：４５～ １１：３０	大野パークゴルフ場　到着 ・グループに分かれてパークゴルフ体験 （途中、休憩をはさむ）
１１：４０	大野パークゴルフ場　出発
１１：５５	学校到着（スクールバス）

８　持 ち 物　　（児童）大野小の運動着、はきなれた靴、帽子、タオル、水筒、着替え
（教師）救急バック、消毒液、用具貸出料（310 円×14 人＝4310 円）

９　参加者送迎　スクールバス使用

10　事前指導

・ ゲストティーチャーやパークゴルフ場、地域の方へのあいさつの指導をする。
・ 公共施設、乗り物のマナーを守るよう指導する。
・ マスク着用、消毒液の使用、距離を保ったバスの座席配置等、感染症対策を行う。

11　その他　　連絡先：大野小学校　洋野町大野９－１　　℡７７－２１２２

第３学年　校外学習実施計画

洋野町立大野小学校

１　ねらい

(1) 道の駅おおのゆうきセンターとおおのパン工房を見学し、地域の特徴を生かして作られているものについて知り、「大野の魅力」を探る。

(2) ウニ栽培センターを見学し、洋野町で行われている漁業に関心をもち、ウニの栽培の様子や収穫の工夫を知る。

(3) 公共の場におけるマナーや集団行動のきまりを守り、節度ある言動を学ぶ機会にする。

２　期日

令和２年９月８日（火）　８：４５～１５：１０

３　見学場所

(1) 道の駅おおの　ゆうきセンター農産物直売所

(2) パン工房おおの

(3) 種市海浜公園

(4) ウニ栽培センター

４　交通手段

スクールバス（林郷バス）

５　実施学年及び参加人数

３年生　１４名（男子８名　女子６名）

６　引率者職・氏名・業務分担

教　諭　大沢　菜摘・・・全体指導及び渉外（３年担任）

支援員　関向　麻美・・・安全支援

７　日程

８：４５～　９：００	学校発～ゆうきセンター着
９：００～１０：００	ゆうきセンター農産物直売所見学…総合的な学習の時間
１０：００～１０：１５	ゆうきセンター～おおのパン工房
１０：１５～１１：００	おおのパン工房見学
１１：００～１１：４５	おおのパン工房～種市海浜公園
１１：４５～１３：２０	種市海浜公園で昼・休憩（雨天時：ウニーク内）…遠足（行事１）
１３：２０～１３：３０	海浜公園～ウニ栽培センター

１３：３０～１４：３０　　ウニ栽培センター見学…社会科
１４：３０　　ウニ栽培センター発
１５：１０　　学校着

7　実施のための安全指導

(1) 連絡体制を密にし、児童の安全確保を図る。
(2) 健康観察を行い、異常の早期発見に努める。
(3) 乗り物の乗降時における安全確認の徹底を図る。
(4) 集団行動の約束を守らせ、適正な行動を取るように指導する。
(5) 事故における緊急処置について万全を期す。
(6) 引率者は各見学場所での安全確保、避難経路等の確認を行い、現場での指導を行う。
(7) 新型コロナウイルス感染予防のため、見学の際はマスク着用や手指消毒等をして見学する。

8　その他

（１）　服装・持ち物

（児童）動きやすい服装、紅白帽子、マスク
探検バック、筆記用具、しおり、ハンカチ、ちり紙、弁当、水筒、敷物、タオル
（教師）救急バック、消毒液、携帯電話、カメラ

（２）　見学場所の連絡先

・道の駅おおの　ゆうきセンター農産物直売所
岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-30　　電話　0194-77-4379
・おおのパン工房
岩手県九戸郡洋野町水沢第６地割３２－２　　電話　0914-77-5101
・岩手県栽培漁業協会種市事業所ウニ栽培センター
岩手県九戸郡洋野町種市第 20 地割 177　　電話　0194-65-4750
・種市海浜公園・ウニーク
岩手県九戸郡洋野町種市 18-105
（問い合わせ先）水産商工課（担当：タキオトさん）　　電話　0194-65-5916

令和２年　４学年総合的な学習の時間

「みんなの宝！大野川」計画書

洋野町立大野小学校　４学年

１　学習のねらい

（１）源流を探検したり、森の恵みや地域の川に住む水生生物の調査をしたりすることによって、自分たちが住む大野の自然を大切にしようとする心を育む。

（２）川の流れは山から海にむかって姿をかえていくことに気付き、そこから自然環境と私たちのくらしについて考えを深める。

２　学習の計画

日　時	学習内容	ゲストティーチャー等
６月１０日（水） 場所：明寿橋 予備日：１１日、１２日	**事前学習** ・有家川の水や生き物の様子を見学し、川についての関心を高め、疑問をもつ。	
６月１９日（金） 場所：食堂 時間：３校時	**事前学習** ・自分たちが住む大野の森や川、海、そして人びとのくらしや自然環境について考える。	大野の自然を守る会 佐々木祥吉さん 松橋栄さん
６月２４日（水） ８：４０　学校発 ９：００　大野川源流付近着 源流見学 １０：１０　大野川源流付近発 １０：２０　高家川源流付近着 源流見学 １０：４０　高家川源流付近発 １０：５０　大野ダム着 大野ダム見学 １１：２０　大野ダム発 １１：４０　学校着 【予備日７月１日（水）】	**大野川源流の森探検** ・私たちの身近な場所にある川はどこから始まり、どのように海へとつながっていくのかを知る。 〇大野川の源流→高家川の源流→大野ダムの見学	大野の自然を守る会 佐々木祥吉さん 松橋栄さん 野田松男さん

７月　３日　（金） ８：４０　学校発 ９：００　現地着 １１：３０　現地発 １１：５０　学校着 【予備日７月６日（月）】	**大野川探検** ・場所：大野川　上川原地区 ・大野川に住む水生生物を調べる。	大野の自然を守る会 佐々木祥吉さん 松橋栄さん 野田松男さん
７月中旬	**学習のまとめをする。** ・これまで学習や見学、体験したことを写真や絵などを用いて模造紙等にまとめる。	
２学期予定	**討論会** ・まとめたものを「大野の自然を守る会」の方々に発表し、自然について討論する。	大野の自然を守る会 佐々木祥吉さん 松橋栄さん 野田松男さん
２学期予定	**学んだことを実践する** ・大野川の学習を通して学んだ、自分たちにできることに実際に取り組む。	

３　大野川源流の森探検について

（１）　見学児童

４学年　男子１０人　女子７人　計１７人

（２）　引 率 者

副 校 長　小川口　潤

教　　諭　小田　亮　　菅野　光晴

現地案内　地域コーディネーター　関口　ミエ子

（３）　ゲストティーチャー

大野の自然を守る会

（４）　交通手段

スクールバス、徒歩等

４　その他

活動の内容等の詳細につきましては、実施計画に基づき随時連絡調整をしながらご指導いただきたくご理解ご協力をお願いいたします。

第５学年　校外学習実施計画

洋野町立大野小学校

１　ねらい

（１）様々な場所を訪れることにより、広い視野で物事を見る体験をする。

（２）望ましい集団行動のあり方を考えさせ、よりよい学校生活を築こうとする。

（３）公共施設の利用の仕方を理解することができる。

２　期　日

令和２年６月２２日（月）　８：３０～１５：００　　※雨天時６月２４日（水）

３　行き先

蕪島、八戸市水産科学館マリエント、種差海岸

４　交通手段

スクールバス

５　実施学年及び参加人数

５年生　２２名（男子８名、女子１４名）

６　引率者　職・氏名、事務分担

教諭	深澤　好花	全体指導、渉外（５年担任）
教諭	佐々木　裕二	全体指導
講師	柏谷　悟郎	安全指導（きらり学級２担任）

７　日　程

８：３０	大野小学校発
９：３０	蕪島着
１０：００	蕪島発
１０：１０	マリエント着
１２：００	昼食（マリエント、５階展望ホール）
１２：５０	マリエント発
１３：２０	種差海岸着
１４：１０	種差海岸発
１５：００	大野小学校着

８　実施のための安全指導

遠足の目的、実施計画などを十分に理解させ、集団行動の規律の徹底を図り、安全かつ能率的な行動ができるように指導する。

（１）引率責任者を中心に連絡体制を密にし、児童の安全確保を図る。

（２）健康観察を行い、異常の早期発見に努める。

（３）乗り物の乗降時における安全確認の徹底を図る。

（４）集団行動の約束を守らせ、適正な行動を取るように指導する。

（５）人員の点呼を随時行う。

（６）不慮の事故における救急処置について万全を期す。

（７）引率者は各見学場所での安全確保、非常口などの確認を行い、現場での指導を行う。

（８）コロナウイルス感染予防のため見学の際は、マスク着用の上人同士の間隔をあけて見学する。

９　事前事後指導について

（１）事前指導

ア　バス利用のマナー

イ　公共施設の利用の心得

ウ　持ち物

（２）事後指導

ア　マナーの反省

イ　振り返りカードにまとめる

１０　その他

（１）服装・持ち物

動きやすい服装、マスク、防寒着、紅白帽子

探検バック、筆記用具、しおり、ハンカチ、ティッシュ、敷物、弁当、おやつ、水筒

（２）対応依頼施設

・蕪島

〒031-0841　青森県八戸市大字鮫町字鮫 56-2

蕪嶋神社電話番号 0178-34-2730

・八戸市水産科学館マリエント

〒031-0841　青森県八戸市大字鮫町字下松苗場 14-33

電話番号　0178-33-7800　　FAX　0178-33-7801

・種差海岸

〒031-0841　青森県八戸市大字鮫町字棚久保 14-167

５学年　総合的な学習の時間

「大野の産業博士になろう」実施計画書

（大野の産業に関する学習・キャリア教育）

洋野町立大野小学校

１　学習のねらい

大野の産業について学習課題を設定し、実際に産業に携わっている方のところへ出かけ、仕事についての見学や体験、インタビューなどの学習を通して、その産業に対する思いや願いについて理解を深め、ふるさとに対する誇りと愛情を育てる。

２　現地見学の計画

（１）日　時

令和３年２月２５日（木）　学校発８：３０～学校着１２：１０

３月　８日（月）　学校発９：２０～学校着１１：１０

（２）見学先と日程

見学日時	見学先	内容	連絡先
２月２５日 ８：４５～９：４５	（株）北部産業 代表取締役　佐々木　松一 大野７０－２	木炭生産に関する仕事についての見学やインタビュー	☎　７７－２３６１ Fax７７－２３６２
２月２５日 １０：００～１１：００	（一社）大野畜産公社 場長　岩山　義明 大野５６－７８－１	畜産に関する仕事についての見学や体験、インタビュー	☎　７７－２４３４ Fax７７－２４３４
２月２５日 １１：１５～１２：００	大野林産加工事業協同組合 理事長　下舘　孝一 大野５８－１２－２９	林産加工に関する仕事についての見学やインタビュー	☎　７７－２８００ Fax７７－２８０５
３月　８日 ９：３０～１１：００	（一社）大野ふるさと公社 理事長　町長　水上　信宏 大野５８－１２－３０	陶芸・裂き織に関する仕事についての見学や体験、インタビュー	☎　７７－３２０２ Fax７７－３２０３

３　見学児童数

５学年　２２名

４　引率者

教諭　深澤　好花

講師　柏谷　悟郎

地域コーディネーター　関口ミエ子

５　交通手段

スクールバス

6学年 総合的な学習の時間

「引き継いでいきたい大野のよさ PR プロジェクト」実施計画書

洋野町立大野小学校

1 学習のねらい

大野の産業や文化、自然などについて学習課題を設定し、見学や体験、インタビューなどの取材活動を通して、大野の産業や文化、自然などに対する思いや願いについて理解を深め、ふるさとに対する誇りと郷土愛を育む。

取材活動をもとにプレゼンテーションや動画を制作し、大野のよさや魅力を全校児童や保護者、地域に伝える。

2 現地見学の計画

（1） 日 時

令和2年12月 18 日（金） 学校発10:30 ～ 学校着12:00

（2） 見学先と日程

グループ	見学先 （見学時間の目安）	内容	案内GT （学習支援ボランティア）	引率者
自然	ひろのまきば天文台 台長 阿部 俊夫さん （10:45 ～ 11:45）	天文台や海成段丘についての見学やインタビュー	松橋 栄さん	関口 ミエ子
酪農	大野畜産公社 場長 岩山 義明さん （10:45 ～ 11:45）	酪農についての見学やインタビュー		
大野木工	大野ふるさと公社 瀧音 嘉幸さん （10:45 ～ 11:45）	大野木工についての見学やインタビュー	中家 正一さん	小川口 潤
文化	洋野町立大野図書館 木村 智暁さん （10:40 ～ 11:50）	ナニャドヤラについてのインタビュー	佐々木 祥吉さん	佐藤 佳央理
食	野菜ソムリエ 布施 かおりさん ※大野小学校家庭科室 （10:35 ～ 12:00）	ほうれん草栽培についてのインタビューやほうれん草を使ったおかずの調理実習	太長根 英子さん	佐々木 裕二

3 見学児童数 ・ グループ内訳人数

6学年 18名 （ 自然4人 ・ 酪農3人 ・ 大野木工4人 ・ 文化3人 ・ 食4人 ）

4 引率者

副校長 小川口 潤

教 諭 佐藤佳央理

教 諭 佐々木裕二

地域コーディネーター 関口ミエ子

5 交通手段

スクールバス

洋野町立林郷小学校

総合的な学習の時間　全体計画　（R2:A年度）

関係法規
日本国憲法　教育基本法
学校教育法　学習指導要領
岩手県学校教育指導指針
洋野町教育行政の重点

学校教育目標
～輝く未来を切り拓き　たくましく生きる子どもの育成～
◎なかよく（豊かな心）・・・心ふれあい力を合わせる子
◎たゆまず（確かな学力）・・・自ら進んで学ぶ子
◎すこやかに（健康・体力）・・・健康でたくましい子

児童の実態
・穏やかで素直、まじめに取り組む。
・少人数のため、お互いをよく知る。
・基礎的な学力が十分に身についていない。

保護者・地域の願い
・学力向上
・いろいろなことに挑戦
・他校との交流、他地域での体験
・自然と出るあいさつ
・思いやりの心

総合学習の時間の目標
横断的・総合的な学習や探究的な学習を通じて、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよい問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

地域の実態
・学校教育に関心が高く、協力的であり、連携が図りやすい。
・豊かな自然に恵まれ、地域教材や人材も豊富である。
・家庭の教育力が低下しつつある。

総合的な学習の時間におけるめざす子ども像
・課題解決の方法や、追究のためのいろいろな解決の仕方を体得する子ども
・論理的な考え方を身に付け、自分の考えを持つ子ども
・各教科で学んだ知識や技能を相互に関連づけ、学習において活用する子ども

育てようとする資質や能力及び態度

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
○情報を収集し分析する力 ○自分の考えを端的にまとめ表現する力	○自らの行為について意志の決定をする力 ○自分の生活のあり方を考える力	○他者と協同して課題を解決する力 ○社会活動に参加する態度

	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
学年の目標	○体験を通して友達や教師と共に学び、課題設定の仕方や情報の収集の仕方・まとめ方を身に付ける。		○自ら明確な課題を設定し、課題解決のために様々な調査活動を行うとともに、学んだことを関連づけたり、応用したりする。	
	○事象を比較したり、要因を考えたりしながら、筋道立てて考える。		○見通しをもって自ら課題を解決し、自分の考えを深める。	
	○各教科での学びを生かし、活動を通して自分の生活のあり方を考える。		○自分と社会とのかかわりを見つめ直し、よりよい生き方や考え方を目指そうとする。	
指導過程	気づく	調べる	まとめる	発信する
評価の観点	課題発見力	課題追究力	まとめ・表現する力	

		3・4年	5・6年
学習活動（活動は一例）	A年度（修学旅行）	いくぞ！林郷探検隊（19時間）	歴史発見！仙台の旅（15時間）
		有家川の自然（18時間）	間澤牧場へ行こう（20時間）
		はい！こちら林郷農園です！（15時間）	ゆめ牛乳の魅力を伝えよう（17時間）
		伝統林郷ソーランを受け継ごう（10時間）　稲作体験をしよう田植え・稲刈り・感謝祭（7時間）　花壇づくり（1時間）	
	B年度（宿泊体験）	ヒーローの旅（20時間）	ヒーローの旅（20時間）
		有家川の自然（18時間）	有家川から太平洋へ・海の環境を守ろう（12時間）
		はい！こちら林郷農園です！15時間）	大野海成段丘のひみつを探ろう（20時間）
		伝統林郷ソーランを受け継ごう（10時間）　稲作体験をしよう田植え・稲刈り・感謝祭（7時間）　花壇づくり（1時間）	

外部の教育資源の活用
○地域支援本部の推進
○地域の教育的資源の活用
・文化的行事
・地域のフィールド
・地域の人材
・稲作体験
○公的な教育資源の活用
・町役場
・講師派遣事業
○家庭と連携した支援体制

教科との関連

国語	・相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりすること ・相手の目的に応じて、筋道を立てて文章を書くこと ・目的に応じ、内容の中心を考えたり、要旨を把握したりしながら読むこと
社会	・社会的事象を的確に観察・調査し、各種の資料を効果的に活用し、調べたことを表現すること
算数	・事象を数理的にとらえること ・数量や図形についての表現や処理に関わる技能
理科	・事前事象の性質や規則性、相互の関係等への理解 ・観察・実験の技能と、過程や結果の的確なまとめ
他	・教科等で培った力を発揮し、総合的な学習の時間でさらに伸ばす。

生活科との関連
・教科の学びをつかう。
・考えたり工夫したりする。
・自分を通した気づきをする。

道徳との関連
・生命尊重
・思いやり、親切
・不撓不屈
・尊敬感謝
・郷土愛
・自然愛

令和2年度　海洋学習

年間学習計画

つながる自分　つなげる自分

～ひろのの山・川・海・ひと～

洋野町立林郷小学校

令和２年度　３・４年海洋教育学習計画

総時数	単元時数	単元名	学習活動	時期	場所	講師
1	1	有家川について調べよう	有家川ってどんな川だろう（1）	6月	学校	
2	2		有家川に行ってみよう（1）	6月	有家川（児童館近く）	
3	3		有家川のお話を聞こう（1）	6月	学校	○
4	4		有家川にはどんな生き物がいるのかな（1）	7月	有家川（児童館近く）	
5	5		有家川（高家川）の源流を訪ねてみよう（3）①	7月	大野地区	○
6	6		有家川（高家川）の源流を訪ねてみよう（3）②			
7	7		有家川（高家川）の源流を訪ねてみよう（3）③			
8	8		有家川についてのまとめ（3）①	7月	学校	
9	9		有家川についてのまとめ（3）②			
10	10		有家川についてのまとめ（3）③			
11	1	森林について調べよう	洋野町にはどんな木があるのだろう（1）	8月	林郷小近隣	
12	2		久慈平岳の植物を調べてみよう（3）①	9月	久慈平岳	
13	3		久慈平岳の植物を調べてみよう（3）②			
14	4		久慈平岳の植物を調べてみよう（3）③			
15	5		洋野町の木は何に使われているのかな（1）	9月	学校	
16	6		大野木工に行ってみよう（2）①　※木工体験含む	9月	大野木工（おおのキャ	○
17	7		大野木工に行ってみよう（2）②　※木工体験含む			
18	8		間澤林業さんのお話を聞いてみよう（1）	10月	学校	○
19	9		林業の仕事について調べてみよう（2）①	10月	間澤林業作業現場	○
20	10		林業の仕事について調べてみよう（2）②			
21	11		森林の役割についてまとめよう（3）①	11月	学校	
22	12		森林の役割についてまとめよう（4）②			
23	13		森林の役割についてまとめよう（5）③			
24	1	有家川と海のつながりについて調べよう	有家川はどこにつながっているのだろう（1）	9月	学校	
25	2		有家の海に行ってみよう（2）①	9月	洋野町有家	
26	3		有家の海に行ってみよう（2）②			
27	4		森林・有家川・海のためにできることを考えよう（1）	2月	学校	
28	5		家でやってみたことを紹介しよう（1）	2月	学校	
29	6		学習をまとめよう（2）①	2月	学校	
30	7		学習をまとめよう（2）②			
31						
32						

令和２年度　５・６年海洋教育学習計画

林郷小学校

総時数	単元時数	単元名	学習活動	時期	場所	講師
1	1	SDGsについて調べよう	SDGｓってなんだろう（2）	6月		
2	2		SDGｓってなんだろう（2）			
3	3		SDGｓの目標を調べよう（3）			
4	4		SDGｓの目標を調べよう（3）			
5	5		SDGｓの目標を調べよう（3）			
6	6		自分にできることを考えよう（1）	7月		
7	7		SDGｓの目標の関係性（2）			
8	8		SDGｓの目標の関係性（2）			
9	9		調べたことを発表しよう（1）			
10	10		SDGsについてのまとめ（1）			
11	1	林郷で酪農が盛んなのはなぜだろう？	海成段丘を見に行こう（3）		大野キャンパス	○
12	2		海成段丘を見に行こう（3）		大野キャンパス	○
13	3		海成段丘を見に行こう（3）		大野キャンパス	○
14	4		林郷で酪農が盛んな理由を考えよう（1）			
15	5		間澤牧場に見学に行こう（3）	8月	間澤牧場	○
16	6		間澤牧場に見学に行こう（3）		間澤牧場	○
17	7		間澤牧場に見学に行こう（3）		間澤牧場	○
18	8		酪農と海のつながりをまとめよう(やませ)（3）	9月		
19	9		酪農と海のつながりをまとめよう（3）			
20	10		酪農と海のつながりをまとめよう（3）			
21	1	林郷と海のつながりについて考えよう	洋野の海に行ってみよう（2）①			
22	2		洋野の海に行ってみよう（2）②			
23	3		洋野の海に行ってみよう（）			
24	4		ＳＤＧｓの１４番の目標について調べよう（3）	10月		
25	5		ＳＤＧｓの１４番の目標について調べよう（3）			
26	6		ＳＤＧｓの１４番の目標について調べよう（3）			
27	7		海の大切さを学ぼう（2）			
28	8		海の大切さを学ぼう（2）			
29	9		洋野の海や林郷の酪農のために自分ができることを考えよう（2）			
30	10		洋野の海や林郷の酪農のために自分ができることを考えよう（2）			
31	11		発表に向けて準備をしよう(3)	11月		
32	12		発表に向けて準備をしよう(3)			
33	13		発表に向けて準備をしよう(3)			
34	14		学習をまとめよう（2）①	2月		
35	15		学習をまとめよう（2）②			

令和2年度　3，4年生　ワークシート集

つながる自分　つなげる自分

～ひろのの山・川・海・ひと～

単元名：有家川について調べよう

洋野町立林郷小学校

有家川を調べよう

名前

1　有家川について知っていることを書こう。

林ごうの有家川のふかさは長さは、大人ひざ4本ぐらいかもしれない。
有家川は何kmぐらいで海につくんだろう。
有家川のはやさはきせつによってかわるのかな

2　有家川を見てわかったこと、さらにぎもんに思ったことを書こう。

メモ
有家川のふかさは75cmぐらい
有家川の所の真ん中に草があるしきは二つに有家川がわかれる。

令和2年度　3，4年生　ワークシート集

つながる自分　つなげる自分

～ひろのの山・川・海・ひと～

単元名：森林・川・海のつながりを調べよう

洋野町立林郷小学校

３・４年生　「森林・川・海のつながりを調べよう」学習シート

名前（　　）

1　学習かだい

木松橋さんのお話をふり返り、大事なことをまとめよう

2　むかしの有家川の様子はどうだっただろう。

生き物が多かった。水が多かった。人は、川にゴミをすてて、きたなくなった。

3　（　川の水のかさ　）がへったのはなぜだろう。

それは（木がへった　）から。

（森林　）には（水をたくわえる　）はたらきがある。

森林は、天然の（　ダム　）ともいえる

4　有家川の水はどんなことに役に立っているのだろう。

田んぼの水に使うこと。家でいえにつかう水。

林郷地区は、大野で一番（　米がとれる　）場所だった。

5　有家川にいる生き物についてふりかえろう。

カワシンジュガイ、アユ、カニ、トジョウ

6　松橋さんのお話を聞いて思ったことや、もっと調べてみたいことについて書こう。

むかしは、よごれていた川だったけど、ゴミひろい、などのしぜんを大七カにすることをやって、お米をたくさんとりたい。

森林学習ワークシート
名前

1　どんな木を使いますか。

・アカマツ
・スギ
・カラマツ
・ナラ
・「

2　林業には、どんな仕事がありますか。

・植林。
・草かり。
・かんばつ。
・木を切る。

3　木は、どんなことに使われますか。

・紙。
・炭。
・ティッシュ、トイレットペーパー。
・家具。
・大野木工。
・新国立きょうぎ場の屋根。
・ビル
・たて物
・車。
・せい分だけの車。

4　洋野町の木を使っているのですか。

・ほとんどが洋野町。

5　植林してから、木を切るまで何年ぐらいかかりますか。

・40年ぐらいで切る。
・アカマツは、50年から60年。
・ナラは20年から30年で切る。

6　林業の仕事で大変なことは何ですか。

・気温。
・山かじが起こらないようにすること。

7　仕事をしていてうれしいことは何ですか。

・山主に「きれいになったね」と言われること。
・全部終わってたっせい感が出ること。

8　間沢林業はいつ始まりましたか。

・60年くらいから。
・かまで木を切る時代から。
・しょう木と30年くらいから。
・しんたろうさんは3代目。

9　これからのねがいは何ですか。

・みんなが木にきょうみを持ってくれること。
・山にきょうみを持ってほしい。

令和2年度　5，6年生　ワークシート集

つながる自分　つなげる自分

～ひろのの山・川・海・ひと～

単元名：酪農が盛んなのはなぜだろう
～大野の酪農と海洋～

洋野町立林郷小学校

1、洋野町のらく農について

久慈管内の酪農家数と牛頭数

洋野町	31	3,301	128	2,162
久慈市	15	956	118	1,854
野田村	1	39	2	6
普代村	1	130	2	242

↑洋野のらく農が盛んなことが分かる

↑まざわ牧場でのらく農体験の様子

↑大野の主な牧場

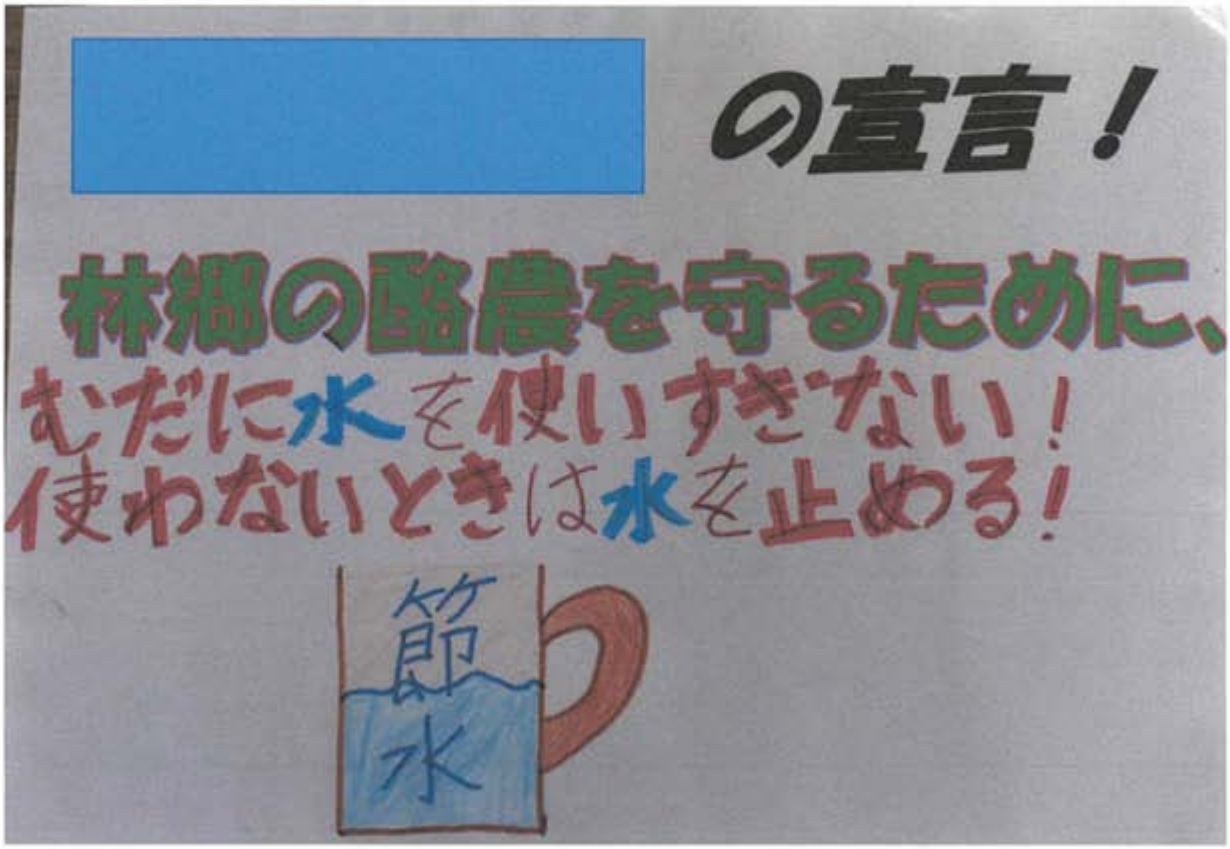
○は、共同利用もはん牧場

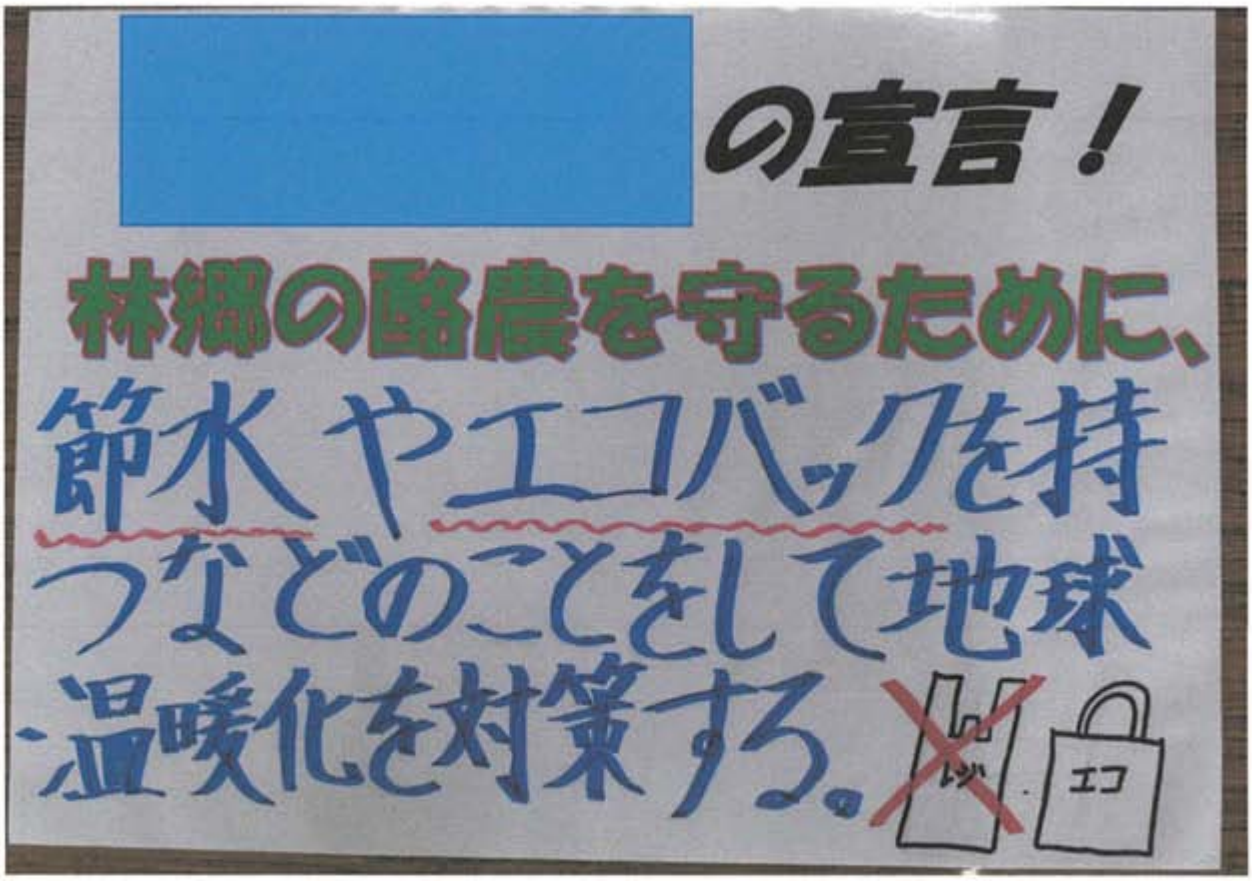
○は、個人牧場

2、酪農と海成段丘について

大野キャンパスから見える海成段丘

東西約10Km
南北約15Km
の海成段丘


の宣言！
林郷の酪農を守るために、
むだに水を使いすぎない！
使わないときは水を止める！
節水


の宣言！
林郷の酪農を守るために、
節水やエコバックを持
つなどのことをして地球
温暖化を対策する。
レジ
エコ

大野の酪農と海洋

名[redacted])

1、今日見学してわかったことをまとめましょう

☆ 大野(林郷)で酪農がさかんなのは(産業　　)と

(生活等　　)のため。

山から海に砂鉄が流れていることが分かりました。あと、やませの強さによってやませの広さが変わることが分かりました。

2. 感想

野田しおソフトは、おおのミルク工房から作られているのがおどろきました。自分達は一番高い土地に住んでいるのは知っていたけど、海が土地を削ってどんどん段差になっていたのが知らなかったので知れてよかったです。

☆メ モ☆

やませの強さによりやませの広さが変わる。
のだしおソフトはおおのミルク工房から作っている。
初め12人で働いていた。平成には28人で働いていた。
自分達がたべているトウモロコシは「スイートコーン」
牛たちは「デントコーン」
自分たちは一番高いところに住んでいる。
80万年前は、ほとんど海だけだった。
山から海に砂鉄が流れている。
らくのうがさかん
火のうではやませがやくにたつ。

大野の酪農と海洋

～間澤牧場に見学に行こう！～

名前(

☆今まで学習してわかったことをまとめましょう

大野は酪農がさかん
1軒あたり106頭
・乳牛は暑さに弱い ←やませががあるからOK
・広々とした立りょう地帯が適している
・大野地区共同利用模範牧場
・牛を預かって育てる
若い人を育てる

質問したいこと

牛が病気にならないために何に気をつけていますか
どのくらい大きくなったら、牛乳をとる人ですか。

☆メモ☆

年に7回草をかる
デントコーン7ヘクタール
365日休まずはたらく
朝4時に起きる
そうじ
えさやり
4時から7時
5時から8時までやる
メンイそうじ 1サやりさく乳
かんそうさせたものをあげる15kg
ふんはひりょうとしてつかう
きれいなぞうきんでふく
1年に3回しゅうかく
38°くらい
あつさに弱い
せんふうき

人こうじゃせいさん
酪らくのう画へるパ
タンクローリー
ドラムかん1本分
バクテリアが草をぶんかい
こまかくぶんかいするする
70万80万くらいけっこう高くなっている
スイートコーンよりもデントコーンのほうが大きい
子どもオスは2回しゅうかんから3しゅうかんでる

感想

酪農について勉強してみて私も、牛をかっているけど
じっていることもあったけどしらないこともあってもっと
酪農についてしりたいし肉牛のこともしりたいしほか
の酪農について調べてみたいです。

やませ って何？

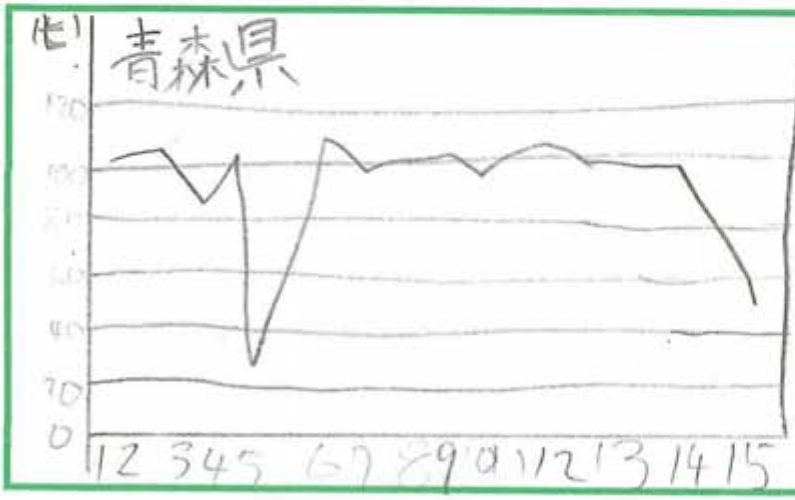
名前 [redacted] ）

1　やませ　とは何？

6月～8月ごろふく北東の風のことを山背と言う。

2　やませが起きる仕組みについて調べましょう

3　やませが生活にあたえる影響について調べましょう



平成5年にとてもさがっている15年もさがっている

やませ がなくなる！？

海水温上昇って何？

名前 [redacted])

①現状　②原因　③対策

①現状
~~海水温平均~~
1981年から2000年の平均気温より0.4℃高い
自然災害が増加する
海面上昇

②原因
地球温暖化
「レジームシフト」
レジームシフトとは気候がある状態から別の状態へと地球規模で
急激に変化し[redacted]しその影響を受けて
海の環境や生態系が大きく変化する現象のことです。

③対策(地球温暖化しないように)
冷房、暖房の設定温度を1度低く
節水を心がける
エコドライブをしましょう
マイバックを使う
森林をふやす

洋野町立帯島小学校

Ⅲ－１４　総合的な学習の時間（わくわくタイム）全体計画

日本国憲法
教育基本法
学習指導要領

【校訓】夢や希望にむかって　たくましく　豊かに伸びる　壱島の子
【学校教育目標】
○自ら考え　進んで学ぶ子ども
○心の温かい　思いやりのある子ども
○命を大切に　体を鍛える子ども

児童の実態
○明るく素直で、物事に対して真面目に取り組む。
○自ら進んで学習活動に取り組もうとする。
●自分の思いを表現することを苦手としている。
●地域の方などに対して、自分から進んで関わろうとする意識が低い。

学校評議員会
・学校教育の充実・深化のための点検と評価

【総合的な学習の時間の目標】
（１）横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと。
（２）自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること。
（３）学び方やものの考え方を身に付けること。
（４）問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること。
（５）自己の生き方を考えることができるようにすること。

【目指す子ども像】
よく考え、自分の思いや考えを表現できる子ども
お互いに協力し合ってしっかりと活動ができる子ども

中学校との連携
・小・中学校を通して育てたい資質・能力の育成に関する意見交流

地域との連携
・地域住民及び関係機関の協力による体験活動の実施

【本年度の重点】
・地域の方や友だちと学習を進める中で、コミュニケーション能力の育成を図る。
・自らの思いを持ち、進んで考え表現しようとする態度の育成を図る。
・自分の生活を見つめ直し、自分の生き方について考えようとする態度の育成を図る。

ひろの学の目標に向け、海洋学習を意識した学習活動に取り組む

	①学習方法に関わって育てたい力	②自分自身に関わって育てたい力	③他者や社会との関わりに関わって育てたい力
中学年	○自分で調べることのできる課題をみつけることができる。 ○いろいろな学び方を体験し、資料を集めることができる。 ○自分の考えや感想、努力したことをまとめることができる。	○自分の仕方で追究し、最後まで工夫してやり遂げることができる。 ○自分のよさや進歩をみつけ、他の人とのかかわりで考えることができる。	○いろいろな考え方にふれることができる。 ○友だちと協力して調べたり、話し合ったり、まとめたりすることができる。
高学年	○学んだことや自分の生活から課題をみつけることができる。 ○課題に応じた情報を収集して活用することができる。 ○追究した過程や結果をまとめ、自分の考えをもつことができる。	○計画を修正しながら追究し、さらに深く広く追及することができる。 ○自分の将来について意見や考えをもち、これからの生き方について考えることができる。	○異なる意見や他者の考えを受け入れることができる。 ○地域の人や専門家に話を聞き、関わりを考えて生活することができる。
指導過程	①課題の設定 → ②調べる（情報の収集） → ③まとめる（整理・分析） → ④発信・表現する（まとめ・表現） → ⑤振り返り		

【テーマ】　緑の高原に生きる

学年	3年（70）	4年（70）	5年（70）	6年（70）
単元名及び目標	【壱島の名人調査隊】（33） 壱島の様子を調べて、様々な名人がいることを知り、名人の工夫などを聞く活動を通して、地域への愛着をもつことができる。	【壱島モーモー研究】（50） 牛や地域の畜産（酪農）農家について学ぶことを通して、畜産（酪農）に携わる人々の思いや願いを知ったり、調べて分かったことをまとめたりすることができる。	【お米からのおくりもの】（30） 稲作体験を通して、農家の人たちの工夫や努力、米作りにかける思いを理解するとともに、これからの食料生産のあるべき姿について考えることができる。	【緑の高原に生きる】（50） 地域の一員として共に生きる人々の生き方や考え方を知ることを通して、地域の中で人とかかわりながら自分らしく生きることの大切さやすばらしさに気付き、自分らしさを踏まえた「これからの自分」の生き方を考え、実践していこうとする。
	【伝え　引き継ぐもの】（7） 地域の方のえんぶりに対する思いを知りえんぶりを実際に舞えるようになる。	【伝え　引き継ぐもの】（7） 地域の方のえんぶりに対する思いを知りえんぶりを実際に舞えるようになる。	【伝え　引き継ぐもの】（14） 地域の方のえんぶりに対する思いを知り自分たちもえんぶりの継承者として正しくえんぶりを伝えられるようになる。	【伝え　引き継ぐもの】（20） 地域の方のえんぶりに対する思いや願い、えんぶり発祥の延喜などを調べ、えんぶりの節りの意味を考えながら、えんぶりを継承したり後輩に伝えたりする。
	【野菜博士になろう】（30） 壱島で生産されている野菜や食物について調べることで、自分たちも栽培しようとする気持ちをもち、栽培活動を通して食物生産の大切さを理解し、それに従事する人々の願いをもとに、地場産業のよさを知る。	【みんなで手をとりあって！】（13） 体が不自由な人の大変さや苦労に気づき、ともに生きるために自分ができることを考えることができる。	【自然とふれ合おう】（26） 県北青少年での活動を通して自然の中で活動することの楽しさや素晴らしさに気づき、自然を守るために自分たちができることを考え、実践することができる。	
海洋学習				

道徳	国語	社会	算数	理科	特別活動
・郷土を愛する ・自然環境を大切にする心 ・助け合い支えあう心 ・生命を尊重する心 ・外国の人々や文化を理解しようとし、自国の文化を尊重する心	・自分の思いや考えを相手に伝える力 ・目的や意図に応じて分かりやすく表現する力 ・自分の考えについて筋道を立てて書く力 ・言語についての知識	・社会的事象に関心をもち調べようとする態度 ・統計・年表・グラフなどの資料を活用する力 ・調べたことを考察する力	・数量関係を正しくとらえる力 ・長さ・重さ・かさなどを正しく測定する力 ・図や表、グラフに表現する力 ・筋道を立てて考える力	・自然事象に関心をもち、進んで調べようとする態度 ・見通しをもって観察実験をする力 ・筋道を立てて考え課題を解決する力	・話し合い活動の仕方 ・集団を高めていこうとする意欲と主体的な態度 ・自分の考えや意見の発表の場

音楽：豊かな情操　　図工：創造する喜び、表現の技能　　家庭科：生活を高めようとする意欲　　体育：健康安全に関する知識

海洋教育推進計画

洋野町立帯島小学校

1　目的

本校は、太平洋側の隆起による海成段丘（大野段丘）の上に立つ中山間地域にある。海岸線までは３０ｋｍほどあり、一見、海洋に親しみ生活しているとは言い難い地域である。しかしながら地域の中心的な産業（農・畜産業）は海洋の影響により形成された段丘と太平洋から吹き上げる山背を利用して拡大してきた経緯がある。従来、負の影響が大きく取り上げられる山背を最大限利用し、さらに段丘地形を見事に活用し、発展してきたこの地域の知恵と志の高さに目を向け、ふるさとの伝統や文化、自然を愛する児童を育てると共に産業と自然、社会との関わりを追究することにより多面的・総合的に物事を考えることができる児童の育成を目指すものである。

2　目　標

地球の成り立ちに始まる海の影響により創成された洋野町の大地に生き、ともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの観点で目を向け、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育てる。

3　基本的考え方

海洋教育はこれまで本校で行われてきた教育課程を「海・海洋・地球」を切り口に見直し、各教科・領域で「海・海洋・地球」（＝身の回りの出来事）と関連させて取り組むことで、実生活を意識し、より主体的に「海に生き、海とともに歩む地域に喜びと誇りをもち郷土の豊かな自然や地域の特色を学ぶ」ことを基本とする。

4　具体的な観点

（１）海に親しむ

町内に広がる豊かな海や川、山での体験学習を行い豊かな心と郷土を愛する心をはぐくむ。（ふるさとで過ごす喜び）

（２）海を知る

身近な郷土について「水」を視点に見直し、発見したことをもとに郷土の特色を学び、郷土の発展に努める。（地域の特色を学ぶ）

（３）海を守る

「森林愛護少年団」の活動や「森林学習」の目的を明らかにし、「海や水」「産業」とのつながりを意識することで、強度を大切にする心をはぐくむ。（ふるさとを愛する心）

（４）海を利用する

先人たちは、どのようにして海の恵みを享受してきたのか。地域に根ざした産業を学び、地域社会に尽くす人材を育成する。（地域社会に尽くす）

5　今年の重点

・現在の教育活動（※総合的な学習の時間を中心として）を「水」「海」「地球」「世界とのつながり」という視点で見直し、海洋教育の関連を明らかにする。

・関連性のある学習において「水・海との関連」という視点を児童に投げかけ、考える機会を持つ。

6　具体的実践領域

①体験活動全般
②自然科学全般（気象・水の循環・四季・地形・気候・地学・物理・化学）
③産業学習全般（農業・林業・工業・商業・物流・特産）
④地域学習全般（人・もの・土地）
⑤伝承活動

7　学習の具体的視点

（1）「海成地形の影響」（利点・欠点）
（2）気候と海の影響、くらし、産業との関係　（山背、ほうれん草、酪農、米作）
（3）「水」との関わり（森林と水　源流　水の循環　海への影響）
（4）起源をさぐる（えんぶりの起こり、願い、踊りの意味）
（産業の起こり、特徴、自然環境との関連）
（5）比べる（海と山との違い　海と山との関連）
（他の地域との違い　他の地域との関連）

8　指導の実際

総合的な学習を軸に学年のテーマを設定し、地域の産業の成り立ちを中心に学習する中で、実は海（水）が地域産業に大きく影響を及ぼしていることに目を向けていく。

3年生では「帯島名人を紹介しよう」で地域の第一次産業（畜産・酪農・野菜作り）、木工業がなぜ盛んになってきたのかを調べ、なかなか成功しなかった野菜作りが山背による冷涼な気候により成功したことを学ぶことにより地域の人々の思いを探る。

4年生では「帯島モーモー研究」で地域の中心産業となっている酪農の条件が、海成段丘による大地、山背による冷涼な気候と一致することに目を向け国内でも有数の産地となるまでの地域の人々の努力を探る。

5年生では、山背の影響によりなかなか稲作ができなかったこの地域で、科学的に気候条件を調べ、品質改良を重ね、作付け方法を工夫することにより稲作を可能にした岩手・洋野町の農政について稲作体験を通して学ぶ。

6年生では、これまでの3年間の学びを振り返り、地域の自然とともに生きてきた地域の人々の考え方、生き方を学び、これからの自分たちの生き方、地域の未来について考えていく。

その中で期待できる学習効果は

①一見、海とは無縁に見える中山間地がその成り立ちまでさかのぼることにより海の影響を大いに受けていることが理解できること
②地域の産業はその地域の地形・気候の特色を生かしたものでありその影響は海からによるが大きいことに気づくこと
③地域の先人達はこの地の地形・気候と上手に向き合い、生かし共存する知恵を持っていたこと
④ ①～③までの追求過程において、他の教科の知識・科学的根拠・数値を総合的に使った学習展開ができること
⑤以上の学びをわくわく発表会などで発信していくことで地域を愛することが育つこと

等が考えられる。

9　指導計画

5月　田植え体験（5年生）
6月　酪農・野菜作り・工房見学・地域のゲストティーチャーによる授業開始
7月　高家川源流探検・大野ダム見学・森林愛護少年団活動開始（4～6年生）
（指導者を招いての）水生生物調査　パックテスによる水質調査
11月　海洋教育子どもサミットへの参加（海はともだち）（6年生）
10月　稲刈り体験（5年生）
10月・1月　地域へのえんぶり披露（5～6年生）
2月　わくわく発表会による地域・保護者への学習のまとめ発表

３年生「くらし、産業（農業）との関係を探る海洋教育の推進」

【実践のねらい】
・地域の様子を調べることで帯島には様々な名人がいることを知り，名人の仕事（活動）の工夫などを聞く活動を通して，地域への愛着を持てるようにする。
・地域の第一次産業（野菜作り）の様子について調べ，なかなか成功しなかった野菜作りは山背による冷涼な気候を活かして成功したことを学び、地域の人々の思いを探ろうとする。

○時数　５～２月　７１時間（総合的な学習の時間）
○関連　国語・社会科・理科
○目標

※青枠が海洋学習

協力機関等
・地域に住む名人；インタビュー調査
・ＪＡ新いわて大野支所二ツ屋事業所；施設見学

	①学習方法に関わるもの	②自分自身に関わるもの	③他者や社会との関わるもの
中学年	○自分で調べることのできる課題をみつけることができる。 ○いろいろな学び方を体験し，資料を集めることができる。 ○自分の考えや感想，努力したことをまとめることができる。	○自分の仕方で追究し，最後まで工夫してやり遂げることができる。 ○自分のよさや進歩をみつけ，他の人とのかかわりで考えることができる。	○いろいろな考え方にふれることができる。 ○友だちと協力して調べたり，話し合ったり，まとめたりすることができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	【帯島の名人調査隊】（２６） ①オリエンテーション（１）総合 ・「総合的な学習の時間」とはどんな学習なのかを知る			海辺で遊ぼう２ 洋野のウニを観察しよう２		【野菜博士になろう】（３０） ①帯島でどんな野菜が生産されているのかを考える（１）総合						
探求的な活動	②帯島という地域について考える（２）総合 ・帯島とはどんな地域なのか ・帯島にはどんな名人がいるのか					②ＪＡ見学に出かける（６）総合（１）国語 ・計画を立てる ・見学する ・見学活動を振り返る ・お礼の手紙を書く		③帯島で多く生産されている野菜の様々について調べる（９）総合（１）理科 ・計画を立てる ・植物の一生，からだのつくりと比較する ・調べる ・発表原稿を考える ・分担して模造紙や画用紙に書きまとめる ・発表練習をする			
	③名人にインタビューする（８）総合（１）国語 （１）社会科 ・計画を立てる ・インタビューをする ・インタビュー活動を振り返る			ウニや海の生き物についてよく知りたいこと・質問を調べよう。３						④中間発表会を開く（⑧）総合 ・発表の仕方について，意見を交わし合う ・改善点を確かめ，まとめ直しをする		
表現活動	④インタビューしたことをまとめる（１２）総合 ・インタビューの内容を振り返り確認する ・発表原稿を考える ・分担して模造紙に書きまとめる ・発表練習をする					【伝え引き継ぐもの】（５） ①伝承活動（５） ・保存会の方々や上学年から踊り方や込められた思いや願いについて教えてもらう ・教えを活かしてえんぶりを練習する ・教えを活かしてえんぶりを踊る ②伝承活動　学習発表会 ・教えを生かしてえんぶりを踊る				⑤わくわく発表会を開く（４）総合 ・伝え合い，聞き合い，意見を交わし合う ・発表会を振り返る		
	⑤インタビューして分かったことを伝え合う（３）総合									⑥活動を振り返る（２）総合 ・２・３学期の活動を振り返り、学んだことを確かめ合う		
	⑥活動を振り返る（２）総合 ・１学期の活動を振り返り、学んだことを確かめ合う											
										ウニや海辺の生き物について発表しよう。３		

４年生「産業（酪農）の起こり、気候との関係を探る海洋教育の推進」

【実践のねらい】

○時数　５～２月　時間（総合的な学習の時間）
○関連　国語・社会科・理科
○目標

※青枠が海洋学習

協力機関等
・地域の方を講師として招く

	①学習方法に関わるもの	②自分自身に関わるもの	③他者や社会との関わるもの
中学年	○自分で調べることのできる課題をみつけることができる。 ○いろいろな学び方を体験し，資料を集めることができる。 ○自分の考えや感想，努力したことをまとめることができる。	○自分の仕方で追究し，最後まで工夫してやり遂げることができる。 ○自分のよさや進歩をみつけ，他の人とのかかわりで考えることができる。	○いろいろな考え方にふれることができる。 ○友だちと協力して調べたり，話し合ったり，まとめたりすることができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	帯島モーモー研究（４８） ①学習の見通しをもつ(2)総合 ・帯島の地域にはどんな産業が有名か ・なぜ有名なのだろう ・どんな努力や苦労をしていたのだろう			イサダとりにチャレンジ海釣りを楽しもう３砂浜のごみを集めよう３						帯島モーモー研究（４８） 畜産の仕事に関連し、食肉加工や乳製品の加工に携わる人々の様子について理解を深める。 ①コールドセンター見学(6)総合 ・帯島地区でとれた生乳の行方 ・生乳からできる商品 ・帯島地区にコールドセンターがある理由		
探求的な活動	③疑問に思ったことを調べよう(１０)総合 ・牛の特徴 ・日本にいる牛の種類 ・牛の飼育方法 ・帯島地区の他に酪農が盛んな地域 ・昔と今の違い			海のごみはどこからくるのだろう。５		葛巻町の人たちの暮らし（４）社会 ・酪農が盛んな理由 ・特産品 ・酪農を盛んにするための工夫				今までの学習をまとめる(8)総合 ・山瀬と産業の関わり ・海成段丘と産業との関わり		
表現活動	⑦わかったことを伝えよう(8)総合 ・学級の友達に，分かったことや考えたことを発表する			海釣りの楽しさを紹介しよう1海のごみからわかることをまとめよう。（種類や量など）５						①プレ発表会（２）総合 ②わくわく発表会（８）総合 ・地域の方やお家の方を招き、分かったことや考えたことを発表する。 海釣り体験を紹介しよう 海のごみについて分かったことを伝えよう５		

５年生「気候と海の影響等、自然環境と産業（農業）との関係を探る海洋教育の推進」

米作りがさかんな地域と帯島の稲作を比べ、稲作には適さない自然環境のもと、稲作に従事している帯島方々の仕事の様子や思いや願いを知り、帯島のこれからの農業について考えをもてるようにするとともに、自分が住む地域への関心を高め、自分の将来についての意見や考えをもてるようにする。

【実践のねらい】

○時数　５～２月　７０時間（総合的な学習の時間）

○関連　国語・社会科・理科

○目標

※青枠が海洋学習

	①学習方法に関わるもの	②自分自身に関わるもの	③他者や社会との関わるもの
高学年	○学んだことや自分の生活から課題をみつけることができる。 ○課題に応じた情報を収集して活用することができる。 ○追究した過程や結果をまとめ、自分の考えをもつことができる。	○計画を修正しながら追究し、さらに深く広く追及することができる。 ○自分の将来について意見や考えをもち、これからの生き方について考えることができる。	○異なる意見や他者の考えを受け入れることができる。 ○地域の人や専門家に話を聞き、関わりを考えて生活することができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	お米からのおくりもの（２５） ①４年生までの学習を振り返ろう（２）総合 ○帯島の特徴的な「人・もの・こと」は何か ・帯島の名人調査隊　・野菜博士になろう ・帯島モーモー研究　・キャップハンディ体験 ○帯島では「米作り」も行われているのか。 ・学校前の田んぼで稲作作りを行っている高張さんを尋ねる。			高家川の源流体験 高家川の源流を観察しよう２	高家川のごみ拾いをしよう２					伝え　引き継ぐもの（１０） ①えんぶりを引き継ごう。（３）総合 ○地域の方のえんぶりに対する思いを知り、自分たちもえんぶりの後継者としての意識を高める。 ・地域の方の思い　歴史　後継者について		
探究的な活動	自然とふれあおう（２４） ○グリーンキャンプに向けての活動を通して自然を守るためにできることを考える。 ・自然のすばらしさを感じる ・帯島との違いを見つけ、それぞれの良さに気づく。			高家川の水質を調べよう～水生生物調査・パックテスト～４	④米作りのさかんな地域の様子を調べよう（３）社会 ○社会の学習をもとに、調べ学習をとおしてお米作りの関心や知識を高める。 ・米の産地や種類 ・米づくりの仕事の手順 ・稲の成長に適した環境 ・米つくりはどのように変わってきたか。		⑦米の収穫について知ろう（３）総合 ○稲刈りはどのようにして行われるのか調べる。 ・稲刈りで使われる道具 ・稲刈りした後の米はどうするのか。（脱穀、精米など　出荷について） ○稲作には適さない環境の帯島で、稲作を行っている工夫について追究する。 ・気候条件　品種改良　高張さんの思い		②えんぶりを披露する。（７）総合 ○どんと祭や６年生を送る会での引継ぎに向けて、えんぶりの練習を行う。 ・どんと祭での披露 ・６年生を送る会での６年生からの引継ぎ		
	②お米作りを体験しよう（５）総合 ○田植えの前にはどんな準備や作業があるのか。 ・田起こし　種選び　種まき　代かき等 ○高張さんを尋ね、○米作り田植えを行う前の苗の様子を調べる。 ・種から発芽する様子を知る。 ・育苗の様子を知る。 ・ビニールハウス中で育てられている、田植え前の苗を観察する。 ○田植えにチャレンジして、米作りの苦労やたいへんさを体験する。			⑤田植え後の稲の様子を観察しよう。（２）総合 ○田植えの後、稲の様子はどのように変わったか。 ・稲の長さ　・穂の様子　・稲の色の変化 ・田んぼの様子（水など） ○田植え後にはどのような仕事があるか、高張さんにインタビューする。			⑧稲刈りにチャレンジしよう（２）総合 ○稲刈り行い、作業の苦労やたいへんさを体験するとともに収穫の喜びを味わう。 ○収穫した米をいただく。	高家川の水質から、どんなことが分かるか話し合おう。「トハナカジカ」について調べよう３		⑨「お米からのおくりもの」について「わくわく発表会」で発表しよう（２）総合 ・グループごとに発表練習を行う。 ・わくわく発表会で、保護者や６年生に発表し、感想を聞く。		
表現活動	③「お米新聞」を作成しよう。（２）総合 ○実際の田植え体験、インターネットで入手した資料、図書室の本などから題材を集め、個人新聞にまとめる。 ・田植えの方法や様子　・田植えの感想 ・田植えや米について自分が紹介したいトピック			⑩自己課題の探求（６）総合 ○米について、自分が興味のある課題を選び、課題を見出す。 ・自分のテーマについて探究活動を行い、ポートフォリオをつくる。（インターネットや図書室の本、これまでのワークシート、インタビューなどを活用） ○特徴のある自然環境のため、稲作には適さない帯島で、稲作を行っている高張さんの努力や工夫、米作りにかける思いや願いを調べる。 ・気候条件　稲の品種改良　稲作を始めた頃と今との比較　稲作への高張さんの思いや願い ○お米からのおくりものとは何か、自分の考えをまとめる。（わくわく発表会に向けて）				高家川の水質についてまとめよう ○水生生物調査の結果から ○パックテストの結果から ○高家川の水質を守るためどんなことができるか紹介しよう　４	

第６学年　海洋教育ストーリーマップ

【テーマ】環境問題と未来　　・環境問題の実態　自分にできること
【目　標】洋野町の海を取り巻く課題に目を向け、世界とつながる海や自分たちの郷土を愛する心をもち、より良い未来をめざして海や地域のためにできることを主体的に考えることができる。
【時　数】時数　４～２月　３０時間（総合的な学習の時間）
【関　連】関連　国語・社会科・理科・総合的な学習の時間
【目　標】

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高学年	○地球規模の環境問題や国際的な取り組みを調べ、海の環境保全のためにできることを考え、実践することができる。	○海や地域の環境を調べる活動やその保全活動などの験を通じて、海や地域の環境保全の大切さを表現することができる。	○海や地域の環境問題について、自分の生活を見直し、その様子や特徴に気付きながら探究活動に取り組むことができる。

協力機関等
・大野の自然を守る会
・環境アドバイザー

大単元名：（仮）守ろう海の資源～豊かな海を育むためにできること～（３０時間）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
探究的な活動	①オリエンテーション（１） これまでの海洋学習を振り返る。 ・海辺での体験活動 ・海の生き物 ・釣り体験 ・水生生物調査 ・川や海でのごみ拾い 等		②海の環境問題について（６） ～源流体験を深める～ ・高家川に落ちているごみの種類について ・自然環境に及ぼすごみの影響について ・ごみを減らすための世界的な取組について 例　３R　分別　海洋ごみ、マイクロプラスチックによる被害　バイオマス				④森林学習を通して山（森）のはたらきを知る(④) ・広葉樹がもたらす影響について ・山に降った雨水はどうなるのか・豊かな森が豊かな海を育む理由				⑨学習の振り返り（２） ・帯島を含めた森や海への思いや願い ・新たな問い ・これからの自分の生き方について	
体験的な活動			（総合・理科） 高家川の源流体験 ・高家川の上流、中流、下流での観察 ・水生生物調査 ・源流付近の清掃活動			③森林学習（２）理科２ ・学校裏山の木の間伐 ・伐採した木を使った木工教室 ・環境アドバイザーによる森林の役割にいてのお話						
表現活動							⑤海洋教育こどもサミットに向けた資料作り・発表練習（９） ・海の環境の現状や課題 ・ごみ軽減のための具体的な取組 ・海を守るために自分たちにできること。→実践していく ・海と森のつながり（森林学習より）	⑥サミット参加・発表（２）	⑦授業参観やカンファレンスに向けた準備（２） ・こどもサミットの資料の手直し ・発表練習	⑧授業参観・カンファレンス発表（２）		

洋野町立向田小学校

総合的な学習の時間構想図

洋野町立向田小学校

教育関連法規
○日本国憲法　○教育基本法
○学校教育法　○学習指導要領
○岩手県学校教育指導指針
○洋野町教育憲章

学校教育目標
～自ら進んで学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成～
○自ら学び自ら考える子ども　《考える子》
○思いやりの心で助け合う子ども　《助け合う子》
○健康安全に気をつけ、身体を鍛え働く子ども《鍛える子》
○粘り強く最後までやりぬく子ども　《やりぬく子》

児童の実態
・素直で何事にもまじめに取り組む
・指示されたことは一生懸命行うが、自ら進んで考えたり、行動したりすることは少ない。
・集団構成メンバーに変化が少な

社会の要請
○豊かな人間性、社会性
○自ら学び、自ら考える力
○基礎基本の確実な定着と個性を生かした教育

総合的な学習の時間のねらい
○これからの未来をより良く生きる力の育成を図る。
○向田の自然環境や人的環境に親しみ、愛着心を育てる。
○横断的・総合的な学習や児童の興味・関心などに基づく学習の創造を行い、自ら学習し続けようとする態度を育てる。

地域・保護者の願い
・基礎基本の定着を
・地域を愛する気持ちを
・健康で明るい子どもを
・進んで学習する態度を
・人との受け答えがきちんとできる子どもを
・最後までやり通す子どもを
・色々な体験を
・優しさと思いやりの心を
・正しい判断力を

教師の願い
○基礎基本の定着を
○体験的な活動を
○自分でじっくりと考える場面を
○目標に向かって困難に耐え最後まで頑張る子の育成を
○逞しい身体と豊かな心の育成を
○相手の気持ちを考えることのできる子どもづくりを

めざす児童像
○進んで学習に取り組み、粘り強く活動を続ける子ども（関心・意欲）
○各教科の学習や先行体験を生かし自分なりの考えをもって問題解決しようとする子ども（問題解決力）
○地域や自然と積極的に関わろうとする子ども（関わる力）
○自分の思いを相手に分かりやすく伝えようとする子ども（表現力）

地域・学区の特色
○山間地
○自然環境が豊か
○地域行事が盛んであり、触れ合いのある地域
○伝統的な食文化や芸能・工芸が残っている

各教科との関連
国語：言語能力の基礎基本
社会：構造的・分析的な判断力の育成、学び方(調べ方)
算数：論理的思考力・まとめる力の育成、情報処理
理科：論理的思考力・分析的な判断力の育成、学び方(実験の仕方)
生活：生きた知識の習得と自立への基礎
音楽：基礎的かつ豊かな表現力の育成
図工：豊かな発想と表現力の育成
家庭：日常生活に必要な技能の育成
体育：健康の保持増進と体力の向上
外国語活動：コミュニケーション能力の素地を養う

本校の総合的な学習の時間のテーマ
『地域のよさを見直し、その地域の中で育つ自分を見つめる。』

道徳科との関連
人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭・学校・その他社会における具体的な生活の中に生かし豊かな心をもち、個性豊かな社会及び国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献し未来を開く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養う。
・教師と児童及び児童相互の人間関係の育成
・ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験を通した、児童の内面に根ざした道徳性の育成

各学年の目指す資質・能力

中学年	高学年
・身の回りの事象に関心をもち、自分なりに問題をつかむ。 ・自分の問題についておおまかな見通しをもって追究する。 ・調べたことを整理して自分の考えをまとめる。 ・自分の思いや考えを生かし、粘り強く活動に取り組む。 ・相手に分かりやすく整理して伝え合う。 ・相手の立場や思いを考えて進んで関わる。 ・自分の考えを生活に生かしていこうとする。 ・地域に目を向け、自分のできることから参加しようとする。	・身の回りの事象から、自分の解決する問題をつかむ。 ・自分の問題について、見通しをもって自力で追究する。 ・調べた事実を関連づけ、自分の考えをまとめる。 ・試行錯誤しながら、粘り強く問題解決に取り組む。 ・主張点をしぼり、分かりやすく伝え合う。 ・相手の立場や思いを考えて、継続して関わる。 ・自分の考えを生活や生き方に生かし、より良いものを求めていこうとする。 ・社会の一員として、自分にできる活動に取り組もうとする。

生徒指導・保健指導
【生徒指導】
○自ら考え、正しく判断し、実践していく力の育成
○自他を大切にし、思いやりの気持ちをもって行動する態度の育成
【保健指導】
○自他の生命を尊重したり自他の健康に気をつけたりしながら生きる態度の育成

特別活動と関連
○グループ活動や異年齢集団活動
○学び合いや討論、話し合い
○ボランティア活動や体験活動
○自治的・自発的活動の展開と自主的・実践的態度

＜学習したことを生かして地域の自然や産業、文化や歴史について調べてみよう＞

・大豆博士になろう ・私たちの大野自慢	・豆腐作り名人に学ぼう ・キャップハンディ体験	・米作り名人に学ぼう ・自然や環境に学んで学ぼう	・郷土の良さを学ぼう ・歴史から学ぼう

・海洋教育　・情報教育
・国際理解教育　・復興教育
・勤労生産活動　・キャリア教育

令和２年度　　総合的な学習の時間全体計画

洋野町立向田小学校

１　ねらい

・これからの未来をよりよく生きる力の育成のために、向田の自然環境や人的環境のよさを生かし、横断的・総合な学習や児童の興味・関心などに基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う。

２　目標

（１）自らの課題を見つけ、自ら学び、考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること

（２）学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること

３　今年度の重点

・年間計画の整備を行い、総合的な学習の時間と教科などの学習等の関連を図り、自ら学び、考える力の育成を目指す。

・体験的な学習だけにとどまらず、それを通して自分がどのように考え、どのようにしたいのかを明らかにし、のステップに進めるよう大きなサイクルでの学習構成を試みる。

４　具体的な学習計画

(1)　テーマ　　『地域のよさを見直し、その地域の中で育つ自分をみつめる。』

(2)　育てたい力

育てたい力		中学年	高学年
学び方	問題発見力	・身の回りの事象に関心をもち、自分なりに問題をつかむ。	・身の回りの事象から、自分の解決する問題をつかむ。
	問題追究力	・自分の問題についておおまかな見通しをもって追究する。	・自分の問題について、見通しをもって自力で追究する。
	問題解決力	・調べたことを整理して自分の考えをまとめる。	・調べた事実を関連づけ、自分の考えをまとめる。
	継続してやりぬく態度	・自分の思いや考えを生かし、粘り強く活動に取り組む。	・試行錯誤しながら、粘り強く問題解決に取り組む。
関わり方	表現する力	・相手に分かりやすく整理して伝え合う。	・主張点をしぼり、分かりやすく伝え合う。
	他者と関わる力	・相手の立場や思いを考えて進んで関わる。	・相手の立場や思いを考えて、継続して関わる。
生き方	生き方を考える力	・自分の考えを生活に生かしていこうとする。	・自分の考えを生活や生き方に生かし、より良いものを求めていこうとする。
	社会へ参加･貢献しようとする態度	・地域に目を向け、自分のできることから参加しようとする。	・社会の一員として、自分にできる活動に取り組もうとする。

(3)　評価の観点

○関心・意欲・態度

・総合的な学習全般に関心を持ち、進んで学習していこうとしていたか。

・ねばり強く活動に取り組んでいたか。

○思考力・判断力

・問題の発見、問題の追求、問題の解決などの各場面で、各教科の学習を通して学んだ知識やものの考え方、先行体験などを活用して自分なりの考えを持って活動していたか。

・地域を見つめながら、自分なりの考えを持って行動していたか。

○表現力・情報活用能力

・各教科や先行経験で身につけた力を活用して、製作やまとめ、発表などの表現を工夫していたか。

・人に物事を尋ねたり人と交流したりする活動をマナーをわきまえながら行うことができたか。

・図書や視聴覚資料、情報通信網（インターネット）などから集めた情報を工夫して整理しまとめることがきたか。

※評価については、児童一人一人のカルテを作ったり、学習活動の観察自己評価と相互評価の併用、成果や作品、レポートなどの方法を組み合わせたりして、一人一人を多面的にとらえるようにする。

(4)実施計画

	3年(70時間)	4年(70時間)	5年 (70時間)	6年(70時間)
教科発展(海洋教育「ひろの学」)	＜学習したことを生かして地域の自然や産業、文化や歴史について調べてみよう。＞ (４３時間) ・大豆博士になろう ・私たちの大野自慢 ・海を知ろう ・伝えよう (実態に応じて)	(４３時間) ・豆腐名人に学ぼう ・キャップハンディ体験をしよう ・海を知ろう ・伝えよう (実態に応じて)	(４３時間) ・米作り名人に学ぼう ・自然や環境について学ぼう ・海を知ろう ・最高学年に向けて ・伝えよう (実態に応じて)	(４３時間) ・郷土の良さを学ぼう (ナニャドヤラ・郷土料理・水生生物調査) ・歴史から学ぼう (修学旅行に向けて) ・海を知ろう ・自分を見つめて (卒業の取り組み)
情報活用	○パソコンで調べよう (４時間) ・キーボードやマウスの操作を身につける。 ・情報を集める。	○パソコンで調べよう (４時間) ・ローマ字入力を身につける。 ・情報を集める。	○パソコンでまとめよう (４時間) ・インターネットの使い方を身につける。 ・情報を整理する。	○パソコンでまとめよう (４時間) ・インターネットの有効活用や色々な機能の活用を図る。 ・情報を整理する。
環境・勤労体験	○すくすく農園体験(８時間)　※探求的活動となるよう留意する ・栽培作物を考える　・除草等の作業を行う　・収穫を行う ○わたしたちの花壇づくり(３時間)　※探求的活動となるよう留意する ・自分達の花壇を作る。			
伝承活動	○みんなで輪になって(２時間) ・伝統芸能ナニャドヤラについて調べ、伝承しようとする。 ※探求的活動となるよう留意する			
	○伝えよう、豊年太鼓(１０時間) ・豊年太鼓の由来について調べる。 ・お互いに協力し合い、豊年太鼓伝え合う。			

１・２年生「向田と海洋のつながりを考えよう」

【実践のねらい】
　ひろの学「向田と海洋のつながりを考えよう」をテーマに，森林，山，自然への理解を深めるとともに森林の役割について学ぶとともに，山，川，海のつながりを調べる活動を通して関わり（人・産業）にも目を向けさせ，これらの活動を通して，改めて地域に対する愛情や誇りを高めさせたい。

【主な連携機関と内容】
・林野庁東北森林管理局三陸北部森林管理署久慈支署
・岩手県県北広域振興局　林務部林業振興課
・洋野町農林課
・おおのふるさと公社

○時数　５月～１２月　２０時間

○関連　学級活動　生活科　学校行事

○目標
（１）向田の自然や地域の主要産業に触れることにより，地域のよさをとらえることができる。
（２）観察や実験，体験活動を通して，疑問をもったり，その疑問を解決しようと主体的に取り組む態度を育てる。
（３）地域との交流を通して，自然や人とのかかわりへの感謝の気持ちを実感するとともに，地域への愛着の気持ちを高める。

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
体験的な活動	１　森林学習 【生活科②学級活動①】 ①森林愛護少年団結団式 ・結団式を通して，森林や自然に興味をもつ。 【学級活動①】 ②学校の周りの植物観察 ・学校の周りの植物を観察し，種類や特徴について調べる。 ③土壌比較実験 ・校庭と森林の土を比べ，保水力や浄化力の違いについて調べる。	２　地域産業体験（稲作） 【生活科②】 ①田植え体験 ・向田の主要産業である稲体験（田植え）を通して地元の産業に興味をもつ。	１　森林学習 【学校行事⑤】 ①久慈平岳登山 ・山開きに参加し，久慈平岳の特徴を調べる。 ②久慈平岳の森林学習 ・久慈平岳の植物を観察し，種類や特徴について調べる。	２　地域産業体験（稲作） 【生活科②】 ①稲刈り体験 ・稲作体験（稲刈り）を通して，収穫の喜びを味わう。 １　森林学習 【学校行事⑤】 ①木工細工づくり ・木工細工づくり体験を通して，地元の産業へ興味をもつ。 ②パンづくり ・パンづくり活動を通して，地域の特産を生かした産業に興味をもつ。	２　地域産業体験（稲作） 【生活科③】 ①収穫祭 ・餅つき体験を通して，収穫の喜びを味わうとともに，地域の風習について学ぶ。				
探究的な活動												
表現活動												

３・４年生「向田と海洋のつながりを考えよう」

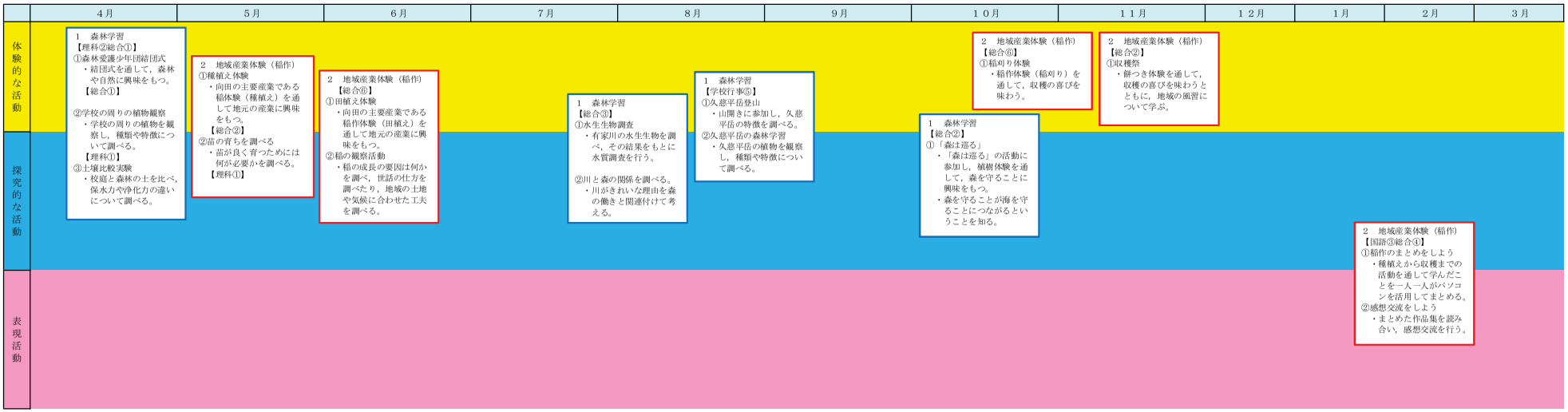
【実践のねらい】
　ひろの学「向田と海洋のつながりを考えよう」をテーマに，森林，山，自然への理解を深めるとともに森林の役割について学ぶとともに，山，川，海のつながりを調べる活動を通して関わり（人・産業）にも目を向けさせ，これらの活動を通して，改めて地域に対する愛情や誇りを高めさせたい。

【主な連携機関と内容】
・林野庁東北森林管理局三陸北部森林管理署久慈支署　・ひろのまきば天文台
・岩手県県北広域振興局　林務部林業振興課　・とうふ工房「豆風鈴」
・洋野町農林課　・おおのふるさと公社
・岩手県県北広域振興局　保健福祉環境部　岩手県久慈保健所環境衛生課

○時数　５月～２月　３７時間

○関連　社会科　理科　総合的な学習の時間　学校行事

○目標
（１）森林学習や地域の主要産業を体験する活動を通して，向田の「地理的要因と産業」との関わりについて課題をもつ。
（２）森林の働きや地域の気候の特徴を調べ，向田の環境に合わせた人々の工夫を調べるとともに，向田の自然と人々との結びつきの素晴らしさに気付くことができる。観察や実験，体験活動を通して，疑問をもったり，その疑問を解決しようと主体的に取り組む態度を育てる。
（３）「向田と海のつながり」をテーマに，森林・河川・海とのつながりを調べ，地域の環境の素晴らしさを理解するとともに，この自然に囲まれた環境を守るために自分たちができることを考え，情報を発信することを通して，よりよい地域の創造に向けての意欲をもつ。



５・６年生「向田と海洋のつながりを考えよう」

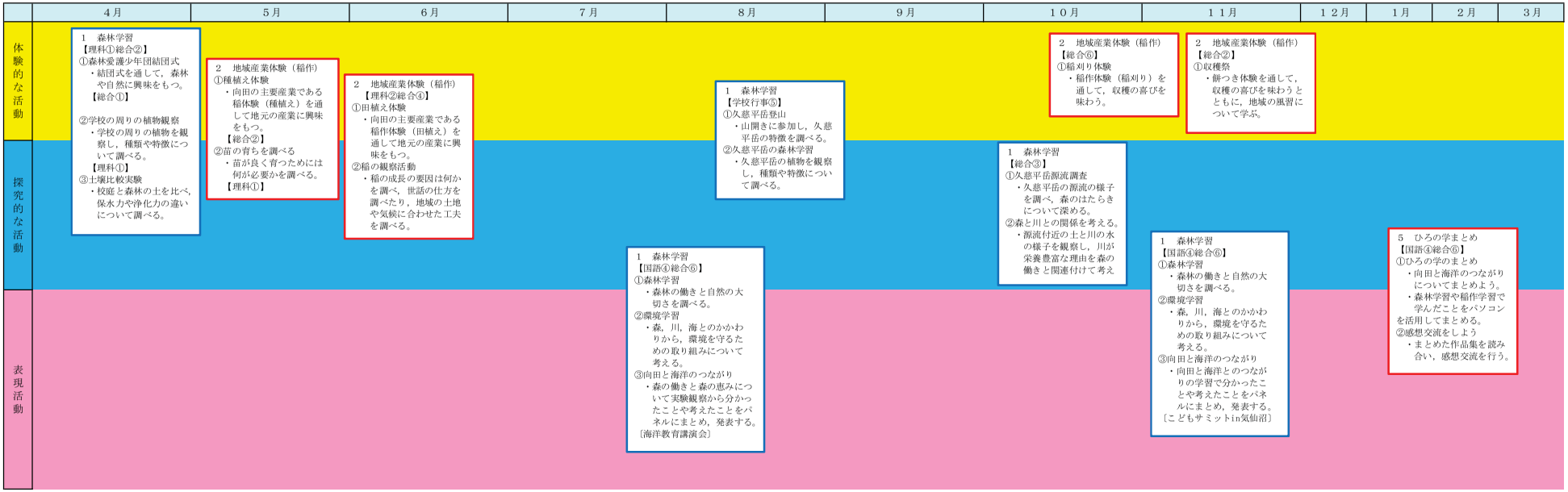
【実践のねらい】
　ひろの学「向田と海洋のつながりを考えよう」をテーマに，森林，山，自然への理解を深めるとともに森林の役割について学ぶとともに，山，川，海のつながりを調べる活動を通して関わり（人・産業）にも目を向けさせ，これらの活動を通して，改めて地域に対する愛情や誇りを高めさせたい。

【主な連携機関と内容】
・林野庁東北森林管理局三陸北部森林管理署久慈支署　・ひろのまきば天文台
・岩手県県北広域振興局　林務部林業振興課　・とうふ工房「豆風鈴」
・洋野町農林課　・おおのふるさと公社
・岩手県県北広域振興局　保健福祉環境部　岩手県久慈保健所環境衛生課

○時数　５月～２月　４９時間

○関連　社会科　理科　総合的な学習の時間　学校行事

○目標
（１）森林学習や地域の主要産業を体験する活動を通して，向田の「地理的要因と産業」との関わりについて課題をもつ。
（２）森林の働きや地域の気候の特徴を調べ，向田の環境に合わせた人々の工夫を調べるとともに，向田の自然と人々との結びつきの素晴らしさに気付くことができる。観察や実験，体験活動を通して，疑問をもったり，その疑問を解決しようと主体的に取り組む態度を育てる。
（３）「向田と海のつながり」をテーマに，森林・河川・海とのつながりを調べ，地域の環境の素晴らしさを理解するとともに，この自然に囲まれた環境を守るために自分たちができることを考え，情報を発信することを通して，よりよい地域の創造に向けての意欲をもつ。



令和2年度

「ひろの学」

地域単元学習

児童作品集

洋野町立向田小学校

令和２年度　　洋野町立向田小学校　３・４年生　「ひろの学」

「大豆はかせになろう」

～向田のおいしいものの秘密～

もくじ

1．3年　上　野　明日咲「豆腐作りはたいへん」　1,2
2．3年　太内田　紅　羽「収穫した時の楽しさと大変さ」　3,4
3．3年　太内田　菜那子「豆腐作りのたいへんさ」　5,6
4．3年　三本木　美　結「大豆はかせになるぞー!!」　7,8
5．3年　鈴　木　美　咲「まめ博士をめざせ!!」　9,10
6．3年　関　口　　栞　「豆のしゅうかく！」　11,12
7．4年　太内田　日菜子「めざせ！まめ博士！」　13,14
8．4年　柏　木　優　歌「☆大豆博士になろう！」　15,16
9．4年　三本木　悠　真「大豆はかせになろう」　17,18
10．4年　泥　濘　悠　奈「苦労した大豆、豆腐作り」　19,20

活動の記録

5/29（金）	大豆の選別と種まき	・大豆の種は、チエさんから。パラパラと撒いてあみでトンネルにする。
6/12（金）	大豆の間引き	・２本ずつ植えなおす。畝の中心に植える。周りをあみで囲む。動物よけ。
7/17（金）	大豆畑の草取り	・あみで囲まれていないところには、１本も草がない！すでに土よせも終わっていた。
7/20（月）	大豆畑の土よせ	・囲いの中の草取り。土よせも土がなく大変。中心に植えていない、豆の間が狭すぎが原因。
9/24（木）	枝豆の収穫	・囲いの外の豆を収穫する。全校にも分ける。
11/12（木）	大豆の収穫し干す	・根ごと掘り、ひとつかみずつ束ねる。自転車置き場にロープを張り、干す。
11/20（金）	豆打ち	・まずはブロックにえいっ。次は「まどり」で。「み」で大豆だけ落とすようにして集める。3,4年生の畑から良い物だけ選んだ大豆の収穫量は「1kg945ｇ」。
11/27（金）	豆拾い	・豆腐作りには、まだまだ足りない。チエさんの畑から収穫した大豆をいただくことに。豆の選別作業のお手伝い。
12/4（金）	豆腐作り	・試食の作り立て豆腐、豆乳、ゆばも完食♡

豆腐作りはたいへん

３　年　上野　明日咲

はじめに

豆腐を作る間での大変さをつたえたいのでこのテーマにしてみました。

テーマ１

豆腐づくり

さいしょよりも、大豆が大きかったです。その大豆をすりつぶしました。紅羽さんが、圧力なべのレバーをクイッとやりました。圧力なべの温度は、３０度から９０度。９０度から１１０度でやりました。そして、おからと豆乳に分けました。豆乳をかくはん機でまぜました。そのあと、うちわで「ばたばた」とやりました。

大きくなった大豆

その豆乳をはじめて飲んでみました。とてもおいしかったです。３回もおかわりをして、満足しました。豆風鈴の豆乳は、最高でした。おからを家で、食べてみました。とてもおいしかったです。おばあちゃんにあげました。おからで、ドーナツを作ってくれました。とてもおいしかったです。

テーマ２

収かく

まず、５本くらいずつ取って、わらでむすびます。むすんだら、自転車置き場にロープを付けて、２～３週間ぐらい干しました。２～３週間くらい干した後、ブロックの上で打ちました。私がやってる間、他のみんなは、ブルーシートでかこみました。しあげをまどりで、打ちました。まどりで打った後、「み」という道具を使って、葉と豆に分けました。

その後、豆分けをしました。おもったより黒い豆は、少なかったです。大豆は、とてもツルツルしていて、手からすべってしまいました。そして、みんなが助けてくれて、とても助かりました。

まとめ

豆腐を作るまでに、こんなに大変だと言うのがわかりました。みんなで取った大豆は、ツルツルしていたし、美味しかったです。あと・・・豆風鈴の豆腐は、最高でした。

来年は、豆を落とさないようにがんばりたいです。

収かくした時の楽しさと大変さ！

3　年　太内田　紅羽

はじめに

私は、収かくした時の楽しさと大変さを伝えたいと思ったからこのテーマにしました！

テーマ１

夏に収かく！　大豆は枝豆だった！！

手作業で枝から豆をはずします。洗って、塩を入れて枝豆といっしょにもみました。なべで、ゆでました。くわしくいうとゆでる時枝豆のいろは、あざやかな緑色になっていました。枝からとった時とは全然色がちがいました。枝から枝豆をとる前にでっかい紙のごみ袋を作りました。そこに取れたての枝豆をいれました。そのときは、すごくかたくてびっくりしました

枝豆を食べてくりの味がしてへんだなーとおもいました。でも、ホカホカしていておいしかったです。やわらかくってとてもしあわせでした。わたしは、いっぱいたべました。おいしかったです！

テーマ２

畑にそのまま…大豆？！

のこった枝豆のついた枝を何日かおいておいたら枝のところが黄土色になっていました。収かくしたら自転車おきばに干しておきました。何日かたって外にブルーシートをしいてコンクリートの上でカラカラにかわいた枝を打ちました。うったら大豆がでてきました。となりにうつっているのが　私です。

つかったもの

・ロープ・ブルーシート
・コンクリートブロック・なべ・ざる
・み・まどり

おいしそうな大豆ができましたー！

感想

収かくしてからは、すごくたのしいし大変だったけどみんなですごくおいしそうな大豆ができました。わかったことは、大豆をとるまえにザルで、ごみをとってみという道具でもごみをとっていたので大変だなと思いました！

すごく楽しかったし大変なことがわかりました！！

豆腐作りのたいへんさ

3　年　太内田菜那子

はじめに

豆腐作りのたいへんさを伝えたくてこのテーマにしました。

テーマ１

「豆腐作り　」

８kgの大豆で作ります。たりない分は、村田チエさんにいただきました。

すりつぶす機械は、大豆を入れると、大豆がすりつぶされて出てきます。その後、圧力なべにすりつぶされた大豆を入れると、上はおからになり、下はゆばや豆乳になります。おからはドーナツなどにできます。ゆばは、豆乳の上をうちわであおぐとゆばになります。圧力なべが９０度になったらくれはさんがレバーをたおしました。

テーマ2

美しい豆腐になるまで

美しい豆腐になるまでのスタートは、まず種選びです。次に、たねまきをしました。同じようなことをつづけるのがきつかったです。その次は、水やりをしました。水やりで大変なのは、少なすぎても、多すぎてもあまり元気にそだたないのでちょうどよく水をあげました。その次、うえかえをしました。しゃがんだり立ったりを続けるのがきつかったです。次に1回目のしゅうかくしました。枝豆にして、全校に配りました。おいしかったです。そして、1ヶ月ぐらいたったらしゅうかくしました。まだ食べません。大豆は、根ごとわらで結んで干しました。

収かくしたときの大豆

干したら、落ちた大豆を拾いました。学校に来たら、忘れずに落ちてる大豆を拾うことをがんばりました。1週間後、豆風鈴の先生が来て、ブロックに大豆を打ちつける仕事をしました。残った大豆があったらまどりでたたきました。そしたら、ごみをなくすためにみで豆だけにしました。その次、きれいな大豆だけを選びました。上のような小さな大豆が豆風鈴に行ったら下のような大きな大豆になっていました。

豆腐になるときの大豆

（前日から水に入れていた）

＜感想＞

わたしが初めて知ったことは、大豆は、小さいままで豆腐になるのかなと思っていたら、大豆を水につけて大きくしてから豆腐になることを学びました。作ってみて大変だったけどおいしい豆腐ができたので、これからも豆腐づくりを続けてほしいです。

大豆はかせになるぞー！！

３年　三本木　美結

はじめに

私は、豆腐を作る時の大変さや、楽しさを伝えたくて、選びました。

テーマ１

豆腐作り

大豆をきかいに入れて、すりつぶす。
すりつぶした大豆を、圧力鍋に入れて蒸す。９０℃になったら、レバーを『クイッ』と、下げる。さらに、１１０℃になったら、『おから』と『豆乳』に分けるきかいにそのまま入る。『豆乳』に苦りを入れて、豆腐になる。

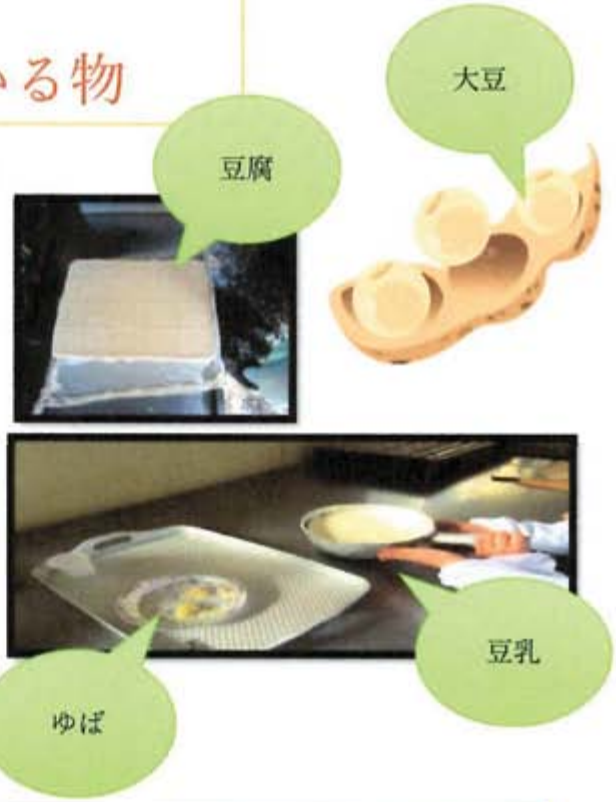
『おから』と『豆乳』を分けるきかいに入れた後、(『豆乳』に苦りを入れる前)『豆乳』にうちわで風を送る。そしたら、『ゆば』になる。

テーマ２

大豆から出来ている物

・豆乳	・油揚げ
・おから	・納豆
・ゆば	・がんもどき
・きなこ	・絹挙げ
・油	・油揚げ
・もやし	・いり豆
・みそ	・あぶり豆
・豆腐	・ぜっし豆
・しょうゆ	・節分の豆
・枝豆	・厚揚げ

など



【まとめ・感想】

・豆腐を作るには、大豆が全部で、１０ｋｇ必要ということが、分かりました。今回は８kgで作ったそうです。
・豆腐を作るには、大豆を２０時間も水につける事が大切ということが、分かりました。
・『豆腐作り』をする場所は、とても暑くて大変でした。（夏はたえられないくらい）
・初めて「豆乳」を飲んでみました。とってもおいしかったです。
・「ゆば」も初めて食べました。とってもおいしかったです。
・また、行くきかいがあったらぜひ行きたいです。

まめ博士をめざせ！！

3　年　　鈴木美咲

はじめに

豆腐作りで大豆を何kg以上使うのかを説明したいからです。

テーマ１

大豆づくり！！

大豆を収穫するまでこんな仕事をしました。

１種選び　　きれいな豆
２種まき　　パラパラまく
３ネット貼り　動物よけ
４水やり　　大きくなーれ
５植え替え　　もっと大きくなーれ
６草取り　　草抜き
７土よせ　　暑かった
８収穫　　いっぱいなったかなぁー

大変な植え替え

植え替えも少し大変だけど大豆を育てるのも大変でした。

植える本数は３本くらいで植えます。

１日１回水をまくのも大変でした。

9

テーマ２

豆腐づくり！！

１０人でいい豆を選びました。
一人一つぶ総合の学習の記録用に取りました。それでも、１kg 945g とれました。
豆腐を作るのに足りなかったので、チエさんに分けてもらって８kgになりました。
良い豆を使って豆腐を作ります。
良い豆を選ぶのが大変でした。

豆腐作りの作業をしているところで大豆をすりつぶしています。
おからと豆乳に分けます。
豆乳ににがりを入れて、豆腐を作ります。
＊おからは料理やおかしなどにつかえます。

まとめ

豆乳とおからにわけるときは袋がパンパンになってきたら道具を使ってギュウギュウとさせて豆乳をしぼりました。
豆風鈴では１日に 60 丁は作っていることが分かりました。夏でも豆腐を作っていて大変そうです。
いただいたおからは、家で食べました。おいしかったです。

豆のしゅうかく！

3　年　関口　栞

はじめに

わたしは、大豆ができるまで、どうなっているかを知ってもらいたくて、これにしました。

テーマ１

大豆の収かく

１　作業（干すまで）

① 周りのあみを外す。
② 大豆を根ごとぬく。
③ ３本ぐらいに束ねる。
④ 自転車置き場に干す。

大変だったところは、大豆を根ごとぬくことです。何本もあったので二日かかりました。

２　作業（細かい枝が取れるまで）

① 豆を枝ごとたたく。

② ザルで大きめの枝を取る。

③ みでだいたいの豆にする。

テーマ２

大豆で出来ている物

大豆で出来ている物は、枝豆、もやし、あつあげ、なっとう、おから、しょう油、焼き豆腐、豆乳、みそ、ゆば、豆腐、染み豆腐、よせ豆腐、きぬあげ、絹豆腐、

もめん豆腐、煮豆、などがあります。

枝豆です。

豆腐を作っているところです。

私の家ではおからは、おからドーナツにしたり、野菜と一緒に煮たりしておかずにしました。豆腐は、いつも、おみそ汁にしています。みそは、肉みそにしたり、みそ汁のみそに使ったりしています。もやしは、野菜いために使っています。納豆は、そのまま食べています。
どれも、とても、おいしかったです。

まとめ

わたしは、豆の収かくして、収かくの大変さが分かったし、大豆で出来ている物がこんなにあることが分かりました。

めざせ！まめ博士！

4年　太内田　日菜子

"はじめに"

枝豆と大豆の収穫の楽しさや大変さを伝えたいと思ったので

このテーマにしました。

テーマ1

枝豆の収穫と調理☆

1枝豆の収穫

・きれいな緑色になったら、収穫！！

・土から枝ごと抜く。（3～4本）

・根についている土を落とす。

・豆を枝からはずす。

！この時、わるいものがないかたしかめる！

（虫食い、傷ついているもの、小さすぎて食べられないものなど）

2枝豆の調理

・ボウルの中に入れて、水であらう。

・ボウルの中で、塩でもむ。

！豆がつぶれないように、やさしくもむ！

・なべに入れて、5～8分ほどゆでる。

・あざやかな緑色になったらできあがり！

3食べてみると・・・

＊塩の味がきいていて、とてもおいしかったです!!

テーマ2

大豆の収穫☆

1干す作業
・かわいて茶色くなった枝豆(大豆)を枝ごと抜き、土を落とす。
・3～4本抜き、わらで結ぶ。
・自転車置き場のところにひもをつなぎ、枝を2つに分けてひっかけて干す。

2大豆の収穫
・2～3週間干した大豆をコンクリートに打つけて、だいたいの大豆をとる。
・しあげに"まどり"でうつ。

'分別'
・"み"と"ザル"という道具でゴミを落とす
・大豆を良いものとわるいものに分ける。
＊ついに、豆風鈴へ!!＊

収穫:1kg945g！

収穫、収穫

【その他・大豆の種類】
・黄大豆:みそや豆腐、納豆などの大豆加工品のほとんどが黄大豆。(わたしたちも、この大豆をつくりました)
・青大豆:皮が緑色の大豆。きなこなどに使われる。最近は青大豆納豆や青大豆豆腐もふえている。
・黒大豆:おせち料理の黒豆。煮豆に使われるのが一般的。数は少ないが、黒豆納豆や、黒豆豆腐もある。
＊その他:白大豆、赤大豆、くらかけ大豆などがあります。

"まとめ・感想"

＊今回、枝豆を育てて、植えるところから収穫するまでの作業で、土寄せと草ぬきがとても大変でびっくりしました。
＊枝豆と大豆を収穫して、大変だったけれど、みんなで協力してやれたので楽しかったです。
＊他に、大豆の種類を調べてみて、私たちが育てた大豆以外にもたくさんの種類の大豆があることが分かってびっくりしました。

☆大豆博士になろう！

4　年　柏木　優歌

はじめに

かたい大豆がどうしてやわらかい、豆腐になるか気になったので、このテーマにしました。

テーマ1

収　穫

① 周りの網を、外す作業をします。
② 大豆を、根ごとぬきます。
③ 5本位とってたばねます。
④ そのたばねたのを自転車置き場に干します。

気づいたこと

＊根にじゃがいもみたいなのがついていました!
＊実がすくなかったです！
＊今年は、どんぐりや、ぎんなんも少なかったです！

テーマ２

豆腐にへんしん！！

豆腐ができるまで

① 一晩大豆を、水につけます。
② 機械でつぶして出します。
③ 圧力鍋でむします。
④ しぼって、「おから」と「豆乳」に分けます。
⑤ 豆乳に「にがり」を入れて、かくはんきでまぜます。
⑥ うちわであおいでふたをして、15 分位まちます。
⑦ まくがはります。そのまくを、「ゆば」と言います。
⑧ パック（白）に、できた寄せ豆腐を入れます。
⑨ パックに、ふたをする機械に入れます。
⑩ エアプレスで、木綿豆腐の水分を取ります。
⑪ 豆腐をきって、水にいれます。
⑫ 豆腐をパック（青）いれます。
⑬ ふたをする機械に、入れます。
⑭ 完成！！

気づいたこと

・一晩大豆を水につけると、やわらかくなっていた。
・豆腐を、真ん中から切っていた。
・水に豆腐を入れてもくずれなかった。

まとめ

大豆をすりつぶしてむすこと。おからは、豆腐にならないこと。ゆばは、苦りを入れる前にできること。など大変な事がわかりました。これからは味わって食べたいです。お店の豆乳は飲めないけど、あつあつの豆乳は、おいしかったです。寄せ豆腐は、やわらかくて、食べたら大豆の味がして、もっと食べたくなりました。

大豆はかせになろう

4　年　三本木悠真

はじめに

豆の育て方がすごかったのでこのテーマにしました。

テーマ１

まめの育て方

大豆の育て方

・いい豆をえらぶ
・畑にばらまく
・のびたら２本ずつうえる
・草とりをする
・土をたす
・かれたら収かく
・干す
・からからはずす

ネットの中では…

このしゃしんは、２本ずつうえるときの、写真です。根がからまっていて、２本ずつ分けるのがたいへんでした。ばらまいた豆の根を切らないようにとるのをがんばりました。

豆の植えかえ

豆を、うえた写真。間かくをはなすのがたいへんでした。２本ずつうえます。豆が、たおれないように土でおさえます。けものに、食べられないようにまわりにネットをはりました。

大きくなった！

豆がそだった様子。ここから草を取ります。草がえだ豆のくきより大きくなっていて、草をぬくのがたいへんでした。

いよいよ収かく

かれたら収かく。ここから自転車おきばに干します。からが、かわいたらコンクリートブロックに豆をぶつけて、からから取ります。最後はまどりを使いました。

まとめ

よい豆をえらぶのがたいへんだった。くきがまがった苗は、うえないことが分かりました。うねのはばは、３０㎝以上はなすと良い豆がとれることが分かりました。

＜かんそう＞

＊からからはずすのがとても大変でした。
＊みんなで収かくした大豆から作った豆腐は、とてもおいしかったです。

とても苦労した大豆、豆腐作り！

4年　[redacted]

はじめに

大豆作りは、どんな苦労をするか感じたいし、豆腐作りは、どんな道具を使うか調べたいからです。

テーマ1

豆腐作りに行くまで！

大豆作りは、①種選び②大豆まき③うね作り④植えかえ⑤水やり、草取り⑥土寄せの順番です。種選びのポイントは、うす茶色が OK！紫色やわれているのはだめ！大豆まきのポイントは、人さし指の一つ目の線の所までの深さにすることです。植え替えは網を取って違う網の中に植えました。草取りが一番大変でした。

種選び中！！

分かったこと

大豆は、ひとつひとつていねいに良いものと悪いものに分ける。

分けるときのポイント！

カップを3つぐらい用意する。そしたら1つのカップに関係なく入れる。残りの2つのカップに分けて入れる。

テーマ２

豆腐ができるまで！

まず、機械に入れて大豆をすりつぶしました。次の機械に入れて豆乳とおからに分けました。次にかくはん機で３～５回くらいやりました。最後に寄せどうふともめん豆腐を作りました。寄せ豆腐は、試食もしました。木綿豆腐は、パックに入れました。パックに入れるコツは、プクッとしている所を持ってパックに入れることです。水の中でパックに入れました。

分かったこと

大豆をすりつぶすとドロドロした感じで出てくる。

豆乳に「にがり」を入れたあと、かくはん機で３～５回混ぜる。

作り立ての豆腐は、あたたかい。

＜感想＞

大豆作りは暑くて大変だったけど、豆腐作りは楽しかったです。

おいしい豆腐を地域の人達の他にも食べてもらいたいです。

令和２年度　洋野町立向田小学校　５・６年生　「ひろの学」

「森は海の恋人」

～有家川の「フェルム」を見つけ出そう～

目　次

学　年	氏　名	題　名	ページ
1	令和２年度　洋野町立向田小学校　５・６年生 「ひろの学」　学びの軌跡		1～3
2	５年生	繋　芽依	海洋新聞	4
3	５年生	向明戸　悌	海洋新聞	5
4	６年生	太内田　佳乃	海洋教育新聞	6
5	６年生	太内田　颯汰	海洋新聞	7
6	６年生	太内田　龍空	海洋まとめ新聞	8
7	６年生	柏木　凉昊	海洋新聞	9
8	６年生	三本木　結愛	海洋新聞	10
9	６年生	萬谷　綾香	海洋新聞	11

令和２年度　　洋野町立向田小学校　　５・６年生

「ひろの学」　学びの軌跡

1　はじめに

向田小学校について

- 「久慈平岳」のふもとにある小学校
- 沢山の自然に囲まれている
- 近くには「有家川」という川が流れている
- 自然を大切にする活動をしている

向田小学校の校舎

有家川の様子

有家川の長さは約20kmあり，向田小学校が海から離れていることがよく分かる。

2　テーマ

「森は海の恋人」

3　設定理由

昨年度，NPO 法人「森は海の恋人」理事長の畠山重篤さんからお話を聞き，フェルム（鉄）について学んだ。フェルムは海の海藻や貝が育つために必要な栄養素であり，川を伝って山から海に流れていることを教えていただいた。今年度は，学校の前を流れる有家川に調査に行き，実際にフェルムは流れているのか調べようと考えた。

4　調査方法

① パックテストを用いて有家川の鉄濃度を計測する。
② 他の市町村を流れる川の水や水道水の鉄濃度を調べて，有家川と比較する。

5　結果と考察①

① 有家川
② 中津川（盛岡市）
③ 岩崎川（矢巾町）
④ 小屋畑川（久慈市）
⑤ 水道水

→ 全て 1L あたり 0.2mg 以下

・どの川も鉄がすくないのだろうか？
→三陸海岸は栄養が豊富なので，有家川に鉄は流れているはず。
☆何か条件があるのだろうか？

6　再検証

① パックテストをより低濃度の鉄が計測できるものに変更（0.2～10mg/L→0.05～2mg/L）
② 天気によって結果が変わると考え，2日間の天気の変化と鉄濃度の関係を確かめた。
（①晴れの日→晴れの日，②晴れの日→雨の日，③雨の日→晴れの日，④雨の日→雨の日の4パターンで実験。計測はそれぞれのパターンの2日目に行った。）
③ 場所によって結果が変わると考え，久慈平岳にある有家川の源流で鉄濃度を計測した。

7　結果と考察②

① 天気と鉄濃度の関係性について

		1日目の天気	
		晴れ	雨
2日目の天気	晴れ	1Lあたり 0.05～0.1mg	1Lあたり 0.1～0.3mg
	雨	1Lあたり 0.1～0.3mg	計測できず

晴れの日→雨の日，雨の日→晴れの日の時に鉄濃度が増えている

雨が降ると川に鉄が流れ出すのではないだろうか？

雨が降った後は川の水が増水していた。

2

② 有家川の源流について

・有家川の源流は，久慈平岳東側と久慈平岳西側（百鳥地区）の2か所を調査した。
・天気は晴れだった。

西側→

←東側

澄んだ源流の水

	源流の場所	
	東側	西側
鉄濃度	1Lあたり 0.05～0.1mg	1Lあたり 0.05～0.1mg

・どちらも同じ結果だった。
・有家川で，晴れの日→晴れの日の時と同じ結果になっている。

天気が同じであれば，場所が変わっても流れる鉄の量は変わらないといえるのではないだろうか？

8 まとめ

・実際に有家川には鉄が流れている。
・流れる鉄の量は天気と関係がある。
・鉄は、久慈平岳にも流れている。

9 今後について

① 天気に関わる実験だったため、雨～雨の日ができていない。
② 1回ずつしか調べていないため、時期によって変わる可能性がある。
③ 有家川にいる生物は鉄とどのように関わっているのか調べたい。

海洋新聞

令和３年２月３日発行
洋野町立向田小学校
５年　繁　芽依

海洋教育こどもサミット

十一月二十七日に、海洋教育こどもサミットに参加しました。他の小学校の発表などを聞いて、いろいろなことを学ました。

向田小学校の発表テーマは、「森は海の恋人～有家川のフェルムを見つけ出そう～」でした。五年生は発表しませんでしたが、いろいろなことを学べました。

向田小学校、面瀬小学校、気仙沼小学校、宿戸小学校の四つの学校で話し合いました。面瀬小学校は、プラスチックゴミを減らす発表で、私は無駄なごみを出さないようにしたいし、マイバックを持ちたいと思いました。気仙沼小学校は、シャークスの発表でした。サメの皮を使ったバックや財布などがあると発表していました。行ってみたいなと思いました。宿戸小学校は、ゴミ問題のことについて発表していました。昔は、魚のエサで海が豊かだったそうですが、今は、プラスチックゴミが自然にかえらずに海にとどまり続けるとも言っていて、とてもびっくりしました。

源流で鉄探し

十月十六日に、久慈平岳の山中にある有家川の源流に、鉄を探しに行きました。東側の鉄濃度は、一リットルあたり０，０五から０，一ミリグラムの鉄の量で、気温は、十一度でした。

西側の鉄濃度は、一リットルあたり０，０五から０，一ミリグラムの鉄の量で、気温は、十度でした。有家川で、天気が晴れ↓晴れの時と同じ結果だったので、天気が同じだと、場所に関わらず結果が変わらないと考えました。源流でも、晴れているとと鉄の量が少ないことも分かりました。

このことから、天気によって鉄は、増減することが分かりました。特に、雨がふった後は、増加することが分かりました。

川で鉄探し

九月に有家川で、天気と鉄の量に関係があるのか調べました。二日間の天気が雨↓晴れ、晴れ↓雨、晴れ↓晴れ、雨↓雨の場合で調べました。調査にはパックテストを使いました。他に、時刻、気温、水深も記録しました。雨↓晴れは、一リットルあたり０．一から０．三ミリグラムの鉄の量がありました。晴れ↓雨も、一リットルあたり０．一から０．三ミリグラム、晴れ↓晴れは一リットルあたり０．０五から０．一ミリグラムでした。このことから天気は、鉄の量に関係があることと、有家川には、思ったより鉄が少ないことが分かりました。

パワーポイント

私たちのグループは、方法、予想、結果をまとめました。いろいろなアニメーションや、色をつけたりできました。予想も、文字の色つけが工夫できました。結果は、表でまとめることが出来たし、色をつけて見やすく出来たので良かったです。アニメーションも、それぞれちがう出方で見やすく工夫できたので、良かったです。

編集後記

初めてパソコンで新聞をつくって、見出しにそって記事を書くことができたので良かったです。数字や、漢字などにも気をつけて書けました。

文字の大きさなども変えて見やすくできて良かったです。

海洋新聞

令和３年２月３日発行
洋野町立向田小学校
５年　向明戸　悌

プラスチックゴミの問題とは

十一月二十七日(金)に海洋教育こどもサミットに参加しました。海についてたくさん学ぶことができました。

十一月二十七日(金)に海洋教育こどもサミットin気仙沼に参加しました。ぼくは、ほかの学校の発表を聞いてたくさんのことを学びました。面瀬小学校のプラスチックをへらすためにエコバックを使う取り組みがいいと思いました。また、宿戸小学校の発表では、捨てられたプラスチックがどんどん小さくなりそれを海の生き物が食べて、生物に悪影響をあたえることが分かりました。

向田小学校は山に囲まれた地域なので、海の近くの様子は知りませんでした。しかし、今回のサミットに参加して、海のことについて詳しく知ることができました。僕は、ペットボトルの飲み物を出来るだけ買わないようにしたり、リサイクルされるようにきちんとゴミ箱に捨てたりするようにしたいと思いました。この記事を読んだ人は、ぜひ取り組んでみてください。

有家川の再調査

今年度は、まず有家川と盛岡にある中津川、矢巾町にある岩崎川、久慈市にある小屋畑川、水道水の鉄濃度の違いを調べました。結果は、どの川も違いがないということが分かりました。有家川には鉄が流れているはずなので、何か条件がないか考えてみました。そして、天気の違いやパックテストの濃度の違い、場所の違いを考えて再調査しました。

結果は、雨→晴れは、一リットルあたり０．一～０．三ミリグラムでした。晴れ→雨は、０．一～０．三ミリグラムでした。晴れ→晴れは、０．０五～０．一ミリグラムでした。

結果から、天気によって、鉄の量が違うということが分かりました。

久慈平岳源流を探って

十月十六日（金）に久慈平岳の源流探索にいきました。源流には、三本木恒廣さんに案内していただきました。

まず、山の東側にある源流に向かいました。山の中に源流があり、川は細くてピックリしました。次に、西側の源流に行きました。西側は、コンクリートやフェンスで囲まれていました。川の中に手を入れたり詳しく観察したりしました。すごく冷たくてきれいな水でした。

源流の鉄濃度は、東側も西側も一リットルあたり０．０五～０．一ミリグラムで、有家川と同じ結果になりました。どちらも天気は晴れだったので、天気によって鉄の量が違うということが言えると思いました。

サミットにむけて

海洋教育こどもサミットに向けて、分かったことをパワーポイントにまとめました。

ぼくは、考察と再検証をまとめました。工夫したところは、写真と文字を見やすくしたところです。写真は、大きめにしました。文字は、色を変えたり、アニメーションをつけたりしました。楽しみながらまとめることができてよかったです。

編集後記

ぼくは、この学習を通して、来年はもっと海や山についてたくさん知りたいと思いました。新聞の編集作業をして、見る人が分かりやすくなるように写真や色を工夫しました。次は、もっとパソコンになれて、きれいな新聞を作りたいと思いました。

海洋教育新聞

令和３年２月３日発行
洋野町立向田小学校
６年　太内田　佳乃

海洋教育子どもサミットin気仙沼を終えて

十一月二十七日に海洋教育の発表会がありました。向田小学校では、川に鉄が流れているのかを調べて発表しました。

今年のサミットでは、オンラインでの発表でした。去年は畠山さんから「川には鉄が流れている。」と聞いたので、それは本当なのかを調べて資料にまとめ、他の小学校に発表しました。サミットでは、面瀬小学校、気仙沼小学校、宿戸小学校の発表を聞きました。

まず、面瀬小学校の発表を聞きました。プラスチックが小さくなることでマイクロプラスチックができ、それが空気中に舞って人が吸うと体に害があることや、海に住んでいるアザラシ・ウミガメなどが間違って食べてしまうことが分かりました。

次の気仙沼小学校の発表では、町にあるシャークスというお店紹介のPRを見せてもらいました。商品は、サメの皮でできた財布やリュックサックなどのサメをモチーフにした商品がありました。

最後に、宿戸小学校の発表を聞きました。宿戸の海には外国の商品のゴミが流れてきて、たくさん浜に打ちあげられているそうです。宿戸小学校はゴミ拾いをして浜を綺麗にしていました。私は、この発表を聞いて海にゴミがあると海の生き物だけでなく人に害があるということが分かって良かったです。

源流探険に行って

十月十六日に久慈平岳と百鳥に向かい、源流探険をしました。理由は、源流の方が鉄は流れていると思ったからです。

まず、久慈平岳にある川に行きました。辺りは木などの植物がたくさんはえていて土はフカフカでした。結果は、一リットルあたり0．0五ミリグラムでした。

次に、百鳥の源流に行きました。学校から二キロメートルほどの所にあり、急な坂道を登ると川があります。結果は、久慈平岳と同じ一リットルあたり0．0五ミリリットルでした。

このことから、場所を変えても鉄の量は変わらないことが分かりました。

川の鉄を調べて分かったこと

私たちは、向田小学校の近くにある川に行って鉄の量を調べました。鉄の量は天気が関係していると思ったので二日間の天気が雨～晴れ、晴れ～雨、雨～雨の場合で調べることにしました。結果は、雨～晴れは一リットルあたり0．一～0．三ミリグラム、晴れ～晴れは一リットルあたり0．0五～0．一ミリグラム、雨～雨は一リットルあたり0．一～0．0三ミリグラムでした。

この結果から、一番鉄の量が多いのは雨～雨の一リットルあたり0．一～0．三ミリグラムでした。鉄は、天気によって変わることが分かりました。

学びのふかめあいをして

４校の発表が終わり、次に学びのふかめあいをしました。課題は「今後の海をどうしていけばいいのかについて」です。向田小学校の考えは、海を良くするために川にゴミを捨てない・みんなに呼びかけするポスターを作る・植樹活動をするなどの、環境を守る活動をすればよいでした。

編集後記

私が、この活動をして思ったことは海をもっと大切にしていかなければいけないことです。

新聞をつくって、工夫した所は題名の色を見やすい色にしたことと写真を付け、分かりやすくしたことです。

海洋新聞

令和３年２月３日発行
洋野町立向田小学校
６年　太内田　颯汰

海洋教育こどもオンラインサミット in 気仙沼

令和二年十一月二七日に行われた海洋教育こどもサミット（オンライン大会）にて、他の学校の発表を聞いて、さまざまなことを学ぶことができました。

令和二年十一月二七日に、海洋教育こどもサミットin気仙沼（オンライン大会）が開催されました。わたしたちはそのサミットに参加しました。その大会には数多くの学校が参加し、学校ごとに海について調べ、まとめて、発表していました。おもしろい発表がたくさんありました。

例えば、気仙沼小学校の鮫、防潮堤についての発表です。自分たちが知らない鮫の秘密や、防潮堤がうごき津波から町を守ることを知ることができました。

また、面瀬小学校の発表はマイクロプラスチックについての発表でした。マイクロプラスチックが存在することは知っていましたが、空気中に舞い、人体に入り、悪影響を及ぼしてしまうことは初めて知りました。

このように他の小学校の発表を聞いたことによって新しい知識を得ることができました。

源流調査の結果

わたしたちは有家川の鉄分の調査で「久慈平岳にある源流にも鉄が流れているのではないか」と予想し有家川の源流の調査にいきました。調査は東側と西側の二ヶ所を調べました。測定日は十月十六日（金曜日）、天気は晴れでした。

西側は、はじめて調査しました。源流の周りは木に囲まれていたり岩があったりしました。

調査した結果、東側も西側も鉄濃度は一リットルあたり0．0五～0．一ミリグラムと、有家川で二日連続晴れの日の時と同じ結果でした。この結果から天気が同じだと場所に関わらず結果が変わらないと考えました。

有家川の鉄

わたしたちは昨年度、気仙沼NPO法人理事長の畠山重篤さんにフェルムは海にいる海藻や貝が育つのに必要だと言うことを、教えて頂きました。このことから洋野町の海はフェルムが豊富なので、向田の川にも、沢山のフェルムが流れていると考えました。そこで、今年は実際に調べてみました。

結果は一リットルあたり0．二ミリグラム以下というとても少ない結果でした。しかし、以前三陸海岸は、ほかの漁場よりも栄養が豊富だと学習しました。このことから鉄が川に流れるには何か条件があるのではないかと予想しました。例えば雨が降ることで地中の中の鉄が川に流れ出して、鉄の量が変わるのではないかと考えました。

調べると、晴れの時は鉄が多い、晴れから雨も鉄が多い、晴れから晴れは鉄が少ないという結果がでました。この調査をしたことで有家川の秘密を一つ知ることができました。

鉄の比較

わたしたちは、水中に含まれている鉄濃度の比較のために有家川、中津川(盛岡)、岩崎川(矢巾)、小屋畑(久慈)、水道水の鉄濃度を調べました。

結果は、どの場所も同じＩＬあたり 0.2 ㎎以下と結果は変わりませんでした。

しかし、この後の調査で天気によって鉄濃度が変わるということがわかりました。

編集後記

この新聞は実際にわたしたちが調べてきたことを記載しています。わたしたちが苦労して調べてきたことをこの新聞に記載することができてよかったです。

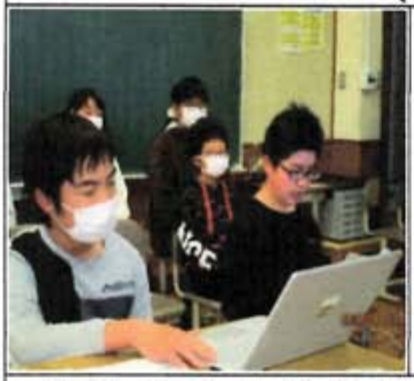
海洋まとめ新聞

令和３年２月３日発行
洋野町立向田小学校
６年　太内田　龍空

海洋教育子供サミットin気仙沼

（オンライン大会）

十一月二十七日海洋教育で海のことを学びました。「森は海の恋人」という発表で、有家川の鉄のことを発表しました。



僕たちは、十一月二十七日に海洋教育こどもサミットin気仙沼（オンライン大会）に参加しました。

まず面瀬小学校が一番目に発表しました。面瀬小は、プラスチックが細かくなり、空中に舞い上がり、マイクロプラスチックになり、人間の体に悪影響をおよぼすということを発表していました。

二番目は、気仙沼小学校の発表でした。気仙沼小では、シャークスというお店を紹介していました。シャークスでは、サメの皮のバックなどを売っているということを知りました。そして、海の前は、防潮堤の役割をしていることが分かりびっくりしました。

三番目は、ぼくたち向田小学校の発表でした。今年の発表では、ただ話すだけでなく、パワーポイントを使ったので、出すタイミングが難しかったです。

四番目は、宿戸小でした。宿戸小学校は、海岸でゴミ拾いをしたことを話していました。海岸には、外国のペットボトルなどが落ちていたそうです。日本のゴミも外国に流れている可能性があるということを聞き、外国に日本のゴミが流れ着き日本との交流関係が断たれたら怖いと思いました。

源流調査

十一月一六日に久慈平岳（有家川の源流）へ調査にいきました。

まず、東側にいきました。東側では、気温が十度、湿度が六十パーセント、パックテストの結果は、一リットルあたり０．０五ミリグラム以下でした。去年も行きましたが、去年とは様子が凄く変わっていてびっくりしました。鉄の量も有家川と同じ位で少ないことにびっくりしました。

次に西側に行きました。西側では、気温が十一度、湿度が五十四パーセント、パックテストの結果は、東側と同じく一リットルあたり０．０五ミリグラム以下でした。西側は初めて行ったので、楽しかったし、フェンスの内側に行けて面白かったです。次は、さらに奥まで行き、どういうふうに、湧き出ているか見てみたいと思いました。

有家川の鉄の秘密

数日かけて、有家川に調査へいきました。なぜ調査したかというと、以前いくつかの川の鉄濃度をパックテストで調査した結果、全ての場所で一リットルあたり０．二ミリグラム以下だったためです。鉄の量が思ったよりも少なく、場所が変わっても鉄の量は変わらなかったので、天気で鉄の量が変わるのではないかと思い、僕たちが住んでいる地域の有家川へ再調査に行きました。

結果は、二日間の天気が晴れ～晴れの日は一リットルあたり０．０五～０．一ミリグラムで、雨～晴れと晴れ～雨は、０．一～０．三ミリグラムでした。他の条件は調べることができませんでした。

当日が雨の日は調査が難しかったけれど、確かめることができて嬉しかったです。次は、調べていない条件で調べたり、調べていない場所で調べたりしたいです。

パワーポイントを使ってみて

僕たちは、パワーポイントを使い、発表をしました。

なぜパワーポイントを使ったかというと、今年は新型コロナウイルスが流行り、いつものように話せないので、画面前でも見やすいため、パワーポイントを使いました。　パワーポイントは、文字をパソコンに打込み、本番では文字をタイミングよく出さなければいけないので大変だったし、難しかったです。

編集後記

この新聞を書き、パソコンでまとめるのは難しかったです。特に文字を打つことや枠の調整などが難しかったです。友達に手伝ってもらいながらすすめました。工夫したとこは、見出しの大きさを同じにしていないことです。

海洋新聞

令和３年２月３日発行
洋野町立向田小学校
６年　柏木　凉昊

私たちの発表
～森は海の恋人～

十一月二十七日に、海洋教育こどもサミットin気仙沼がありました。私たちは、有家川の鉄について調べました。

十一月二十七日に、海洋教育こどもサミットin気仙沼がありました。今年は、新型コロナウイルスの影響で、各学校からオンラインでの発表となりました。

私たちは、「森は海の恋人～有家川のフェルムを見つけだそう～」という、テーマで発表しました。発表するまでに、有家川に行き鉄を見つけたり、久慈平岳に行って有家川の源流を調べたりしました。天気が悪い日もあったけど、発表に向けて調べられたので良かったです。

私は当日の発表で、少し緊張して心配したけど、上手に発表できたので良かったです。

長い時間だったけど、面白かったです。また、中学校でも活かせると思うので、このような経験が出来て良かったです。

他の学校の発表

私たちのグループは、気仙沼小学校と面瀬小学校の、宮城県の二つの小学校も同じグループでした。私は、どんな発表をしてくれるか楽しみでした。なぜかというと、私たちのグループは、海に近い小学校が多くて、山に近い小学校は私たちの小学校だけだったからです。そして同じ県じゃないからです。

宿戸小学校の発表

私たちのグループは、宿戸小学校も同じグループでした。同じ、洋野町内の学校ですが、種市の海に関係する発表でした。

宿戸小学校は、海にあるゴミについて発表してくれました。海には沢山のゴミが押し流されていたそうです。いろいろな、種類のゴミがありなかには、外国から流されたゴミも、あったそうです。

この話を聞いて、私は改めてゴミはしっかりゴミ箱に捨てなくてはいけないと思いました。海に住む生き物や動物、人間にとっても大切なことだと思います。私たちのためになる発表でした。

鉄調べ

私たちは、鉄を調べるために「パックテスト」という鉄を調べる道具を使って調べました。最初に岩手県にある４つの川(有家川、盛岡市の中津川、矢巾町の岩崎川、久慈市の小屋畑川)と、比較のために水道水も調べました。しかし、結果はどれも１Ｌあたり０．２mg以下で色がほとんどつきませんでした。再検証では、低濃度番のパックテストを使いました。結果は天気が雨→晴れのときは１Ｌあたり０．１～０．３mgで、晴れ→雨も１ℓあたり０．１～０．３mg、晴れ→晴れは１ℓあたり0.05～０．１mgでした。

気仙沼小学校は、自分たちの町にある鮫のグッズや、海を走る、ポケモンがついている船の紹介などの発表でした。私も遊びに行きたいと思いました。面瀬小学校は、海のゴミが人間や海に住む生き物、動物に影響を与えてしまうということの発表でした。詳しく発表してもらいました。これからも、気をつけたいと思います。

編集後記

今回の新聞作りは、パソコンで作りました。初めてパソコンで作って、結構上手く作ることが出来ました。

字の大きさや、囲みを変えたり、色を付けてみたりして大変だったけど、楽しかったです。沢山工夫して作りました。

海洋新聞

令和３年２月３日発行
洋野町立向田小学校
６年　三本木　結愛

森は海の恋人
～海洋教育を通して～

私達は、「森は海の恋人」をもとに、有家川に流れる「鉄」（フェルム）について調べ、発表し、森と海の関係について考えました。

十一月二十七日に、「海洋教育こどもサミットin気仙沼（オンライン大会）」がありました。

今年は、初めてのオンライン開催になりました。向田小学校は、気仙沼にある気仙沼小学校と面瀬小学校、洋野町にある宿戸小学校と交流し、発表や学びの深め合いをしました。発表では、最初に面瀬小学校が発表しました。面瀬小学校の発表は、捨てられたゴミが、空気中でマイクロプラスチックになり、それが人間の体内に入り、病気になってしまうことがある、という発表でした。次の気仙沼小学校の発表は、津波に備えた街づくり、サメの皮を使った財布やアクセサリーの紹介でした。最後の宿戸小学校の発表は、海を渡って世界中のゴミが流れ着いていること、ゴミ拾いをして沢山のゴミが落ちていた、という発表でした。このことから私は、海を綺麗にしなければいけないと思いました。これは、洋野町や気仙沼だけでなく、日本中、世界中にいえる事だと思います。なので、これからは、エコバックを使ったり、ゴミ拾いをしたりする事が大切だと思いました。

調査開始！

私たちは、『森は海の恋人～有家川の「フェルム」を見つけ出そう～』をテーマに、有家川に流れる「鉄」について調べました。

昨年度は、海の海藻や貝が育つのに必要な鉄は、山から川、海へと流れて行く事から、有家川にも鉄が豊富だと考えました。

そこで今年は、有家川に、本当に鉄が流れているのかを調べました。調べるのに「パックテスト」という道具を使いました。調べた水は、有家川、中津川、岩崎川、小屋畑川、比較のための水道水の、五種類の水を調べました。私達は、一番鉄が多く流れているのは、有家川だと予想しました。結果は、どの水も一リットル当たり０．ニミリグラム以下と、少ない量でした。しかし、有家川には鉄が流れている事を昨年度、学びました。なので、私達は、何か条件があると考えました。

調査に再チャレンジ

前回の調査結果から、鉄が流れるには、何か条件があると考えました。その条件とは、「天気」「濃度」「場所」です。雨が降る事で鉄が流れるのではないか、濃度はもっと低いのではないか、源流の近くだと鉄が多いのではないかと考えました。そこで、連続した二日間の天気を記録し、パックテストは低濃度版を使いました。また、源流の鉄濃度も調べました。

結果は、雨→晴れの日と晴れ→雨の日の鉄濃度が、一リットル当たり０．一～０．三ミリグラム、晴れ→晴れの日は０．０五～０．一ミリグラムでした。源流では、天気は晴れで、東側も西側も鉄濃度は、０．０五～０．一ミリグラムでした。

このことから、鉄は天気によって増減する事が分かりました。雨→雨の日の実験でもっと詳しく調べたいです。

海の役割とは…

発表の後には、海について考える「学びの深め合い」をしました。

私は、海に次のような役割があると考えました。それは、「生命を育む役割、気温を下げたり雨を降らせたりする役割、そして、日本と世界を繋ぐ役割」です。しかし、今は水質汚染や地球温暖化の影響で、生き物が暮らす事ができなくなったり、空気が汚れたりしてしまっています。海と自分達の関わりについて考える事ができて良かったです。

編集後記

今年の総合は、ほとんどが、パソコンでの作業でした。発表では、パワーポイントを使い、新聞作りにもパソコンを使いました。使い方は難しかったです。特に、文字の大きさを変えて、見やすくする事を頑張りました。楽しく作業できて良かったです。これからも、たくさんパソコンを使った作業に、挑戦していきたいです。

海洋新聞

令和３年２月３日発行
洋野町立向田小学校
６年　萬谷　綾香

海洋教育こどもサミットin気仙沼

十一月二十七日(金)に海洋教育こどもサミットin気仙沼をしました。今年は、コロナウイルスの影響でオンラインでの参加となりました。私達は、川の鉄の量について調べたことを発表しました。

今年は、コロナウイルスの影響で初めてのオンライン参加でした。発表の準備では今まで使わなかったパワーポイントという機能を使って資料をつくりました。とても大変だったけどうまくいってよかったです。

また、気仙沼小学校・面瀬小学校・宿戸小学校の発表を聞いて驚いたことは、外国から流れ着いたプラスチックごみが多いことです。流れ着いたプラスチックはその後、空気中に舞い上がってマイクロプラスチップになり、人間に悪影響を及ぼす事も分かりました。

だから、ポリ袋などのプラスチック製品ではなく環境に優しいマイバックを使うようにしたり、ペットボトルなどがあったら進んで拾ったりするようにしたいです。そして、地球温暖化などをなくしていきたいと思いました。

岩手の川の鉄調べ

六月十八日に川の鉄の量を調べました。調べるために、「パックテスト」という薬品を使いました。パックテストは、鉄があると中に入っている薬品が反応し色がつく道具です。このパックテストでは、一リットルあたり0．二～十ミリグラム量ることができます。調べる川は、有家川、中津川、小屋畑川、岩崎川です。結果は、全て一リットルあたり0．二ミリグラム以下でした。しかし、三陸海岸は栄養豊富なはずなので、鉄が少ないという事から何か条件があるのではないかと考えました。そこで、天気と低濃度のパックテストを使って調べる事にしました。その結果、雨の日が、一リットルあたり0．一～0．三ミリグラムと一番多かったです。この事から、川の鉄が多く流れるのには、雨が必要という事が分かりました。

源流探検に行って

十月十六日に、三本木恒廣さんに久慈平岳と百鳥にある、有家川の源流に連れていって頂きました。調べたわけは、有家川の源流の始まりだと鉄の量が変わるのではないかと考えたからです。天気は、晴れでした。源流の水は、冷たくとても気持ちよかったです。結果は、久慈平岳東側・百鳥のどちらも一リットルあたり0．0五ミリグラムと同じ結果でした。この事から、場所が違っていても天気が雨の日ではないと鉄の量は変わらないという事が分かりました。

私は、源流の始まりだから鉄の量が多いと思ったけど、天気で変わるという事に驚きました。

学びの深め合い

私達はサミットの最後に「学びの深め合い」をしました。「海と私達の関わり方について」というテーマで話し合いました。向田小は、生命を育む役割と環境を保つ役割があると考えました。そのため、プラスチックごみなどがあったら拾いたいし、プラスチック製品の物をできるだけ使わないよう心がけたいと思いました。

編集後記

今年の総合の学習では、パソコンを活用して学習しました。普段使い慣れていないパソコンを使うのはとても大変でした。でも、パワーポイントなどを使って上手にまとめる事が出来たのでよかったです。この力を他の学習にも生かしていきたいと思いました。

洋野町立種市中学校

「総合的な学習の時間」全体計画

洋野町立種市中学校

・日本国憲法　・教育基本法 ・学校教育法　・中学校指導要領 ・岩手県学校教育指針 ・洋野町学校教育行政方針　等	学校教育目標 学びを広げ　自ら問い　高めあう　種中	・生徒の実態 ・学校や家庭、地域の実態 ・保護者地域の方々の思いや願い ・社会の要請　・教師の願い

総合的な学習の時間の目標	体験的な学習が問題解決的な学習を通して、様々な事象に向き合い、学び方やものの考え方を身につけさせるとともに、社会生活において主体的に生きようとする態度を養う。
総合的な学習の時間の主題	自己を知り、自己の可能性を引き出す生徒の育成　～地域との連携を通して～

身につけさせたい力	①「問題を発見する力」	②「問題を解決する力」	③「表現する力」
	・日常の生活や社会の事象に対して興味・関心を持ち、問題意識を持つことができる。	・事象の因果関係を分析したり、必要な情報を取捨選択して整理し、問題を解決することができる。	・他教科との関連を図りながら、自己の考えをまとめ、自己の言葉で分かりやすく相手に伝えることができる。

各教科　道　徳　特別活動　地域との連携　家庭との連携

	第1学年	第2学年	第3学年
目標	・海に生き、海とともに歩んできた郷土の歴史や文化に海に関わる視点で迫り、生まれ育った郷土に誇りを持つ。 ・基本的なコミュニケーション能力を身につける。	・職業や産業に関心を持ち、職場見学や職場体験から、職業に対する理解を深める。 ・課題解決学習や職場体験学習を通して、調査や体験のまとめを発表する能力を身につける。	・課題を持って修学旅行に臨み、学んだことをまとめ、発表する力を身につける。 ・学校の文化を地域に発信するとともに、地域に貢献していこうとする態度が身につく。
主題	「地域を知る」	「地域での(職場)交流」 ～種中キャリアプラン～	「自己の振り返り」「これからの生き方」
学習内容	(1)地域の新しい発見 ・自然や産業、歴史、文化・職業・人柄等から地域の良さや特長に気づかせ、自分の興味関心が高いものへの学習課題を設定し、解決を図る活動を行う。 (2)地域産業についての学習 ・内陸部の産業を調べ、海とのつながりについて新しい発見をする。 ・海に関わる職業について理解を深め、興味関心を持つ。 ・自分の将来の進路を考えるための手掛かりとす ・基本的なコミュニケーション能力を身につける学習を行う。	職場見学 (1)宿泊研修との関連からの学習 ・地域外での職場の様子にふれる。 (2)まとめと発表 ・見学内容をまとめ発表させる。 職場体験学習 (1)事前計画 (2)職場体験(洋野町内) 2日間 (3)事後のまとめと進路への発展	地域への発信 (1)修学旅行の成果 ・まとめと発表 (2)地域への積極的な参加 ・合唱、ボランティア活動を通しての社会貢献策の考案 ・取り組みと成果の発表 (3)自己の振り返りと将来の生き方 ・3年間の学習のまとめと将来の充実
評価の観点	○活動への関心・意欲・態度(問題を発見する力)　○思考・判断(問題を解決する力)　○技能・表現(表現する力)　○知を総合する能力		

(年間学習計画)

月	1学年	2学年	3学年
4	オリエンテーション【1h】	オリエンテーション【1h】　進路学習【4】	オリエンテーション【1h】
5	地域伝統芸能講習【2h】	地域伝統芸能講習【2h】	地域伝統芸能講習【2h】
6	種市高校による防災教育講演会【1h】	地域人材育成講演会【1h】 宿泊研修事前指導・計画・学習【12h】	
7	海洋教育活動計画【4h】 浜清掃【2h】	宿泊研修の実施　宿泊研修のまとめ【8h】 浜清掃【2h】	修学旅行計画【20h】 浜清掃【2h】
8	海洋教育活動(ウニ採り・加工)【6h】	職場体験計画【5h】	夏祭りへの参加
9 10	将来について考えよう。【3h】　海洋まとめ【7h】 地域産業の体験・見学学習 学習のまとめ【5h】　表現活動【11h】	職場体験学習(2日間)【11h】 職場体験のまとめ・学年発表会【5h】 (アポ、礼状、マナー等)　表現活動【11h】	修学旅行実施 修学旅行のまとめ・修学旅行報告会【10h】 高校説明会【2h】　表現活動【11h】
11	先輩に学ぶ会【1h】 防災・復興講演会【2h】	先輩に学ぶ会【1h】 防災・復興講演会【2h】	先輩に学ぶ会【1h】 防災・復興講演会【2h】
12			進路を充実させよう【6h】
1 2	進路学習(高等学校調べ)【2h】 表現活動(3h)	進路学習(職業調べ)【2h】 表現活動(3h)	進路を充実させよう【6h】　表現活動(3h) 3年間の振り返り【4h】
	50時間	70時間	70時間

(各教科)	(道徳)	(特別活動)
・生きる力をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。 ・生徒の発達段階を考え、言語活動を充実させるとともに、家庭と連携し、学習習慣の確立を目指す。	・人間関係を深めるとともに、家庭や地域と連携を図りながら、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して、生徒の内面に根ざした道徳性の育成を目指す。	・家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な活動の実践を促し、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。 ・人間としての生き方について自覚を深め自己を生かす能力を養う。

2020～2021　「総合的な学習の時間」各学年の指導構想（１学年：年間50時間、２・３学年：年間70時間）

2020.4.10 教務

1　全校　　(21時間)

学年共通テーマ ＜地域連携・表現＞		総時数	月	時数	活動項目	活動内容の概略
①	ナニャドヤラ	2	4・5	2	ナニャドヤラ講習会	地域の方を講師にお迎えして練習する
②	海洋	4	6	2	防災・復興講演会	防災・復興講演会
			7	2	浜学習・浜清掃	海の環境について学習し、清掃する。
③	進路・生き方	1	11	1	先輩に学ぶ会	種中卒業生を招き、講演を聞く。
④	合唱	14	10	10	文化祭に向けて	全校合唱練習・振り返り集会
				1	町音楽発表会に向けて	全校合唱練習
			2・3	3	卒業式に向けて	全校合唱練習
		21		21		

2　1学年　　(29時間)　　＜　＞は行事でカウント

テーマ		総時数	月	時数	活動項目	活動内容の概略
1学期	地域を知る	6	5	1	オリエンテーション	総合的な学習の時間について
			6	1	防災教育	種市高校による防災教育講演会
			6・7	4	海洋教育活動行動計画	訪問先の具体的行動計画の作成
2学期		7	8	6	海洋教育学習活動の実施	海洋教育学習活動の実施（ウニ）
				7	海洋教育学習活動のまとめ	海洋教育学習活動のまとめ
		14	9	3	地域産業体験・見学学習の計画	体験学習に向けた個々の課題つくり
				〈6〉	地域産業体験・見学学習の実施（行事）	八戸市内各事業所職場訪問・見学
				5	学習のまとめ・報告会	体験のまとめ（個人・グループ） お礼状の作成
3学期		2	1	1	進路学習	働くことへの正しい知識を身に付ける
			2	1	進路学習（進路希望）	自分の人生設計をし、将来の職業と進路について考える
		29		29		

3　2学年　　(49時間)　　＜　＞は行事でカウント

テーマ		総時数	月	時数	活動項目	活動内容の概略
1学期	地域での交流 ～種中キャリアプラン～	5	5	1	オリエンテーション	総合的な学習の時間について
			5・6	4	進路学習・スキル学習 職場体験学習計画①	働くことの意義 課題の見つけ方・調査の方法 職場体験意義・概要等 体験場所の決定とその事前学習①
2学期		20	6・7 8	12	計画宿泊研修計画	宿泊研修の意義と概要 研修の計画 個々の課題つくり
			8	＜11＞	盛岡市内宿泊研修実施＜行事＞	宿泊研修の実施（ウニ販売体験）
			9	8	宿泊研修のまとめ	自己評価、お礼状書き 体験のまとめ（個人・グループ） 発表会
		19	9	4	職場体験学習計画	体験場所の決定とその事前学習② 質問事項、電話確認等 事前指導（体験をする上での注意事項等）
				11	職場体験学習実施	洋野町種市での職場体験
				4	職場体験のまとめ	自己評価、お礼状書き 体験のまとめ（個人・グループ） 発表会
		2	11	2	地元の高校体験入学	種市高校への体験入学
		3		2	漁業体験	宿戸漁港での体験
			12	1	漁業体験のまとめ	宿戸漁港での体験のまとめ
		49		49		

4　3学年　　(49時間)　　＜　＞は行事でカウント

テーマ		総時数	月	時数	活動項目	活動内容の概略
1学期	自己の振り返り これからの生き方	1	5	1	オリエンテーション	活動内容の概略
2学期		30	9	20	修学旅行自主研修計画の検討・作成	修学旅行の意義と概要　自主研修（職場体験）の具体的行動計画 行動確認
				(17)	修学旅行自主研修の実施（行事）	東京都内で体験的学習の実施 （防災施設訪問・市場での学習）
				10	体験学習のまとめ	自己評価、お礼状書き 体験のまとめ（個人・グループ） 発表会
		2	10	2	高校説明会	高等学校を知る
		12	11～2	12	進路学習	職業と進学・高校について考える 受験に向けたマナー学習 面接について 自己アピールカードの作成
3学期		4	2・3	4	自分を振り返る	卒業を前に、3年間を振り返るとともに、自分の将来を考える
		49		49		

海洋教育年間計画

洋野町立種市中学校

1　ねらい

海洋教育は、「海と人との共生」と言う理念を実現化させるための教育。四方を海に囲まれた国土で暮らす私たち日本人、またその文化のほとんどは海との関わりに源流があり、私たちの生活は、海の恵みに支えられている。海の影響を受けた地形、風土の中に生き、生まれ育った洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４観点からせまり、未来に向けて継承しようとする態度を育成する。

昨年度の取組を土台とし、系統的な学習を継続していく。各出身小学校３校や関係機関の協力を得ながら地域連携を深めていきたい。その上で「海と共に生きる」ことの意味を考えさせる。

2　今年度の計画

1年	4月	オリエンテーション
	6月下旬	種市高校津波出前授業
	8月初旬	漁業体験（ウニ採り・殻剥き）
	8月末	校外学習（予定）
	10月	まとめ・発表（文化祭）
2年	4月	オリエンテーション
	7月	洋野町内での職場体験
	8月下旬	盛岡市内での宿泊研修（ウニ販売等）
	10月	まとめ・発表（文化祭）
	11月下旬	漁業体験（鮭とば作り）
3年	4月	オリエンテーション
	8月	種市夏祭りへの参加（郷土芸能伝承活動）
	9月	修学旅行（都内での海洋教育）
	10月	海鳴り太鼓（郷土芸能伝承活動・文化祭での発表）
	10月	まとめ

3　全校での取組・その他

■「復興に思いを寄せる日」の継続実施

■全校海岸清掃（浜清掃）の実施

■海洋・復興講演会の開催（予定）

	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
1年	漁業体験 （海とのふれ合い）	津波のメカニズム学習	海岸清掃	漁業体験 （ウニ採り）
2年	職場体験 （海で働く人々とのふれ合い）	職場体験（海関連漁業）	海岸清掃	漁業体験 （鮭とば作り） ウニの販売体験
3年	夏祭り参加 海鳴り太鼓		海岸清掃	都内での研修、 市場見学

１年【海に親しむ】漁業体験　１７時間

【単元のねらい】

⑴　浜の仕事を体験することで、働くことの楽しさと厳しさを学ぶ。

⑵　人間関係の大切さを理解し、コミュニケーション能力を高める。

⑶　互いに支え合いながら作業をすることで、協調性を養う。

⑷　海洋や漁業活動について学ぶことで、地元を大切にする心を育成し、復興の一助を担う。

【本時のねらい】　10, 11, 12, 13 時間／17 時間

⑴　衛生面に気をつけて塩ウニを瓶詰めにする工程を知る。

⑵　漁業の方のアドバイスのもと、仲間と協力して作業する。

学習活動		指導・援助
8:30	１　集合・整列・移動 班ごとに整列し、バスに乗車する。 宿戸学区の生徒は、宿戸中に集合。	・安全指導、避難場所の確認を行う。
8:50	２　始めの会 挨拶をする。身なりを整える。手指消毒をする。	・白衣、帽子、マスク、手袋、長靴を身につける。 ・衛生面に気を付けさせる。
9:00	３　作業 漁協婦人部の方の話をよく聞いて、作業をする。 粒の形を残す。なるべく瓶に隙間なく詰める。 〔作業の流れ〕 ①瓶、蓋の消毒をする。 ②粒うにをスプーンで丁寧に瓶に詰める。 ③蓋をしっかりとする。 ④ラベルを貼る。 ⑤フィルムで覆う。	・相手意識（食べてくれる人、教えてくれる人）を持って活動させる。 ・わからないところは、質問するように促す。 ・適宜、休憩・水分補給を行わせる。
12:00	４　片付け 周りを見て全員で素早く行う。	・忘れ物、ごみのないように声を掛ける。
12:30	５　終わりの会 感想発表、お礼の言葉 ６　学校到着・下校 宿戸学区の生徒は、宿戸中で解散。	（振り返り用紙への記入を宿題とする。）

２年【地域での交流】漁業体験　３時間

【単元のねらい】

⑴地域の特徴やよさについて、小学校での海洋学習や１学年での漁業体験をふまえ、理解を深める。

⑵漁協の方々との触れ合いを通して、地域を支える活動に取り組む人々が多くいることを知り、自分自身の生き方を考える。

【本時のねらい】　2,3 時間／3 時間

⑴衛生面に気をつけて鮭とばを加工する過程を知る。

⑵漁業の方のアドバイスのもと、仲間と協力して作業する。

	学習活動	指導・援助
13:05	１　集合・整列・移動 班ごとに整列し、バスに乗車する。	・安全指導、避難場所の確認を行う。
13:20	２　始めの会 挨拶をする。身なりを整える。手指消毒をする。	・白衣、マスク、手袋、長靴を身につける。 ・衛生面に気を付けさせる。
13:30	３　作業 漁協の方の話をよく聞いて、作業をする。 怪我に注意して、作業をする。 〔作業の流れ〕 ①鮭を清潔なタオルの上に置く（タオルのお陰で滑らなくなり、捌きやすくなる)。 ②鮭を３枚におろす。 ③身を細長く切り、数本をスズランテープでまとめる。 ④学校で干す（帰校後の作業)。	・道具の使い方を確認する。 ・相手意識（食べてくれる人、教えてくれる人）を持って活動させる。 ・わからないところは、質問するように促す。 ・適宜、休憩・水分補給を行わせる。
15:00	４　片付け 周りを見て全員で素早く行う。	・忘れ物、ごみのないように声を掛ける。
15:10	５　終わりの会 感想発表、お礼の言葉	
15:15	６　移動	
15:30	７　学校到着	（振り返り用紙への記入を宿題とする。）
16:15	８　干す作業後下校	

３年【自己の振り返り・これからの生き方】水生生物による水質調査　４時間		
【単元のねらい】 ⑴地域の特徴やよさについて、小学校での海洋学習やこれまでの漁業体験をふまえ、理解を深める。 ⑵調査活動等を通して、自然環境の現状と課題について考え、自然環境を守ろうとする態度を育てる。		
【本時のねらい】　1,2 時間／4 時間 ⑴身近な自然環境の調査ができる。 ⑵身近な自然環境の調査に関心を持って取り組んでいる。		
学習活動		指導・援助
10:35	１　集合・整列	
	班ごとに集合・整列する。	・安全指導を行う。
	活動のねらい・内容を確認する。	・服装等の確認をする。
10:45	２　移動・調査	・道具の使い方を確認する。
	安全に気を付けて移動、調査する。	・班に配布するもの
	〔調査の流れ〕	白いバット、ピンセット
	①分担して水温、水流（大まかに）を測定する。	水生生物下敷き
	②班ごとに、水生生物を探す。	記録用紙、鉛筆、ルーペ
	③班ごとに生物の同定と数を記録する。	網
12:00	４　片付け・移動	・環境の保全に努めさせる。
	生物はもとに戻す。	
	川の近くに紙などの忘れ物がないように確認する。	
12:15	５　終わり会・着替え・振り返り	
	班ごとに記録を共有し、簡単に反省を行う。	
	着替えをする。	
12:35	各自で振り返りを行う。	（振り返り用紙への記入を宿題とする。）

洋野町立中野中学校

令和２年度　総合的な学習の時間（追Q）全体計画

洋野町立中野中学校

【総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようにする。

（２）自分たちが暮らす実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。

（３）探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

【学校教育目標】

・自ら考えて努力し知性を高める生徒

・生活の向上を目指し自主的に判断して行動する生徒

・健康明朗でたくましく心豊かな生徒

【校訓】

自ら学び，自ら修める

【生徒の実態より】

・素直で真面目に課題に取り組む。

・落ち着いた学習態度であるが，家庭学習が不十分である。

・部活動や清掃などに積極的に取り組んでいる。

・言語知識に落ち込みが見られ，自分の考えや思いを分かりやすく伝えることが苦手な生徒が多い。

・地域のよさについて理解が増し，地域を誇りに思う気持ちが育っている。その反面，地域でのボランティア活動に，目的を持って自主的に取り組む姿がやや乏しい。

【本校で定める総合的な学習の学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ，「海」を視点に体験活動や学習活動，保全活動などの横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，実生活と海・地域・社会とのつながりについて考えを深めさせ，自己の生き方や地域の在り方を考えていくための資質・能力を育成する。

（１）探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようにする。【知識及び技能】

（２）自分たちが暮らす実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析してまとめ，相手に伝わるように表現することができるようにする。【思考力・判断力・表現力】

（３）探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を養うとともに，現在そして将来，生まれ育った地域や自分の住む場所の継承・発展と，自己の望ましい生き方・在り方を考え続けることができるようにする。【学びに向かう力，人間性】

本校で定める総合的な学習（海洋科＝追Q）の時間の内容

探究課題			探究課題を解決することを通して育てようとする資質・能力		
			（1）知識及び技能	（2）思考力，判断力，表現力	（3）学びに向かう力，人間性
一年生	全校浜清掃・伝統芸能「ナニャドヤラ」取り組み	「地域を知ろう　～洋野町の山と海の関係と地域産業から見える洋野の海の課題～」 ・洋野の海の問題を知ろう ・地域産業と海との関わり ・海と山の関わりについて ・洋野町PR大作戦（文化祭） ・洋野の幸を使ったメニュー作り ・洋野町の山と海の関係と地域産業についてまとめ，発表しよう 「自分を見つめる」	・洋野の海の問題を知った上で，地域の企業，自然を活用した様々な活動を知り，洋野の海と山の関係から地域のよさを見つけることができる。 ・既習事項を生かした，情報収集，まとめ，発表をすることができる。 ・小学校での既習事項を想起しながら，洋野町の海の課題を広い側面から取り上げ，全校や地域の人に知ってもらう。	・「海」を視点とし，様々な問題状況の中から，課題を発見・設定することができる。 ・課題解決の方法や手順を考え，見通しをもって計画を立てることができる。 ・情報収集の手段を選択することができる。 ・必要な情報を収集，蓄積することができる。 ・問題状況における事実や関係を把握し，理解することができる。 ・多様な事柄にある特徴を見付けることができる。 ・各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。 ・分析した情報や調査・体験したこと，自分の考えを，相手や目的に応じてわかりやすくまとめることができる。 ・他者の発表を聞き，質問・評価し合うことで，聞き手を意識した発表をすることができる。 ・学習の進め方等を振り返り，実生活に生かそうとすることができる。	・グループでの教え合いなどを通して，他者と協働して課題を解決しようとすることができる。 ・自己評価や相互評価により，自分の活動内容について振り返り，改善点を意識して生活することができる。 ・地域と自分とのかかわりを踏まえて，自己の将来の生き方について考えることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち，郷土を愛する心を培い，現在そして将来，生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えることができる。
二年生		「地域を考えよう　～洋野町と他地域との比較から探る洋野の海の課題解決～」 ・キャリアアップ研修 ・洋野町PR大作戦（in雫石） ・洋野町と他地域を比較しよう ・他地域から学んだこと，洋野のよさから洋野の海の問題解決策を探り，まとめ，発表しよう 「地域の一員として生きる」	・洋野の海の課題を多角的に捉え，キャリアアップ研修などを通して他地域と洋野の取組を比較することで，洋野の海の課題解決方法を見つけることができる。 ・洋野の海の課題ついて考えた解決策をＩＣＴ機器を活用しまとめ，発表することができる。 ・地域での職場体験を通し，働くことの意味や働く人の思いについて考えを深め，目的を持って行動することができる。		
三年生		「洋野の未来を考えよう　～洋野町の発信・将来の創造～」 ・洋野町PR大作戦（in東京） ・洋野のよさを知ろう ・洋野の魅力発信プロジェクト 「社会の一員として生きる」	・これまでの学習を元に，洋野のよさを生かした未来を考え，洋野町外に効果的に発信することができる。 ・地域を誇りに思い，将来を創造する能力を高め，洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語ることができる		
中野中学校の付けたい力			【表現する力・将来について考える力】 ・様々な課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら，学び方や考え方を身に付けるとともに，自分から進んであいさつを行ったり，質問に対する受け答えや自分の考えを相手に分かるように堂々と伝えたりすることができる力。 ・他者と協働し，情報（非連続型テキスト）を収集・分析し，自分の考えをまとめ，資料やＩＣＴ機器などを使って同学年や他学年・外部機関に発表・発信することができる力。 ・地域のよさを知ることで地域の課題解決について考え，地域の一員としての自覚や誇りを持ち，洋野町を愛し，地域や岩手の復興・発展を支えるために何ができるかを考え，行動する力。 ・様々な行事を通し，他者と協働しながらよりよく課題を解決し，自己の生き方や地域の在り方を考え行動する力		

洋野町立中野中学校海洋科1年「地域を知ろう ～海と山の関係と地域産業から見える洋野の海の課題～」ストーリーマップ 30時間

【実践のねらい】

地域の企業，自然を活用した様々な活動を通して，洋野の海と山の関係から地域のよさを知り，地域に対する興味・関心を深めさせる。そのために，地域企業の方に講師になっていただき，山と海の関係についての学習活動の他に，地域企業で取り組んでいる冷涼な気候を生かしたきのこの植菌作業や，洋野町の海の問題や取組調査，長根商店経営「きのこの駅」での採用を目指し，洋野の海の幸，山の幸を融合させた新メニュー考案とプレゼン，レシピカード作りなどの体験的活動を行う。それらの活動を通し，自分たちの生きる地域の魅力について知り，地域に対する愛着を深める。また，小学校での既習事項と合わせ，洋野町の海の課題を広い側面から捉え，全校や地域の人に提起する。

○時数 4月から3月 （総合的な学習の時間，特別活動，国語科，理科，社会科，技術・家庭科）

○関連 国語，理科，社会科，英語科，美術科，技術・家庭科

○目標（1）地域の企業，自然を活用した様々な活動を通して，洋野の海と山の関係から地域のよさを知り，地域に対する興味・関心を深めることができる。

（2）他者と協働しながら，課題設定や課題解決・追究活動に主体的・対話的に取り組むことができる。

（3）目的にふさわしい情報収集の仕方を知り，様々な方法で情報収集を行うことができる。

（4）まとめ方のプロセスを知り，学習の成果をまとめることができる。

（5）学習，体験活動や発表を通して知った洋野町の魅力と，自分らしさや自己の成長を発見することができる。

主な連携機関	内　容
長根商店	地域企業の事業と山と海の関係の学習，きのこの植菌作業，新メニュー考案
小子内浜漁協，種市漁協，種市南漁協，角浜魚市場，八木魚市場，水産振興課	洋野町の各漁協（魚市場）を中心に，漁業関係者から，洋野町の海の問題や取組，願いについて様々な角度から話を聞く。
ひろのまきば天文台	大野地区の産業と海洋の係わりについて講義
長根商店，種市南漁協，川金，館豆富店	洋野町物産品の販売 文化祭での洋野町物産品の販売
洋野町保健センター	新メニュー，レシピカード作り
洋野町立中野小学校	海岸清掃，授業参観，拡大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「ナニャドヤラ」の学習会，練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃，地域貢献活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式・身体測定 新入生学調 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	知能検査 運動会 町教研 地区通信陸上 530運動	地区中総体 期末テスト 津波防災講座	思春期講演会 地区合唱交流会 県中総体 町民芸術劇場 期末面談 終業式・地区駅伝	始業式 実力テスト 漢字検定 地区陸上大会 身体測定	英語暗唱大会 地区新人戦 中間・前期テスト	生徒会役員選挙 文化祭 町駅伝大会 子ども議会 県新人戦（テニス） 町音楽発表会	実践区大会 県新人（バド・卓球） ベネッセテスト 期末テスト 町教研 海洋カンファレンス	期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 漢字検定 中1英語確認調査 三送会	期末・後期テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式

活動の流れ

地域を知ろう～海と山の関係と地域産業から見える洋野の海の課題～（30時間）

オリエンテーション（全体1）
オリエンテーション発表準備（海を知る）（2）

①森と海の関係について知る（海を知る）（5時間）
- 山と海の関係性を生かした地域企業の取組について知る。
- 大野地域と海洋とのつながり，産業について知る。
- 洋野町の海における問題や取組などを調査する。
- 地域に生きる人の震災前後の海などに対する思いを知る。

②海と山を生かした特産品を作る（海に親しむ・海を利用する）（2時間）
- きのこの植菌作業に挑戦

津波防災講座（海を守る）

有家浜清掃（海を守る）

③課題追究（海を知る・海に親しむ・海を利用する）（7時間）
- 洋野町の海の問題を環境・産業・人等の面からまとめる。
- 学習したことを生かし，長根商店経営の「きのこの駅」での採用を目指し，洋野の海の幸，山の幸を融合させた新メニューを考える。
- 考えたメニューを実際に調理し，試食する。

④洋野町PR大作戦（海を知る・利用する）（4時間）
- 企業の方から話を聞いたり試食をしたりして，洋野町の特産品のアピールポイントを考える。
- 洋野町PR大作戦のためにPRを考え，宣伝したり，販売したりする。
- 販売を振り返る。

⑤レシピカード作り（海を知る・海を利用する）（2時間）
- 二陸あわび茸を多くの人に知ってもらうために考えたメニューのレシピ本を作る。

⑥学習のまとめ・発表（海を知る・海に親しむ・海を利用する・海を守る）（6時間）
- 学習したことや新メニューを発表する方法を考え，作成する。
- グループごとに発表映像を見合い，改善点を伝え，よりよい発表を目指す。
- 文化祭において，地域の方に向け洋野の海の現状も合わせて発表をする。
- 長根商店でプレゼンを行い評価してもらう。

⑦年間の活動と自己の成長を振り返る（海を知る・海に親しむ・海を利用する・海を守る）（1時間）

ナニャドヤラで地域を笑顔に （海を知る） -地域に伝わる伝統芸能の歴史について知る -様々な場面で地域の方を笑顔にできる踊りをする

海洋科学習につながる各教科で伸ばしたい能力

【国語】	【社会】	【数学】	【理科】	【英語】	【音楽】	【美術】	【保健体育】	【技術】	【道徳】	【特別活動】
・社会生活に必要な国語の知識や技能 ・筋道立てて考える力や感じたり想像したりする力 ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを確かなものにする力 ・思いや考えを伝え合おうとする力	・日本の国土と歴史，政治，経済，国際関係等に関して理解する力 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力 ・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題解決に向け選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理，法則などの理解 ・事象を数理的に捉えたり，数学的に解釈，表現，処理する力 ・事象の特徴を表などで考察したり，データの分布から傾向を読み取り批判的に考察，判断したりする力	・問題を見いだし見通しを持って観察，実験を行う力 ・規則性，関係性，共通点や相違点，分類するための観点や基準を見いだして表現する力	・日常的な話題について必要な情報を聞き取る力 ・日常的な話題について簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取る力 ・関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて即興で伝え合ったり発表したりする力 ・関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて正確に書く力。	・表現を創意工夫したり，音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わう力 ・音楽文化に親しむとともに，音楽によって生活を明るく豊かなものにしようとする力	・意図に応じて表現方法を工夫して表す力 ・美術の観点から，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったりする力 ・創造活動の喜びを味わい，心豊かな生活を創造する力	・運動についての自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力 ・運動における競争や協働の経験を通し，公正，協力，役割を果たす，個々の違いを認める力	・生活や社会で利用されている事物，情報の技術についての基礎的な理解力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし課題を設定する力 【家庭】 ・家族・家庭の機能について理解を深め，生活の自立に必要な基礎的な理解力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし課題を設定する力	・自分を見つめ，自分の生き方を模索する力 ・物事を広い視野から多面的・多角的に考える力 ・人間としてよりよい生き方について考える力	・様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要なことを理解し行動する力 ・集団や自己の生活の課題を見いだし，解決する力 ・よりよい生活や人間関係を形成するとともに，自己実現を図ろうとする力

洋野町立中野中学校 2学年海洋科 「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から洋野の海の課題解決～」ストーリーマップ 45時間

【実践のねらい】

他地域と洋野を比較することを通して，他地域と洋野町のそれぞれの特性を生かした産業などについて学ぶとともに，洋野町の魅力や課題点を焦点化させる。そのために，キャリアアップ研修の際には洋野町以外の地域での地域特産品の販売体験活動，観光，環境，住，食の視点で他地域での学習活動などを行う。また，地域企業協力の下，職場体験学習を行い，職業観や勤労観を養いながら，将来を考える能力を高める。これらの活動を通し，自分たちの生きる地域の課題を見つめ，洋野町の特性を生かした課題解決の道を探る。

○時数 4月から3月 （総合的な学習の時間，特別活動、国語，理科，社会科，技術・家庭科）

○関連 国語，理科，社会科，英語科，技術・家庭科

○目標 ・キャリアアップ研修を通して他地域と洋野を比較し地域の課題を見付け，洋野町独自のよさを生かした町づくりについて考えることができる。
・地域での職場体験を通し，働くことの意味や働く人の思いについて考えを深めることができる。
・「海」を視点とし，様々な問題状況の中から，課題を発見・設定することができる。
・各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。
・地域の一員としての自覚を持ち，郷土を愛する心を培い，現在そして将来，生まれ育った地域や自分の住む場所の未来を考えることができる。

主な連携機関	内容
長根商店，種市南漁協，河食，館豆富店，洋野町商工会議所，オガール紫波	キャリアアップ研修（町外）での洋野町物産品の販売 修学旅行（東京都中野区）販売準備
東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター	洋野ディストピアストーリーの作成学習会
洋野町内で暮らす方	洋野ユートピア構想に関わる取材
中野地区を中心とした企業	職場体験学習
洋野町立中野小学校	海岸清掃，授業参観，拡大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「ナニャドヤラ」の学習会，練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃，地域貢献活動
洋野町保健センター，食生活改善推進協議会	郷土食，調理実習，地産地消の学習

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式・身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	運動会 町教研 地区通信陸上 530運動	地区中総体 期末テスト 津波防災講座	キャリアアップ研修 思春期講演会 地区合唱交流会 県中総体 町民芸術劇場 期末面談 終業式・地区駅伝	種市夏まつり 始業式 実力テスト 漢字検定 地区陸上大会 身体測定	英語暗唱大会 地区新人戦 中間・前期テスト	県学調 生徒会役員選挙 文化祭 町駅伝大会 子ども議会 県新人戦（テニス） 町音楽発表会	実践区大会 県新人（バド・卓球） ベネッセテスト 期末テスト 町教研 海洋カンファレンス	期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 漢字検定 中1英語確認調査 三送会	期末・後期テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式

活動の流れ

「地域を考えよう～洋野町と他地域との比較から洋野の海の課題解決～」（45時間）

オリエンテーション（全体1 学級1）（海を知る）

①キャリアアップ研修（海を知る・利用する）（4時間）
・観光，環境，住，食の視点で他地域の特性を生かした産業などについて学ぶ。

②洋野町PR大作戦（海を知る・利用する）（9時間）
・企業の方から話を聞いたり試食をしたりして，洋野町の特産品のアピールポイントを考える。
・洋野町の特産品のアピールポイントを考え販売ポスターなどを作る。
・洋野町PR大作戦のためにPRを考え，宣伝したり，販売したりする。

③キャリアアップ研修振り返り（海を知る・海に親しむ・海を利用する）（2時間）
・キャリアアップ研修と通して分かった他地域の取組やよさなどをまとめる。
・まとめたことを発表する。

津波防災講座（海を知る）

有家浜清掃（海を守る）

④考察・学習のまとめ・発表（海を知る・海に親しむ・海を利用する）（20時間）
・洋野町の海の問題を見つけ，洋野独自のよさを生かした解決策を探る。
・中野地区に住む人々に取材をし，地域独自のよさを知る。
・考察したことをパワーポイントにまとめる。
・説得力のあるプレゼンテーションについて理解する。
・グループごとに発表を見合い，改善点を伝え，よりよい発表を目指す。
・文化祭において，地域の方に向け，発表をする。

※考察の際は，洋野町役場企画課，総合戦略推進室，水産商工課，各漁協や各商業施設などの関係機関と連携

洋野町海洋教育カンファレンス参加

⑤一年間の活動と自己の成長を振り返る（海を知る・海に親しむ・海を利用する・海を守る）（1時間）

⑥修学旅行に向けた準備（海に親しむ・海を利用する）（7時間）
・1，2年生での販売体験を生かし，修学旅行での販売体験に向けた準備をする。
・海に関わる学習したいテーマを決め，修学旅行で訪問する施設を決め，準備を進める。

ナニャドヤラで地域を笑顔に （海を知る） ・地域に伝わる伝統芸能の歴史について知る ・様々な場面で地域の方を笑顔にできる踊りをする

海洋科学習につながる各教科で伸ばしたい能力

【国語】	【社会】	【数学】	【理科】	【英語】	【音楽】	【美術】	【保健体育】	【技術】	【道徳】	【特別活動】
・社会生活に必要な国語の知識や技能 ・論理的に考える力や共感したり想像したりする力 ・社会生活の中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりする力 ・思いや考えを伝え合おうとする力	・日本の国土と歴史，政治，経済，国際関係等に関して理解する力 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力 ・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題解決に向け選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理，法則などの理解 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，表現・処理したりする力 ・図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力 ・複数の集団のデータ分布に着目し，比較して読み取り，批判的に判断したり考察したりする力	・問題を見いだし見通しを持って観察，実験を行う力 ・規則性，関係性，共通点や相違点，分類するための観点や基準を見いだして表現する力	・日常的な話題について話の概要を捉える力 ・日常的な話題について簡単な語句や文で書かれたものから概要を読み取る力 ・日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを伝えたり，質問に答える力 ・日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどをまとまりのある文章で書く力。	・ふさわしい表現を創意工夫したり，音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わう力 ・音楽文化に親しむとともに，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，音楽に親しもうとする力	・意図に応じて表現方法を追求し，創造的に表す力 ・美術の観点から，独創的・総合的に物事を考え，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったりする力 ・主体的に創造活動の喜びを味わい，心豊かな生活を創造する力	・運動についての自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力 ・運動における競争や協働の経験を通し，公正，協力，役割を果たす，個々の違いを認める力	・生活や社会で利用されている事物，情報の技術についての基礎的な理解力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし課題を設定する力【家庭】 ・家族・家庭の機能について理解を深め，生活の自立に必要な基礎的な理解力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし課題を設定する力	・自分を見つめ，自分の生き方を模索する力 ・物事を広い視野から多面的・多角的に考える力 ・人間としてよりよい生き方について考える力	・様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要なことを理解し行動する力 ・集団や自己の生活の課題を見いだし，解決する力 ・よりよい生活や人間関係を形成するとともに，自己実現を図ろうとする力

洋野町立中野中学校 3学年海洋科「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造～」40時間

【実践のねらい】

洋野町の課題を分析し，修学旅行で見聞きしてきたことと洋野のよさを融合し，洋野の未来の発展について考える。そのために，首都圏の産業から洋野町に役立てられることはないかという視点を持ちながら参加する修学旅行において，地域特産品の販売体験活動や，海に関わる個人テーマを学習する施設見学などを行う。また，他地域出身の洋野町移住者による講演会で，自分たちの住む洋野の魅力を再確認し，地域を誇りに思う心を育む。洋野の未来について考え広く発信することを通し，将来を想像する力を高め，最終的に「洋野について自分たちの言葉で語ることのできる人間」の育成を目指す。

○時数 4月から3月 （総合的な学習の時間，特別活動，国語，理科，社会科，英語科，技術・家庭科）

○関連 国語，理科，社会科，英語科，技術・家庭科

○目標 ・修学旅行で訪れる東京の文化・産業などから，洋野町の町づくりに生かせるものを見つけるとともに，洋野の課題を見付け，地域のよさも生かした洋野の町づくりについて考えることができる。

・洋野のよさを生かした洋野の未来を考え発信することを通し，地域を誇りに思い，将来を創造する能力を高め，洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語ることができる。

・「海」を視点とし，様々な問題状況の中から，課題を発見・設定し，各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。

主な連携機関	内容
長根商店，種市南漁協，川食，館豆富店	洋野町PR大作戦（東京都中野区）での洋野町物産品の販売
個人テーマに関わる施設	海に関わる個人テーマの追究
洋野町役場	町づくりにかかわる職員の派遣・CM作成
洋野町立中野小学校	海岸清掃，授業参観，拡大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「ナニャドヤラ」の学習会，練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃，地域貢献活動
なかの保育園	保育体験学習

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式・身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	運動会 町教研 地区通信陸上 530運動	地区中総体 期末テスト	思春期講演会 地区合唱交流会 県中総体 町民芸術劇場 期末面談 終業式・地区駅伝 高校体験入学	高校体験入学 種市夏まつり 始業式 実力テスト 漢字検定 地区陸上大会 身体測定	修学旅行 英語暗唱大会 地区新人戦 中間・前期テスト 津波防災講座 実力テスト	生徒会役員選挙 文化祭 町駅伝大会 子ども議会 県新人戦（テニス） 町音楽発表会 実力テスト	実践区大会 県新人（バド・卓球） 実力テスト 期末テスト 町教研 海洋カンファレンス	実力テスト 期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 漢字検定 中1英語確認調査 三送会	期末・後期テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式

活動の流れ

「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造～」（40時間）

オリエンテーション（全体－学級－）（海を知る）

①洋野の魅力を教えてもらおう（海を知る・海に親しむ・海を守る・海を利用する）（2時間）
・首都圏出身の洋野町移住者の方の講演を聞き，今まで知らなかった洋野町について知る。

津波防災講座（海を知る）

有家浜清掃（海を守る）

②海に関わる施設見学（海を知る・海に親しむ・海を守る・利用する）
・都市部の特性を生かした産業や，海に関わる個々のテーマについて学ぶ。
・学んだことを，まとめる。

③「洋野発信プロジェクト」・学習のまとめ・プレゼン（海を知る・海に親しむ・海を利用する）（35時間）
・洋野町独自のよさをまとめる。
・洋野町の課題を，これまでの学習や実際の数値から探る。
・洋野発信プロジェクトとして，洋野の魅力を発信する CM を制作する。（連携：洋野町役場企画課・広報担当）
・関係者に制作した CM をプレゼンし，ふるさと CM 大賞に応募する。
・文化祭において，地域の方に向け，制作した CM のプレゼンテーションを行う。（修学旅行報告会も兼ねる）
・CM審査会に参加する。

④3年間の活動と自己の成長を振り返る（海を知る・海に親しむ・海を利用する・海を守る）（1時間）

ナニャドヤラで地域を笑顔に（海を知る）・地域に伝わる伝統芸能の歴史について知る　・様々な場面で地域の方を笑顔にできる踊りをする

海洋科学習につながる各教科で伸ばしたい能力

【国語】
・社会生活に必要な国語の知識や技能
・論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力
・社会生活の中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりする力
・思いや考えを伝え合おうとする力

【社会】
・日本の国土と歴史，政治，経済，国際関係等に関して理解する力
・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力
・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題解決に向け選択・判断したりする力
・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力

【数学】
・数量や図形などについての基礎的な概念や原理，法則などの理解
・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，表現・処理したりする力
・図形の構成要素の関係に着目し，論理的に考察し表現する力
・事象を相互に関連づけて考察，傾向の推定判断する力
・調査の方法や結果を批判的に考察する力

【理科】
・問題を見いだし見通しを持って観察，実験を行う力
・規則性，関係性，共通点や相違点，分類するための観点や基準を見いだして表現する力

【英語】
・社会的な話題について，短い説明の要点を捉える力
・社会的な話題について簡単な語句や文で書かれた文章の要点を読み取る力
・社会的な話題について，考えたことや感じたこと，理由などを述べ合う力
・社会的な話題について，考えたことや感じたこと，理由などを書く力。

【音楽】
・ふさわしい表現を創意工夫したり，音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わう力
・音楽文化に親しむとともに，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，音楽に親しもうとする力

【美術】
・意図に応じて表現方法を追求し，創造的に表す力
・美術の観点から，独創的・総合的に物事を考え，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったりする力
・主体的に創造活動の喜びを味わい，心豊かな生活を創造する力

【保健体育】
・運動についての自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力
・運動における競争や協働の経験を通し，公正，協力，役割を果たす，参画，個々の違いを認める力
・健康，安全を確保する力

【技術】
・生活や社会で利用されている事物，情報の技術についての基礎的な理解力
・生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし課題を設定する力【家庭】
・家族・家庭の機能について理解を深め，生活の自立に必要な基礎的な理解力
・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし課題を設定する力

【道徳】
・自分を見つめ，自分の生き方を模索する力
・物事を広い視野から多面的・多角的に考える力
・人間としてよりよい生き方について考える力

【特別活動】
・様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要なことを理解し行動する力
・集団や自己の生活の課題を見いだし，解決する力
・よりよい生活や人間関係を形成するとともに，自己実現を図ろうとする力

令和２年７月１５日

１学年海洋科　長根商店での体験学習

長根商店さんの講義と三陸アワビ茸の菌床ブロックづくり

１年　　組　　番　名前

１　日時　　令和２年７月１７日（金）　１～３校時

２　場所　　株式会社長根商店　　洋野町中野９－１６－１

３　ねらい

⑴ 山と海の関係を生かした地元企業の取組について知り、地域に生きる人の震災前後の海などに対する思いを知る。

⑵ 地元の企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地元のよさを知り、地元に対する興味・関心を深める。

４　日程

８：４５　昇降口前集合・出発

８：５５　長根商店到着・　整列・挨拶

「今日は、私たちのために時間をさいていただき、ありがとうございます。地元の自然を生かした商品を作っている長根商店の皆さんの仕事を学ぶことで、地元の魅力を発見していきたいと思います。今日は、よろしくお願いします。」

９：００～　講義・植菌

１１：０５　お礼の挨拶

「今日は、私たちのために講義や体験学習の機会を与えてくださり、ありがとうございました。今日、学んだことは、

（　　）でした。この学んだことは、これからの学習の中で更に深めていきます。」

「今日は、本当にありがとうございました。」

「ありがとうございました。」

１１：１０　長根商店出発

１１：２０　中学校到着

５　服装・持ち物　　運動着　　筆記用具　　追Qファイル　軍手　水筒　タオル

６　連絡　　①新型コロナウイルス拡大防止を意識し、ケガ等なく学ぼう。

②水分補給は自分の判断で行い、熱中症にならないように。

5　講義から学んだこと

○紙芝居で学んだこと

○三陸あわび茸の菌床ブロック作りと工程の説明

・体験内容

・質問したこと

・学んだこと

○感想と反省

中１卒業論文発表会について

総合担当

１　目　的　・１年生の発表を聞くことで、小学校での学習内容を知り、これまでの自分たちの学習を振り返るとともに、今年度の自分たちの学習や発表に生かせることはないか参考にするため。

２　期　日　令和２年１０月９日（金）５時間目

３　場　所　食堂（並びはスクリーンの方を向き、前から２年生、３年生、１年生の順）

４　内　容　①１年生による小学校で行った個人研究の発表（質問を含めて１人３分）
- 幸　輝「月と海は関係があるのだろうか」
- 優　杏「日本の水産物について」
- 将　太「八木の漁師さんの１日」
- 千　世「シーグラスの歴史」
- あさ美「津波と地震について」
- 姫　音「砂浜に流れつくゴミについて」
- 弥　々「ウニのひみつを探ろう」
- 美　怜「ツブの研究」
- 亜　未「ナマコについて」
- 煌　和「魚はどうして昔から生きているのか」

②昨年度東大発表者による、グループ研究発表
③１年生の発表に対する感想発表（２，３年生代表１名ずつ）

５　服　装　運動着・マスク・必要に応じて筆記用具

６　持ち物　１年生は発表に必要な物
２，３年生は１年生の発表をしっかりと聞き質問や感想を言う心構え

７　その他　・１年生は、説明の後すぐ発表できるように、可能な範囲で事前のセッティングをお願いします。
・昼休みに、１年生は会場準備と発表準備をしておくこと。

「１年生追Ｑ　洋野町の産業を調べよう」参加計画

中野中学校　１年生

１　期　日　　令和２年１０月１３日(火)、１５日（木)、１６日（金）

２　場　所　　１３日　・株式会社北三陸ファクトリー（ひろの屋）
種市 22-131-2　0194-65-2408
１５日　・おおのキャンパス（産直・木工）
・北部産業株式会社　大野 70－2　0194-77-2361
１６日　・種市南漁業協同組合　種市 7-34-1　0194-75-3611
・たねいち産直ふれあい広場　種市 32-95-1　0194-65-3910

３　引　率　　村松・大槻

４　参加生徒　　１年１５名

５　日　程

１３日	９：３０	中野中発
	１０：００	(株)北三陸ファクトリー着
	１１：００	(株)北三陸ファクトリー発
	１１：３０	学校着
１５日	８：３０	中野中発
	９：００	おおの産直・おおの木工・おおの販売店
	１０：３０	北部産業
	１１：３０	北部産業発
	１２：１５	中野中着
１６日	９：３０	中野中発
	９：５０	種市南漁業協同組合着
	１０：３０	種市南漁業協同組合発
	１０：５０	たねいち産直ふれあい広場着
	１１：４０	たねいち産直ふれあい広場発
	１２：１５	中野中着

6　交通手段　　小子内スクールバス

7　服装・持ち物

□ジャージ　　□筆記用具　　□資料

8　その他

(1) 関係者の皆さんにさわやかな挨拶を心がけましょう。

(2) 講師の先生は、忙しいところ時間を割いて皆さんのために指導をしてくださいます。熱心に話を聞き、メモを取りましょう。

(3) 注意事項を守って安全に観察しましょう。

(4)質問等が事前にあればFAX等で先に連絡を入れておきましょう。

１１月１８日（水）のオンライン大会について

参加生徒：大粒来珠　高屋敷歩花　橋本隆人　浜久保朋和　日向美桜

持ち物：開催要項（案）、当日までのスケジュール（案）、当日と同じPC/ウェブカメラ/マイクなど、筆記用具

【生徒】各校発表要旨一覧、（３）の①・②の詳細、筆記用具、自分たちの発表資料等

日程

（１）１４：５０【PC室】　ルーム入室・スタンバイ・オーディオチェック（マイク音量・ビデオ映像）

（２）１５：００　自己紹介（学校名・学年・氏名など簡潔に）

（３）１５：１０　①「実践発表」について

・発表テーマ（予定）

・伝えたいこと・知りたいこと

②「学びの深め合い・交流」について

・交流を通して深め合いたいこと

・交流を通して学び合いたいことなど

③その他

・全員で確認しておきたいこと（発表ルール等）

・お互い共有しておきたいことなど

・テーマ→タイトル確認

・「発表の概要」の中で特に伝えたいと強く思う内容について具体的に伝える。また、同グループの他校の発表のタイトル・発表の概要を見て、知りたいと思う内容を伝える。

※自分たちの発表と比較してみてさらに知りたい・深めたいのは何か？

①について

本校と他校の発表タイトル・発表の概要をチェックし比較しておく。

②について

下の２．３．について自分たちなりの答え・考えをまとめておく。

（４）１５：４０　教育委員会・東京大学海洋教育センターの担当の方から（諸連絡など）

（５）１５：４５　ルーム退出

（グループルームは１６：００まで開設・利用可能）

１．話し合いのゴール

「海と自分のつながり」を考え、深め合う

２．深めるための２つの視点

ア　海はどのような役割を担っている？それらの役割は今どのような状況になっている？

イ　自分たちとはどのようなつながりがある？自分（たち）は何をする／できる？

３．話し合いで意識したいこと

①「つながり」を大切にする話し合い

海とのつながり・自分自身とのつながり・自分以外の人とのつながり・他地域や世界とのつながり

②自分としてできることとは何か・大人に働きかけることとは何か考える

・自分たちに何ができるか・何をするか考える

・子どもの自分たちではできないが、（海にとって）大切なことがある

→自分たち以外に働きかけたいことを考える

③地元のローカルから外に働きかけることを考える

気仙沼・洋野・只見で、一緒にできることはないか？

④地理的（環境的）・産業的なつながりを考える

例：洋野では「ウニ」を特産物にしている→輸送・運輸を活発にする

○　「ウニ」が有名になる・たくさん売れる（「産業的」利点）

×　CO_2の排出増加により環境問題で「ウニ」が育たなくなる（「地理的（環境的）」欠点）

→　「地産地消」も大切なのではないか

中野中学校の答え・考え

ア　海はどのような役割を担っている？それらの役割は今どのような状況になっている？

①海の役割とは何か（地域において・文化において・産業において・自分において・世界において　など）

②①の今の状況（具体的に：【根拠】〇〇が原因で、〇〇が△△になったため【結論】〇〇が△△になった）

イ　自分たちとはどのようなつながりがある？自分（たち）は何をする／できる？

①海とのつながりとは何か（自分自身とのつながり・自分以外の人とのつながり・他地域や世界とのつながり）

②自分たちは何をするか、できることは何か

③子どもの自分たちではできないが、自分たち以外に働きかけたいことは何か
（自分たちができなくても、「大切なこと」を自分たち以外に働きかけ実現可能にしたいことは何か）

④洋野町だけではなく「気仙沼・洋野・只見で、一緒にできること」はないか。

職場体験実施計画

中野中学校２学年

１　目的

さまざまな職場での体験学習を通して、これからの自分の生き方を考え、社会人、職業人として自立するための意識を高める機会とする。

また、将来の進路の実現に向かって努力することや学習することの大切さを理解するとともに、地域の社会人の方から働くことの意義を交流を通して学び、今後の学習に役立てる。

２　日時

令和２年１１月１２日（木）、１３日（金）　９：００～１５：００（予定）

３　対象生徒

洋野町立中野中学校　２学年　１５名

４　職場体験学習受け入れ事業所

洋野町内の事業所

５　学年指導教員と役割分担

髙柳　貞子　（全体統括・安全指導）

佐藤　風花　（生徒指導）

６　交通手段

徒歩により現地直接集合、または保護者の自家用車等

※　可能な限り徒歩で参加させるようにお願いします。

７　参加生徒の留意事項

（１）移動の際は交通ルールを遵守し、安全な歩行を心がけること。

（２）事業所では失礼のないよう、挨拶や礼儀・マナーに十分意識した行動をとる。

（３）仕事は一生懸命に取り組み、事業所に対して迷惑をかけるようなことが決してないようにすること。

（４）職場体験学習を充実したものにするため、準備をしっかり行うこと。また、体験後のレポートをしっかりとまとめること。

８　学習計画

１０月２週	訪問事業所の選定・交渉
１０月３週	生徒の訪問先希望調査・決定
１０月４週	職場体験学習オリエンテーション・事業所への依頼文書発送
１１月４日・５日	電話のかけ方の練習
１１月６日	事業所への電話（ご挨拶、確認、問い合わせなど）
１１月１２日・１３日	職場体験
事後	お礼状の作成、レポートの作成

９　体験先一覧

	事業所名	住所	TEL番号	担当者名	備考
１	陸中中野郵便局	中野４－１０３－１	６７－２１００		
２	なかのこども園	中野９－２９－２２	６７－３７３３		
３	おーくぼ（大久保商店）	中野６－２８	６７－３０３０		
４	(有)ナカノハマ自動車整備工場	中野６－４７－３	６７－２０１３		
５	(有)中野衛生社	中野９－４－１	６７－３６２３		
６	ミニストップ種市中野店	中野１３－１９－５	６７－２５８８		
７	種市病院（２人）	種市２３－２７－２	６５－２１２７	坂下さん	院長宛
８	洋野町役場　（１名）	種市２３－２７	６５－２１１１	総務課玉澤さん	町長宛
９	小規模多機能ホームカッケロ	中野５－６２	６８－５４２０	所長	

令和２年職場体験先希望調査

11月12日（木）・13日（金）の二日間にわたって職場体験学習を実施します。皆さんの職場体験学習を引き受けてくださった事業者は、下記のとおりです。

体験を希望する事業所を第３希望まで記入してください。

★職業体験先一覧

	事業所名	住所	TEL番号
1	陸中中野郵便局	中野4－103－1	67－2100
2	なかのこども園	中野9－29－22	67－3733
3	おーくぼ（大久保商店）	中野6－28	67－3030
4	(有)ナカノハマ自動車整備工場	中野6－47－3	67－2013
5	(有)中野衛生社	中野9－4－1	67－3623
6	ミニストップ種市中野店	中野 13-19-5	67－2588
7	種市病院	種市23－27－2	65－2127
8	洋野町役場　（1名）	種市23－27	65－2111
9	小規模多機能ホームカッケロ	中野5－62	68－5420

切 り 取 り 線

職場体験希望

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	体験先名	交通手段（徒歩・自家用車）
第一希望		
第二希望		
第三希望		

職業体験先一覧の中から選んで記入し、１０月２３日（金）朝までに提出。

＊留意点

- 体験時間は、９：００～１５：００頃までですが、事業所の都合によります。
- 洋野町役場と種市病院は、お家の方に送り迎えをお願いします。お家の方と相談してください。

職場体験実施計画

中野中学校２学年

１　目的

さまざまな職場での体験学習を通して、これからの自分の生き方を考え、社会人、職業人として自立するための意識を高める機会とする。

また、将来の進路の実現に向かって努力することや学習することの大切さを理解するとともに、地域の社会人の方から働くことの意義を交流を通して学び、今後の学習に役立てる。

２　日時

令和２年１１月１２日（木）、１３日（金）　９：００～１５：００（予定）

３　対象生徒

洋野町立中野中学校　２学年　１５名

４　職場体験学習受け入れ事業所

洋野町内の事業所

５　学年指導教員と役割分担

髙柳　貞子　（全体統括・安全指導）

佐藤　風花　（生徒指導）

６　交通手段

徒歩により現地直接集合、または保護者の自家用車等

※　可能な限り徒歩で参加させるようにお願いします。

７　参加生徒の留意事項

（１）移動の際は交通ルールを遵守し、安全な歩行を心がけること。

（２）事業所では失礼のないよう、挨拶や礼儀・マナーに十分意識した行動をとる。

（３）仕事は一生懸命に取り組み、事業所に対して迷惑をかけるようなことが決してないようにすること。

（４）職場体験学習を充実したものにするため、準備をしっかり行うこと。また、体験後のレポートをしっかりとまとめること。

８　学習計画

１０月２週	訪問事業所の選定・交渉
１０月３週	生徒の訪問先希望調査・決定
１０月４週	職場体験学習オリエンテーション・事業所への依頼文書発送
１１月４日・５日	電話のかけ方の練習
１１月６日	事業所への電話（ご挨拶、確認、問い合わせなど）
１１月１２日・１３日	職場体験
事後	お礼状の作成、レポートの作成

９　体験先一覧

	事業所名	住所	TEL番号
１	陸中中野郵便局	中野４－１０３－１	６７－２１００
２	なかのこども園	中野９－２９－２２	６７－３７３３
３	おーくぼ（大久保商店）	中野６－２８	６７－３０３０
４	(有)ナカノハマ自動車整備工場	中野６－４７－３	６７－２０１３
５	(有)中野衛生社	中野９－４－１	６７－３６２３
６	ミニストップ種市中野店	中野１３－１９－５	６７－２５８８
７	種市病院	種市２３－２７－２	６５－２１２７
８	洋野町役場　（１名）	種市２３－２７	６５－２１１１
９	小規模多機能ホームカッケロ	中野５－６２	６８－５４２０

職場体験希望

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	体験先名	交通手段（徒歩・自家用車）
第一希望		
第二希望		
第三希望		

職業体験先一覧の中から選んで記入し、１１月２３日（金）までに提出。

2学年全国海洋サミットに向けて

1 テーマ　洋野町の魅力をいつまでも
～魅力を守るために私たちができること・かんがえられること～

2 発表者　大粒来珠　高屋敷歩花　橋本隆人　浜久保朋和　日向美桜

3 発表内容

＊ 初めの言葉・自己紹介　【約40秒】

⑴ 洋野町の海と山の魅力“ものづくり・人づくり・町づくり”について　【朋和　2分】
① ひと・しごと創生総合戦略について
② 岩手木炭づくりについて
③ 特産品ウニづくりについて

⑵ 他地域との比較から見えた洋野町の課題　【歩花 美桜 隆人 4分】
① 食グループ「滝沢市“行徳養魚場イワナの養殖”との比較から
② 観光グループ「雫石町“軽トラ市”との比較から
③ 環境グループ「雫石町“バイオマスパワーしずくいし”との比較から

⑶ 洋野町を守るために私たちにできること・考えられること　【珠　3分】
①きれいな海をきれいなままに
・有家浜清掃や植林、山と海をきれいにするための活動
・ごみの減量化を考えた取組
②洋野町の活性化のために
・関係人口をふやすために
・洋野町の活気を取り戻す作戦「SF プロジェクト」
③磁焼け問題解決に向けて
・CO_2 を出しすぎない取組
・再生可能エネルギーについて「HIRONO BIOMASS CENTER」

＊終わりの言葉　【約 20 秒】

4 取組日程

月	日	曜	学習内容
1	29	金	説明　役割の確認
2	1	月	PP/原稿づくり
	2	火	↓
	3	水	↓
	4	木	↓
	5	金	PP・原稿完成
	8	月	発表練習
	9	火	発表聯数
	10	水	リハーサル
	11	木	全国サミット当日

【配布する資料　各自にUSBに貼り付け】
・全国サミット写真フォルダ
（行徳　バイオマス　観光協会　炭焼き　ひろの屋　役場講義）
・発表原稿（気仙沼）
PP【中野中+中2+4】発表用[修正版]3
各グループのワードの原稿

令和２年度　２学年海洋科宿泊研修実施要項

中野中学校　２学年

１　ねらい

・他地域（雫石）と洋野のそれぞれの特性を生かした自然、産業、環境、住、食などについて比較することで、洋野の魅力や課題点を発見し、課題解決の糸口を見つける機会とする。

・集団行動を通して、ルールと決まりを守り、協力し合いながら積極的に行動できる力を身につける。

２　日時　　令和２年７月２日（木）・３日（金）

３　参加者　　中野中学校２学年　男子６名　女子８名　計14名

４　引率者

校　長	佐々木英幸	統導長
教　諭	髙柳　貞子	全体計画
教　諭	佐藤　風花	生徒指導

５　研修場所・宿泊場所

〈研修場所・研修内容〉

しずくいし軽トラ市実行委員会～軽トラ市の企画　　雫石町の独自の取組

〒020－0527　岩手郡雫石町中町7－4

TEL　019－692－3321　FAX　019－692－1667

・地元ならではの特産物や加工品を扱う全国初の軽トラ市の開催までの経緯を知り、地域の活性化や魅力の発信方法、イベントの企画のアイディアを学び、地域おこしへのヒントを得る。

バイオマスパワーしずくいし

〒020－0505　岩手郡雫石町中黒沢川17-7

TEL019－688－4221　　FAX019－629－5086

・小岩井農場からの食品残渣や家畜糞尿、地域の食品会社からの廃棄物などを熱やエネルギー、肥料に変えて活用する「資源循環型社会」に取り組んでいるモデルケースを学び、洋野に生かせるヒントを学ぶ。

行徳（角掛）養魚場（岩魚養殖）

〒020－0601　滝沢市後485

TEL090－3965－2443　FAX019－622－4421

・地元の自然や環境、特産物をいかし岩魚のブランド化に成功した養魚場を見学することで、岩魚養殖にかける思いや工夫、「獲る漁業」から「育てる漁業」のこれからのあり方について学ぶ。

〈宿泊場所〉　独立行政法人　国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家

〒020－0601　滝沢市後292

TEL019－688－4221　　FAX019－688－5047

6 日程

1日目

学校集合	7:20
出発式	7:25～7:35(昇降口前　雨天時は卓球場)
学校発	7:40
バイオマスパワーしずくいし	11:00～12:00
昼食	12:30～13:30(小岩井農場まきば園)
休憩・散策	13:30～15:00
雫石観光協会	15:30～16:30
宿泊先着	17:20
到着式(オリエンテーション)	17:40
夕食	18:30～19:30
班長会議・入浴	20:00～21:00
一日のまとめ	21:30～22:00(しおり記入・荷物の整理)
就寝	22:00　(消灯　22:30)

2日目

起床・清掃	6:30～
朝のつどい	7:00～7:15
朝食	7:30～8:00
退所点検	8:45
退所式	9:00～9:10
宿泊先発	9:15
岩魚養殖見学	9:30～10:30
岩魚養殖発	10:40
盛岡自主研修	11:20～14:20
マリオス発	14:30
学校着	17:00
解団式	17:10～17:20
解散	17:30

7 交通手段　　貸し切りバス

8 持ち物・服装

<服　装>　制服(夏服)・運動着(半袖・短パン)

<持ち物>　身分証明書、しおり、筆記用具、上履き、デジカメ(班1台～学校で準備)、電卓、雨具(折りたたみ傘、カッパ)、着替え、洗面道具(歯磨きセット・歯磨き用コップ・洗顔フォーム)、入浴用具(バスタオル、タオル等、ただしボディソープとリンスインシャンプーは備え付け)、マスク
水分補給用のペットボトル(水・お茶・スポーツドリンク)、テレホンカード、保険証(自己管理)
腕時計(班で一人以上)、帽子、セカンドバッグ(しおり・筆記用具・財布・雨具を入れる大きさ)
二日目の自主研修の時の交通費・2日目の昼食費代(3,000円)・必要な人は常備薬

10 実施のための安全計画

(1) 交通ルールや公共の場でのマナーを守らせるとともに、バスの乗降時に十分注意させる。
(2) 研修場所や公共の場で、その場にふさわしく、落ち着いた言動をするよう指導する。
(3) 事前準備を綿密に立てるとともに、現地では学校と常に連絡がとれるように体制をととのえておく。

11 その他

・保険証について
　万一、病気や怪我などが発生したときのために、保険証の持参をお願いします。

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020. 9. 29

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「復興道路」学習シート～

＜参考資料：復興道路・復興支援道路情報サイト＞

平成 23 年3月 11 日に発生した有史以来の巨大地震が引き起こした東日本大震災は、直接の被災地である東北地方と一部関東のみならず日本中を巻き込み、さらに世界にも影響を与える未曾有の大災害となりました。

平成 23 年 11 月 21 日に第三次補正予算が成立し、三陸沿岸道路(三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫道路、八戸・久慈自動車道)が「復興道路」として、また、宮古盛岡横断道路(宮古～盛岡)、東北横断自動車道釜石秋田線(釜石～花巻)、東北中央自動車道(相馬～福島)、が「復興支援道路」として、新たに 224 kmが事業化されました。

1.「三陸沿岸道路」(復興道路)は、全長何kmですか？

2.「三陸沿岸道路」(復興道路)は、何県の何市から、何県の何市を結ぶ道路ですか？

3.「三陸沿岸道路」(復興道路)が開通することによって、どのような効果があった(ある)でしょうか？

【予想】

【資料から読み取れること】

【「IBC 岩手放送『復興への羅針盤･･･「整備の効果は？」復興担う三陸沿岸道路/岩手県』】

4.「三陸沿岸道路」(復興道路)が、高速道路や一般道とは、どんな点で違いがあるだろう？(見た目や設備等)

【予想】

【実際に通ってみて】

5.「三陸沿岸道路」(復興道路)を通ってみての感想

3年　番　氏名

H29.12.09時点

路線名	計画延長	供用中	事業中	うち H23補正新規
三陸沿岸道路	359km	188km	171km	134km
うち岩手県	213km	79km	134km	108km
宮古盛岡横断道路	66km	24km	42km	35km
東北横断自動車道釜石秋田線	80km	63km	17km	17km

復興道路・復興支援道路の総延長550km※

※国土交通省が中心となって整備を進めている道路

路線名	計画延長	供用中	事業中
三陸沿岸道路	359km	288km	71km
宮古盛岡横断道路	66km	37km	29km
東北横断自動車道釜石秋田線	80km	80km	0km
東北中央自動車道	45km	36km	9km
合　計	550km	441km	109km

R2.8.2時点

修学旅行事前学習その１
～三陸鉄道を学ぼう①～

資料1「三陸鉄道の移管区間について」

インタビュー

Vol.1 中村一郎さん

「光り輝く三陸を目指して」

東日本大震災津波から７年が過ぎました。

震災で大きな被害を受けた三陸鉄道ですが、がれきに覆われた道路やガソリン不足などで交通手段に困っていた地域の皆さんに少しでも早くお役に立ちたいとの思いの下、震災から５日後の３月16日には久慈・陸中野田間で列車運行を再開しました。その後、３月中には宮古・岩泉小本間を復旧し、以後は、復旧工事を進めながら、順次復旧させていきました。国や関係自治体、更には全国の皆さんの御支援もいただき、震災から３年後の平成26年４月には、南北リアス線の全線で運行再開を果たすことができました。その時の一番列車に私も同乗しましたが、沿線の皆さんが、各駅などに集まり、大漁旗や小旗を振ってお祝いしてくれる姿は、今でも忘れることができません。改めて、御支援、御協力をいただいた多くの皆様に御礼申し上げます。

三陸沿岸の被災地では、復興が着実に進んでいます。

自力での住宅再建や災害公営住宅など住環境の整備、防潮堤などの安全施設の整備、医療施設や教育施設の復旧、三陸沿岸道路を始めとした交通ネットワークや市街地の整備、大型商業施設の整備なども、その進捗が地域の皆さんにも実感できるまでに進んできています。

一方、平成26年度に全線で運行再開した三陸鉄道は、マスコミで取り上げていただいたことや前年の「あまちゃん」ブームの効果もあり、多くのお客様に乗っていただきました。その後、年々、ブームも落ち着きを見せ、沿線の人口の減少等もあり、利用者数が減少してきており、厳しい経営環境にあります。

そのような中、平成29年10月には、会社として11年ぶりに、２人目の女性運転士が誕生するという明るいニュースもありました。

彼女は、地元の高校卒業後、首都圏の鉄道会社で勤務しましたが、故郷に少しでも貢献したいとの思いで、三陸鉄道に入社。運転士を目指して様々な業務に励み、見事に国家試験にもパスしました。多くの皆さんから親しまれる運転士を目指し、日々、乗務に当たっています。

また、毎年、冬のシーズンに北リアス線を走るこたつ列車ですが、29年度は、お陰様で、満員御礼の状況となっています。

さらに、第１回鉄道むすめの人気投票コンテストでは、三陸鉄道の「久慈ありす」が、見事、優勝を勝ち取るなど、うれしいニュースもありました。

そのような中、震災で不通になっているJR山田線（宮古・釜石間）は、現在、復旧工事が進められ、平成 31 年 3 月には、JRから三陸鉄道に経営移管される予定となっています。

移管後は、これまで、北リアス線、南リアス線の2つに分かれていた路線が「リアス線」として一つにつながり、路線延長も 163km と、第3セクター鉄道としては、日本一長い路線となります。

多くの皆さんに愛され、御利用いただける鉄道となるよう、引き続き社員一丸となって頑張って参ります。

また、同年夏には、約 2 か月の期間で、三陸の各地域を会場とする三陸防災復興プロジェクト 2019 が開催されます。震災の教訓を後世に伝えるとともに、三陸地域の魅力を生かした取組を行い、交流人口の拡大や地域経済の活性化につながるよう、三鉄としても、連携しながらしっかり取り組んで参ります。

さらに、同年 9～10 月には、ラグビーワールドカップ 2019 の試合が釜石市でも開催され、鵜住居地区に、現在スタジアムの整備が進められており、3 月 14 日からは、大会を盛り上げるためのラッピング列車も運行しています。

このように、平成 31 年は、三陸鉄道にとっても、三陸地域にとっても大きな出来事が予定され、大きな飛躍を遂げる 1 年にしていかなければなりません。会社の使命としては、三陸沿岸を縦貫する鉄道として、沿岸の皆さんの足としての役割と、交流人口の拡大により地域の振興に貢献するという2つの役割があります。

今後とも、多くの皆さんに笑顔と希望を運べるよう、地域の皆さんの協力をいただきながら、取り組んで参ります。

平成 30 年 3 月
三陸鉄道株式会社
代表取締役社長　中村　一郎

※HP「三陸鉄道はいま、ひとつにつながるリアス線」より

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020．9．29

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「三陸鉄道」学習シート～

1．三陸鉄道は何駅から何駅ですか？右の資料を参考に書きましょう。

（　久慈　）駅　～　（　盛　）駅

2．三陸鉄道の駅は、全部で何駅あるでしょう？
右の資料を参考に書きましょう。

（　４１　）駅ある　※数を書く

3．三陸鉄道は、日本一長い第三セクター鉄道です。さて、三陸鉄道は全長何 km でしょう？下から一つ選び、○で囲みましょう。

※第三セクター…国・地方公共団体と民間が、合同で出資・経営する企業のこと。三鉄は「日本初」の第三セクター鉄道です！

・６３km、　・１６３km、　・２６３km

4．２０２０年5月１８日（月）に、三陸鉄道４１番目の駅が開業しました。さて、何という駅でしょう？

（　新田老　）駅

5．東日本大震災で不通になっていた JR 山田線は、平成３１年３月から三陸鉄道に経営移管されました。これにより、三陸鉄道は「北リアス線」と「南リアス線」が一本につながり『リアス線』となりました。経営移管されたのは、何駅から何駅の間ですか？資料１「三陸鉄道の移管区間について」を参考に書きましょう。

※移管＝管理・管轄の権限を渡すこと。

（　宮古　）駅　～　（　釜石　）駅

３年　　番　氏名

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020．9．29

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「三陸鉄道」学習シート～

1．三陸鉄道は何駅から何駅ですか？右の資料を参考に書きましょう。

（＿＿＿＿＿）駅　～　（＿＿＿＿＿）駅

2．三陸鉄道の駅は、全部で何駅あるでしょう？
右の資料を参考に書きましょう。

（　　）駅ある　※数を書く

3．三陸鉄道は、日本一長い第三セクター鉄道です。さて、三陸鉄道は全長何 km でしょう？下から一つ選び、○で囲みましょう。

※第三セクター…国・地方公共団体と民間が、合同で出資・経営する企業のこと。三鉄は「日本初」の第三セクター鉄道です！

・６３km、　・１６３km、　・２６３km

4．２０２０年5月１８日（月）に、三陸鉄道４１番目の駅が開業しました。さて、何という駅でしょう？

（　　）駅

5．東日本大震災で不通になっていた JR 山田線は、平成３１年３月から三陸鉄道に経営移管されました。これにより、三陸鉄道は「北リアス線」と「南リアス線」が一本につながり『リアス線』となりました。経営移管されたのは、何駅から何駅の間ですか？資料１「三陸鉄道の移管区間について」を参考に書きましょう。

※移管＝管理・管轄の権限を渡すこと。

（＿＿＿＿＿）駅　～　（＿＿＿＿＿）駅

３年　　番　氏名

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「鉄道・BRT・路線バス」学習シート～

後継バス、不通鉄道救うか　津波被害の大船渡線にＢＲＴ
本数や駅数増利便図る　震災で人口減利用低迷　2019/2/26 西日本新聞

災害で不通になった鉄道の復旧手段として、バス高速輸送システム（ＢＲＴ）が注目されている。線路敷地にバスを走らせ、運行を再開するＢＲＴ。復旧にかかる費用が鉄道より安く、維持費も少ない。２０１７年７月の九州豪雨で一部区間の不通が続くＪＲ日田彦山線でも、導入の可能性が取りざたされた。利便性や観光への効果は損なわれないのか。１１年３月の東日本大震災の津波で壊滅的な損害を受け、ＢＲＴで再開したＪＲ大船渡線（宮城、岩手）に乗車し、検証した。

１７日の日曜日。気仙沼駅（宮城県気仙沼市）。午前１１時前、レールを撤去して舗装した専用道に、ＢＲＴのバスが入線した。路線バスと同じ約８０人乗りのワンマン車両だ。発車後、すぐにトンネルを通過。粗いコンクリート壁が窓に迫り、道路との違いを実感する。

２キロ走り、道路に出た。大船渡線のＢＲＴは４４キロ中、２７キロは一般道を走行する。駅は普通のバス停で、乗降客がなければ通過。津波の被災や、住宅の高台移転でできた広大な空き地が車窓に広がる。

再び専用道に入った。最高時速は６０キロだが、交差点や他の車がなく、走りは道路よりスムーズだ。終着の盛（さかり）駅（岩手県大船渡市）は、三陸鉄道とホームを共用している。乗客は高齢者が多かった。

１月下旬の平日夕方にも、陸前高田駅（同県陸前高田市）から気仙沼駅まで乗車。乗客は２０人で、高校生が大半を占めた。

■　　■

気仙沼－盛は津波で線路の３５％が流失した。ＪＲ東日本は１３年３月にＢＲＴで仮復旧した上で、将来にわたってＢＲＴで運行することを提案。鉄道で復旧する場合は４００億円かかると試算し、うち２７０億円の公費負担を求めた。鉄道での復旧を要望していた気仙沼、陸前高田、大船渡の３市は１５年１２月、負担は困難と判断し、鉄道をあきらめＢＲＴでの運行継続を受け入れた。

鉄道と比べ、本数や駅の多さが利点だ。現在の本数は最多区間で上下計５３本。震災前の鉄道より３４本増えた。駅は８増の２０カ所で、学校や病院の近くにも設置。住民や観光客の利便を図っている。３月にはさらに２増。維持費も安く、ＪＲ東日本によると、鉄道時代の６割という。

一般道の渋滞による遅れはしばしば発生するが、同社によると９割が５分以内で、鉄道の定時性を引き継いでいる。気仙沼市の高校２年、小野寺孝樹さん（１７）は「鉄道じゃなくてもＢＲＴで十分だ」と話す。

課題はＢＲＴ化が利用者増につながっていない点だ。１７年度の陸前高田駅の１日平均乗降客数は７５人で、０９年度の３分の１に激減した。震災による人口流出が主因だが、沿線自治体には、速達性や乗り心地の問題で、東北新幹線への乗り継ぎや観光利用には向かないとの声が寄せられている。

「もともと過疎地で、震災がなくても将来の鉄道維持は厳しかった。街の復興にも巨額の費用が必要で、ＢＲＴはやむを得ない選択だった」。大船渡市のタクシー運転手、田中英治さん（６８）は多くの住民の気持ちを代弁した。

【ワードＢＯＸ】ＢＲＴ（バス高速輸送システム）

連節バスや専用道などを活用したバスのシステム。鉄道よりコストが安く、路線バスと比べて大量輸送や定時性に優れる。全国で１８カ所運行。ＪＲ東日本は、東日本大震災で被災した大船渡線と気仙沼線に導入した。ＪＲ九州の青柳俊彦社長は昨年８月、日田彦山線を鉄道以外に転換する可能性に言及し、ＢＲＴ導入を示唆したとも受け取られた。都市部の渋滞緩和の手段としても注目され、福岡市と西日本鉄道は、市中心部で試行運行。北九州市でも今年夏ごろ運行が始まる。

＝2019/02/26 付 西日本新聞朝刊＝

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020．9．29

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「鉄道・BRT・路線バス」学習シート～

1．「2019/02/26 付 西日本新聞朝刊」の記事を読んで、考えよう。

（1）どのような内容が書かれていますか。簡単に説明してみましょう。

（2）震災によって、「地域の人々の足が変化」しました。「震災からの復興」という面や、「効率と公正」という視点から、「地域の人々の足が変化」したことについて、どう感じますか？自分の考えを書きましょう。

2．「IBC 岩手放送『復興への羅針盤･･･岐路に立つ被災地のバス路線～地域の足をどう守る？/岩手』を見て考えよう。

（1）どのような内容の動画だったか、簡単に説明してみましょう。

（2）東日本大震災からの復興に向けて、また、過疎化が進む地域に住む人々の足をどう守っていったらいいでしょうか？自分の考えを書きましょう。

3年　　番　氏名

「IBC岩手放送『復興への羅針盤･･･岐路に立つ被災地のバス路線～地域の足をどう守る？/岩手』

東日本大震災の被害を受けた岩手県沿岸の被災地では、復興が進む一方で暮らしの足を支えるバス路線の存続が厳しい局面に立たされています。復興事業として行われてきたバス路線への国の補助事業が2年後に終了する見通しとなり、その後の公共交通の確保が大きな課題になっています。

釜石市の小川町です。7日、地区の集会所でバス路線の存続について話し合う市とバス会社と住民の三者による懇談会が開かれました。去年10月、バス会社から釜石市に対して「利用者の減少」を理由に小川町へのバスの運行を「今年度いっぱいで廃止したい」と申し出がありました。これに対して住民からは強い反対の声が上がりました。

(住民)「車の免許証の返納もある。そういう方を考えてください。いつかはあなたたちも車を持てなくなります。そのときはバスもない、買い物にも行けない」「私は後期高齢者です。本当に困っています。悩んでいます！」

国は東日本大震災の復興事業として、仮設住宅の被災者の生活の足を確保するため仮設住宅を通る路線に限り、被災自治体に対して路線バス運行への補助事業を実施しました。その額、年間3千5百万円。釜石市は国の補助金を頼りにバス会社に運行を委託してきました。

(釜石市生活安全課･和賀利典課長)「仮設住宅が内陸部郊外の方にあったのでバスを多くの方が使っていただいていたので多くの利用があった収入があったということだと思う」

ところが、「住まい」の復興が進み仮設住宅の住民が減ったため国の補助事業は来年度を最後に終了する見通しが示されました。運賃収入だけで路線を維持することは困難で、バス会社は路線の廃止を決断せざるを得ませんでした。

(利用者)「廃止は困るね…」「私は車運転しないし、バスだけ。昔から。小川行きというバスがあったのでここに移住した」

震災後、津波が来ない小川町に家を再建した被災者も少なくありません。バス路線が廃止されると、震災後に移り住んだ人たちの暮らしにも影響が及びます。バスの運転士の成り手不足や高齢化の問題も抱える中で、バス会社は収入が見込める幹線沿いの路線に経営資源を集中したい考えで、去年6月、利用客が少ない釜石市の4つの路線を廃止しました。

(岩手県交通釜石営業所･那波精悦所長)「利用者が少ない路線は他の交通手段に変えていただいて、私たちは基幹路線と呼ばれる部分を持続して。そっちが無くなってしまうとそれこそ大変になってしまうので、基幹路線を大事にしていきたい」

バスが廃止になった4つの路線では、釜石市が市内のタクシー会社などに委託して9人乗りの車両を運行しています。4つの路線合わせて年間およそ2万5千人の利用を見込んでいますが、運行にかかる費用6千万円に対して運賃収入は500万円あまりで、差額のおよそ5千5百万円は市の負担です。市は国の補助事業の終了も見据え、負担を軽減するため「土日や祝日の運休と経費の削減を検討する」としていますが、軽減策の実施は利用者にさらなる不便を強いることになります。

(利用者)「朝一番は(バスが)ないと。病院に行くにも何をするにも。(車がある)息子やお父さんはいるけど、普段は仕事をしている。(バスがなければ)土日も何もできない」

公共交通の存続のために市は市民にも協力を呼びかけています。

(釜石市生活安全課･和賀利典課長)「今バスを使っていない、鉄道を使っていない方についても、休みの時に利用してみようかとか、普段使いできょうはバスでまちに出ようかというような形で使ってもらうことが大事だと思います」

震災によってまちから若い世代が流出して高齢化に拍車がかかる中、公共交通の必要性が高まっているにも関わらず、バス路線の維持は年々困難になっています。将来の公共交通の在り方をどうすべきか？地域に暮らす人すべてに関わる問題ととらえる必要があります。

令和２年９月２４日

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災と復興から生き方を学ぶ「釜石～いのちをつなぐ未来館～」～

１．ねらい

（１）東日本大震災を経験した人々が、防災・減災、自助・公助・共助等、災害に対しどのように向き合っているかを学ぶと同時に、その想いを通して、これからの自分の生き方について考える。

（２）いつ、どこで、誰もが遭遇するか分からない自然災害に対して、どのよう備えをし、自分が被災者となったとき、また、被災者を支える立場となったときに、どのような行動ができるかを、考える。

２．期日　　令和２年９月２８日(月)　１３：４０～１４：４０

３．内容　　東日本大震災を経験した「いのちをつなぐ未来館」のスタッフの方に、当時の体験談等をオンラインでお話ししていただく。

４．講師　　「いのちをつなぐ未来館」のスタッフの方
※「いのちをつなぐ未来館」･･･震災の出来事や教訓とすべきことを伝えるとともに、災害から未来の命を守るための防災学習を推進する施設。

４．会場　　洋野町立中野中学校３年教室

５．日程　　【９月２８日(月)】
・１１：４５～１２：３５　事前学習
・１２：３５～１３：０５　給食
・１３：０５～１３：３５　休憩
・１３：４０～１４：４０　オンライン語り部
・１４：４０～１４：５５　休憩
・１４：５５～１５：３０　振り返り

６．準備するもの　・総合ファイル、・筆記用具、

７．服装　　中野中指定ジャージ・半袖・ハーフパンツ

８．諸連絡

（１）ねらいを意識し、自分のことと置き換えて話を聞く。

（２）自分の生き方について、より深い学びの時間にするために、疑問に思ったこと、聞いてみたいこと、分かったこと等を一つでも多く見つける。

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020．9．28

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「釜石～いのちをつなぐ未来館～」学習シート～

1．東日本大震災が起こったのは、何年何月何時だったでしょう？

2．東日本大震災で釜石市を襲った津波の高さは、およそ何mだったと思いますか？

3．東日本大震災で津波が襲ってきたとき、どのような思いで人々は避難をしたのだろう？

4．被災者となり今を生きている方々には、どのような苦悩がある(あった)だろう？

5．「忘れない３．11『あなたも逃げて』」
（1）災害から守ることができる命を失ってしまわないために、大切なことは何だと思いますか？

（2）「忘れない３．11『あなたも逃げて』」を見て、感じたことを書きましょう。

6．「いのちをつなぐ未来館～オンライン語り部」を聞いて、感じたこと・学んだこと等を書きましょう。

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

令和２年度　洋野町立中野中学校第３学年　海洋科校外学習

１．ねらい

（１）平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことを通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活と社会を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

普段の学校生活とは異なる環境の中で、自然や文化、人々の生き方にふれ、、これからの自分の生き方や、よりよい社会を築くために大切なことは何かを考えよう。

（２）教育課程特例校指定「海洋科」実施校として、修学旅行を通して「海洋教育」と「海洋科」の目ざす人材の育成を図ると同時に、本校の総合的な学習の時間３学年到達目標である「洋野町の未来を創造し発信する」力を育む。

教育課程特例校指定「海洋科」実施校として、海洋科学習を通して「海洋教育」と「海洋科」のねらいを目ざすと同時に、学習を通して「洋野町の未来を創造し発信しよう」（総合的な学習の時間３学年到達目標）

※「海洋教育」（海洋教育パイオニアスクールプログラム）

海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指しています。 この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進します。

※「海洋科」（洋野町教育委員会）

洋野町の 地域、環境、産業、文化に関心をもち、自分と地域(他地域)とのつながりやかかわりに目を向けながら進むべき道筋を見出し、構想を立ててその実現に挑む力を生徒に身に付けさせる。

（３）震災を経験した人々が、防災・減災、自助・公助・共助等、災害に対しどのように向き合っているかを学ぶと同時に、その想いや生き方を通して、生きる力を育む。

震災を経験した人々が、防災・減災、自助・公助・共助等、災害に対しどのように向き合っているかを学ぶと同時に、その想いを通して、これからの自分の生き方について考えよう。

２．期日　　令和２年１０月１日（木）

３．交通手段　貸し切り大型バス

４．引率　・引率長：佐々木英幸　・谷藤貴彦　・平賀純

５．日程

７：１０　登校
７：１５　出発集会
７：３０　出発
１０：００　うのすまいトモス（いのちをつなぐ未来館）着　※トイレ休憩・自由散策
１０：３０　うのすまいトモス（いのちをつなぐ未来館）発
１１：３０　陸前高田着（昼食・休憩）※昼食：食彩工房海浜館食堂
１２：３０　高田松原を守る会ボランティア&東日本大震災津波伝承館等見学　※自由散策
１４：３０　陸前高田発
１６：００　道の駅たろう着（・たろう観光ホテル(震災遺構)・防潮堤・三王岩着）※トイレ休憩・自由散策
１６：３０　道の駅たろう発
１８：００　中野中学校着

※自由散策時は、お土産・軽食等等の購入・飲食可

６．研修先

（１）いのちをつなぐ未来館（釜石市鵜住居町４丁目901　TEL:0193-27-5666　FAX:0193-27-5667）
（２）食彩工房海浜館食堂（陸前高田市米崎町字松峰93-1　℡0192-53-1567）
（３）高田松原再生ボランティア（NPO法人「高田松原を守る会」TEL:0192-22-7922　FAX:0192-22-7993）
※１：代表：鈴木善久(※元中野中教諭)
※２：草刈り/草取り/復興工事状況講話/周辺の震災遺構見学
※３：東日本大震災の津波で流失した高田松原の再生ボランティアを通して、地域社会の再生・振興活動を学び、身近な地域の振興活動と自然災害に強いまちづくりに関われることはないか考える。
※４：中野中ジャージ（長袖長ズボン）・長靴・帽子・軍手を着用
（４）東日本大震災津波伝承館／道の駅高田松原（奇跡の一本松・旧気仙中等）
（５）道の駅たろう（・たろう観光ホテル・防潮堤・三王岩）

7．服装・持ち物

（1）服装：中野中指定ジャージ・半袖・ハーフパンツ

（2）持ち物：スクールザックに入れる

①総合ファイル

②筆記用具

③飲み物

④帽子　※高田松原再生ボランティア

⑤軍手　※高田松原再生ボランティア

⑥長靴（袋に入れる）　※高田松原再生ボランティア

⑦汗拭きタオル　※高田松原再生ボランティア

⑧常備薬（車酔い止め等）

⑨（可能な人は）腕時計

⑩雨合羽

⑪おやつ（５００円以内）＋ゴミ袋

⑫おこづかい３，０００円

⑬保険証

8．予算　１万～１万５千円　※海洋科予算から支出予定

9．新型コロナウイルス感染症対策

（1）常時マスク着用（体験活動時等以外）　※

（2）携帯用消毒液の常時携帯　※体温計・消毒液を購入・配布

（3）施設内等での感染症対策…３密回避、不用意に触れない、等

（4）大型バスの貸し切り

（5）「３密」等を避ける注意喚起

（6）２週間前からの当日までの健康・行動観察…同居される方々を含む

（7）教育委員会の修学旅行実施基準の遵守

（8）その他

１０．新型コロナウイルス感染拡大に係る修学旅行実施可否の判断について

※下記の点に一つでも該当するものがある場合は、修学旅行を中止する。

ア：本校及び学区内で、感染者が確認された場合

イ：洋野町内で、感染経路不明者が確認された場合

ウ：活動及び宿泊地域で、感染経路不明者が確認された場合

オ：緊急事態宣言が発令され、外出自粛等を要請された場合

カ：本校関係者において、出発前２週間に以下の事項に該当する場合

・平熱を越える発熱が続く
・咳や喉の痛みなど風邪の症状が続く
・だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がある
・新型コロナウイルス感染症陽性とされた人との濃厚接触者
・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方が発生（医師又は保健所が PCR 検査を必要と判断した場合等）
・政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触

⇒旅行中に、上記ア～カのうち一つでも該当する事案が生じた場合は、旅行を中断し、保健所・医療機関の指示を仰ぐ。事案が生じた後の行程は中止する。

キ：その他、中止するに相応する事態が生じた場合

１０．諸連絡

①安全に最大限の注意を払い、軽率な行動はせず、指定された場所以外には絶対に行かない。
②地震・津波等の災害時は速やか自分の命を守る行動をする。
③班行動を基本とし、個人行動は絶対にしない。
④マスク着用、社会的距離の確保等、新型コロナウイルス感染拡大防止に努める。また、熱中症を防ぐため十分に水分補給をする。
⑤挨拶・集団行動等、中野中生としての自覚を意識した行動をとる。
⑥事前に体調を整え、万全の体調で学習できるよう努める。
⑦ちょっとしたことでも、何か異変があればすぐに先生に報告する。
⑧ねらいを意識し、身近な地域の環境保全と産業の活性化に、どのように自分たちが関わり、どのような貢献ができるかを考え、一つでも多くの発見をしてくる。
⑨各自、貴重品を管理する。

１１．学級・係活動

（１）学級執行部

①学習目標(スローガン)、
②整列・点呼、
③全体指導、
④おやつ・お小遣い金額の提案、
④バスレク、
⑤集会司会進行

（２）班長

①整列、
②点呼、
③班行動牽引

（３）係活動　※係からのお知らせ・決まり・呼びかけや、当日の活動について

①庶務係	②生活係	③学習係	④給食係
・お小遣いの使い道等 ・健康観察 ・配布物等の配布	・生活･行動について ・バス乗車注意点 ・服装・持ち物について	・研修先での心構え ・研修先での行動の在り方 ・感染症対策	・おやつ ・昼食時 ・自由散策中の飲食等 ・ゴミ関係

（４）総合教科リーダー

①集会あいさつ（教科リーダーから)、
②研修先での感想発表、
③しおり作成

１２．集会次第・整列隊形　●＝班長　○＝班員

【出発集会】【到着集会】

進行：学級執行部

１．あいさつ

２．健康観察

３．総合学習教科リーダーから

４．連絡

５．あいさつ

【集会・集合隊形】

１班～４班

●～●

○～○

○～○

○～○

○～○

【移動隊形】

１班・２班

● ●

○ ○

○ ○

○ ○

○ ○

３班・４班

● ●

○ ○

○ ○

○ ○

○ ○

１４．その他

・災害時の行動について事前学習を行い、命を守る行動ができるようにする。

・道の駅高田松原追悼施設で、献花・黙祷をします。

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020．9．29

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「陸前高田」学習シート１～

１．高田松原は、東日本大震災前には約何本の松が植えられていたでしょう？

２．高田松原が元の姿を取り戻すには、何年以上の年月が必要か、予想してみよう。

３．「IBC 岩手放送『復興への羅針盤･･･「高田松原が甦るその日まで」再生に向けて植樹会/陸前高田市』を見て考えよう。

（１）「IBC 岩手放送『復興への羅針盤･･･「高田松原が甦るその日まで」再生に向けて植樹会/陸前高田市』を見ての感想を書きましょう。

（２）10 月１日に「高田松原再生ボランティア」に参加してきます。私たちは、どのような気持ちを持ってボランティアに参加したらいいのでしょうか。自分の考えを書きましょう。

３年　　番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020．9．30

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「陸前高田」学習シート２～

1．「避難場所」と「避難所」の違いとは何でしょう？

2．自分の家から一番近い「避難場所」と「避難所」はどこですか？

3．あなたが知っている「避難場所」や「避難所」は、安全な場所にありますか？また、安全な建物ですか？その理由も書きましょう。

4．次のアイウエのうち、中野中学校に当てはまるのはどれでしょう？

ア：中野中学校は、「避難場所」にも「避難所」にも指定されていない。

イ：中野中学校は、「避難場所」ではあるが、「避難所」ではない。

ウ：中野中学校は、「避難場所」ではないが、「避難所」になっている。

エ：中野中学校は、「避難場所」と「避難所」の両方に指定されている。

5．中野中学校区で、災害危険区域に指定されている場所はどこでしょうか？

6．IBC 岩手放送『復興への羅針盤～陸前高田の語り部…ここで起きた悲劇をより多くの人に伝える』(2013.8.28)を見て、感じたことを書きましょう。

３年　　番　氏名

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020．9．30

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「陸前高田」学習シート３～

1．NHK「津波の記憶 伝えたい 米沢商会ビル～東日本大震災から８年」を見ての感想を書きましょう。

※陸前高田市内に入ったら「米沢商会ビル」を見つけてほしいです。

2．IBC 岩手放送『復興への羅針盤～かさ上げで造成 節目の「まちびらき」/陸前高田市』(2018.10.3)を見ての感想を書きましょう。

※震災前とかさ上げ後の、地面の高さの違いを実際に見てこよう。

３年　　番　氏名

令和２年10月９日

令和２年度洋野町立中野中学校３学年海洋科校外学習

洋野町立中野中学校第３学年

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の四：震災と復興から生き方を学ぶ「洋野町の慰霊碑を巡る旅」～

１．ねらい

（１）洋野町内の津波慰霊碑を巡り、身近な地域の災害の歴史と先人の教えを知ることを通して、過去と未来をつなぎ、洋野町のより良い未来を創造する。

（２）洋野町種市の中心街を散策し、未来のまちづくりを創造する。

２．期日　　令和２年１０月２１日(水)

３．内容　　（１）津波慰霊碑を巡る
　　（２）洋野町種市の中心街を散策

４．参加生徒　　洋野町立中野中学校第３学年１９名

５．日程　※３学年は給食なし

８：４０　出発集会
８：４５　学校発
８：５５～　９：２５　小子内：碑徳頌(明治２９年昭和８年三陸地震津波)
津波慰霊碑(昭和８年三陸地震津波)
防潮堤・柳田国男清光館跡周辺散策
９：２５～　９：３０　バス移動
９：３０～１０：２０　八木：防潮堤近くの慰霊碑前下車～散策～防潮堤近くの慰霊碑前集合
（共同墓地慰霊碑、避難路を上る、防潮堤に上る、水路・海岸周辺）
１０：２０～１０：２５　バス移動
１０：２５～１０：４０　宿戸：大浜津波慰霊碑（昭和８年三陸地震）周辺散策
１０：４０～１０：４５　バス移動
１０：４５～１０：５５　宿戸：共同墓地慰霊碑
１０：５５～１１：１５　バス移動
１１：１５～１１：３５　川尻：昭和８年三陸地震津波慰霊碑・川尻水門周辺散策
１１：３５～１１：４５　バス移動
１１：４５～１４：２０　「特別養護老人ホーム希望」前に到着・班別自由散策

＜班別自由散策ミッション＞

※学校のカメラを班に１台渡します。ミッションや班行動の様子を自分たちでカメラに収めます。

・ミッション１：班ごとに、近くの飲食店で昼食をいただく

・ミッション２：班毎に指定された場所で写真撮影をする

その１：ダイちゃんと写真を撮る。

その２：ウニークで津波到達地点を記した場所と写真を撮る。

その３：「しんかい６５００」の遊具と写真を撮る。

その４：~~南部ダイバーのヘルメット型公衆トイレと写真を撮る~~

うなばら荘跡地公園の映える場所で写真を撮る。

１４：２０「窓岩」集合～記念撮影～種市海浜公園駐車場へ移動～１４：３０

１４：３０～１４：５０　バス移動

１４：５０～１４：５５　学校着・到着集会

１４：５５～１５：１０　休憩

１５：１０～１５：３０　振り返り　以後文化祭活動

6．服装　中野中指定ジャージ、半袖・ハーフパンツ、防寒着

7．持ち物　※ナップサック等のカバン可

①帽子、②水筒又はスクイズボトルに水かお茶、③筆記用具、④簡易ファイル、⑤学習プリント、⑥汗拭きタオル、⑦ハンカチちり紙、⑧防寒着、⑨(可能な人は)腕時計、

※必要な人は…⑩日焼け止め・⑪虫除け剤・⑫車酔い止め、⑬(ある人は)熊よけ鈴、

⑭財布(※飲み物代・昼食費を入れる)

※飲み物代・昼食費：一人２，０００円を学年集金(予備費)から支出

⑮感染症防止グッズ 10.1

8．引率　　谷藤貴彦　平賀純

9．移動手段　小子内スクールバス

１０．その他

（１）安全に最大限の注意を払い、軽率な行動はせず、指定された場所以外には絶対に行かない。

（２）地震等の災害時は速やかに避難場所に避難し点呼する。災害時の緊急避難場所は、洋野町民文化会館(セシリアホール)またはオーシャンビュースタジアムとする。

（３）班行動を基本とし、個人行動は絶対にしない。

（４）マスク着用、社会的距離の確保等、新型コロナウイルス感染拡大防止に努める。また、熱中症等を防ぐための水分補給や、寒さに対応できるよう防寒対策をする。

（5）身近な地域の環境保全と産業の活性化に自分たちが関わり、貢献できることはないか考えながら散策し、一つでも多くの発見をしてくる。
（6）挨拶・集団行動等、中野中生としての自覚を意識した行動をとる。
（7）事前に体調を整え、万全の体調で学習できるよう努める。
（8）ちょっとしたことでも、何か異変があればすぐに先生や近くの大人、交番に報告する。
（9）飲み物代・昼食費2,000円で、昼食の他、飲み物や食べ物を購入し、飲食してよいこととします。新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、節度を持って、買い物や食事等を楽しんでください。

令和２年８月７日

３学年海洋科校外学習計画について

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の二：高家漁港から学ぼう③～

洋野町立中野中学校３学年

１．ねらい

（１）地元漁協の方々の話や体験活動を通して、高家漁港で行われている漁業の様子や、高家漁港周辺の海の様子について学ぶ。

（２）身近な地域の自然環境や産業に直に触れ、郷土への関心と愛情を深める。

（３）環境保全と産業の活性化のために、自分たち貢献できることはないか考えるきっかけとする。

２．期日　　令和２年８月19日（水）　※小雨決行

３．内容　　（１）高家漁港の漁場見学･･･中野産海鞘（ホヤ）等の素晴らしさを知る

（２）漁業・釣り体験

※当日の天気等で、内容が変更となる場合があります。詳細は後日お知らせします。

４．参加生徒　中野中学校３学年

５．移動手段　　スクールバス

６．日程　８：４５　出発集会（昇降口前）

８：５０　学校発

９：０５　高家漁港着・体験学習

１１：３０　高家漁港発

１１：４５　学校着・到着集会（昇降口前）

１１：５０～１２：３５　着替え・感想記入等

※高家漁港の柾谷さんからご指導をいただきます。

【出発集会】【到着集会】
進行：学級執行部
１．あいさつ
２．健康観察
３．総合学習教科リーダーから
４．連絡
５．あいさつ

７．引率　　平賀　純　　谷藤　貴彦

８．持ち物　　①帽子、②水筒又はスクイズボトルに水かお茶、③筆記用具、④総合ファイル、⑤学習プリント、⑥汗拭きタオル、⑦ハンカチちり紙、⑨(天気によって)防寒着、⑩(可能な人は)腕時計

※必要な人は…⑪日焼け止め・⑫虫除け剤・⑬車酔い止め、⑭(ある人は)熊よけ鈴、

９．服装　　中野中学校指定ジャージ・半袖・ハーフパンツ

10．諸連絡

（１）安全に最大限の注意を払い、軽率な行動はせず、指定された場所以外には絶対に行かない。

（２）地震等の災害時は速やかにスクールバスに乗車・点呼をし、避難する。

（３）班行動を基本とし、個人行動は絶対にしない。

（４）マスク着用、社会的距離の確保等、新型コロナウイルス感染拡大防止に努める。また、熱中症を防ぐため十分に水分補給をする。

（５）身近な地域の環境保全と産業の活性化に自分たちが関わり、貢献できることはないか考えながら散策し、一つでも多くの発見をしてくる。

（６）挨拶・集団行動等、中野中生としての自覚を意識した行動をとる。

（７）事前に体調を整え、万全の体調で学習できるよう努める。

（８）ちょっとしたことでも、何か異変があればすぐに先生に報告する。

令和２年１０月５日

３学年海洋科校外学習計画について

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の二：有家川から学ぼう～

洋野町立中野中学校３学年

１．ねらい

（１）有家川で行われている「イワナ」や「ヤマメ」の稚魚放流に関わることで、身近な地域の特色を肌で感じる。

（２）身近な地域の自然環境や産業に直に触れ、郷土への関心と愛情を深める。

（３）環境保全と産業の活性化のために、自分たち貢献できることはないか考えるきっかけとする。

２．期日　　令和２年１０月６日（火）　※雨天順延

３．内容　　（１）有家川で「ヤマメ」「イワナ」の稚魚放流の手伝い
　　（２）有家川の自然観察

４．参加生徒　中野中学校３学年

５．移動手段　　徒歩

６．日程　　10：45　出発集会（昇降口前）
　　10：50　学校発
　　11：00　きのこの駅着・稚魚放流
　　12：15　きのこの駅発
　　12：25　学校着・到着集会（昇降口前）
　　12：25～12：35　「振り返り」記入（以後６時間授業普通時程）

【出発集会】【到着集会】
進行：学級執行部
１．あいさつ
２．健康観察
３．総合学習教科リーダーから
４．連絡
５．あいさつ

７．引率　　平賀　純　　谷藤　貴彦

８．持ち物　　①帽子、②水筒又はスクイズボトルに水かお茶、③汗拭きタオル、④ハンカチちり紙、⑤(天気によって)防寒着、⑥長靴、
　　※必要な人は…⑦日焼け止め・⑧虫除け剤・⑨車酔い止め、⑩(ある人は)熊よけ鈴、
　　⑪(手が魚臭くなりたくない人は)ゴム手袋　　※ナップサック可

９．服装　　中野中学校指定ジャージ・半袖・ハーフパンツ

10．諸連絡

（１）安全に最大限の注意を払い、軽率な行動はせず、指定された場所以外には絶対に行かない。

（２）地震等の災害時は速やか避難する。

（３）班行動を基本とし、個人行動は絶対にしない。

（４）マスク着用、社会的距離の確保等、新型コロナウイルス感染拡大防止に努める。また、熱中症を防ぐため十分に水分補給をする。

（５）身近な地域の環境保全と産業の活性化に自分たちが関わり、貢献できることはないか考えながら散策し、一つでも多くの発見をしてくる。

（６）挨拶・集団行動等、中野中生としての自覚を意識した行動をとる。

（７）事前に体調を整え、万全の体調で学習できるよう努める。

（８）ちょっとしたことでも、何か異変があればすぐに先生に報告する。

令和２年６月１６日

３学年海洋科校外学習計画について

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の二：高家漁港から学ぼう②～

洋野町立中野中学校３学年

１．ねらい

（１）高家漁港で行われている漁業施設や、高家川河口付近に見られる地形等の自然を実際に見て、身近な地域の特色を肌で感じる。

（２）身近な地域の自然環境や産業に直に触れ、郷土への関心と愛情を深める。

（３）環境保全と産業の活性化のために、自分たち貢献できることはないか考えるきっかけとする。

２．期日　　令和２年６月１９日（金）　※雨天順延

３．内容　　（１）高家漁港・みちのく潮風トレイル施設見学

（２）高家川河口付近の自然観察

４．参加生徒　中野中学校３学年

５．移動手段　　スクールバス

６．日程　　13：25　出発集会（昇降口前）

13：30　学校発

13：45　高家漁港着⇒諸注意⇒散策（メモを取りながら）

14：10　集合・点呼・高家漁港発

14：25　学校着・到着集会（昇降口前）

14：30　教室移動～以後５時間授業普通時程

【出発集会】【到着集会】

進行：学級執行部

１．あいさつ

２．健康観察

３．総合学習教科リーダーから

４．連絡

５．あいさつ

７．引率　　平賀　純　　谷藤　貴彦

８．持ち物　　①帽子、②水筒又はスクイズボトルに水かお茶、③筆記用具、④総合ファイル、⑤学習プリント、⑥汗拭きタオル、⑦ハンカチちり紙、⑧(天気によって)防寒着、

※必要な人は…⑦日焼け止め・⑧虫除け剤・⑨車酔い止め、⑩(ある人は)熊よけ鈴、⑪(可能な人は)腕時計

９．服装　　中野中学校指定ジャージ・半袖・ハーフパンツ

10．諸連絡

（１）安全に最大限の注意を払い、軽率な行動はせず、指定された場所以外には絶対に行かない。

（２）地震等の災害時は速やかにスクールバスに乗車・点呼をし、避難する。

（３）班行動を基本とし、個人行動は絶対にしない。

（４）マスク着用、社会的距離の確保等、新型コロナウイルス感染拡大防止に努める。また、熱中症を防ぐため十分に水分補給をする。

（５）身近な地域の環境保全と産業の活性化に自分たちが関わり、貢献できることはないか考えながら散策し、一つでも多くの発見をしてくる。

（６）挨拶・集団行動等、中野中生としての自覚を意識した行動をとる。

（７）事前に体調を整え、万全の体調で学習できるよう努める。

（８）ちょっとしたことでも、何か異変があればすぐに先生に報告する。

令和２年５月29日

３学年海洋科校外学習計画について

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の一：中野白滝から学ぼう～

洋野町立中野中学校３学年

１．ねらい

(1)洋野町自然遺産の一つである中野白滝に実際に行ってみることにより、身近な地域の自然の豊かさを体感しよう。

(2)中野白滝から身近な地域の長所や課題を見つけ、自分たちがどのような関わり方ができるかを考えよう。

２．日　　時　令和２年６月２日(火)13:40～15:30　※雨天順延(教科の授業を行う)

３．場　　所　中野白滝

４．移動手段　徒歩

５．日　　程　・給食昼休みまで普通時程
※昼休み中に、水分補給・トイレ等を済ませておく。
・13:38 昇降口前集合　班隊形(※班長先頭で点呼)
・13:40 出発集会
・13:45 学校出発
・14:15 中野白滝到着
・14:15～14:45 自由散策　※班行動
・14:45 中野白滝出発
・15:15～15:20 学校到着・到着集会・休憩
・15:20～15:30　感想等記入

【出発集会】【到着集会】
進行：学級執行部
１．あいさつ
２．健康観察
３．総合学習教科リーダーから
４．連絡
５．あいさつ

６．持 ち 物　①帽子、②軍手、③水筒又はスクイズボトルに水かお茶、④総合ファイル、⑤筆記用具、⑥汗拭きタオル、⑦ハンカチちり紙、⑧(天気によって)防寒着、⑨(必要な人は)防虫剤、⑩(ある人は)鈴(※熊対策)、⑪(可能な人は)腕時計、
※サブバック(特に指定なし)又はスクールザックに入れて持ち歩く。

７．服　　装　・中野中指定ジャージ、・半袖ハーフパンツ、・履きなれた歩きやすい靴

８．引　　率　平賀　純　　谷藤　貴彦

９．諸 連 絡　(1)ねらいを意識し、一つでも多くの発見をしてこよう。
(2)安全を常に意識し、ケガや事故等なく学んでこよう。
(3)新型コロナウィルス感染拡大防止を意識し、油断せず行動しよう。
(4)事前に体調を整え、万全の体調で学習できるよう努めよう。
(5)水分補給は自分の判断で行い、熱中症等にならないようにしよう。
(6)昆虫や爬虫類等の生物がいるかもしれませんが、落ち着いて対処しよう。
(7)ちょっとしたことでも、何か異変があればすぐに先生に報告しよう。
(8)緊急避難先は、白滝神社駐車場です。

令和２年7月１４日

３学年海洋科校外学習計画について

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の一：中野白滝から学ぼう②～

洋野町立中野中学校３学年

１．ねらい

(1)洋野町自然遺産の一つである中野白滝の環境保全活動を通して、身近な地域に貢献しよう。

(2)中野白滝から身近な地域の長所や課題を見つけ、自分たちがどのような関わり方ができるかを考えよう。

２．日　　時　令和２年7月２０日(月)13:40～15:30　※小雨決行/雨天中止(教科の授業を行う)

３．場　　所　中野白滝

４．内　　容　中野白滝神社境内周辺の環境整備作業（草取り・枯れ葉取り・等）

４．移動手段　小子内スクールバス

５．日　　程
- 給食昼休みまで普通時程
  ※昼休み中に、水分補給・トイレ等を済ませておく。
- 13:38 昇降口前集合　班隊形(※班長先頭で点呼)
- 13:40 出発集会
- 13:45 学校出発
- 14:00 中野白滝到着（粒来板金さん付近で下車・徒歩）
- 14:05～14:55 白滝神社境内周辺の環境整備作業
- 15:00 中野白滝出発（徒歩・粒来板金さん付近で乗車）
- 15:15 学校到着・到着集会・休憩
- 15:20～15:30　感想等記入

【出発集会】【到着集会】
進行：学級執行部
1．あいさつ
2．健康観察
3．総合学習教科リーダーから
4．連絡
5．あいさつ

６．持 ち 物　１帽子、２軍手、３水筒又はスクイズボトルに水かお茶、４総合ファイル、５筆記用具、６汗拭きタオル、７ハンカチちり紙、8(天気によって)防寒着、9(必要な人は)防虫剤、10(ある人は)鈴(※熊対策)、11(可能な人は)腕時計、12長靴、13(家にある人は)草刈り鎌(安全に気をつけて)、14雨合羽、※サブバック(特に指定なし)又はスクールザックに入れて持ち歩く。

７．服　　装　・中野中指定ジャージ、・半袖ハーフパンツ、・履きなれた歩きやすい靴

８．引　　率　平賀　純　　谷藤　貴彦

９．諸 連 絡
(1)ねらいを意識し、一つでも多くの発見をしてこよう。
(2)安全を常に意識し、ケガや事故等なく学んでこよう。
(3)新型コロナウィルス感染拡大防止を意識し、油断せず行動しよう。
(4)事前に体調を整え、万全の体調で学習できるよう努めよう。
(5)水分補給は自分の判断で行い、熱中症等にならないようにしよう。
(6)昆虫や爬虫類等の生物がいるかもしれませんが、落ち着いて対処しよう。
(7)ちょっとしたことでも、何か異変があればすぐに先生に報告しよう。
(8)緊急避難先は、白滝神社駐車場です。

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020．9．30

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「振り返りについて」～

１．しおりの記録シートを新しい紙に清書する。
※別紙
※Ａ５用紙

２．「高田松原再生ボランティアに参加して」作文
※東日本大震災の津波で流失した高田松原の再生ボランティアを通して、
・事前学習をふまえての、陸前高田の震災の被害や、現在の復興状況を見て感じたこと
・震災からの復興や地域社会の再生、振興活動を、どのような思いを持って行っているか、その人々の生き方について感じたこと
・豊かで、多くの恵みをもたらし、誇りであると同時に、大きな災害をもたらすかもしれない自然に対し、どのような想いを持ち、向き合っているか、
・自分のこれからの生き方について、考えたこと、
等について、作文をする。
※書いた作文は、お礼状として、NPO 法人「高田松原を守る会」の皆様に送る。
※Ａ４用紙１枚

３．研修を通して、これからどのような洋野町を創り上げていったらいいのか、そのために自分たちはどんなことを学び、どのような行動を起こしていったら良いのか、等について作文をする。
一人ひとりの作文を総合し、「総合的な学習の時間３学年到達目標：洋野町の未来を創造し発信しよう」に迫る文化祭発表の材料とする。
※Ａ４用紙１枚

４．上記の１．２．３．は、全て海洋科学習資料として掲示する。
※誤字等に注意しながら、なるべく濃く、堂々とした字で書きましょう。

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020.10.1

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「振り返り」１～

「高田松原再生ボランティアに参加して」

洋野町立中野中学校３年　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

令和２年度洋野町立中野中学校第３学年海洋科学習 2020.10.1

洋野町立中野中学校３学年海洋科テーマ「ヒロノジンから学ぼう」
～其の三：震災・復興から生き方を学ぶ「振り返り」２～

「総合的な学習の時間３学年到達目標：洋野町の未来を創造し発信しよう」

これからどのような洋野町を創り上げていったらいいのか、そのために自分たちはどんなことを学び、どのような行動を起こしていったらいいだろうか。

洋野町立中野中学校３年　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

洋野町立大野中学校

海洋教育全体計画

洋野町立大野中学校

1　実践の概要・ねらい

洋野町内陸部にある大野地区は太古において三陸の海底にあり、現在、その平坦な地形を活用し、林業・酪農・畑作などを中心に地域の人々の生活が営まれている。海成段丘を利用した牧草地、海からふいてくるやませの影響で夏でも冷涼な気候であることから盛んとなった椎茸栽培やほうれん草栽培など海との関係は深く、水産資源の利用を含め海から受けている恩恵は大きい。しかし、日常生活の中で海を目にすることはないため、海について学んだり考えたりする機会は少ない。そこで、この海洋学習を通し、海に親しみ、海に関わる産業について学ぶ意義は大きく、海の影響で成り立っているこの地場産業を通して、地域の人々の願いや想いを学ばせ、海のすばらしさや良さを体感させたい。

また、「海と人との共生」を考える上で、重要な観点である「防災」についても、震災・復興学習を通して、海のもたらす恐怖・災害の可能性を考え合わせ、生徒の地域における防災・減災の意識を高めさせたい。地域を愛し、地域に貢献できる人材の育成と将来の持続可能な海洋利用に向け、復興・発展を支える人材育成を目指したい。

2　実践計画

大テーマ「海と人との共生」			
	1学年	2学年	3学年
①テーマ	○震災・復興・防災・海洋について考え学んだことを伝える。 ○地域の産業を知る。	○海に関わる産業を通して働くことの意義について考える。	○海や人との関わりを通して生き方を考える。
②概要	【震災・復興・防災学習】 三陸鉄道震災学習列車や宮古市田老地区での「学ぶ防災プログラム」での学習を通して、後世への防災意識を高める。 【大野地区産業体験】 実際に大野地区の地場産業を体験し、地域の人たちの思いや願い、海との関わりを学ぶ。	【職場訪問学習】 水産加工場や漁業に関する職業の見学を通し、先人が海とともに歩んできた意味を考える。 【職業体験学習】 地域の様々な施設と連携を取りながら、地域と海との関わりについて考える。	【職場訪問学習】 地域の漁業施設の見学や海岸清掃を通し、海からの恩恵と自分たちの生活の関わりを考え、海との共生を考える。 【高校体験学習】 種市高等学校海洋開発科の学習の様子を見学し、自分の将来や働くことの意義を考える。
③評価	・自ら課題を見つけ、課題解決に対して意欲的に活動できたか。 ・防災の知識を深め、自分の生活に役立てようとする意識を高めたか。	・海に関わる職業についての知識を深め、自分の将来の職業について考えることができたか。 ・持続可能な海洋利用について意識できたか。	・地域を愛し、地域に貢献しようとする態度を育てることができたか。 ・海に親しみ、海とともに生きていこうとする意識を高めることができたか。

海洋教育のストーリーマップ

１学年「内陸部における海洋教育のあり方～震災・復興・防災・海洋～」

【主な連携機関と内容】
・洋野町役場：産業体験
・大野ふるさと公社：産業体験
：体験活動

【実践のねらい】

洋野町内陸部に位置する大野地区は太古において三陸の海底にあり、現在、その平坦な地形を活用し、林業・酪農・畑作などを中心に地域の人々の生活が営まれている。海洋学習を通し、海について学び、海の影響で成り立っているこの地場産業を通して地域の人々の願いや想いを学ばせ、海のすばらしさや良さを体感させたい。

【期間】　７月～3 月　（総合的な学習の時間を中心に学習を進める。）50 時間

【関連教科】社会・理科

【目標】①東日本大震災についてその被害の大きさと復興の現状、そして防災・減災のためにできることは何かを考える。
②災害をもたらすだけではなく、海から受けている恩恵について知り、海と親しむ。
③大野地区の地場産業を体験し、地域の人たちの思いや願い、海との関わりを学ぶ。

	7・8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
体験的な活動	① 震災・防災・復興学習～海を知る～ ・東日本大震災や復興状況、その後の人々の生活についてインターネット等を活用し調べる。 ・震災当時の様子を家族から話を聞いてまとめる。			R２年度は中止	③ 郷土と海の関係～海を利用する～ ・自分たちの住む地域と海との関係について調べ、自分たちの持つ課題について考える。海成段丘を活用したスポーツ・パークゴルフ体験 ・大野地区の地形や気候などを利用した地場産業を調べる。			
探究的な活動	② 体験活動～海を学ぶ・海に触れる～ ・震災学習列車に乗り、被災状況や復興状況を学ぶ。 ・「学ぶ防災」を受講し語り部との交流を通し、震災当時の様子と災害時の行動の仕方について学び、減災についての知識を学ぶ。 ・地引網体験学習やわかめの芯抜き体験学習を通し、海に関わる仕事の具体を学び、海に親しむことの楽しさを実感する。				④ 産業体験～大野木工～ ・「一人一芸の里大野」を目指した地域の人の思いや歴史を学び、海と郷土との関係や地域の人の想いを知る。			
表現活動					⑤ 発信～海に親しむ～ ・個人新聞に、それぞれが学んだことをまとめる。 ・子どもサミット・カンファレンスで、学びを交流し合う。			

海洋教育のストーリーマップ

2学年「内陸部における海洋教育のあり方～海に関わる職業～」

【主な連携機関と内容】
・久慈地下水族科学館：震災学習
：職場訪問
・大野ふるさと公社：体験活動

【実践のねらい】

洋野町内陸部に位置する大野地区は太古において三陸の海底にあり、現在、その平坦な地形を活用し、林業・酪農・畑作などを中心に地域の人々の生活が営まれている。海洋学習を通し、海について学び、海の影響で成り立っているこの地場産業を通して地域の人々の願いや想いを学ばせ、海のすばらしさや良さを体感させたい。

【期間】　4月～11月　（総合的な学習の時間を中心に学習を進める。）70時間

【関連教科】社会・理科

【目標】①水産加工場や漁業に関する職業の見学を通し、先人が海とともに歩んできた意味を考える。
②地域の様々な施設と連携を取りながら、地域と海の関わりについて考える。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
体験的な活動	①　防災学習～海を知る～ ・復興教育副読本「いきる　かかわる　そなえる」を活用し、どのように復興に関わることができるか考える。また、防災に関する知識を身につける。				③　郷土と海との関係を学ぶ～海を学ぶ～ ・久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ」での学習を通し、東日本大震災での被害や復興の様子を学び海洋生物と親しむ。私たちの生活と海との関係や、働くことの意義を学ぶ。 ・海成段丘を活用したスポーツ・パークゴルフ体験を通し、地域の人の願いや思いを知る。			
探究的な活動				②　海に関わる職業～海を学ぶ～ ・海に関わる職業について調べたり、水産加工場や造船所の見学をしたりすることで、海に関する職業についての知識を深める。 ・水産科学館を見学し、海に関する生物に親しむ。		④　発信～海を利用する～ ・復興を目指しながら海とともに生き、海を利用して暮らしている沿岸の人々の生活から学んだことをまとめる。 ・個人新聞に、それぞれが学んだことをまとめ、互いの学びを交流し合う。		
表現活動								

R2年度は中止

海洋教育のストーリーマップ

【主な連携機関と内容】
・函館「摩周丸」：施設見学

3学年「内陸部における海洋教育のあり方～海と人との共生～」

【実践のねらい】

洋野町内陸部に位置する大野地区は太古において三陸の海底にあり、現在、その平坦な地形を活用し、林業・酪農・畑作などを中心に地域の人々の生活が営まれている。海洋学習を通し、海について学び、海の影響で成り立っているこの地場産業を通して地域の人々の願いや想いを学ばせ、海のすばらしさや良さを体感させたい。

【期間】　4月～11月　（総合的な学習の時間を中心に学習を進める。）70時間

【関連教科】社会・理科

【目標】①海に関連する職場や施設の見学を通し、海と地域、海と産業、海と生活との関わりを考える。
②地域の自然や環境の特徴を学習することで、自分の住む地域の良さを理解する。
③海からの恩恵と自分たちの生活との関わりを考え、海とともに生きていこうとする意識を高める。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
体験的な活動	①　防災学習～海を知り海と共に生きる～ ・復興教育副読本「いきる　かかわる　そなえる」を活用し、地域に貢献し、復興を支えようとする意識を高める。 ・地域のハザードマップを作成し、自分たちが住む地域の特徴を知り、自分たちができることは何か考える。				③ 海に関わる職業～人と海との歴史と未来～ ・函館修学旅行で「摩周丸」を見学し、摩周丸元船長から青函連絡船の歴史や役割を聞き、人と海との歴史について深く学んだ。			
探究的な活動			②　体験活動～海を守る～ ・ウニ栽培漁業センターを訪問し、広野の水産業の仕組みや、ウニの養殖方法を学ぶ。 ・震災の影響と復興の様子を学ぶ。 ・海浜公園の清掃を通して、海洋生物のための環境を守ろうとする意識を高める。			③発信～海と共に生きる～ ・水産資源を守るために必要なことを考え、海と共に生きていくことの大切さを知る。 ・個人新聞に、それぞれが学んだことをまとめ、互いの学びを交流し合う。		
表現活動			R2年度は中止					

『ひろの学』をはじめよう！

Ｒ２．８．２４

大野中学校の海洋学習

メインテーマ『　海と人との共生　』

学年テーマ　１学年「　震災・復興・防災・海洋　」

海洋学習から『ひろの学』へ

１学期は震災の学習を行いました。残念ながら新型コロナのため、震災列車などの体験をすることはできませんでしたが、９年前の大地震による被害の重大さを感じることができました。

２学期は、そこから復興してきた人々の暮らしや産業について、特にこの大野のことを学んでいきたいと思います。海洋学習をさらに広げた『**ひろの学**』のはじまりです。

１　今年の『ひろの学』について

次の①～③を学んでいきます。

①　**先人に学ぶ**・・・地域の方から、大野の産業の歴史や特色について学ぶ。
②　**学びを感じる**・・大野の産業に関わる体験をし、大野の良さを感じる。
③　**未来を拓く**・・・学んだことを、文化祭や海洋サミットで発信する。

＜スケジュール＞※新型コロナ感染状況によって変更する場合あり。

今　　日	「ひろの学」ガイダンス 産業体験の事前学習（大野の産業について調べる。）
８月２６日	①先人に学ぶ・・・地域の方（柏木翔吾さん）のお話
９月　２日	②学びを感じる・・町内での産業体験やインタビュー 体験学習を班で模造紙にまとめる。
１０月２４日	③未来を拓く・・・文化祭で発表、掲示
１１月２７日	③未来を拓く・・・海洋教育こどもサミットに参加
２月１９日	③未来を拓く・・・洋野町海洋教育地域カンファレンスに参加
３ 学 期	１年間のまとめ

１　先人に学ぶ（地域の方からの講演会）

（１）ねらい　地域の方から大野の歴史やすばらしさを学ぼう。

（２）期　日　８月２６日（水）５校時

（３）講　師　保育支援事業　「あそびば」代表　　柏木　翔吾　様

２　学びを感じる（産業体験学習）について

（１）ねらい　・大野の産業を体験しながら、大野の良さを感じよう。
・大野の産業の特色を調べ、大野の未来を考えよう。

（２）期　日　９月２日（水）　９：３０～１４：４５

（３）内　容　午前　　班ごとに産業体験
（炭焼き、間伐、農作物など）
午後　　デザインセンターでパークゴルフ体験

（４）その他　体験とともに、お世話してくれる方々にインタビューし、
大野の産業について学ぶ。
＜例＞
・大野でこの産業が行われているのはなぜか？
・この産業の良さはどんなところか？
・これからこの産業はどうなっていってほしいか？

１年＿組＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

大野のこれまでとこれからは？

～大野の特色と産業調べ～

Ｒ２．８．２１

みなさんは小学校の頃から、いろいろなところで“大野”について学んできました。中学校では、それをもっとくわしく学び、さらに自分たちで発信できるようになってほしいと思います。

今日は、大野の特色や産業について少し自分たちで考えてみましょう。

はじめに問題を出します。

第１問　**『大野にはどんな産業があると思いますか？また、どうしてそう思うのか？』**

＜例＞大野は○○の町と呼ばれています。

→　炭　　木工　　農業　　乳製品　　パン　（黒板に書きだす！）

・北部産業があるから。
・そうだね。大野木工あるよね～。
・パン工房がある？確かに。

大野にはいろいろな産業があるね。でも、これって他の町に比べて多いのかな？あとで調べたいね。

では次に行きます。第２問。みなさんのお家で大野の産業にどのくらい関わっているのか確認してみます。**『お家の人が大野で働いているよという人は、学級に何人ぐらいいる？』**

→　　予想　　３人ぐらい？　　５人？　　７～８人？　１０人？

では、確認してみましょう！大野でお家の人が働いているっていう人、手をあげて！

・・・○にん。ということは大体○○％ぐらいだね。意外と多いん（少ないん）だね～。

次。第３問。だんだん難しくなるよ。

『今、確認した地元で働いている人の割合は、昔（大体４０～５０年くらい前）に比べて増えた？減った？これも理由を答えなさい。』

→　減った。　人の数が減ったから。

正解は・・・わかりません。あとで調べてみましょう。

ただ昔は、”出稼ぎ”といって東京の方にはたらきに行く人が多かったそうです。

はい、次。

第４問。**『その出稼ぎをする人は、当時町の人口に対してどのぐらいいたでしょう？』**

①５人に一人ぐらい　　②１０人に一人　　③５０人に一人

正解は・・・明後日の講演会でお話があると思うので、よく聞いてください。

（正解は６人に一人。全世帯の４２％ぐらいが出稼ぎ）

第５問　**『そのような状態から、４０年前にある大きな変化が起きました！何が起こったと思いますか？』**

・

・

正解は、・・・これも明後日の講演会で教えてもらえると思います。

（正解は大野キャンパスが誕生。裏作工芸の町づくりが始まった）

では、最後に。このような状況の大野の産業なんですが、**『これからの大野にはどんな課題（心配）があると思いますか？』**

・後継者不足

・人口過疎

・高齢化

これは、正解はないですが、来週みなさんが、実際に大野の産業を体験し、そこで働いている人たちにぜひ聞いてきてほしい！どんな気持ちでその課題に向き合ってはたらいているのか、その考えを学んでほしいと思います。

◎次の資料から探してみよう！

・現在の大野にある産業（事業所数、職種の割合など）と、それが行われている理由

・大野の主要産業の変化（１０年前、２０年前、３０年前）

・現在の大野に住んでいる人の就労先（久慈、八戸、首都圏など）

・大野の人口推移（１０年前、２０年前、３０年前）

・大野の人口の流出先

・過疎化の原因

・過疎化への対策（行政でおこなっている事業など）

・魅力ある産業・職場づくり（行政で行っている事業など）

・大野デザインセンターの行ってきたこと

・大野デザインセンターができる前とできた後の変化（産業や人口など）

・大野村から洋野町になったことによる変化（産業や人口など）

１年＿組＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

総合的な学習の時間　地域指導者講演会　実施計画

Ｒ２．８．２５
１学年担当

１　目　的

来年度から本格実施となる『ひろの学』の導入として、地域で活躍される方から大野の歴史や良さを話していただき、これからの学習意欲を高める。

２　期　日　　令和２年８月２６日（水）５校時　１３：４５～１４：３５

３　場　所　　食堂

４　参加者　　１年生

５　講　師　　保育支援事業　「あそびば」代表　　柏木　翔吾　様

６　日　程　　昼休み　　プロジェクター等の準備
早めに教室に戻って、汗の始末やトイレを済ませる。
食堂に移動　広めに全校朝会隊形(運動着　ペン１本持参)
１３：４５　開会
資料配布、柏木さんの紹介
１３：５０　柏木さんからの講演（３０分程度）
お礼の言葉（１学年会長）
閉会
教室に戻ってプリント記入。

７　その他

・講師の控室は校長室。副校長先生に案内、紹介等をお願いする。
・柏木さんからは以下の内容の中から可能な範囲でお話をいただく。
①この学習のねらいについて（大野のよさを学び、町づくりへ参画する）
②自身の活動について
③大野のすばらしさや歴史の紹介（東北工芸大からの資料を基に）
④中学生の町づくり参画の紹介（　　〃　　）
⑤産業体験学習の予告
・当日の役割分担
進　　行・・・山舘
講師対応・・・副校長
会場準備・・・畑中　　※スクリーン、ＰＣ等
・２４日に柏木さんと内容の打ち合わせを行う。

これぞ！The大野！

～地域の方から大野の良さを学ぶ～

Ｒ２．８．２６

『ひろの学』第１回目の今日は、「先人に学ぶ」として、地域でご活躍されている柏木翔吾さんからお話をいただきます。

みなさんの住んでいるこの大野にはどんな良さがあり、その良さをどのように生かしてきたのかを教えていただきます。

この話を聞いて、来週の産業体験学習で、自分が大野についてどんなことを学びたいのか考えてみましょう。

＜講師＞　保育支援事業「あそびば」代表　柏木　翔吾　様

◎　お話を聞いて思ったことや分かったことを書きましょう。

１　柏木さんはどんな人でしたか？（※見ためのことではなく。）

２　柏木さんは、なぜこの大野で自分の仕事に打ち込んでいると思いますか？

３　大野の良さはどんなところだと思いますか。

◎
◎
◎
◎
◎

4　話を聞いて、これからの大野はどうなっていけばよいと思いましたか？

5　大野のために、今の自分はどんなことができると思いましたか？

6　お話を聞いて、来週の産業体験学習でどんなことを学んできたいと思いましたか？

メ　モ

１年＿組＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

校外学習事前学習資料　大野中学校

2年　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

「もぐらんぴあ」は、岩手県久慈市が建設した「久慈地下水族科学館」と日本地下石油備蓄株式会社が建設した「石油文化ホール」による複合施設で、三陸海岸の久慈湾北岸にある。東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）に伴う津波で被災して営業休止となったが、場所を移し「もぐらんぴあ　まちなか水族館」として再開した。その後、2016年に元の場所で営業を再開した。

「久慈地下水族科学館もぐらんぴあ」について

久慈地下水族科学館は、日本で唯一の地下水族館で、約200種類2,000匹程度の魚介類が展示されていた。トンネル水槽では頭上を魚が泳ぎ、地中にあって海中にいるような体験ができた。2011年3月11日の東日本大震災で被災して以降、臨時休業中であったが、市内久地駅前の空き店舗を利用し「もぐらんぴあ　まちなか水族館」として仮営業していた。その後,2016年に再開した。

2011年（平成23年）5月、国の緊急雇用創出事業を活用して「もぐらんぴあ」を移転・再開することが決定し、市中心部にある空き店舗だった旧中村家具店（久慈市中央2-9）の1階を改装して同年8月5日に「もぐらんぴあ　まちなか水族館」として開館した。山形県鶴岡市立加茂水族館からクラゲ4種30点、東京都サンシャイン水族館からは大型水槽、毎年夏に「もぐらんぴあ」でトークショーを行ってきたさかなクンからは自身のコレクションの魚やイラストなどが贈られるなど、様々な支援を受けた。2013年3月、さかなクンからフグなど約100匹が寄贈された。もぐらんぴあ移転後、まちなか水族館として使用された同施設には「あまちゃんハウス」が移転された。

「石油文化ホール」について

石油文化ホールは発破体験スペースや石油インフォメーションシアターがあった。2011年（平成23年）3月11日の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）での被災以降休業している。2016年に水族館同様再開。シアターは管理棟2階に移動した。

原油は、タンカーで運ばれてくるので、地下の石油タンクは海のそばで花こう岩などち密で強固な岩盤があるところにある。日本には、岩手県久慈、愛媛県菊間、鹿児島県串木町の3ヶ所あり、いずれも海底より深いところにある。地下にタンクがあるので、景観を損なわないし地震にも強い。また、油の流出や火災の恐れもなく、掘削した岩石の活用も図ることができる。

2020 年度　大野中学校 2 学年
校外学習「もぐらんぴあ見学・パークゴルフ」

1 スローガン

2 スローガン設定理由

3 具体的目標

4 目標を達成するために努力すること、心がけること

〈バス移動〉

〈施設見学〉

〈ホテルでの昼食〉

〈パークゴルフ〉

〈その他気を付けること〉

3　洋野町海洋教育地域カンファレンスについて

令和２年度　洋野町海洋教育地域カンファレンス　報告書

１　目　　的　　今年度の洋野町海洋教育「ひろの学」の各学校研究成果を共有することによって、次年度の学習の深まりへとつなげる。

２　主　　催　　洋野町教育委員会　洋野町教育課程研究推進委員会

３　期　　日　　令和３年２月 19 日（金）　13:15～15:30

４　会　　場　　zoom ミーティング

５　参加対象　　各校児童生徒、教職員、参観希望保護者、海洋教育促進（研究）拠点等

６　日程及び内容

日　　程	内　　容	備考
13:00～13:10	**受付①　各学校発表者、講師、事務局等**	
13:10～13:15	**受付②　視聴希望保護者**	300 台まで限定
13:15～13:20	**開会行事** ・教育長挨拶 ・本日の内容と目的の説明	進行：事務局 教育長 事務局
13:20～14:50	**実践発表（７分×11 校　途中休憩 10 分含む）** ①　種市小→角浜小→宿戸小→種市中 ②　大野小→林郷小→帯島小→向田小→大野中 ③　中野小→中野中（海洋教育全国サミット発表内容）	進行：事務局
14:50～15:20	**特別講義** 東京大学海洋教育センター特任講師　田口　康大　様	進行：事務局
15:20～15:30	**閉会行事** ・連絡　等	進行：事務局

７　発表要旨一覧

学校	タイトル	発表の概要
種市小学校	海を守り、海を生かして、人々がつながる町になるように	今年度の海洋学習では、種市の良さや課題だと思うことをみんなで考え、自分たちの体験したことを振り返ったり、現在町づくりに尽力している方から話を聞いたりするなどして学びを深めてきた。 それらのまとめとして、未来の種市のイメージ（どんな町にしたいか）を考え、「海を守り、海を生かしながら人々がつながることができる町づくり」について提案した。

角浜小学校	角浜小学校の海洋学習の取り組み	今年度、全校で取り組んだ海洋学習の内容について紹介した。 １・２年　「海となかよし～角浜のよさを伝えよう～」 ３・４年　「角浜調査隊～角浜について知ろう～」 ５・６年　「ふるさと角浜～角浜のよさを伝えよう～」 各学年の海洋学習で学んだことや考えたことについて、プレゼンテーションを通して参会者へ伝えた。
宿戸小学校	海は世界とつながっている	現在、世界で起きている海洋環境に関する問題について、本から学んだこと、及び、中でも特に興味を持った海洋ごみ問題に関して、自分たちの地域の現状と、自分たちのえがく町の未来に近づくためにできることや地域への提案などについて、映像を交えながら発表した。
種市中学校	ウニを育てる町、洋野町	今年度の海洋学習では、『海と人との共生』について、１年生は洋野町の特産物であるウニを中心に考え、調査や体験活動を実施した。「洋野産ウニ　おいしさの秘密」、「漁業体験」のテーマで、調査や体験したことを中心に発表した。
大野小学校	一人一芸の里に生まれて	『「一人一芸の里」って何？』という問いを出発点として、「一人一芸の里」を調べていくと、大野とやませには深いかかわりがあることに気づいた。大野はやませの冷害による被害を受けている。そのため、作物が育たず、出稼ぎに行ってしまう人が増えた。また、１９８０年代は大冷害と言われる大野の危機が訪れた。それを乗り越えるために、やませに負けない作物を作り育てたり、農業以外の仕事を見つけたりと自分たちにできることを探した。 海とともに生きていくために、一人一人の知恵と努力で乗り越えてきた大野の「一人一芸の里」のルーツについて発表した。
林郷小学校	大野の酪農と海洋のかかわり	大野の大地は、海成段丘で形成されていて険しい山がなく、なだらかな土地が続いている。林郷小学校のある林郷地区は大野の中でも特に酪農が盛んな地区である。子どもたちは酪農の盛んなふるさとに誇りをもっている。 ただ、今の状態を守るには林郷の自然だけではなく、海を大切にすることも大事であることを学び、海の与える影響がどのようなものか、自分たちが林郷の良さを守るためにできる事を考え、発表した。
帯島小学校	海につなげる森林のめぐみ	帯島小学校では毎年、５・６年児童が森林学習や源流体験を通して身近な自然にふれ、地域の環境保全に努めてきた。森を守る活動は海にどんな影響を及ぼすのか、体験学習や調べ学習を通して、森や海の酸素や二酸化炭素の吸収・排出、山の土壌がもたらすフルボ酸の役割、そして「豊かな森は豊かな海を育む」と言われる理由や海の資源を守るため自分たちにできることについて学んだことを発表した。

向田小学校	森は海の恋人～有家川の「フェルム」を見つけ出そう～	昨年度は，洋野町の海には久慈平岳に源流がある有家川から水が流れており，その水には海藻や魚たちにとって重要な栄養素である鉄分（フェルム）がフルボ酸と結合した状態で流れていることが分かった。 今年度は，パックテストを用いて有家川に流れる鉄分を測定し，実際に鉄分が流れていることを確かめた。実験や観察を通して，雨と鉄分量の関係性について分かったことを発表した。
大野中学校	今年度の海洋学習『ひろの学』について	例年、震災列車と被災地ボランティアを体験し、海との関わりと防災についてまとめてきた。しかし、今年度は新型コロナで被災地での体験活動が中止となったため、代わりに、地域コーディネーターの協力のもと、大野地区の町づくりについて講演を聞き、各種産業、パークゴルフを実際に体験した。活動を通して、改めて大野のよさを感じ、文化祭で展示発表したことを伝えた。
中野小学校	「洋野町の未来を考えよう～洋野の宝と恵を守るためにできること～」	中野小学校では，１・２年生の「生活科」で海に親しむ活動を行い，３～６年生の「海洋科」でさらに海に親しみ，海を知る活動を行い，海を守るためにどうすればよいのか考える学習を行っている。また，高学年は，洋野町のウニのすごさについて学び，本州一の漁獲量であることや洋野町の特産品として知られるウニに誇りと愛情をもってきている。しかし、そんな洋野町のウニに関わる問題があることが分かった。 洋野町のウニの抱える問題を見つけ、その問題を解決するためにできることを提案した。
中野中学校	洋野町の魅力をいつまでも～魅力を守るために私たちにできること・考えられること～	今年度は「地域を考えよう～洋野町と他地域との比較から洋野の海の課題解決～」をテーマに、岩手県雫石町・滝沢市を訪れ、その地域の食・観光・環境の特徴的な取組を学んだ。また、そこから「食・観光・環境」の視点で洋野町と比較し、地域の課題とは何か、その課題解決について探ってきた。さらに、洋野町の海と山の魅力を生かした“ものづくり・人づくり・町づくり”に携わる人から、洋野町の魅力を守る人々の取組や想いについて学び、地域のために自分たちにできることについて考えを深めてきた。 洋野町の“ものづくり・人づくり・町づくり”について、他地域と比較して見えた課題と、その課題に対して自分たちにできること・考えられることについて、３つの視点に分かれたグループで発表した。

９　成果

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、感染防止対策を講じ、オンライン上でのリモート開催となった。例年のように集合型の発表や、ワークショップによる学びの深め合いができない状況であったが、町内全小中学校の海洋教育「ひろの学」への取組状況について知る機会となり、大変有意義なものになった。

特別講義として、特別講義　東京大学海洋教育センター特任講師　田口　康大氏からご講義をいただいた。当たり前と思ってきたことを「本当にそうなのか」と批判的思考をもって物事を見ることや、「こうしてみたい」とアイディアを発想したときの思いを大切にすることなど、今後の海洋教育「ひろの学」を通して大切にしていきたいことについて講じていただいた。

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
海洋教育センター
CENTER FOR OCEAN LITERACY AND EDUCATION
笹川平和財団
海洋政策研究所